五代木福Ⅳ遺跡
五代深堀Ⅲ遺跡

五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2005・3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

五代木福Ⅳ遺跡
五代深堀Ⅲ遺跡

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

五代木福Ⅳ遺跡全景（南から）

五代深堀Ⅲ遺跡全景（南から）

五代木福Ⅳ遺跡　平安時代出土遺物（坏）

五代深堀Ⅲ遺跡　縄文時代出土遺物

序

前橋市は、雄大な裾野を広げる赤城山を背景に、坂東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれた美しい県都です。

前橋市域の赤城山南麓と前橋台地上には、旧石器時代から近世・近代に至るまで、人々の生活の痕跡を示す遺跡・遺物が数多く存在します。特に古墳においては、かつて市域には800余基の存在が伝えられています。その中には大室４古墳をはじめ国指定史跡となっている古墳も９基含まれ、東国古墳文化の中心として位置づけられてきました。また、続く律令政治の時代に入ると、山王廃寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府の存在が示すとおり政治、宗教、経済の中心地として花開き一大文化圏が形成されました。さらに中世においては、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東４名城の一つに数えられる前橋城が築かれました。まさに、前橋市はこれまで連綿と続いてきた歴史を物語る様々な文化財で溢れています。

前橋市の中央、赤城山南麓に位置する五代町では、五代南部工業団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査が平成12年度より実施され、５年目にあたる今年度に最終年度を迎えました。今年度の五代木福Ⅳ遺跡・五代深堀Ⅲ遺跡の調査では、縄文時代から平安時代の住居跡、掘立柱建物跡など多くの遺構と遺物を検出し、貴重な資料を得ることができました。今回までの調査結果が地域の歴史を解明するための一助となれば幸いです。

最後に、本発掘調査実施にあたりご理解とご協力を賜りました市工業課、前橋工業団地造成組合、地元関係者の方々、また、調査に従事されました作業員の皆様に感謝とお礼を申し上げます。

平成17年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 **中 原 惠 治**

例　　言

1. 本報告書は、五代南部工業団地造成に伴う五代木福Ⅳ遺跡・五代深堀Ⅲ遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

調　査　場　所	五代木福Ⅳ遺跡	群馬県前橋市五代町1172ほか地内
	五代深堀Ⅲ遺跡	群馬県前橋市五代町1087－2ほか地内
発掘調査期間	五代木福Ⅳ遺跡	平成16年8月2日～平成16年10月19日
	五代深堀Ⅲ遺跡	平成16年5月18日～平成16年12月17日
整理・報告書作成期間		平成16年12月20日～平成17年3月24日
発掘・整理担当者		髙橋亨・小嶋尚（発掘調査係員）

4. 本書の原稿執筆・編集は、髙橋・小嶋が行った。
5. 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。
   青木昭二郎・伊藤修道・今井弘子・植木政俊・大島きく江・髙橋公代・多田啓子・長澤幸枝・
   中林美智子・奈良啓子・細野進太郎・堀込とよ江・弥郡啓吾
6. 発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1. 挿図中に使用した北は、座標北である。北マークのない遺構図については、図面上を北とした。
2. 挿図に建設省国土地理院発行の1/200,000地形図（宇都宮、長野）、1/25,000地形図（前橋、大胡、渋川、鼻毛石）を使用した。
3. 遺跡の略称は、次のとおりである。
   五代木福Ⅳ遺跡・・・・16C23
   五代深堀Ⅲ遺跡・・・・16C25
4. 本遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。
   J…縄文時代の住居跡　　H…古墳・奈良・平安時代の住居跡　　B…掘立柱建物跡
   W…溝跡　　I…井戸跡　　O…落ち込み跡　　JD…土坑(縄文時代)　　D…土坑(古墳時代以降)
   P…ピット・貯蔵穴
5. 遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。
   遺構　　住居跡・掘立柱建物跡…1/60　土坑…1/60　溝跡…1/60　炉・竈断面図…1/30
   遺物　　土器…1/3・1/4　石器・石製品…2/3・1/3　紡錘車…2/3
6. 計測値については、（　）は現存値、［　］は復元値を表す。
7. セクション注記の記号は、締まり、粘性の順で示す。
   ◎…非常に締まりがある、非常に粘性がある　　○…締まりがある、粘性がある
   △…やや締まりがある、やや粘性がある　　×…締まりがない、粘性がない
8. スクリーントーンの使用は、次のとおりである。
   遺構平面図　　炉・竈焼土…濃点　その他の焼土…薄い点
   遺構断面図　　構　築　面…斜線
9. 火山降下物の略称と年代は次のとおりである。
   As－B（浅間B軽石：供給火山・浅間山、1108年）
   Hr－FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、6世紀中葉）
   Hr－FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、6世紀初頭）
   As－C（浅間C軽石：供給火山・浅間山、4世紀前半）
10. 周辺遺跡概要一覧表については『五代中原Ⅲ遺跡・五代山街道Ⅰ遺跡・五代山街道Ⅱ遺跡　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003』に加筆した。

目　　次

序

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地 …… 1
2 歴史的環境 …… 1

Ⅲ　調査の経過

1 調査方針 …… 5
2 調査経過 …… 7

Ⅳ　基本層序 …… 8

Ⅴ　五代木福Ⅳ遺跡

1 遺構と遺物 …… 9
2 まとめ …… 19

Ⅵ　五代深堀Ⅲ遺跡

1 遺構と遺物 …… 47
2 まとめ …… 62

Ⅶ　五代南部工業団地遺跡群のまとめ …… 99

図　　版

口絵　　五代木福Ⅳ遺跡調査区全景（南から）
　　五代深堀Ⅲ遺跡調査区全景（南から）
　　五代木福Ⅳ遺跡平安時代出土遺物（坏）
　　五代深堀Ⅲ遺跡縄文時代出土遺物

【五代木福Ⅳ遺跡】
ＰＬ．1　五代木福Ⅳ遺跡北区全景・南区全景
2　Ｈ－1～4号住居跡
3　Ｈ－4～6号住居跡
4　Ｈ－7～10号住居跡
5　Ｈ－10～13号住居跡
6　Ｈ－13・14号住居跡
7　Ｈ－15・16号住居跡
8　Ｈ－17・18号住居跡、Ｂ－１～４号掘立柱建物跡
9　Ｂ－５号掘立柱建物跡、Ｗ－１～４号溝跡
　Ｄ－２号地下式坑、Ｉ－１井戸跡
10　Ｈ－２～６・９・10号住居跡出土遺物
11　Ｈ－10～15号住居跡出土遺物
12　Ｈ－13・16～18号住居跡出土遺物
13　Ｈ－２・15号住居跡・Ｄ－21号土坑出土遺物

【五代深堀Ⅲ遺跡】
ＰＬ．14　五代深堀Ⅲ遺跡土師面全景・縄文面全景
15　Ｊ－１～３号住居跡
16　Ｈ－１～６号住居跡、Ｂ－１号掘立柱建物跡
17　Ｈ－５～10・11・22号住居跡
18　Ｈ－11～13号住居跡
19　Ｈ－14～19号住居跡
20　Ｈ－18・20・21・24号住居跡
21　Ｈ－23・25号住居跡
22　Ｈ－25～28号住居跡
23　Ｈ－29号住居跡、Ｂ－２～５号掘立柱建物跡、
　Ｗ－１・２号溝跡、ＪＤ－３・４号土坑
24　ＪＤ－５・６・９～12・14号土坑
25　Ｉ－２・３号井戸跡、Ｏ－２号落ち込み跡、
　Ｘ85Ｙ153グリッド
26　Ｊ－１～３号住居跡・ＪＤ－10号土坑出土遺物
27　ＪＤ－５・６・11・12号土坑・
　Ｏ－２号落ち込み跡出土遺物
28　Ｘ85Ｙ153グリッド・Ｗ－１号溝跡・
　Ｈ－５・６号住居跡出土遺物
29　Ｈ－２・６～８・10号住居跡出土遺物
30　Ｈ－11～13・15・16・18号住居跡出土遺物
31　Ｈ－17～21号住居跡出土遺物
32　Ｈ－21・23～26号住居跡出土遺物
33　Ｈ－１・６・13・16・21・25・26号
　住居跡出土遺物
34　五代深堀Ⅲ遺跡出土縄文土器
35　五代深堀Ⅲ遺跡出土石器

挿　　図

Fig.　1　位置図
2　周辺遺跡図
3　グリッド設定図

【五代木福Ⅳ遺跡】
4　Ｈ－１・２号住居跡
5　Ｈ－３・４号住居跡
6　Ｈ－５・６号住居跡
7　Ｈ－７～９号住居跡
8　Ｈ－10号住居跡
9　Ｈ－11・12号住居跡
10　Ｈ－13号住居跡
11　Ｈ－14号住居跡
12　Ｈ－15号住居跡
13　Ｈ－16・17号住居跡
14　Ｈ－18号住居跡、Ｂ－１号掘立柱建物跡
15　Ｂ－２号掘立柱建物跡
16　Ｂ－３号掘立柱建物跡
17　Ｂ－４・５号掘立柱建物跡
18　Ｗ－１号溝跡
19　Ｗ－２号溝跡
20　Ｗ－３号溝跡
21　Ｈ－14・18号住居跡、Ｗ－４号溝跡
22　Ｄ－１～３号土坑
23　Ｄ－４～15号土坑
24　Ｄ－16～21号土坑、Ｉ－１号井戸跡、
　Ｏ－１号落ち込み跡
25　Ｈ－１～５号住居跡出土遺物
26　Ｈ－６・９・10号住居跡出土遺物
27　Ｈ－10～13号住居跡出土遺物
28　Ｈ－13～16号住居跡出土遺物
29　Ｈ－２・16～18号住居跡、Ｄ－21号土坑出土遺物

【五代深堀Ⅲ遺跡】

30　Ｊ－１・２号住居跡、ＪＤ－13・14号土坑
31　Ｊ－３・Ｈ－１号住居跡、ＪＤ－12号土坑
32　Ｈ－２・３号住居跡
33　Ｈ－４・５号住居跡
34　Ｈ－６・８・９号住居跡
35　Ｈ－７・21号住居跡、１－１号井戸跡
36　Ｈ－10～12・22号住居跡
37　Ｈ－14・15・19号住居跡
38　Ｈ－13・16号住居跡
39　Ｈ－17・18号住居跡
40　Ｈ－20・23・24号住居跡
41　Ｈ－25・26号住居跡
42　Ｈ－27～29号住居跡
43　Ｂ－１・２号掘立柱建物跡
44　Ｂ－３号掘立柱建物跡
45　Ｂ－４・５号掘立柱建物跡
46　Ｗ－１号溝跡
47　Ｗ－２号溝跡
48　ＪＤ－１～９号土坑
49　ＪＤ－10～14号土坑、Ｄ－１・２号土坑、Ｉ－１～３号井戸跡
50　Ｏ－１・２号落ち込み跡
51　Ｊ－１～３号住居跡、ＪＤ－１・３～５号土坑出土遺物
52　ＪＤ－６・10・11号土坑出土遺物
53　ＪＤ－11・12・14号土坑、Ｏ－２号落ち込み跡出土遺物
54　Ｏ－２号落ち込み跡、Ｗ－１・２号溝跡、表採出土遺物
55　グリッド出土遺物
56　Ｊ－１号住居跡、ＪＤ－３・６・９号土坑、Ｏ－２号落ち込み跡出土遺物
57　Ｏ－２号落ち込み跡、Ｗ－１号溝跡、グリッド等出土遺物
58　Ｈ－１～６号住居跡出土遺物
59　Ｈ－６・８・10・11号住居跡出土遺物
60　Ｈ－12・13・15号住居跡出土遺物
61　Ｈ－16～21号住居跡出土遺物
62　Ｈ－21・23・24号住居跡出土遺物
63　Ｈ－24～26号住居跡出土遺物
64　Ｈ－１・６・13・16・21・25号住居跡出土遺物

表

Tab.　1　周辺遺跡概要一覧
2　五代木福Ⅳ遺跡住居跡計測表
3　五代木福Ⅳ遺跡溝跡計測表
4　五代木福Ⅳ遺跡土坑・井戸跡計測表
5　五代木福Ⅳ遺跡落ち込み跡計測表
6　五代木福Ⅳ遺跡柱穴計測表
7　五代木福Ⅳ遺跡古墳奈良平安時代出土遺物観察表
8　五代木福Ⅳ遺跡石製品観察表
9　五代深堀Ⅲ遺跡住居跡計測表
10　五代深堀Ⅲ遺跡溝跡計測表
11　五代深堀Ⅲ遺跡土坑・井戸跡計測表
12　五代深堀Ⅲ遺跡落ち込み跡計測表
13　五代深堀Ⅲ遺跡柱穴計測表
14　五代深堀Ⅲ遺跡縄文土器観察表
15　五代深堀Ⅲ遺跡石器観察表
16　五代深堀Ⅲ遺跡奈良平安時代出土遺物観察表
17　五代深堀Ⅲ遺跡石製品観察表
18　五代深堀Ⅲ遺跡土製品観察表
19　五代深堀Ⅲ遺跡鉄製品観察表

付　　図

付図　1　五代木福Ⅳ遺跡全体図（縮尺200分の１）
付図　2　五代深堀Ⅲ遺跡全体図（縮尺200分の１）
付図　3　五代南部工業団地遺跡群全体図（縮尺1000分の１）

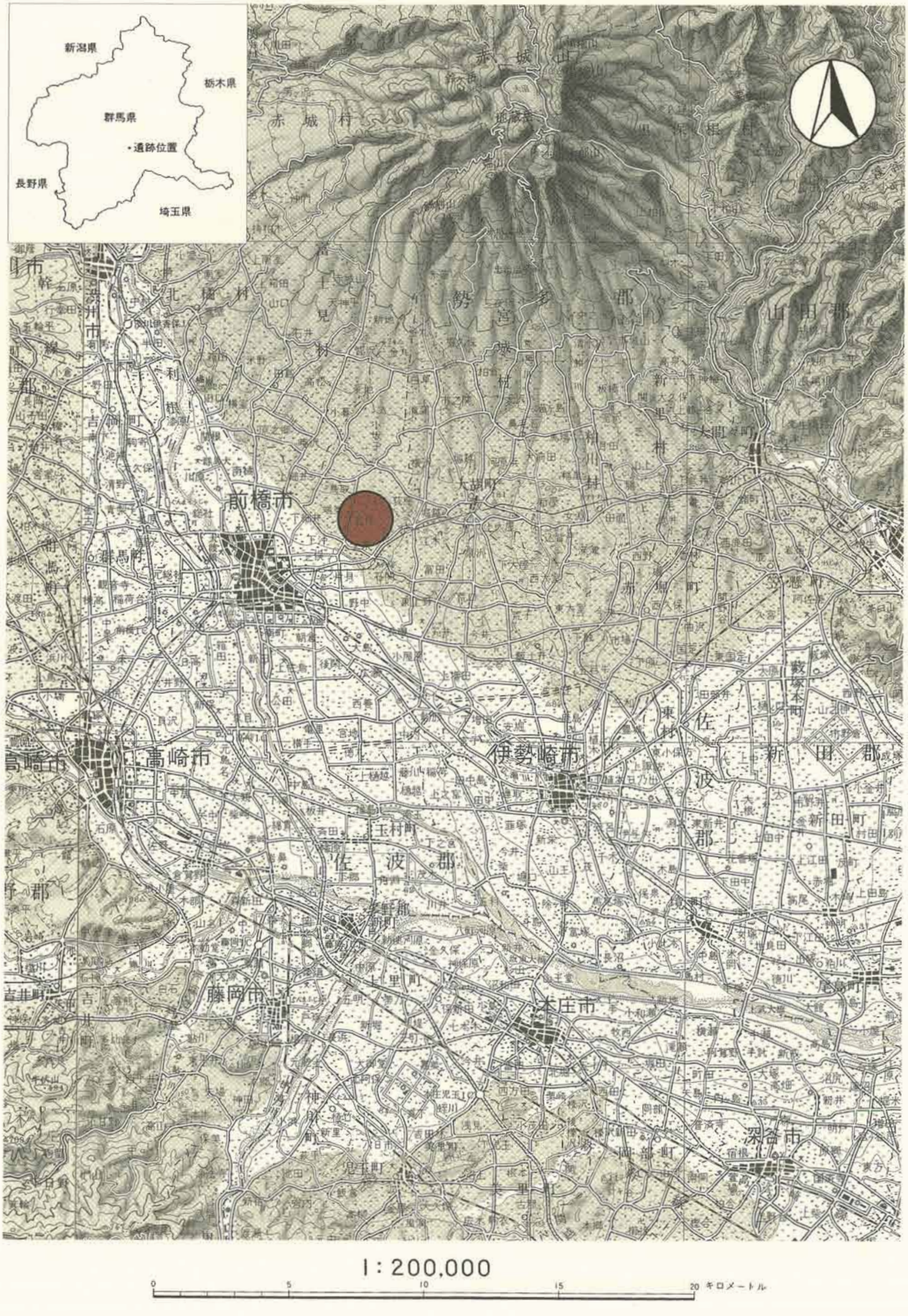

新潟県
栃木県
群馬県
・遺跡位置
長野県
埼玉県
赤城山
赤城村
北橋村
勢多郡
山田郡
大間村
大胡町
前橋市
高崎市
伊勢崎市
東村
佐波郡
新田郡
玉村町
藤岡市
本庄市
深谷市
岡部町
1:200,000
0
5
10
15
20 キロメートル

Fig. 1　位置図

I　調査に至る経緯

本発掘調査は、五代南部工業団地造成事業実施に伴い行われた。本調査地は、平成12年度の試掘調査結果により遺跡地であることが確認されている。今年度は、その発掘調査年次計画に基づいて行われた調査の５年目（最終年）にあたる。

平成16年４月９日、前橋工業団地造成組合（管理者　高　木　政　夫）より、五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が、前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　中　原　恵　治　に対し調査実施を通知し、調査団はこれを受諾した。その後、調査団と調査依頼者（前橋工業団地造成組合）とで協議・調整を図り、４月20日に両者の間で五代木福Ⅳ遺跡・五代深堀Ⅱ遺跡に関する埋蔵文化財発掘調査委託契約が締結された。現地での発掘調査は５月18日から開始した。

なお、遺跡名称「五代木福Ⅳ遺跡」（遺跡コード：16C23）の「木福」並びに「五代深堀Ⅲ遺跡」（遺跡コード：16C25）の「深堀」は旧地籍の小字名を採用し、名称中のローマ数字は、当調査団で過去に調査した遺跡と区別するため付したものである。

II　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地

前橋市は、地質・地形から北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地利根川左岸、東部の広瀬川低地帯の４つの地域に分けられる。五代木福Ⅳ遺跡・五代深堀Ⅲ遺跡は前橋市役所から北東の方向約5kmの赤城火山斜面にある五代町地内の五代南部工業団地造成予定地である。五代町は、昭和29年に前橋市に吸収合併された。それまでは、昭和22年に周囲の６ヶ村と赤城山入会地と合併し、芳賀村となり勢多郡芳賀村字五代であった。旧芳賀村の地域は現在も「芳賀地区」と呼称されている。一緒に吸収合併された五代町の北に隣接する鳥取町は、前橋市の芳賀地区団地造成計画により、昭和45年から住宅・工業団地の開発が進められ、住宅や工場が多数建ち並んでいる。しかし、五代町は一部がこの造成計画によって開発されたが、町の大部分に田畑が残っており、酪農も盛んであり、住宅はまばらな状況である。土地の高低差があり、高いところは宅地、畑、牧草地であり、低いところは田圃になっている。

2　歴史的環境

五代木福Ⅳ遺跡・五代深堀Ⅲ遺跡が位置する赤城山南斜面の台地には、旧石器時代後期から中近世に至る数多くの遺跡が存在し、埋蔵文化財の宝庫として知られている。本遺跡が所在する前橋市の北部「芳賀地区」は、先にも述べた芳賀地区団地造成計画に伴う大規模な発掘調査の他、数多くの発掘調査によってその歴史が明らかにされてきている。

本遺跡のすぐ北に位置する芳賀東部団地遺跡（調査面積約33ha）は、縄文時代から古墳時代、奈良・平安時代まで続く集落跡である。縄文前期の竪穴住居跡60軒、中期末葉と後期前半の敷石住居跡６軒が検出された。また、古墳４基、鍛冶関連遺構５基が検出された。そして、奈良・平安時代の竪穴住居跡約500軒、掘立柱建物跡206軒

Fig. 2　周辺遺跡図

Tab. 1　周辺遺跡概要一覧

番号	遺跡名	調査年度	時代：遺構の種類及び数
1	五代木福Ⅳ遺跡	平成16	本遺跡
2	五代深堀Ⅲ遺跡	平成16	本遺跡
3	芳賀北部団地遺跡	昭和48・49	縄　文：竪穴住居跡34（うち敷石住居4）、配石遺構17
			奈良・平安：竪穴住居跡237、堀立柱建物跡8、製鉄遺構3、溝28、井戸5、ピット20
4	芳賀西部団地遺跡	昭和50	縄　文：竪穴住居跡7、ピット6、配石遺構3
			古　墳：古墳32、埴輪棺1他
5	芳賀東部団地遺跡	昭和51～55	縄　文：竪穴住居跡60（うち敷石住居6）、ピット140、配石遺構4
			古　墳：竪穴住居跡75、古墳4
			奈良・平安：竪穴住居跡411、堀立柱建物跡約206、鍛冶・精錬址5、その他635
6	檜峯遺跡	昭和56	古　墳：竪穴住居跡11
			奈良・平安：竪穴住居跡65
7	小神明遺跡群Ⅰ	昭和57	縄　文：竪穴住居跡7、ピット4、その他1
			奈良・平安：竪穴住居跡3
8	端気遺跡群Ⅰ・Ⅱ	昭和57・58	縄　文：竪穴住居跡2、ピット1
			弥　生：方形周溝墓2、ピット1、溝状遺構1
			古　墳：竪穴住居跡16
9	小神明遺跡群Ⅱ 西田遺跡	昭和58	縄　文：竪穴住居跡3
			古　墳：竪穴住居跡4、円墳4、帆立貝式古墳1
10	倉本遺跡	昭和58	弥　生：竪穴住居跡2
11	小神明遺跡群Ⅱ 大明神遺跡	昭和58	古　墳：竪穴住居跡2
12	小神明遺跡群Ⅱ 九料遺跡	昭和58・60	縄　文：敷石住居跡3
			古　墳：竪穴住居跡40、堀立柱建物跡1
			奈良・平安：竪穴住居跡2
13	芳賀北曲輪遺跡	平成2	縄　文：竪穴住居跡23（うち敷石住居4）、配石遺構1
			古　墳：古墳6
14	芳賀北原遺跡	平成3	古　墳：竪穴住居跡3
			奈良・平安：竪穴住居跡6
15	五代檜峯遺跡	平成9	古　墳：竪穴住居2
16	鳥取東原遺跡	平成9	古　墳：竪穴住居跡1
			近　世：埋葬施設1
17	鳥取福蔵寺遺跡	平成9	縄　文：竪穴住居跡2、落ち込み2
			古墳～平安：竪穴住居跡41（製鉄遺構1）、土坑83、堀立柱建物跡1、井戸跡2
18	鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡	平成10	旧石器：細石刃文化石器群
			縄　文：竪穴住居跡6、
			古　墳：竪穴住居跡12、
			奈良・平安：竪穴住居跡29、堀立柱遺構9、　鍛冶工房跡1、
19	五代江戸屋敷遺跡	平成12	縄　文：土坑1
			古　墳：竪穴住居跡44、方形周溝墓2、周溝状遺構1、
			奈良・平安：竪穴住居跡12、堀立柱建物跡1、ピット87、井戸跡1
			中　世：地下式土坑2、溝1
20	五代竹花遺跡	平成12	縄　文：竪穴住居跡2
			古　墳：竪穴住居跡7、土坑1
			奈良・平安：竪穴住居跡9、土坑3、ピット254
			近世・現代：溝2
21	五代木福Ⅰ遺跡	平成12	縄　文：竪穴住居跡1、ピット6、配石遺構3
			古　墳：竪穴住居跡31、土坑8
			奈良・平安：堀立柱建物跡23、土坑2、ピット220
			中世・近世：土坑11、溝8

番号	遺跡名	調査年度	時代：遺構の種類及び数
22	五代木福Ⅱ遺跡	平成12	縄　　文：配石１
			古　　墳：竪穴住居跡64
			奈良・平安：竪穴住居跡111、堀立柱建物跡16
			中世・近世：溝跡８、地下式土坑２、井戸６
23	五代深堀Ⅰ遺跡	平成12	縄　　文：竪穴住居跡１
			奈良・平安：竪穴住居跡２、ピット29、堀立柱建物跡３（奈良～中世）
24	五代伊勢宮Ⅰ遺跡	平成12	古　　墳：竪穴住居跡２
			奈良・平安：竪穴住居跡４、ピット１
			中世・近世：土坑１、溝１
25	五代伊勢宮Ⅱ遺跡	平成13	縄　　文：竪穴住居跡７
			古　　墳：竪穴住居跡12、竪穴状遺構２
			奈良・平安：竪穴住居跡５、掘立柱建物跡３
			近　　世：溝跡３
26	五代伊勢宮Ⅲ遺跡	平成13	縄　　文：土坑１
			奈良・平安：竪穴住居跡３
			中世・近世：土坑66、溝跡３、井戸３、地下式土坑５
27	五代深堀Ⅱ遺跡	平成13	縄　　文：竪穴住居跡１、土坑２
			古　　墳：竪穴住居跡２
			奈良・平安：竪穴住居跡７
28	五代中原Ⅰ遺跡	平成13	縄文（前期）：竪穴住居跡３
			古　　墳：竪穴住居跡５
			奈良・平安：竪穴住居跡19、溝跡１
			中世・近世：土坑５
29	五代伊勢宮Ⅳ遺跡	平成13	縄文（中期）：竪穴住居跡３、土坑194
			奈良・平安：竪穴住居跡１
30	五代伊勢宮Ⅴ遺跡	平成14	縄　　文：竪穴住居跡12
			古　　墳：竪穴住居跡20、小石槨１
			奈良・平安：竪穴住居跡32、掘立柱建物跡６、溝跡２
			中世・近世：竪穴状遺構５、溝跡４
31	五代伊勢宮Ⅵ遺跡	平成14	縄　　文：竪穴住居跡26、土坑753
			古　　墳：竪穴住居跡13奈良・平安：竪穴住居跡９、鍛冶工房跡１
32	五代中原Ⅱ遺跡	平成14	縄　　文：竪穴住居跡４
			古　　墳：竪穴住居跡28
33	五代中原Ⅲ遺跡	平成15	古　　墳：竪穴住居跡45、土坑55、柱穴57基
34	五代山街道Ⅰ遺跡	平成15	縄　　文：竪穴住居跡９、土坑８
			古　　墳：竪穴住居跡１
			平　　安：竪穴住居跡２、掘立柱建物１
35	五代山街道Ⅱ遺跡	平成15	縄　　文：土坑11
36	五代竹花Ⅱ遺跡	平成15	縄　　文：竪穴住居跡１、土坑19
			古　　墳：竪穴住居跡２
			奈良・平安：竪穴住居跡17、掘立柱建物跡３
			中世・近世：地下式土坑１、道路状遺構４
37	五代木福Ⅲ遺跡	平成15	古　　墳：竪穴住居跡14、掘立柱建物跡７
			奈良・平安：竪穴住居跡23、掘立柱建物跡５
			古墳～近世：溝跡10、井戸跡４、土坑73、柱穴294、竪穴状遺構１、周溝状遺構１

◎その他の周辺の遺跡

38　新田塚古墳　　39　檜峯古墳　　40　大日塚古墳　　41　桂正田稲塚古墳
42　東公田古墳　　43　オブ塚古墳　　44　オブ塚西古墳　　45　荻窪鰯塚遺跡
46　荻窪東爪遺跡　　47　荻窪倉兼遺跡　　48　荻窪倉兼Ⅱ遺跡

が検出された。

本遺跡の西に位置する芳賀西部団地遺跡（調査面積約2.5ha）は、縄文時代前期の竪穴住居跡、埴輪棺等の他、古墳綜覧記載漏れの古墳32基が集中して検出され、初期群集墳であることが分かった。また、小神明遺跡群Ⅱの西田遺跡からは円墳４基、帆立貝式古墳１基が検出された。昭和10年、県下一斉に行われた古墳調査において芳賀地区には64基の古墳があるとされ、赤城南麓では旧荒砥村、旧粕川村、旧桂萱村についで古墳の多いところとされてきた。しかし、古墳綜覧記載漏れの古墳を併せると、芳賀地区には実に100基もの古墳が集中して存在したことになる。

芳賀北部団地遺跡（調査面積約約6.1ha）は縄文時代前期、後期の竪穴住居跡、中期の敷石住居跡が検出された。また、奈良・平安時代では竪穴住居跡237軒が検出され、中世では勝山城址の一部が検出された。

鳥取福蔵寺遺跡では、縄文前期の住居跡が２軒、奈良・平安時代の住居跡が39軒・精錬鍛冶炉遺構が１基、中世の竪穴状遺構１基などが検出された。

鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡では、特筆すべきこととして約13,000年前に堆積した浅間黄色軽石層直下の関東ローム層中より旧石器が検出された。細石刃文化石器群と認められるだけでも350点検出された。器種も細石核、細石刃、スキー状削片、彫刻刀型石器、削器、掻器、礫器など多岐に及んだ。縄文時代前・中・後期の竪穴住居跡６軒、古墳時代の竪穴住居跡12軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡29軒・掘立柱遺構９基・鍛冶工房跡１基が検出された。

檜峯遺跡からは、奈良・平安時代の竪穴住居跡65軒とともに、奈良三彩小壺（前橋指定重要文化財）が検出された。

現在、調査が進行中の五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査では、標高115mから130m付近で縄文時代前・中期の住居跡や土坑、古墳時代中期から奈良・平安時代の住居跡が検出されている。また、標高135m付近で多数の縄文時代中期の土坑が検出された。北西部では古墳時代前期の住居跡も検出されている。

このように芳賀地区の主な遺跡を見てくると、旧石器時代の終わりから縄文、古墳、奈良・平安時代、中近世と、古くから絶えることなく人々が生活をしてきたことが窺える。

Ⅲ　調査の経過

1　調査方針

委託調査箇所は、五代南部工業団地造成が計画されている地域（約427,600㎡）のうち、平成12年度試掘調査の結果、本調査が必要とされた地域（約137,500㎡）である。グリッドについては、４ｍピッチで西から東へＸ０、Ｘ１、Ｘ２…と、北から南へＹ０、Ｙ１、Ｙ２…と付番し、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。五代木福Ⅳ遺跡は、本調査が必要とされた地域のうち約3,025㎡、五代深堀Ⅲ遺跡は約3,525㎡である。

各遺跡の公共座標は次のとおりである。

【五代木福Ⅳ遺跡】（Ｘ125・Ｙ200）

＋45754.828（Ｘ）　　－64491.918（Ｙ）　[世界測地系]

＋45400.941（Ｘ）　　－64200.000（Ｙ）　[日本測地系]

緯度　36° 24′ 25″．50549　　経度　139° 07′ 02″．80885

子午線収差角　25′ 29″．663　　増大率　0.99995078

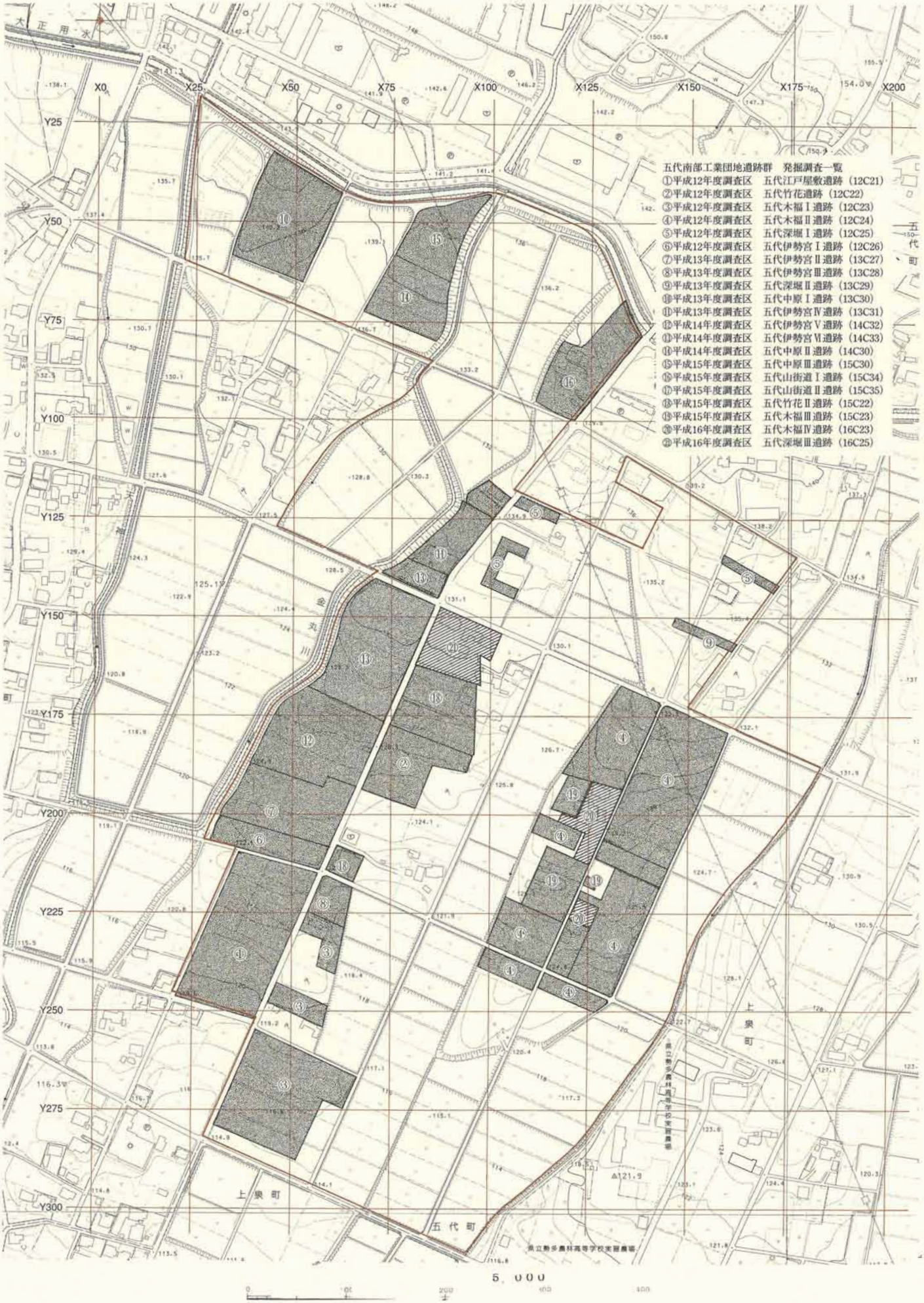


Fig. 3　グリッド設定図

【五代深堀Ⅲ遺跡】（X90・Y156）

＋45930.820（X）		－64631.908（Y）[世界測地系]	
＋45576.000（X）		－64340.000（Y）[日本測地系]	
緯度	36° 24′ 31″．18223	経度	139° 06′ 57″．13670
子午線収差角	25′ 33″．087	増大率	0.99995100

調査方法は、表土掘削・遺構確認・杭打ち・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真撮影の手順で行った。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡竈は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2　調査経過

発掘調査は、五代深堀Ⅲ遺跡から着手することとした。5月18日から発掘調査を開始した。重機（バックフォー0.7㎥）1台と10ｔクローラダンプ1台を使い、調査区の表土掘削を行った。表土掘削に9日かかり、それと並行して鋤簾による遺構確認を行った。表土下約35㎝からローム面が検出された。6月2日に杭打ちを行い、遺構の掘下・精査に入った。攪乱の入った残存状況の悪い遺構が多く、掘下・精査に困難を要した。6月17日には前橋市立桂萱中学校の2年生6名が職場体験学習に訪れ、発掘調査の話や出土遺物の説明を受けた後、遺構の掘り下げや土器の注記作業などを体験して、遺物発見の喜びや発掘の苦労を感じて帰校した。遺構精査の結果、土師の竪穴住居跡29軒、掘立柱建物跡5軒、井戸跡3基、土坑2基、柱穴124基が検出された。7月30日に高所作業車による全体写真撮影を行った。なお、表採で多くの縄文土器片が出土したこと、西隣の伊勢宮Ⅵ遺跡で多くの縄文の遺構が検出されていることから、2面目まで開けて、縄文面の再調査を行うこととした。

五代木福Ⅳ遺跡は、2つに分かれているため、それぞれ北区、南区として8月2日から発掘調査を開始した。重機（バックフォー0.7㎥）1台と10ｔダンプ1台を使い、調査区の表土掘削を行った。表土掘削に北区は6日間、南区は2日間かかり、それと並行して、鋤簾による遺構確認を行った。北区は表土下約25㎝、南区は表土下約40㎝からローム面が検出された。19日に杭打ちを行い、遺構の掘下・精査に入った。遺構精査の結果、土師の竪穴住居跡18軒、掘立柱建物跡5軒、溝跡4条、井戸跡1基、落ち込み1基、土坑21基、柱穴95基が検出された。10月19日に高所作業車による全体写真撮影を行った。

五代深堀Ⅲ遺跡縄文面は、重機（バックフォー0.7㎥）1台と10ｔダンプ1台を使い、8月18日から表土掘削を行った。1面目より約10㎝掘下げた。23日に杭打ちを行い、五代木福Ⅳ遺跡の精査終了後、10月20日から遺構の掘下、精査に入った。遺構精査の結果、縄文竪穴住居跡3軒、縄文土坑14軒、溝跡2条、落ち込み跡2基が検出された。11月17日に、高所作業車による全体写真撮影を行った。

その後、前橋城発掘調査があり、12月14日から五代深堀Ⅲ遺跡・五代木福Ⅳ遺跡の埋め戻しを4日間かけて行った。

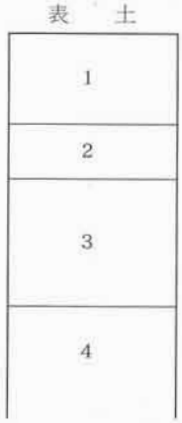
今年の夏は台風の影響等で雨の日も多く、また猛暑で作業の進捗に多少影響が見られた。12月14日から文化財保護課に戻り、出土遺物・図面・写真等の整理作業にあたった。3月18日、遺物・図面・写真等の整理作業をすべて終了した。

Ⅳ　基本層序

各遺跡地内の地層の堆積は、下のとおりである。

【五代木福Ⅳ遺跡　北区】

1	にぶい黄褐色土層	(10YR4/3)	締まり△　粘性×　現耕作土 厚さ15cm前後
2	暗褐色土層	(10YR3/4)	締まり○　粘性△　Hr-FA軽石・ As-C軽石含む　厚さ10cm前後
3	褐色土層	(10YR4/6)	締まり○　粘性△　As-C軽石を含む ローム漸移層　厚さ25cm前後
4	明黄褐色土層	(10YR5/6)	締まり○　粘性○　ローム層

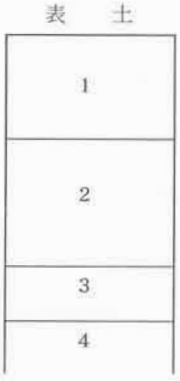


【五代木福Ⅳ遺跡　南区】

1	灰黄褐色土層	(10YR4/2)	締まり○　粘性×　現耕作土 厚さ5cm前後
2	暗褐色土層	(10YR3/4)	締まり△　粘性×　Hr-FA軽石・ As-C軽石を含む　厚さ20cm前後
3	黒褐色土層	(10YR2/3)	締まり△　粘性△　Hr-FA軽石・ As-C軽石を含む　厚さ20cm前後
4	にぶい黄褐色土層	(10YR4/3)	締まり○　粘性○　As-C軽石を含む ローム漸移層　厚さ15cm前後
5	褐色土層	(10YR6/8)	締まり○　粘性○　ローム層

【五代深堀Ⅲ遺跡】

1	褐灰色土層	(10YR4/1)	締まり○　粘性×　現耕作土 厚さ15cm前後
2	黒褐色土層	(10YR2/2)	締まり○　粘性△　Hr-FA軽石・ As-C軽石を含む　厚さ20cm前後
3	にぶい黄褐色土層	(10YR4/3)	締まり○　粘性○　As-C軽石を含む ローム漸移層　厚さ10cm前後
4	明黄褐色土層	(10YR5/6)	締まり△　粘性○　ローム層



五代木福Ⅳ遺跡

五代木福IV追跡

1　遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡

H－1号住居跡（Fig. 4、PL. 2）

位置　X131・132、Y192グリッド　**主軸方向**　N－90°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（2.76）m、南北（3.20）m、壁現高60cmを測る。　**面積**　（5.05）㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　調査区外のため検出されず。　**時期**　埋土や出土遺物から9世紀第3四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数39点。そのうち坏1点を図示した。

H－2号住居跡（Fig. 4、PL. 2）

位置　X130・131、Y192・193グリッド　**主軸方向**　N－65°－E　**形状等**　長方形。東西3.32m、南北4.12m、壁現高63cmを測る。　**面積**　13.04㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N－65°－E。全長130cm、最大幅112cm、焚口部幅24cmを測る。石を両袖に、片袖には3つの石を重ねて使用。大量の粘土を構築材として使用。　**時期**　埋土や出土遺物から8世紀第3四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数170点。そのうち、坏5点、砥石1点を図示した。

H－3号住居跡（Fig. 5、PL. 2）

位置　X126・127、Y194グリッド　**主軸方向**　N－97°－E　**形状等**　長方形。東西2.34m、南北3.00m、壁現高23cmを測る。　**面積**　9.92㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面。一部周溝有。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N－112°－E。全長80cm、最大幅78cm、焚口部幅28cmを測る。石を両袖に、粘土を構築材として使用。　**時期**　埋土や出土遺物から9世紀第1四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数25点。そのうち、坏1点を図示した。

H－4号住居跡（Fig. 5、PL. 2・3）

位置　X127・128、Y192・193グリッド　**主軸方向**　N－60°－E　**形状等**　長方形。東西4.00m、南北3.00m、壁現高55cmを測る。　**面積**　11.24㎡　**床面**　非常に堅緻な床面。　**竈**　東壁中央北寄り。主軸方向N－70°－E。全長120cm、最大幅78cm、焚口部幅30cmを測る。粘土を構築材として使用。　**時期**　埋土や出土遺物から9世紀第1四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数60点。そのうち、坏3点、盤1点を図示した。

H－5号住居跡（Fig. 6、PL. 3）

位置　X129・130、Y194・195グリッド　**主軸方向**　N－73°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西3.10m、南北［2.92］m、壁現高41cmを測る。　**面積**　［8.02］㎡　**床面**　非常に堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N－67°－E。全長88cm、最大幅76cm、焚口部幅40cmを測る。石を両袖に、粘土を構築材として使用。　**時期**　埋土や出土遺物から8世紀第2四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数18点。そのうち、坏3点を図示した。

H－6号住居跡（Fig. 6、PL. 3）

位置　X130・131、Y195グリッド　**主軸方向**　N－74°－W　**形状等**　方形と推定される。東西（0.60）m、南北（3.22）m、壁現高49cmを測る。　**面積**　（1.21）㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　西壁中央。主軸方向N－75°－E。全長（90）cm、最大幅110cm、焚口部幅（34）cmを測る。粘土を構築材として使用。　**時期**　埋土や出土遺物から8世紀第2四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数110点。そのうち、甕1点を図示した。

H－7号住居跡（Fig. 7、PL. 4）

位置　X126・127、Y198・199グリッド　**主軸方向**　N－118°－E　**形状等**　長方形。東西3.18m、南北2.84m、壁現高23cmを測る。　**面積**　7.44㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　検出されず。　**時期**　不明。　**出土遺物**　本遺構に関連する遺物の出土はなかった。

H－8号住居跡（Fig . 7、PL. 4）

位置　X121・122、Y203グリッド　**主軸方向**　N－71°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（0.98）m、南北（0.70）m、壁現高33cmを測る。　**面積**　（0.33）㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　調査区外のため検出されず。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀第２四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数21点。

H－9号住居跡（Fig. 7、PL. 4）

位置　X127・128、Y200・201グリッド　**主軸方向**　N－84°－E　**形状等**　正方形と推定される。東西2.66m、南北2.82m、壁現高21cmを測る。　**面積**　6.65㎡　**床面**　堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N－87°－E。全長70cm、最大幅92cm、焚口部幅38cmを測る。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀第２四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数12点。そのうち、埦１点を図示した。

H－10号住居跡（Fig. 8、PL. 4・5）

位置　X123・124、Y200・201グリッド　**主軸方向**　N－97°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西［5.18］m、南北4.36m、壁現高65cmを測る。　**面積**　［21.84］㎡　**床面**　一部非常に堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N－95°－E。全長174cm、最大幅72cm、焚口部幅40cmを測る。石を両袖に、粘土を構築材として使用。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀第３四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数250点。そのうち、埦１点、壷１点、長頸壷２点、甕２点を図示した。

H－11号住居跡（Fig. 9、PL. 5）

位置　X123・124、Y203・204グリッド　**主軸方向**　N－95°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西［4.46］m、南北（3.64）m、壁現高34cmを測る。　**面積**　（9.77）㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面。周溝有。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N－96°－E。全長80cm、最大幅100cm、焚口部幅56cmを測る。粘土を構築材として使用。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀第３四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数107点。そのうち、坏１点、埦２点を図示した。

H－12号住居跡（Fig. 9、PL. 5）

位置　X125、Y204グリッド　**主軸方向**　N－97°－E　**形状等**　正方形と推定される。東西［3.50］m、南北3.64m、壁現高42cmを測る。　**面積**　［11.37］㎡　**床面**　堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N－97°－E。全長［100］cm、最大幅［92］cm、焚口部幅26cmを測る。粘土を構築材として使用。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀第１四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数179点。そのうち、坏１点、甕１点を図示した。

H－13号住居跡（Fig.10、PL. 5・6）

位置　X122～124、Y205～207グリッド　**主軸方向**　N－56°－E　**形状等**　正方形と推定される。東西［5.34］m、南北［5.56］m、壁現高43cmを測る。　**面積**　（27.84）㎡　**床面**　堅緻な床面。一部周溝有。　**竈**　東壁中央

南寄り。主軸方向N－55°－E。全長98cm、最大幅100cm、焚口部幅38cmを測る。粘土を構築材として使用。 **時期** 埋土や出土遺物から6世紀後半と考えられる。 **出土遺物** 総数375点。そのうち、坏1点、長胴甕2点を図示した。

H－14号住居跡 (Fig.11、PL. 6)

位置 X122・123、Y221～223グリッド **主軸方向** N－70°－E **形状等** 長方形と推定される。東西［4.70］m、南北［3.92］m、壁現高48cmを測る。 **面積** ［16.70］㎡ **床面** 一部堅緻な床面。 **竈** 東壁中央南寄り。主軸方向N－85°－E。全長120cm、最大幅106cm、焚口部幅46cmを測る。石を片袖に、粘土を構築材として使用。 **時期** 埋土や出土遺物から8世紀第3四半期と考えられる。 **出土遺物** 総数134点。そのうち、甕1点を図示した。

H－15号住居跡 (Fig.12、PL. 7)

位置 X123・124、Y224・225グリッド **主軸方向** N－94°－E **形状等** 正方形と推定される。東西［3.74］m、南北3.82m、壁現高56cmを測る。 **面積** ［12.83］㎡ **床面** 一部非常に堅緻な床面。焼土有。 **竈** 東壁中央南寄り。主軸方向N－94°－E。全長114cm、最大幅88cm、焚口部幅48cmを測る。石を両袖と支脚に、粘土を構築材として使用。 **時期** 埋土や出土遺物から9世紀第2四半期と考えられる。 **出土遺物** 総数290点。そのうち、坏1点、椀1点、蓋1点を図示した。

H－16号住居跡 (Fig.13、PL. 7)

位置 X123・124、Y225・226グリッド **主軸方向** N－97°－E **形状等** 長方形。東西3.00m、南北3.76m、壁現高54cmを測る。 **面積** 10.59㎡ **床面** 堅緻な床面。 **竈** 東壁中央南寄り。主軸方向N－104°－E。全長90cm、最大幅74cm、焚口部幅34cmを測る。粘土を構築材として使用。 **時期** 埋土や出土遺物から9世紀第1四半期と考えられる。 **出土遺物** 総数320点。そのうち、坏5点、甕1点を図示した。

H－17号住居跡 (Fig.13、PL. 8)

位置 X123・124、Y226・227グリッド **主軸方向** N－93°－E **形状等** 方形と推定される。東西（4.14）m、南北（2.60）m、壁現高62cmを測る。 **面積** 10.89㎡ **床面** 堅緻な床面。 **竈** 調査区域外のため検出されず。 **時期** 埋土や出土遺物から8世紀第1四半期と考えられる。 **出土遺物** 総数327点。そのうち、坏1点を図示した。

H－18号住居跡 (Fig.14、PL. 8)

位置 X125、Y222・223グリッド **主軸方向** N－85°－E **形状等** 方形と推定される。東西［2.70］m、南北［1.96］m、壁現高34cmを測る。 **面積** ［4.90］㎡ **床面** 一部堅緻な床面。 **竈** 検出されず。 **時期** 埋土や出土遺物から10世紀第3四半期と考えられる。 **出土遺物** 総数42点。そのうち、坏1点を図示した。

(2) 掘立柱建物跡

B－1号掘立柱建物跡 (Fig.14、PL. 8)

位置 X126～128、Y192～194グリッド 形状 東西2間3.48m×南北3間5.08mの長方形で、長軸方向はN－143°－E、推定面積18.5㎡である。柱間寸法は東西6尺＋6尺、南北5尺＋5尺＋7尺である。 **柱穴** 平面は

円形を呈し、円筒形をしている。径は25～40cm、深さ25～35cmである。　**時期**　柱穴の平面形状や遺構の長軸方向などから９～10世紀と考えられる。　**遺物**　本遺構に関連する遺物の出土はなかった。

Ｂ－２号掘立柱建物跡（Fig.15、PL. 8）

位置　Ｘ124～126、Ｙ193・194グリッド　形状　東西2間4.75ｍ×南北3間4.85ｍの正方形で、長軸方向はＮ－137°－Ｅ、推定面積24.3㎡である。柱間寸法は東西７尺＋８尺、南北６尺＋４尺＋６尺である。　**柱穴**　平面は円形を呈し、円筒形をしている。径は26～77cm、深さ15～48cmである。　**時期**　柱穴の平面形状や遺構の長軸方向などから９～10世紀と考えられる。　**遺物**　本遺構に関連する遺物の出土はなかった。

Ｂ－３号掘立柱建物跡（Fig.16、PL. 8）

位置　Ｘ125・126、Ｙ198～200グリッド　形状　東西2間3.39ｍ×南北3間4.69ｍの長方形で、長軸方向はＮ－155°－Ｅ、推定面積16.2㎡である。柱間寸法は東西５尺＋６尺、南北７尺＋５尺＋４尺である。　**柱穴**　平面は円形を呈し、円筒形をしている。径は29～68cm、深さ17～38cmである。　**時期**　柱穴の平面形状や遺構の長軸方向などから９～10世紀と考えられる。　**遺物**　総数６点。

Ｂ－４号掘立柱建物跡（Fig.17、PL. 8）

位置　Ｘ121・122、Ｙ224・225グリッド　形状　東西2間2.44ｍ×南北1間1.98ｍの長方形で、長軸方向はＮ－63°－Ｅ、推定面積4.1㎡である。柱間寸法は東西４尺＋４尺、南北６尺である。　**柱穴**　平面は円形を呈し、円筒形をしている。径は32～68cm、深さ23～57cmである。　**時期**　柱穴の平面形状や遺構の長軸方向などから９～10世紀と考えられる。　**遺物**　総数３点。

Ｂ－５号掘立柱建物跡（Fig.17、PL. 9）

位置　Ｘ120・121、Ｙ225グリッド　形状　東西２間（3.46）ｍ×南北２間（3.54）ｍの正方形で、長軸方向はＮ－142°－Ｅ、推定面積（8.6）㎡である。柱間寸法は東西６尺＋６尺、南北６尺＋６尺である。　**柱穴**　平面は円形を呈し、円筒形をしている。径は30～50cm、深さ14～42cmである。　**時期**　柱穴の平面形状や遺構の長軸方向などから９～10世紀と考えられる。　**遺物**　総数２点。

(3)　溝 跡

Ｗ－１号溝跡（Fig.18、PL. 9）

位置　Ｘ122～127、Ｙ190～196グリッド　方位　Ｎ－40°－Ｅ　**形状等**　断面は逆台形を呈し、上幅72～312cm、深さ17～81cm、長さ25.30ｍを測る。　**時期**　埋土や他遺構との関連から中世以降と考えられる。　**遺物**　総数17点。

Ｗ－２号溝跡（Fig.19、PL. 9）

位置　Ｘ122～129、Ｙ195～198グリッド　方位　Ｎ－113°－Ｅ　**形状等**　断面は逆台形を呈し、上幅150～252cm、深さ19～53cm、長さ30.14ｍを測る。　**時期**　埋土や他遺構との関連から中世以降と考えられる。　遺物総数92点。

Ｗ－３号溝跡（Fig.20、PL. 9）

位置　X115～117、Y198～200グリッド　方位　N－50°－E　**形状等**　断面は逆台形を呈し、上幅50～100cm、深さ21～48cm、長さ10.58mを測る。　**時期**　埋土や他遺構との関連から中世以降と考えられる。　**遺物**　本遺構に関連する遺物の出土はなかった。

W－4号溝跡（Fig.21、PL. 9）

位置　X121～126、Y221～223グリッド　方位　N－110°－E　**形状等**　断面は逆台形を呈し、上幅192～230cm、深さ58～82cm、長さ20.08mを測る。　**時期**　埋土や他遺構との関連から中世以降と考えられる。　**遺物**　総数215点。

(4)　土坑・井戸跡・落ち込み跡・柱穴（Fig.22～24、PL. 9）

Tab. 4 土坑・井戸跡計測表、Tab. 5 落ち込み跡計測表、Tab. 6 柱穴計測表を参照のこと。なお、D－21の坏1点を図示した。

(5)　グリッド等出土遺物

小破片を含め総数343点の遺物を出土した。

Tab.2 五代木福Ⅳ遺跡住居跡計測表

遺構名	規模（m）			面積	主軸方向	炉・竈	周溝	出土遺物
	東西	南北	壁現高	(㎡)		位置・素材等		
H－1	(2.76)	(3.20)	0.60	(5.05)	N－90°－E	検出されず	×	坏・甕
H－2	3.32	4.12	0.63	13.04	N－65°－E	東壁中央南寄り・袖石・粘土	×	坏・甕・砥石
H－3	2.34	3.00	0.23	9.92	N－97°－E	東壁中央南寄り・粘土	○	坏・甕
H－4	4.00	3.00	0.55	11.24	N－60°－E	東壁中央北寄り・粘土	×	坏・盤
H－5	3.10	[2.92]	0.41	[8.02]	N－73°－E	東壁中央南寄り・袖石・粘土	×	坏
H－6	(0.60)	(3.22)	0.49	(1.21)	N－74°－W	西壁中央・粘土	×	坏・甕
H－7	3.18	2.84	0.23	7.44	N－118°－E	検出されず	×	
H－8	(0.98)	(0.70)	0.33	(0.33)	N－71°－E	検出されず	×	坏・塊・甕
H－9	2.66	2.82	0.21	6.65	N－84°－E	東壁中央南寄り	×	坏・塊・甕
H－10	[5.18]	4.36	0.65	[21.84]	N－97°－E	東壁中央南寄り・袖石	×	塊・壺・長頸壺・甕
H－11	[4.46]	(3.64)	0.34	(9.77)	N－95°－E	東壁中央南寄り・粘土	○	坏・塊・甕
H－12	[3.50]	3.64	0.42	[11.37]	N－97°－E	東壁中央南寄り・粘土	×	坏・塊・甕
H－13	[5.34]	[5.56]	0.43	(27.84)	N－56°－E	東壁中央南寄り・粘土	○	坏・甕・長胴甕
H－14	[4.70]	[3.92]	0.48	[16.70]	N－70°－E	東壁中央南寄り・袖石・粘土	×	坏・塊・甕
H－15	[3.74]	3.82	0.56	[12.83]	N－94°－E	東壁中央南寄り・袖石・支脚	×	坏・塊・蓋・甕
H－16	3.00	3.76	0.54	10.59	N－97°－E	東壁中央南寄り・粘土	×	坏・塊・甕
H－17	(4.14)	(2.60)	0.62	(10.89)	N－93°－E	検出されず	×	坏・甕
H－18	[2.70]	[1.96]	0.34	[4.90]	N－85°－E	検出されず	×	塊・甕

Tab.3 五代木福Ⅳ遺跡溝跡計測表

遺構名	位　置	長さ（m）	深さ（cm）	上幅（cm）		方位	形状
				最大	最小		
W－1	X122～127　Y190～196	25.3	81	312	72	N－40°－E	楕円形
W－2	X122～129　Y195～198	30.14	53	252	150	N－113°－E	楕円形
W－3	X115～117　Y198～200	10.58	48	100	50	N－50°－E	楕円形
W－4	X121～126　Y221～223	20.08	82	230	192	N－110°－E	楕円形

Tab.4 五代木福Ⅳ遺跡土坑・井戸跡計測表

遺構名	位　置	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	形状	出土遺物等
D－1	X128·129 Y198·199	200	182	78	楕円形	
D－2	X124·125 Y202·203	410	326	128	方　形	
D－3	X123 Y204	90	75	24	楕円形	
D－4	X123 Y226	(150)	(80)	38	楕円形	
D－5	X131 Y192	118	95	29	楕円形	
D－6	X128 Y193	114	80	36	楕円形	
D－7	X129·130 X193·194	83	50	33	楕円形	
D－8	X130 Y194	110	60	41	楕円形	
D－9	X131 Y194	110	76	60	楕円形	
D－10	X129 Y194	102	[70]	15	楕円形	
D－11	X127 Y197・198	156	90	42	長方形	
D－12	X128 Y199・200	128	80	16	楕円形	
D－13	X123·124 Y205	128	[110]	53	楕円形	
D－14	X122 Y207	128	98	43	楕円形	
D－15	X121 Y222	98	86	22	楕円形	
D－16	X120 Y223・224	128	(74)	44	楕円形	
D－17	X121 Y224	124	98	23	楕円形	
D－18	X122 Y225・226	146	98	27	楕円形	
D－19	X124 Y221・222	75	62	53	楕円形	
D－20	X124 Y225	122	90	29	楕円形	
D－21	X120·121 Y224・225	118	[82]	56	楕円形	坏
I－1	X123·124 Y205	338	198	151	楕円形	

Tab.5 五代木福Ⅳ遺跡落ち込み跡計測表

遺構名	位　置	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	形状	出土遺物等
O－1	X122 Y207・208	258	200	34	楕円形	

Tab.6 五代木福Ⅳ遺跡柱穴跡計測表

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状
P－1	X129 Y191	52	42	30	楕円形	P－51	X127 Y199	37	30	25	楕円形
P－2	X131 Y192	41	40	48	円　形	P－52	X128 Y199	41	39	24	円　形
P－3	X131 Y192	52	48	20	円　形	P－53	X127 Y200	48	39	34	円　形
P－4	X131 Y192	84	58	30	楕円形	P－54	X126 Y200·201	55	44	16	楕円形
P－5	X131 Y192	48	44	33	楕円形	P－55	X126 Y201	39	36	11	円　形
P－6	X131 Y193	36	34	21	円　形	P－56	X126 Y200	82	72	50	楕円形
P－7	X127·128 Y192	41	37	29	円　形	P－57	X126 Y200	56	54	35	円　形
P－8	X128 Y192	37	31	28	楕円形	P－58	X125 Y199	55	52	34	円　形
P－9	X129·130 Y192	43	40	48	円　形	P－59	X126 Y200	84	71	27	楕円形
P－10	X131 Y193	39	38	20	円　形	P－60	X126·127 Y201	41	35	11	楕円形
P－11	X129 Y193	42	42	21	円　形	P－61	X126 Y201	69	58	15	楕円形
P－12	X129 Y193	40	35	19	楕円形	P－62	X124·125 Y201	50	36	37	楕円形
P－13	X128 Y193	35	34	13	円　形	P－63	X124 Y201	40	37	28	円　形
P－14	X130 Y194	49	36	27	楕円形	P－64	X123 Y201	49	42	16	楕円形
P－15	X130 Y194	43	41	24	円　形	P－65	X126 Y201·202	97	62	15	楕円形
P－16	X130 Y194	64	37	34	楕円形	P－66	X126 Y202	64	45	35	楕円形
P－17	X130 Y192	88	62	45	楕円形	P－67	X121 Y221	39	39	14	円　形
P－18	X128 Y194	36	30	11	楕円形	P－68	X121 Y222	40	40	51	円　形
P－19	X129 Y194	72	51	25	楕円形	P－69	X121 Y222	43	38	20	円　形
P－20	X129 Y195	49	41	28	楕円形	P－70	X121 Y222	37	36	35	円　形
P－21	X129 Y195	33	29	20	円　形	P－71	X122 Y222	34	29	24	円　形
P－22	X129 Y195	46	44	22	円　形	P－72	X122 Y223	32	27	13	円　形
P－23	X129 Y195	50	45	35	円　形	P－73	X122 Y223	37	34	19	円　形
P－24	X130 Y195	38	36	38	円　形	P－74	X122 Y223	41	41	12	円　形
P－25	X130 Y195	64	49	32	楕円形	P－75	X123 Y223	51	44	43	楕円形
P－26	X129 Y196	40	37	12	円　形	P－76	X123 Y223	49	47	34	円　形
P－27	X129 Y196	40	38	23	円　形	P－77	X123 Y223	46	36	31	楕円形
P－28	X128 Y195	35	34	20	円　形	P－78	X124·125 Y222	49	47	51	円　形
P－29	X128 Y195	45	37	48	楕円形	P－79	X123 Y223	46	35	20	楕円形
P－30	X128 Y196	31	27	44	円　形	P－80	X123 Y223	74	55	40	楕円形
P－31	X129 Y197	60	51	28	楕円形	P－81	X123 Y223	40	36	28	円　形
P－32	X128 Y196	51	46	21	円　形	P－82	X124 Y223	51	46	12	円　形
P－33	X127 Y195	49	44	10	円　形	P－83	X125 Y223	38	38	39	円　形
P－34	X127 Y195	50	44	35	楕円形	P－84	X125 Y223	72	56	22	楕円形
P－35	X125 Y193	35	32	34	円　形	P－85	X122·123 Y223·224	37	35	19	円　形
P－36	X125 Y192·193	54	47	25	楕円形	P－86	X122 Y224	36	32	14	円　形
P－37	X126 Y194	50	47	18	円　形	P－87	X122 Y225	78	55	15	楕円形
P－38	X126 Y194	28	26	13	円　形	P－88	X122 Y225	52	51	30	楕円形
P－39	X126 Y195	35	33	22	円　形	P－89	X122 Y225	37	34	11	円　形
P－40	X127 Y194	66	57	29	楕円形	P－90	X122 Y225	50	38	28	楕円形
P－41	X124·125 Y191	43	36	35	楕円形	P－91	X123 Y225	44	44	14	円　形
P－42	X123 Y196	64	60	19	円　形	P－92	X123 Y226	39	39	11	円　形
P－43	X124 Y197	58	52	14	楕円形	P－93	X121 Y224·225	71	56	52	楕円形
P－44	X122·123 Y198	65	48	25	楕円形	P－94	X120 Y224	51	43	76	不整形
P－45	X124 Y198	62	52	38	楕円形	P－95	X120 Y224	34	30	20	円　形
P－46	X124 Y198	76	68	29	楕円形						
P－47	X124 Y199	40	36	26	円　形						
P－48	X125 Y198	61	49	21	楕円形						
P－49	X127 Y198	42	40	30	円　形						
P－50	X127 Y199	33	28	39	楕円形						

Tab.7 五代木福Ⅳ遺跡　古墳・奈良・平安時代出土遺物観察表

番	遺構番号／層位	器種	①口径 ②器高	①胎土 ②焼成 ③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
1	H－1－1 床直	坏 土師器	①[11.8] ② 2.2	①細粒②良好 ③橙色④1/5	体部：外傾。口縁部：横撫で。底部：ほぼ平底、篦削り。内面撫で。	
2	H－2－1 床直	坏 土師器	① 11.3 ② 3.4	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	体部：緩やかに外傾。口縁部：短くほぼ直立、横撫で、交換点に弱い稜。底部：わずかに丸底、篦削り。内面撫で。	
3	H－2－2 床直	坏 土師器	① 13.1 ② 3.8	①細粒②良好 ③橙色④3/4	体部：緩やかに外傾。口縁部：短くほぼ直立、横撫で。底部：浅い丸底、篦削り。内面撫で。	
4	H－2－3 床直	坏 土師器	①[13.0] ② 3.4	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/2	体部：緩やかに外傾。口縁部：端部で短く内湾、横撫で。底部：浅い丸底、篦削り。内面撫で。	内外面に煤付着
5	H－2－4 床直	坏 土師器	①[12.0] ② 3.8	①細粒②良好 ③橙色④3/4	体部：緩やかに外傾。口縁部：端部で短く内湾、横撫で。底部：丸底、篦削り。内面撫で。	
6	H－2－5 床直	坏 土師器	①[17.5] ② 4.4	①細粒②良好 ③橙色④ 1/4	体部：緩やかに外傾。口縁部：外反、横撫で。底部：浅い丸底、篦削り。内面撫で。	
7	H－3－1 床直	坏 土師器	① 12.0 ② 3.5	①細粒②良好 ③明赤褐色④2/3	体部：外傾。口縁部：横撫で。底部：平底、篦削り。内面撫で、指押さえ痕。	口縁部外面に煤付着
8	H－4－1 床直	坏 土師器	① 13.8 ② 3.7	①細粒②良好 ③橙色④完形	体部：緩やかに膨らみを持ちながら外傾。口縁部：横撫で。底部：浅い丸底、篦削り。内面撫で、指押さえ痕。	内面にわずかな煤付着
9	H－4－2 床直	坏 土師器	① 13.1 ② 3.1	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	体部：外傾。口縁部：ほぼ直立、横撫で。底部：浅い丸底、篦削り。内面撫で。	内外面に煤付着
10	H－4－3 床直	坏 土師器	① 14.4 ② 4.5	①細粒②良好 ③橙色④2/3	体部：緩やかに外傾。口縁部：端部で内湾、横撫で、交換点に稜。底部：丸底、篦削り。内面撫で。	
11	H－4－4 床直	盤 土師器	①[18.8] ② [3.5]	①細粒②良好③橙色 ④口縁部1/2欠損	体部：外傾。口縁部：端部で外反、横撫で、交換点に稜。底部：平底気味、篦削り。内面撫で。	
12	H－5－1 床直	坏 土師器	① 13.7 ② 3.9	①細粒②良好 ③橙色④完形	体部：緩やかに外傾。口縁部：端部で短く内湾、横撫で。底部：丸底、篦削り。内面撫で。	内外面にわずかな煤付着
13	H－5－2 床直	坏 土師器	① 12.0 ② 3.6	①細粒②良好 ③橙色④4/5	体部：外傾。口縁部：端部で短く内湾、横撫で。底部：丸底、篦削り。内面撫で。	外面に煤付着
14	H－5－3 床直	坏 土師器	①[12.3] ② 3.4	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/2	体部：内湾気味、篦削り。口縁部：横撫で。底部：底、篦削り。内面撫で。	内外面に煤付着
15	H－6－1 床直	甕 土師器	① － ② －	①細粒②良好 ③赤褐色④体部破片	体部：斜・縦位の篦削り。内面撫で。体部中位のみ。	
16	H－9－1 床直	塊 須恵器	① － ② (1.4)	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④底部1/4	轆轤整形。底部：回転糸切り痕右回り。口縁部、体部欠損。	
17	H－10－1 床直	塊 須恵器	① 15.5 ② 6.3	①細粒②良好 ③灰白色④ほぼ完形	轆轤整形。体部：内湾気味。口縁部：わずかに外反、轆轤撫で。底部：糸切り後篦撫で、付高台。	内外面一部に煤付着
18	H－10－2 床直	塊 須恵器	① 12.7 ② 4.1	①細粒②良好 ③にぶい橙色④2/3	轆轤整形。体部：内湾気味。口縁部：外反、轆轤撫で。底部：回転糸切り痕右回り。	外面に煤付着 摩耗
19	H－10－3 床直	塊 須恵器	①[16.4] ② 6.0	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/2	轆轤整形。体部：外傾、顕著な轆轤痕。口縁部：外反、轆轤撫で。底部：回転糸切り痕右回り、高台取付痕。	内外面に煤付着
20	H－10－4 床直	塊 須恵器	① 14.2 ② 5.9	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/2	轆轤整形。体部：外傾、顕著な轆轤痕。口縁部：外反、轆轤撫で。底部：回転糸切り痕右回り、付高台。	内外面に煤付着
21	H－10－5 床直	壷 灰釉	① － ②(11.0)	①細粒②良好③灰オリーブ色④体部1/5	轆轤整形。体部：張り大きい、顕著な轆轤痕、灰釉は漬けおき。口縁部、底部欠損。	
22	H－10－6 床直	長頸壷 灰釉	① － ② (5.6)	①細粒②良好 ③灰黄色④頸部破片	轆轤整形。頸部：大きく外反、轆轤痕。口縁部、底部欠損。	内外面に灰釉
23	H－10－7 床直	長頸壷 須恵器	① [8.6] ② (3.5)	①細粒②良好 ③黒褐色④頸部1/3	轆轤整形。頸部：外反、轆轤痕、外面に「 」の刻み文字。口縁部、底部欠損。	外面に自然釉
24	H－10－8 床直	甕 土師器	①[18.6] ②(11.5)	①中粒②良好③橙色 ④口縁部から体部上半1/3	体部：上半に横位の篦削り、下半に斜位の篦削り。口縁部：コの字、横撫で。頸部：横撫で、指押さえ痕。内面撫で。	
25	H－10－9 床直	甕 土師器	① 13.6 ② (7.0)	①細粒②良好③橙色 ④口縁部～体部上端	体部：上半に横位の篦削り。口縁部：コの字ぎみ、横撫で。頸部：篦整形後横撫で、雑な整形。内面撫で。	
26	H－11－1 床直	塊 須恵器	① 14.4 ② (4.9)	①細粒②良好 ③灰白色④2/3	轆轤整形。体部：外傾、顕著な轆轤痕。口縁部：わずかに外反、轆轤撫で。底部：回転糸切り痕右回り、高台取付痕。	内外面に煤付着
27	H－11－2 床直	塊 緑釉	① － ② (1.7)	①細粒②良好 ③灰白色④底部のみ	轆轤整形。体部、口縁部欠損。底部：高台外側及び内側底周辺部に緑釉。篦切り調整後付高台。	
28	H－11－3 床直	塊 須恵器	① － ② (2.0)	①細粒②良好 ③黒色④底部のみ	轆轤整形。底部：回転糸切り痕右回り。体部、口縁部欠損。	全体に濃く煤付着
29	H－12－1 床直	坏 須恵器	①[14.0] ② 4.5	①細粒②良好 ③灰色④1/3	轆轤整形。体部：外傾、顕著な轆轤痕。口縁部：わずかに外反、轆轤撫で。底部：回転糸切り痕右回り。	
30	H－12－2 床直	甕 土師器	①[20.0] ② (8.3)	①細粒②良好③明赤褐色④口縁部～頸部1/4	体部：篦削り。口縁部：コの字、横撫で。頸部：横撫で。	外面にわずかに煤付着
31	H－13－1 床直	坏 土師器	①[13.8] ② 4.0	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/2	体部：緩やかに外傾。口縁部：横撫で、交換点に明瞭な稜。底部：丸底、篦磨き。内面撫で。	内外面に煤付着
32	H－13－2 床直	長胴甕 土師器	①[22.2] ② 37.8	①細粒②良好 ③明褐色④4/5	体部：中央部に体部最大径、上半部に縦位、下半部に縦・斜位の篦削り。口縁部：器最大径、外反、横撫で。底部：平底。内面撫で。	
33	H－13－3 床直	長胴甕 土師器	① 21.0 ② 37.7	①細粒②良好 ③明赤褐色④9/10	体部：中央部に体部最大径、上部に縦位、中央部に縦・斜位、下部に横位の篦削り。口縁部：器最大径、外反、横撫で。底部：平底。内面撫で。口縁部、体部下半一部欠損。	
34	H－14－1 床直	甕 土師器	①[21.0] ② (9.2)	①中粒②良好 ③明赤褐色④1/6	体部：篦削り。口縁部：外反、横撫で。頸部：横撫で。内面撫で、縦線状に沈線。	胎土に雲母片
35	H－15－1 床直	坏 土師器	① 12.0 ② 4.3	①細粒②良好③橙色 ④口縁部1/5欠損	体部：外傾。口縁部：横撫で、指圧痕。底部：ほぼ平底。内面撫で、指押さえ痕。	
36	H－15－2 床直	蓋 須恵器	① － ② (4.5)	①細粒②良好 ③灰黄色④口縁部欠損	轆轤整形。天井部：わずかな膨らみを持ちながら傾斜、轆轤撫で、顕著な轆轤痕。口縁端部欠損。擬宝珠つまみ、つまみ周辺部轆轤整形後横撫で。	
37	H－15－3 床直	塊 須恵器	① － ② (4.7)	①細粒②良好 ③灰色④底部のみ	轆轤整形。底部：回転糸切り痕右回り、付高台。口縁部、体部欠損。	
38	H－15－4 床直	甕 土師器	①[21.2] ② (8.3)	①中粒②良好③橙色 ④口縁部～頸部1/4	体部：横位の篦削り。口縁部：コの字、横撫で。頸部：輪積み後横撫で。内面撫で。	内面に煤付着

39	H－16－1 床直	坏 土師器	① 11.7 ② 3.5	①細粒②良好 ③橙色④2/3	体部：外傾、篦削り後横撫で。口縁部：横撫で。底部：平底。内面撫で。	口縁部に歪み。
40	H－16－2 床直	坏 土師器	①[12.4] ② 3.2	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/3	体部：内湾、篦削り。口縁部：大きく外反、横撫で。底部：平底。内面撫で、指押さえ痕。	
41	H－16－3 床直	坏 須恵器	①[13.6] ② 3.7	①細粒②良好 ③灰黄色④7/8	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：わずかに外反、轆轤撫で。底部：回転糸切り痕右回り。	外面にわずかに煤付着
42	H－16－4 床直	坏 須恵器	① 12.6 ② 3.7	①細粒②良好 ③灰色④5/6	轆轤整形。体部：内湾気味、轆轤痕。口縁部：わずかに外反、轆轤撫で。底部：回転糸切り痕右回り。	胎土に白色小石片
43	H－16－5 床直	坏 須恵器	①[12.3] ② 3.0	①細粒②良好③灰色 ④口縁部1/2欠損	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：わずかに外反、轆轤撫で。底部：回転糸切り痕右回り。	
44	H－16－6 床直	甕 土師器	①[20.4] ② (9.2)	①中粒②良好③橙色④ 口縁部～体部上半1/31	体部：横位の篦削り。口縁部：コの字、横撫で。頸部：篦調整後横撫で。内面撫で。	
45	H－17－1 床直	坏 土師器	①[12.0] ② (2.6)	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/5	体部：内湾気味。口縁部：器肉厚、横撫で。底部：浅い丸底、篦削り。内面撫で。	摩耗
46	H－18－1 床直	坏 須恵器	① 13.1 ② 4.9	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④4/5	轆轤整形。体部：内湾気味、顕著な轆轤痕。口縁部：外反、器肉厚、轆轤撫で。底部：回転糸切り痕右回り。	酸化焔燃焼
47	D－21 埋土	坏 土師器	① 12.1 ② 3.4	①細粒②良好 ③赤褐色④ほぼ完形	体部：外傾、篦削り。口縁部：わずかに外反、篦撫で。底部：平底。内面撫で、指押さえ痕。	

注）①層位は、床面より10cm以内の層位からの検出を「床直」とし、10cmを超える層位からの検出を「埋土」とした。
②口径、器高の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（ ）、復元値を［ ］で示した。
③胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

Tab.8 五代木福Ⅳ遺跡　石製品一覧表

番号	出土位置	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備　考
1	H－2	砥石	(9.5)	(3.5)	(2.5)	133.0	凝灰岩	

注）長さ・幅・厚さの単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（ ）で示した。

2 ま と め

今回の調査の結果、五代木福Ⅳ遺跡では、古墳時代～平安時代の竪穴住居跡18軒、掘立柱建物５軒、溝跡４条、土坑21基、落ち込み１基、井戸跡１基、柱穴95基を検出した。住居跡は散在し、重複は見られなかった。大きく古墳時代後期と、奈良・平安時代、中世の３つに分けてまとめをしていく。

(1) 古墳時代後期

本遺跡では、古墳時代の竪穴住居跡はＨ－13号竪穴住居跡のみ１軒が検出された。北区の南側に位置し、約5.5ｍ四方の正方形で、面積27.84㎡、遺物総数375点と本調査区最大規模を誇る。竈焚口付近には６世紀後半を象徴するような長胴甕が２個体重なって出土した。土器片ではあるが、出土の様子から、北側の長胴甕を下にその上に南側の長胴甕を重ねて使用していたものと推測される。本調査区北区の北と東に隣接する五代木福Ⅱ遺跡でも、竈焚口付近に長胴甕を伴う住居跡も含め、古墳時代後期の住居跡64軒が検出されている。Ｈ－13号竪穴住居跡も含め、６世紀後半から７世紀にかけて大きな集落が形成されていたといえるであろう。

(2) 奈良・平安時代

奈良時代以降の住居跡としては、８世紀前半のものと考えられる竪穴住居跡が3軒、８世紀後半が２軒、９世紀前半が４軒、９世紀後半が１軒、10世紀前半が３軒、10世紀後半が３軒検出された。他に時期不明の住居跡が１軒で、奈良平安時代の住居跡は合計17軒となった。なお、竈を伴う住居は13軒であり、竈位置はＨ－６の西壁中央、Ｈ－４の東壁中央北寄りを除いては、すべて東壁中央南寄りであった。

８世紀前半の住居は北区北側に２軒、南区南端に１軒である。調査区外に一部含まれる住居もあるが、平均すると住居面積は8.02㎡である。６世紀の後半と比べると大分小型化されてくる。Ｈ－６号住居跡では、西壁に竈が検出された。但し、このわずか２ｍ西に同時期と考えられるＨ－５号住居跡が検出されため、Ｈ－６号住居跡の西竈は付け替えられた可能性が高いと考える。残念なのは、調査区内に西壁部分しかないので、東壁にあるかどうかは確定できない。

８世紀後半の住居は、北区北側に１軒、南区北側に１軒で平均住居面積は、14.87㎡と若干大きくなる。Ｈ－２号住居跡の竈では両袖に袖石を使用しているが、特に北側の袖は３個の石を重ねている。また粘土を多量に使って竈を構築しており、丈夫な竈を構えた住居跡となっている。

９世紀前半の住居は、北区北側に２軒、南区中央に２軒で、平均住居面積は11.15ｍと８世紀後半時期と比べ、若干小さくなってくる。Ｈ－15号竪穴住居跡の竈では両袖に石を、さらに支脚として凝灰岩を使っている。焚口部には窪みがあり、灰掻き用として使われていたことが分かる。

９世紀後半の住居は、北区北側に１軒のみで、一部調査区内のため不明な点が多い。

10世紀前半の住居は、北区中央に３軒で、平均住居面積は9.01㎡と小規模化してくる。Ｈ－12号竪穴住居跡からは床中央部に柱穴が検出され、屋根を支える大黒柱と想定される。

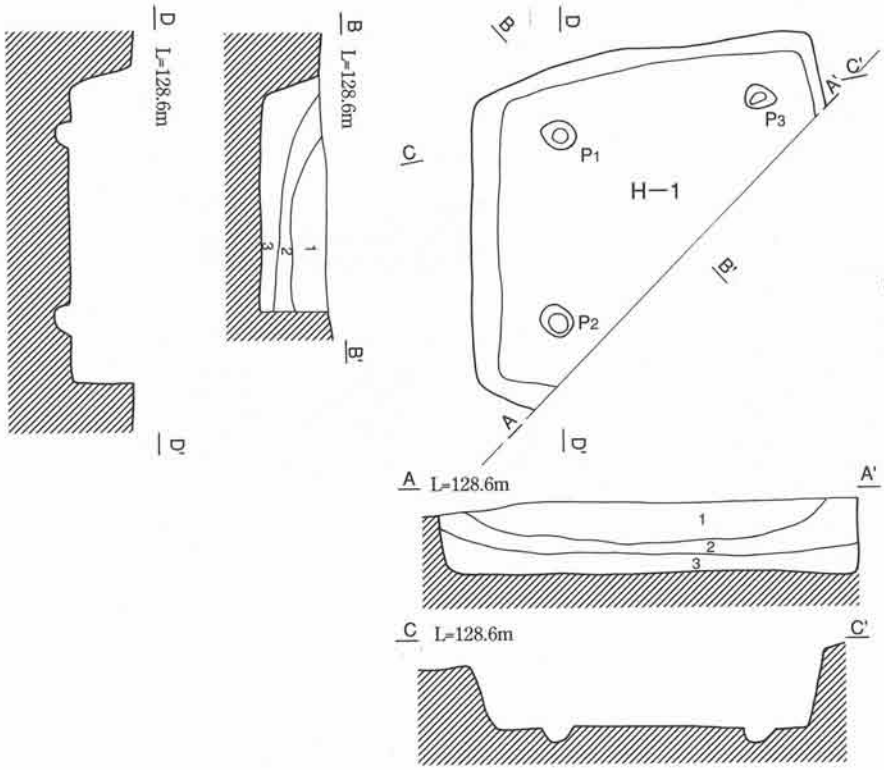
10世紀後半の住居は、北区中央に２軒、南区北側に１軒で、平均住居面積は13.37㎡と10世紀前半と比べて大きくなるが、これはが面積21.84㎡の大きなＨ－10号竪穴住居跡があるためである。Ｈ－10号住居跡を除くと7.34㎡となり、ますます小型化していることが分かる。Ｈ－10号住居跡からは、両袖石で焼土を伴ったひょうたん型の細長い竈が検出され、竈内からは灰釉陶器、土師器、須恵器など多数の遺物が出土した。この住居からは、刻み文字「山」の入った自然釉のかかった長頸壺の頸部、灰釉の壺や長頸壺等様々な器種が出土した。これらから、

多種多様な道具を使って生活するようになったことが窺える。

(2) 中世

本調査区では、４条の溝を検出した。北区北側にあるW－１号溝跡は北隣の五代木福Ⅱ遺跡W－３号溝跡からつながり、本調査区内でW－2号と交差し、五代木福Ⅲ遺跡W－10号溝跡へと続き、さらに再度本調査区内でW－3号溝跡となって出現し、南隣の五代木福Ⅱ遺跡のW－9号溝跡へと続いていく。W－1号溝跡の始まりからW－3号溝跡の終わりまで標高差は120㎝あり、砂層の堆積などから水路として使われていた可能性が高い。同じく北区のW－２号溝跡は東隣の五代木福Ⅱ遺跡のW－７号溝跡からつながり、調査区内でW－１号溝跡と交差し、西隣の五代木福Ⅲ遺跡W－９号溝跡へと続いていく。平安時代以降の区画として使われていた溝ととらえる。南区のW－４号溝跡は、東隣の五代木福Ⅱ遺跡W－12号溝跡と西隣の五代木福Ⅲ遺跡W－３号溝跡とつながり、W－2号溝跡と同様に、平安時代以降の区画として使われていたものととらえる。

Ｄ－２号土坑は地下式坑であり、角張ったひょうたん状の形をしている。120㎝ほどの長さの入口を南側に持ち、主室に向かって階段状になっている。ロームブロックやローム粒を含む暗褐色、黒褐色、褐色土が埋まっていた。遺物も土師器片、須恵器片等185点出土した。用途は不明であるが、時期は中世頃と考えられる。類例として本土坑より約180ｍ南の五代木福Ⅳ遺跡のＡ－１・２地下式土坑がある。

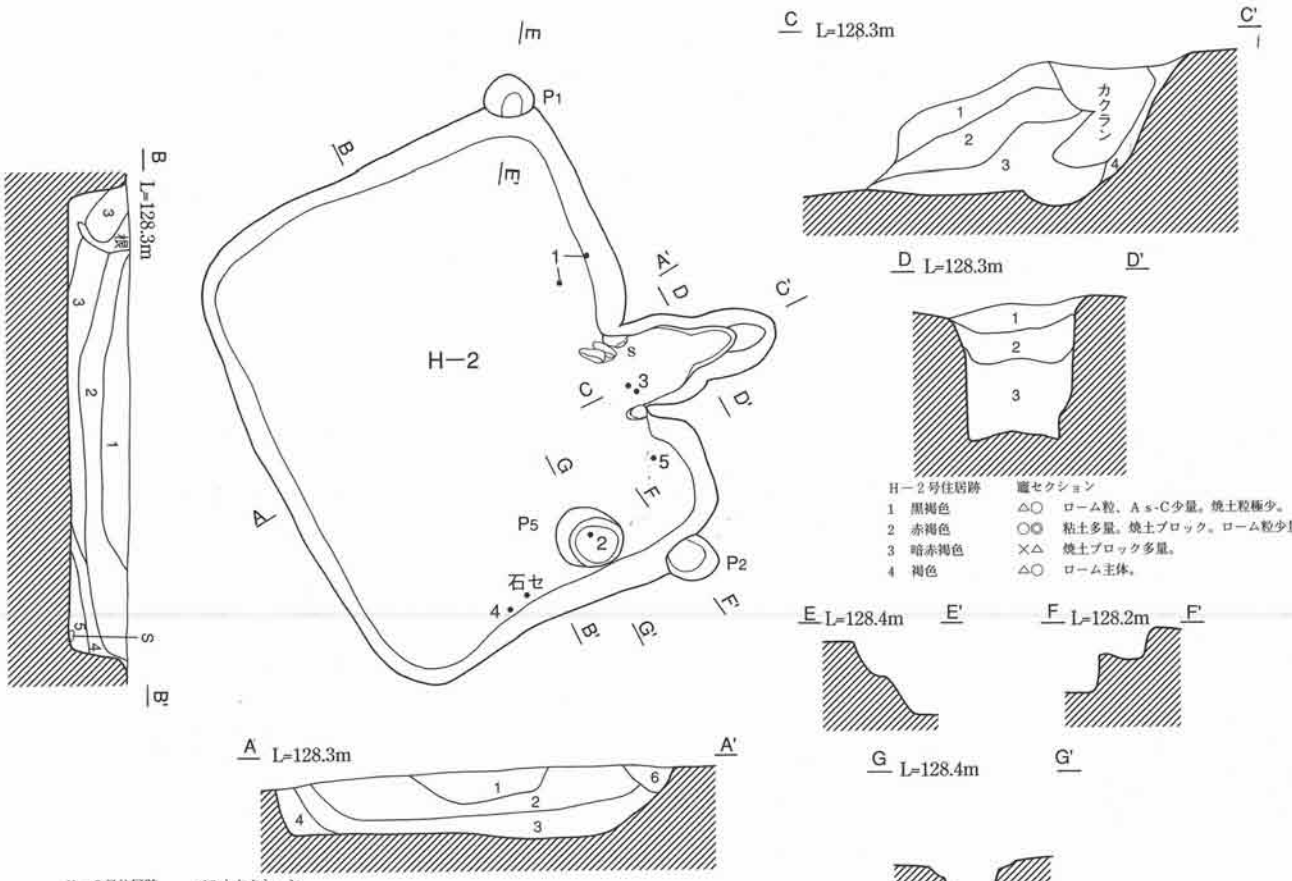


H−1号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色	△○　As-C、Hr-FA。
2	暗褐色	○○　ローム粒、As-C少量。ロームブロック極少。
3	にぶい黄褐色	○○　As-C、ロームブロック少量。

H−1号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	楕円形	30	20	11	
P_2	円　形	30	28	14	
P_3	楕円形	28	18	12	



H−2号住居跡　竈セクション

1	黒褐色	△○　ローム粒、As-C少量。焼土粒極少。
2	赤褐色	○◎　粘土多量。焼土ブロック。ローム粒少量。
3	暗赤褐色	×△　焼土ブロック多量。
4	褐色	△○　ローム主体。

H−2号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色	○×　ローム粒、As-C、Hr-FA。
2	暗褐色	○○　ローム粒、As-C、Hr-FA。ロームブロック少量。
3	暗褐色	○○　ロームブロック、As-C、Hr-FA少量。
4	灰黄褐色	××　ロームブロック少量。
5	黒褐色	△△　ローム粒。
6	黒褐色	○△　ローム粒、Hr-FA。

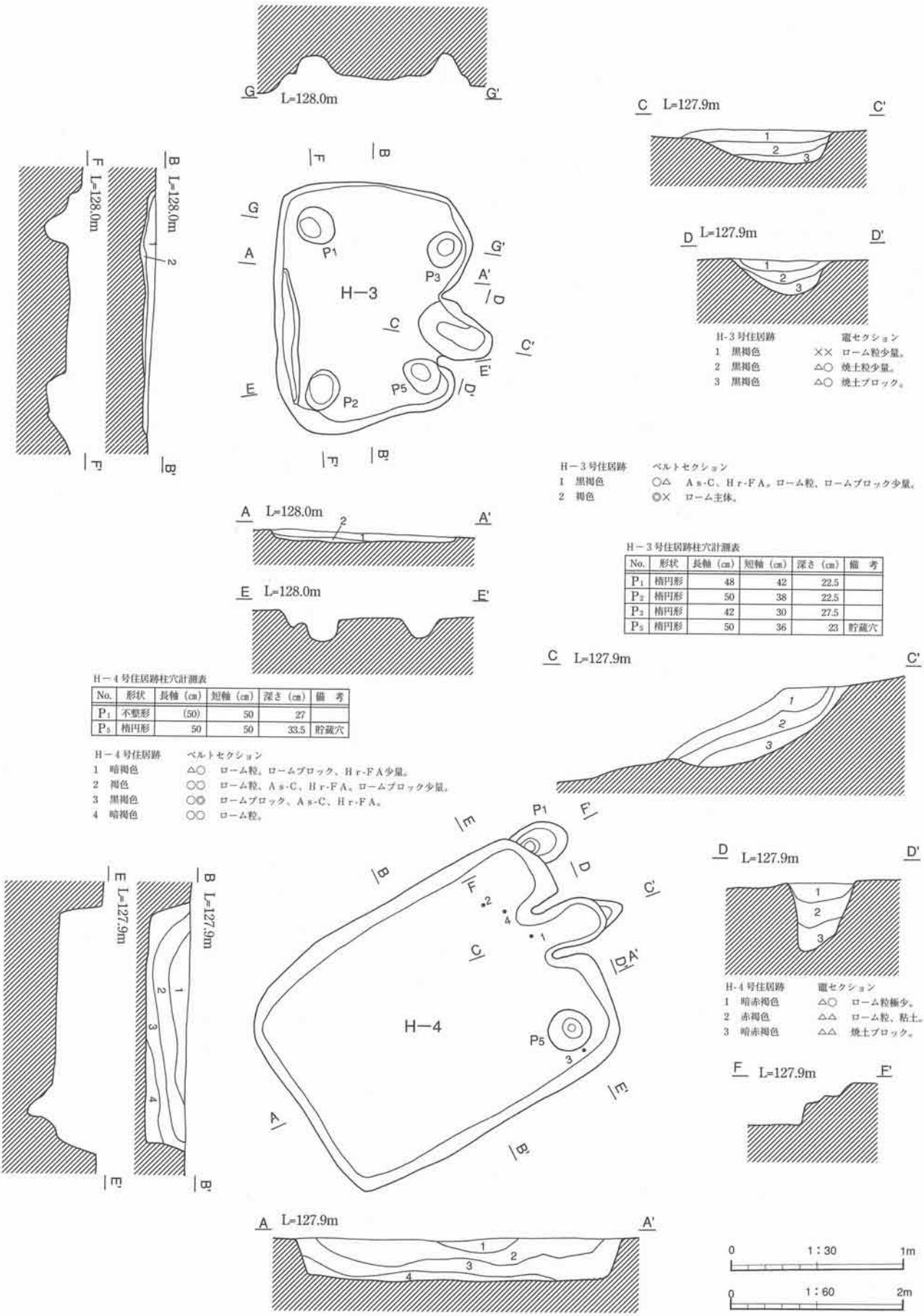
H−2号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	円　形	40	38	24	
P_2	楕円形	40	32	28	
P_5	楕円形	54	48	34.5	貯蔵穴

0　1：30　1m

0　1：60　2m

Fig. 4　H−1・2号住居跡



H－3号住居跡柱穴計測表

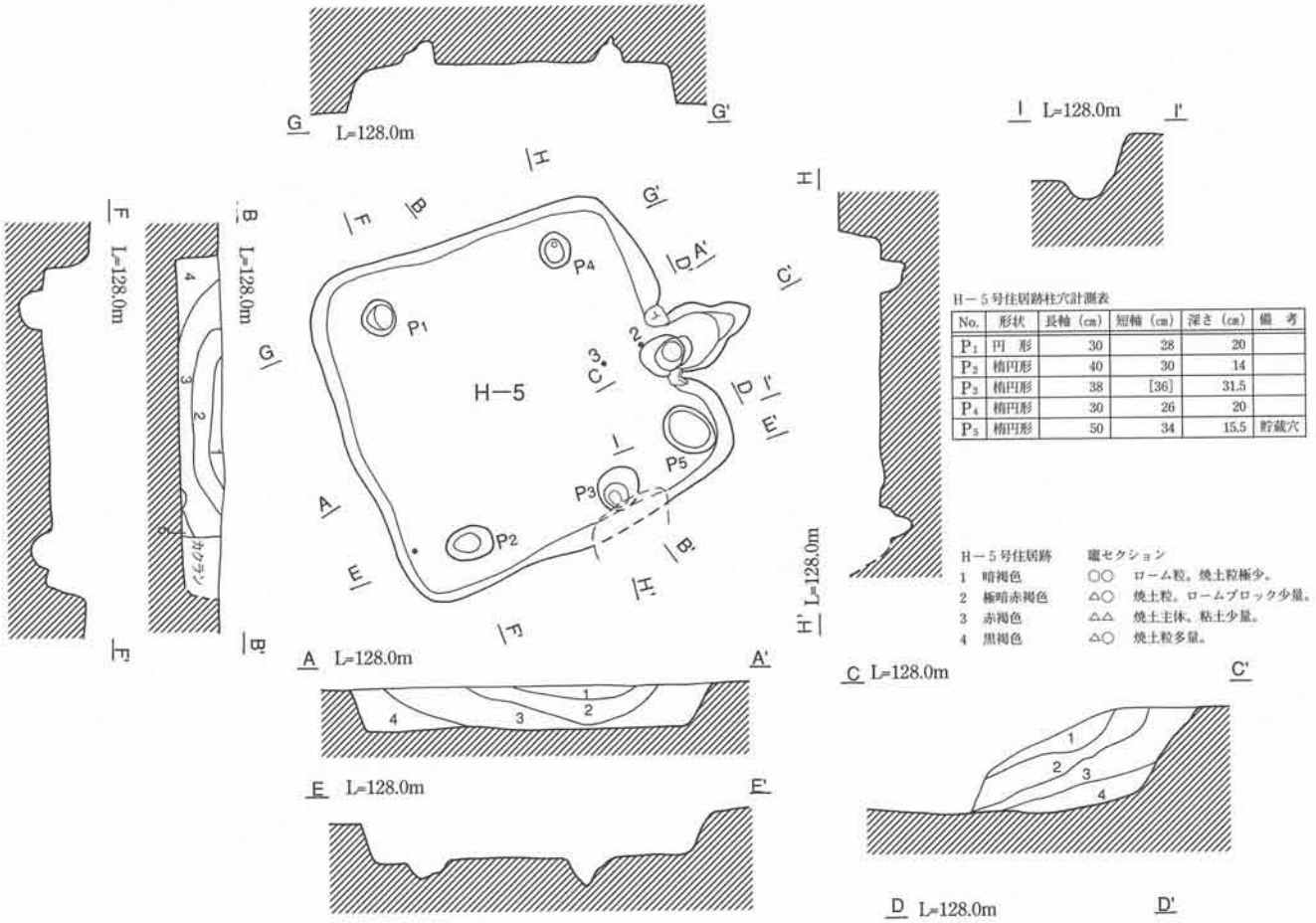
No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	楕円形	48	42	22.5	
P2	楕円形	50	38	22.5	
P3	楕円形	42	30	27.5	
P5	楕円形	50	36	23	貯蔵穴

H－4号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	不整形	(50)	50	27	
P5	楕円形	50	50	33.5	貯蔵穴

H－4号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐色　△○　ローム粒。ロームブロック、Hr-FA少量。
2　褐色　○○　ローム粒、As-C、Hr-FA。ロームブロック少量。
3　黒褐色　○◎　ロームブロック、As-C、Hr-FA。
4　暗褐色　○○　ローム粒。

Fig. 5　H－3・4号住居跡

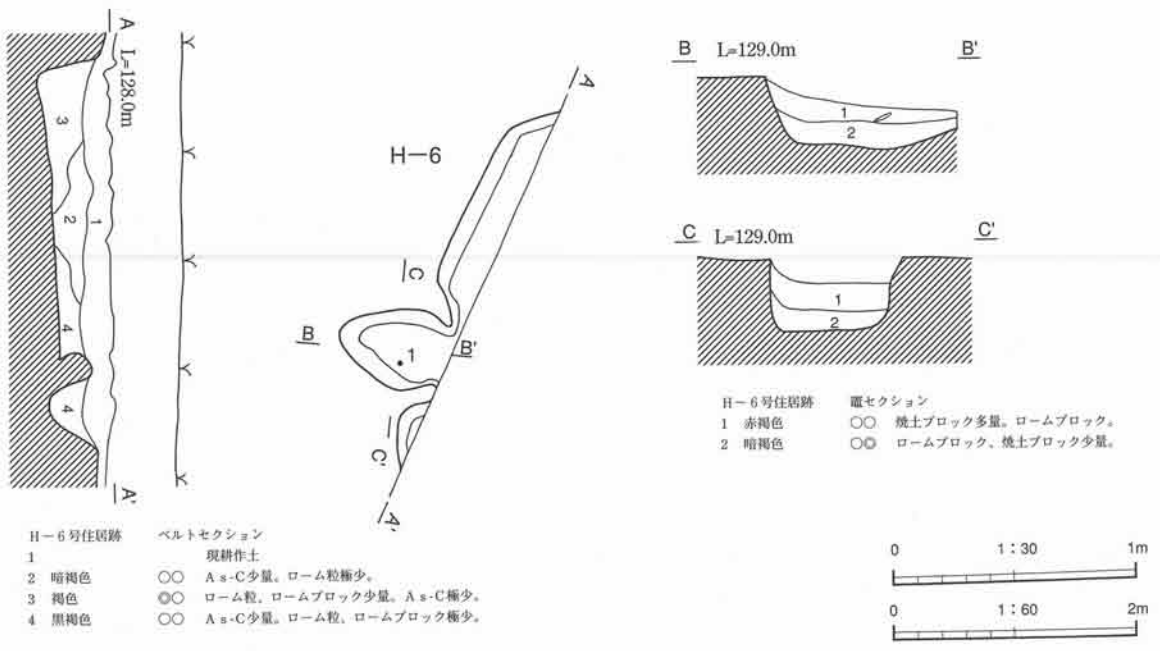


H－5号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	円　形	30	28	20	
P2	楕円形	40	30	14	
P3	楕円形	38	[36]	31.5	
P4	楕円形	30	26	20	
P5	楕円形	50	34	15.5	貯蔵穴

H－5号住居跡　　竈セクション
1　暗褐色　　○○　ローム粒。焼土粒極少。
2　極暗赤褐色　　△○　焼土粒。ロームブロック少量。
3　赤褐色　　△△　焼土主体。粘土少量。
4　黒褐色　　△○　焼土粒多量。

H－5号住居跡　　ベルトセクション
1　黒褐色　　△△　ローム粒、As-C、Hr-FA少量。
2　黒褐色　　○○　ローム粒、As-C、Hr-FA。ロームブロック少量。
3　暗褐色　　○○　ローム粒、ロームブロック、As-C。Hr-FA少量。
4　暗褐色　　×△　ローム粒、ロームブロック、As-C少量。
5　黒褐色　　◎○　As-C、Hr-FA。ローム粒少量。

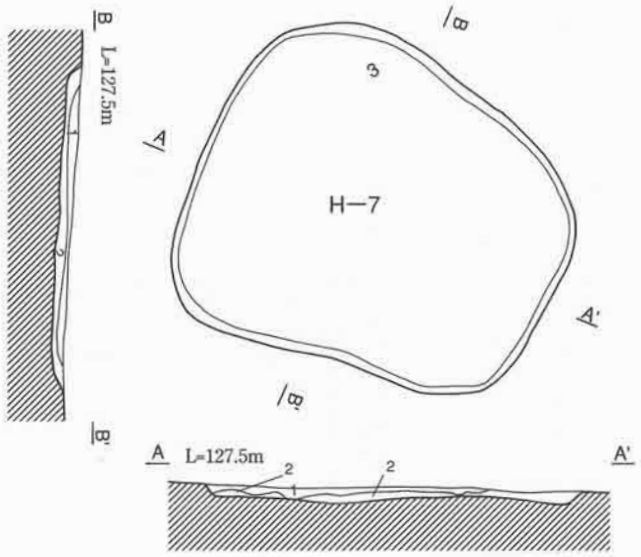


H－6号住居跡　　竈セクション
1　赤褐色　　○○　焼土ブロック多量。ロームブロック。
2　暗褐色　　○◎　ロームブロック、焼土ブロック少量。

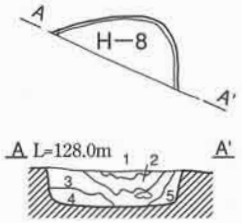
H－6号住居跡　　ベルトセクション
1　　現耕作土
2　暗褐色　　○○　As-C少量。ローム粒極少。
3　褐色　　◎○　ローム粒、ロームブロック少量。As-C極少。
4　黒褐色　　○○　As-C少量。ローム粒、ロームブロック極少。

0　1：30　1m
0　1：60　2m

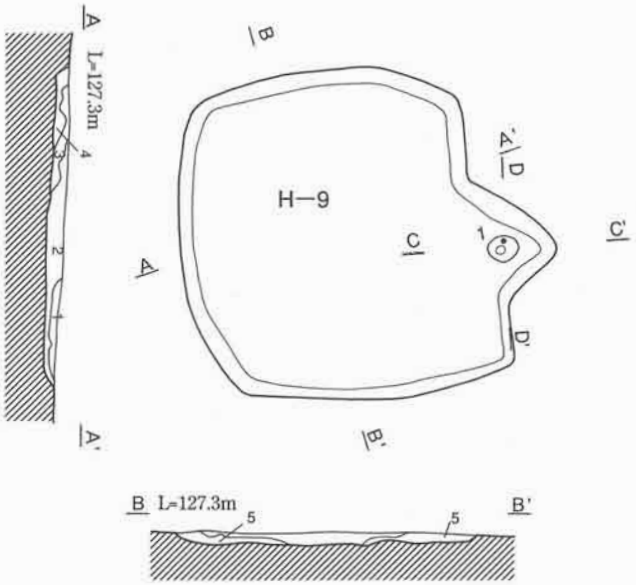
Fig. 6　H－5・6号住居跡



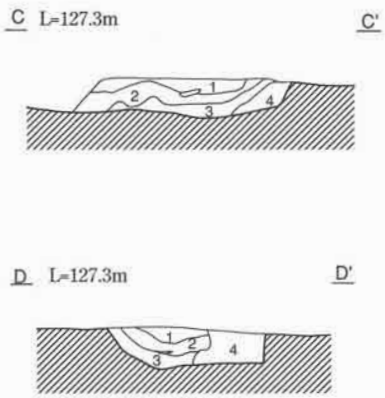
H-7号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐色　○△　ローム粒。
2　褐色　△△　ローム主体。



H－8号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐色　○△　ローム粒少量。
2　黒褐色　○○　ローム粒、As-C。ロームブロック少量。
3　黒褐色　○○　ローム粒。As-C、ロームブロック少量。
4　黒褐色　○○　ローム粒極少。
5　黒褐色　○○　ローム粒、As-C極少。



H－9号住居跡　ベルトセクション
1　黒色　△△　ローム粒極少。
2　黒褐色　△△　ローム粒、ロームブロック、Hr-FA極少。
3　黒褐色　○△　ローム粒、ロームブロック極少。
4　褐色　○○
5　褐色　○○　ロームブロック極少。



H－9号住居跡　竈セクション
1　暗褐色　△△　ローム粒少量。ロームブロック、焼土粒極少。
2　暗褐色　○△　ローム粒少量。ロームブロック、焼土粒極少。
3　褐色　○○
4　黄褐色　◎○

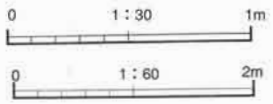
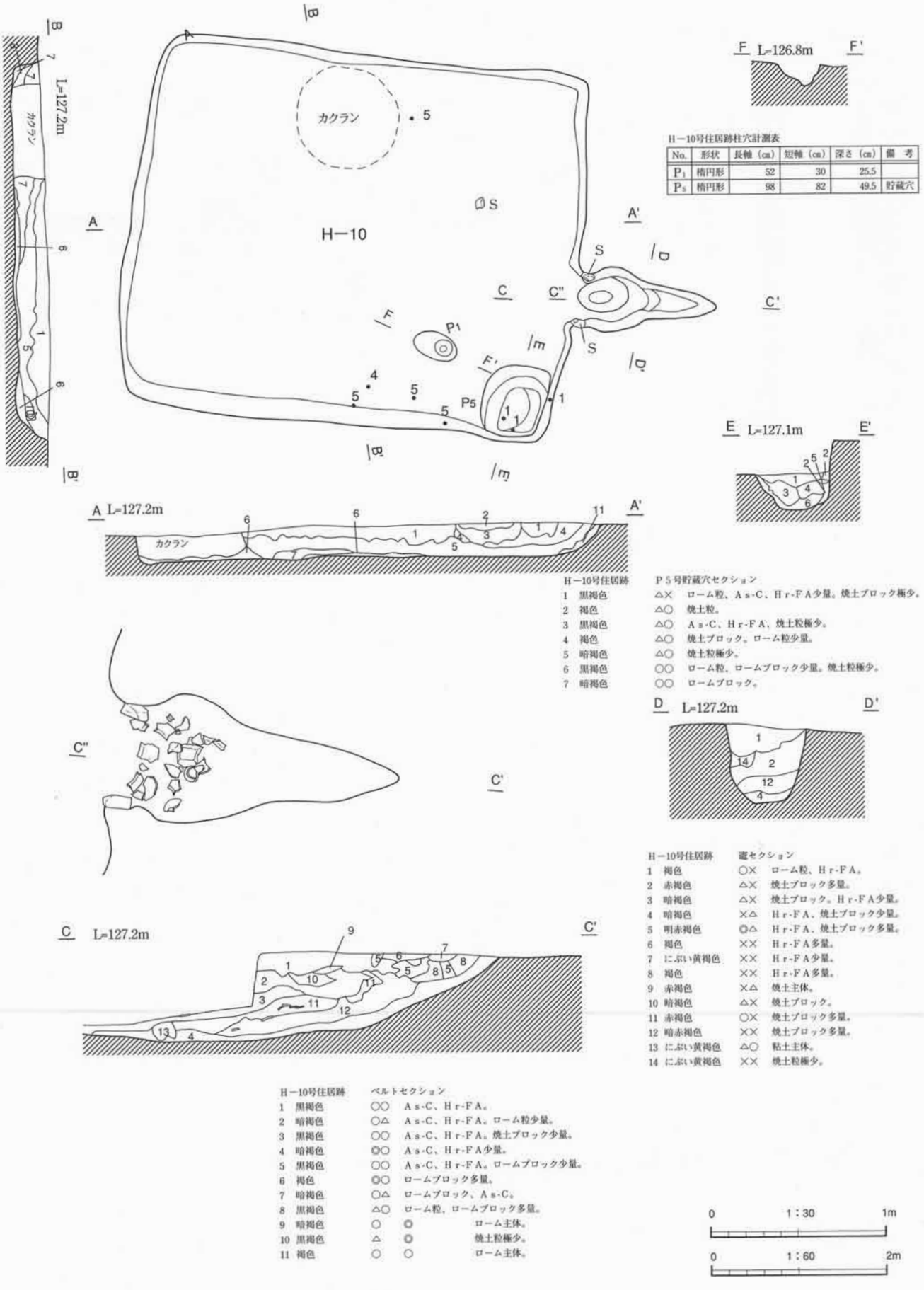


Fig. 7　H 7～9号住居跡



H−10号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	楕円形	52	30	25.5	
P_5	楕円形	98	82	49.5	貯蔵穴

H−10号住居跡

1	黒褐色	
2	褐色	
3	黒褐色	
4	褐色	
5	暗褐色	
6	黒褐色	
7	暗褐色	

P５号貯蔵穴セクション

△×	ローム粒、Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ少量。焼土ブロック極少。
△○	焼土粒。
△○	Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ、焼土粒極少。
△○	焼土ブロック。ローム粒少量。
△○	焼土粒極少。
○○	ローム粒、ロームブロック少量。焼土粒極少。
○○	ロームブロック。

H−10号住居跡　竈セクション

1	褐色	○× ローム粒、Ｈｒ-ＦＡ。
2	赤褐色	△× 焼土ブロック多量。
3	暗褐色	△× 焼土ブロック。Ｈｒ-ＦＡ少量。
4	暗褐色	×△ Ｈｒ-ＦＡ、焼土ブロック少量。
5	明赤褐色	◎△ Ｈｒ-ＦＡ、焼土ブロック多量。
6	褐色	×× Ｈｒ-ＦＡ多量。
7	にぶい黄褐色	×× Ｈｒ-ＦＡ少量。
8	褐色	×× Ｈｒ-ＦＡ多量。
9	赤褐色	×△ 焼土主体。
10	暗褐色	△× 焼土ブロック。
11	赤褐色	○× 焼土ブロック多量。
12	暗赤褐色	×× 焼土ブロック多量。
13	にぶい黄褐色	△○ 粘土主体。
14	にぶい黄褐色	×× 焼土粒極少。

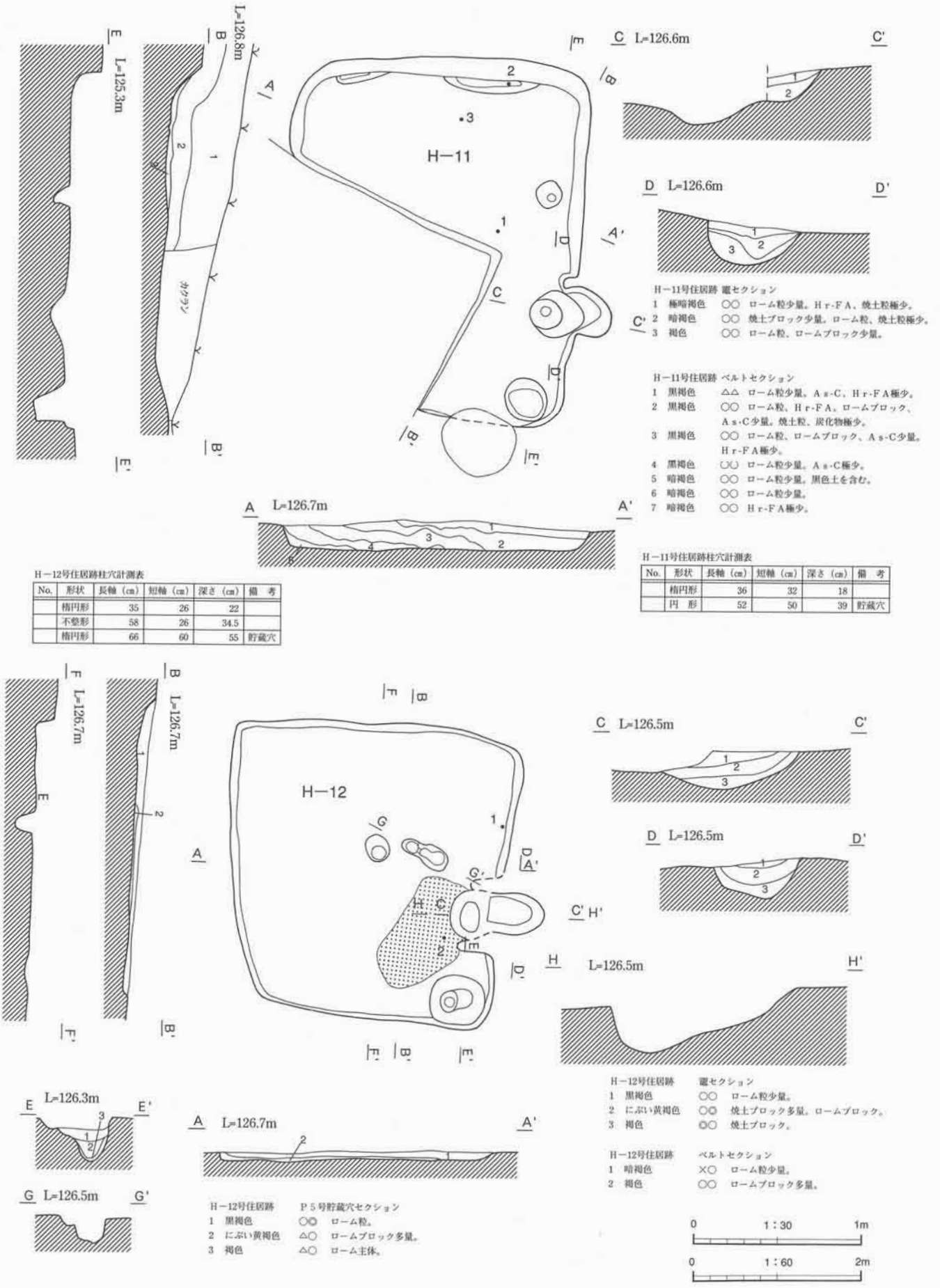
H−10号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色	○○	Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ。
2	暗褐色	○△	Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ。ローム粒少量。
3	黒褐色	○○	Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ。焼土ブロック少量。
4	暗褐色	◎○	Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ少量。
5	黒褐色	○○	Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ。ロームブロック少量。
6	褐色	◎○	ロームブロック多量。
7	暗褐色	○△	ロームブロック、Ａｓ-Ｃ。
8	黒褐色	△○	ローム粒、ロームブロック多量。
9	暗褐色	○ ◎	ローム主体。
10	黒褐色	△ ◎	焼土粒極少。
11	褐色	○ ○	ローム主体。

0　1：30　1m

0　1：60　2m

Fig.8　Ｈ−10号住居跡



H−11号住居跡 竈セクション
1 極暗褐色 ○○ ローム粒少量。Hr-FA、焼土粒極少。
2 暗褐色 ○○ 焼土ブロック少量。ローム粒、焼土粒極少。
3 褐色 ○○ ローム粒、ロームブロック少量。

H−11号住居跡 ベルトセクション
1 黒褐色 △△ ローム粒少量。As-C、Hr-FA極少。
2 黒褐色 ○○ ローム粒、Hr-FA、ロームブロック、As-C少量。焼土粒、炭化物極少。
3 黒褐色 ○○ ローム粒、ロームブロック、As-C少量。Hr-FA極少。
4 黒褐色 ○○ ローム粒少量。As-C極少。
5 暗褐色 ○○ ローム粒少量。黒色土を含む。
6 暗褐色 ○○ ローム粒少量。
7 暗褐色 ○○ Hr-FA極少。

H−12号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備 考
	楕円形	35	26	22	
	不整形	58	26	34.5	
	楕円形	66	60	55	貯蔵穴

H−11号住居跡柱穴計測表

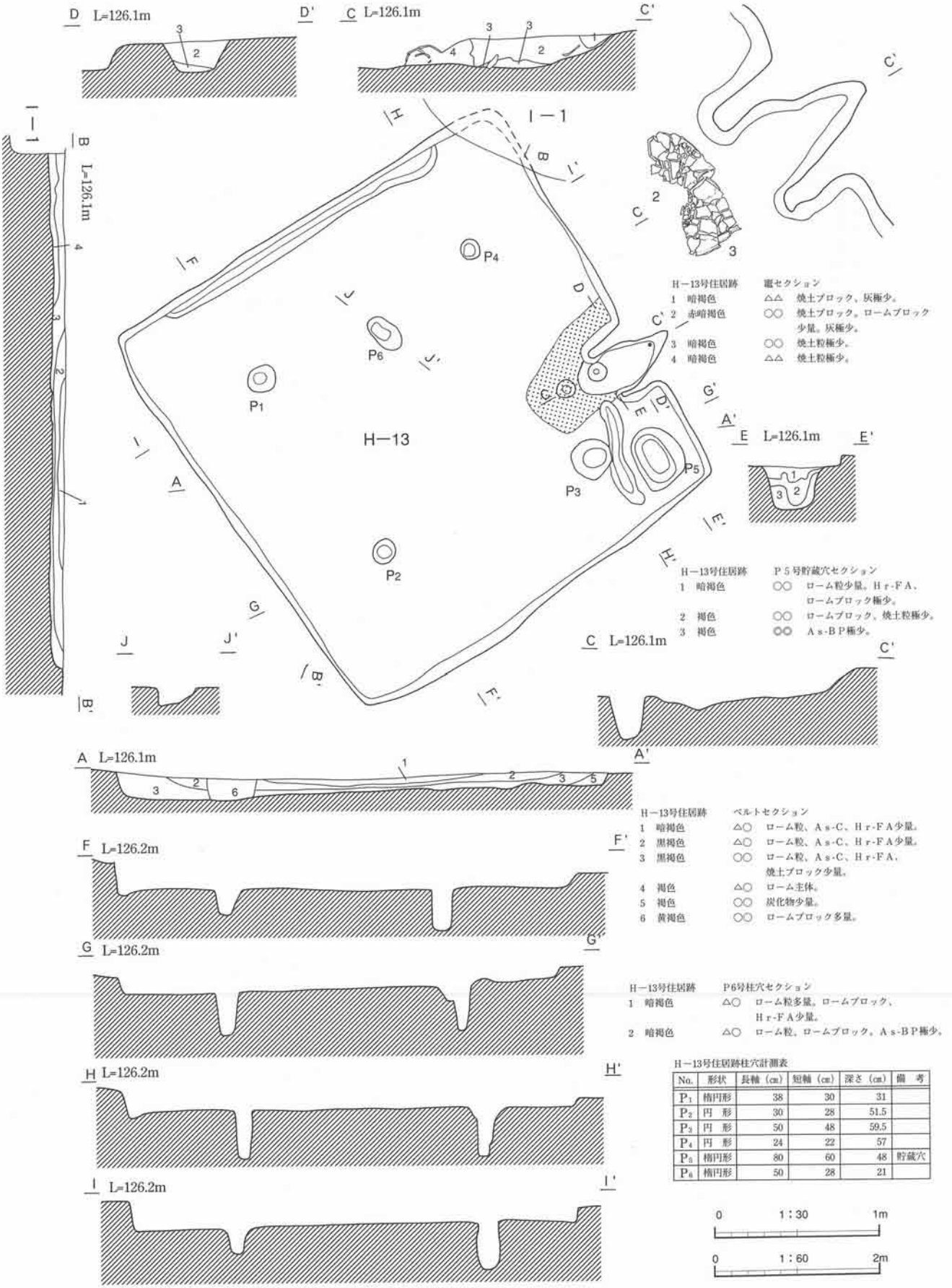
No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備 考
	楕円形	36	32	18	
	円 形	52	50	39	貯蔵穴

H−12号住居跡 竈セクション
1 黒褐色 ○○ ローム粒少量。
2 にぶい黄褐色 ○○ 焼土ブロック多量。ロームブロック。
3 褐色 ◎○ 焼土ブロック。

H−12号住居跡 ベルトセクション
1 暗褐色 ×○ ローム粒少量。
2 褐色 ○○ ロームブロック多量。

H−12号住居跡 P5号貯蔵穴セクション
1 黒褐色 ○◎ ローム粒。
2 にぶい黄褐色 △○ ロームブロック多量。
3 褐色 △○ ローム主体。

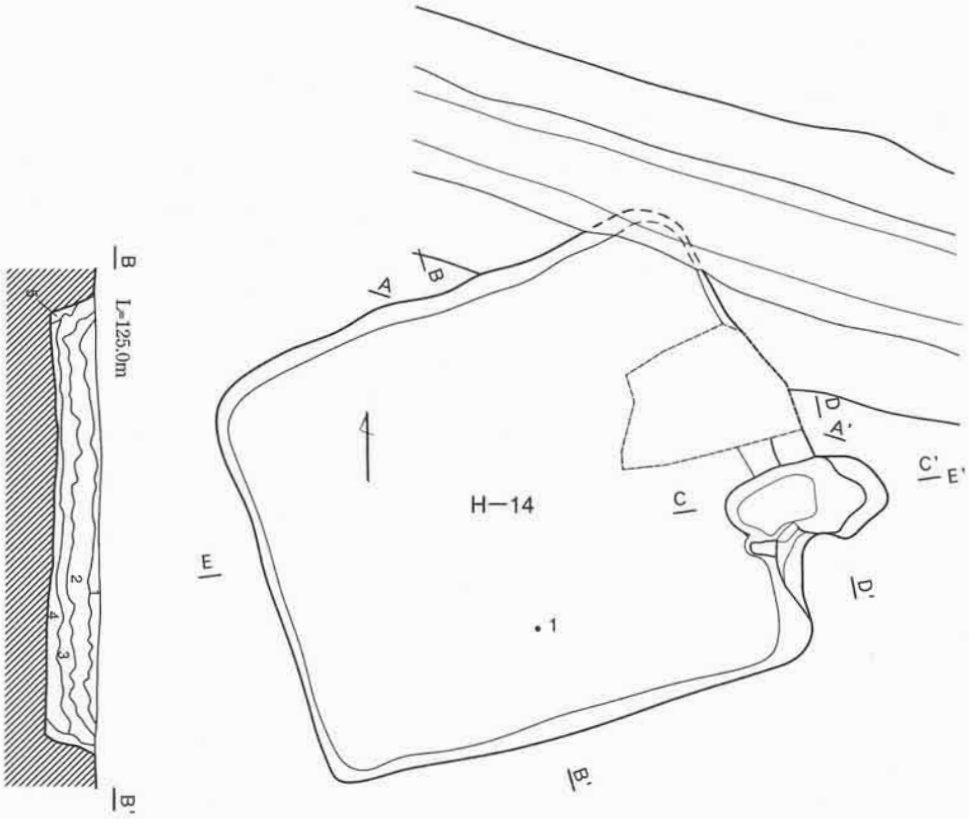
Fig. 9 H−11・12号 住居跡

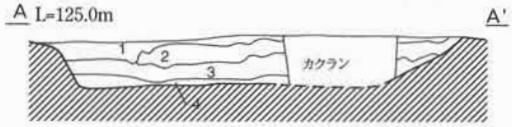


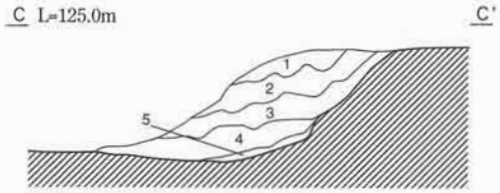
H−13号住居跡柱穴計測表

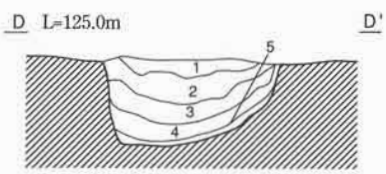
No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	楕円形	38	30	31	
P2	円　形	30	28	51.5	
P3	円　形	50	48	59.5	
P4	円　形	24	22	57	
P5	楕円形	80	60	48	貯蔵穴
P6	楕円形	50	28	21	

Fig.10　H−13号住居跡









H−14号住居跡	ベルトセクション	
1	暗褐色	△× ローム粒、As-C、Hr-FA少量。
2	暗褐色	△× As-C、ローム粒、Hr-FA少量。ロームブロック極少。
3	暗褐色	○△ ローム粒。As-C少量。Hr-FA極少。
4	暗褐色	○△ ローム粒。ロームブロック、As-C少量。
5	褐色	○○ ローム主体。
6	暗褐色	○○ ローム主体。

H-14号住居跡	竈セクション	
1	暗褐色	○× ローム粒、Hr-FA少量。
2	暗褐色	○△ ローム粒、As-C、Hr-FA少量。ロームブロック、灰極少。
3	暗褐色	○○ ロームブロック多量。ローム粒。As-C少量。焼土粒極少。
4	暗褐色	△△ ローム粒、ロームブロック少量。焼土粒極少。
5	暗褐色	△○ ロームブロック極少。

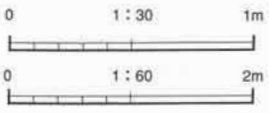
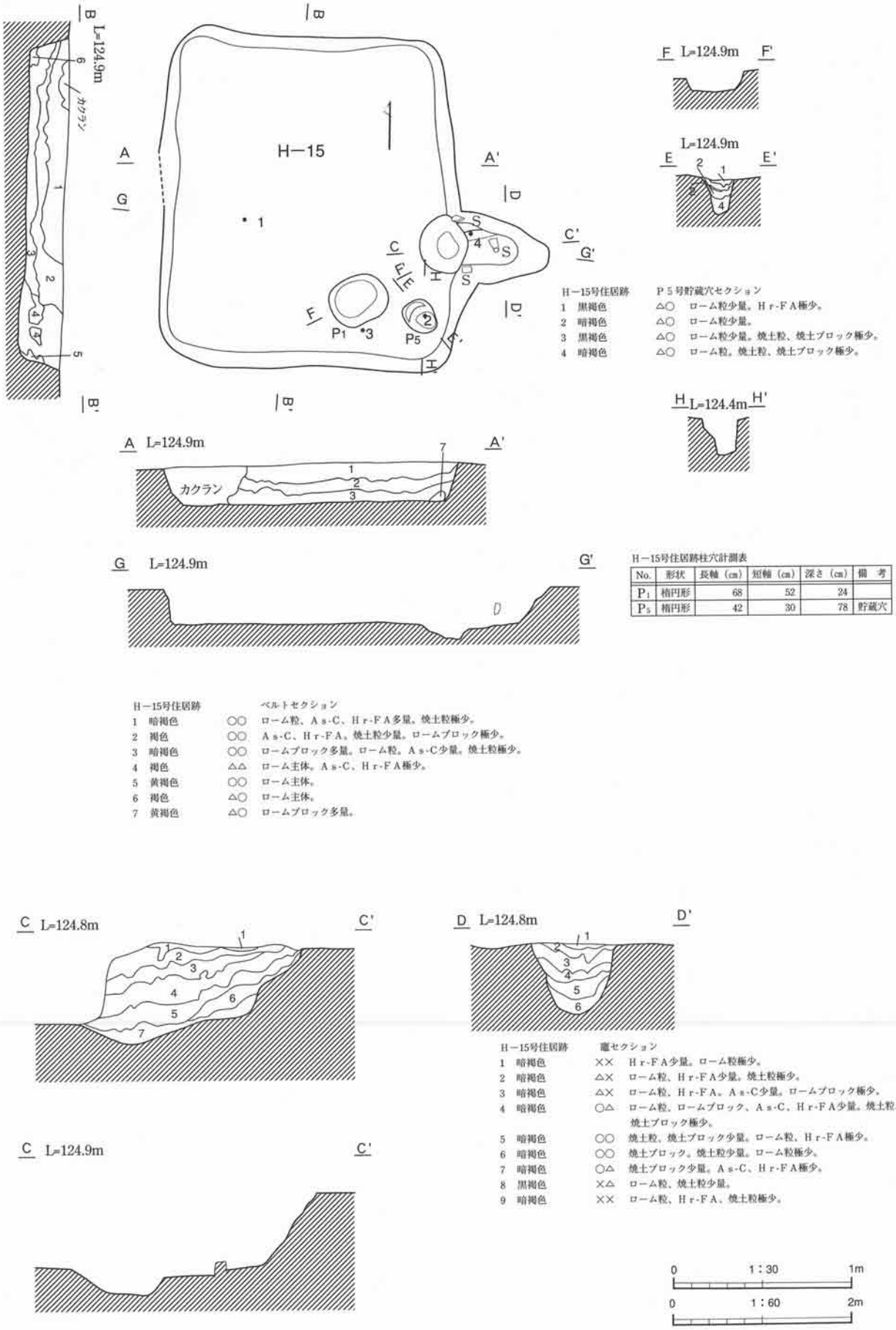


Fig. 11 H−14号 住居跡



H−15号住居跡　P5号貯蔵穴セクション

1	黒褐色	△○	ローム粒少量。Hr-FA極少。
2	暗褐色	△○	ローム粒少量。
3	黒褐色	△○	ローム粒少量。焼土粒、焼土ブロック極少。
4	暗褐色	△○	ローム粒。焼土粒、焼土ブロック極少。

H−15号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	楕円形	68	52	24	
P_5	楕円形	42	30	78	貯蔵穴

H−15号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色	○○	ローム粒、As-C、Hr-FA多量。焼土粒極少。
2	褐色	○○	As-C、Hr-FA。焼土粒少量。ロームブロック極少。
3	暗褐色	○○	ロームブロック多量。ローム粒。As-C少量。焼土粒極少。
4	褐色	△△	ローム主体。As-C、Hr-FA極少。
5	黄褐色	○○	ローム主体。
6	褐色	△○	ローム主体。
7	黄褐色	△○	ロームブロック多量。

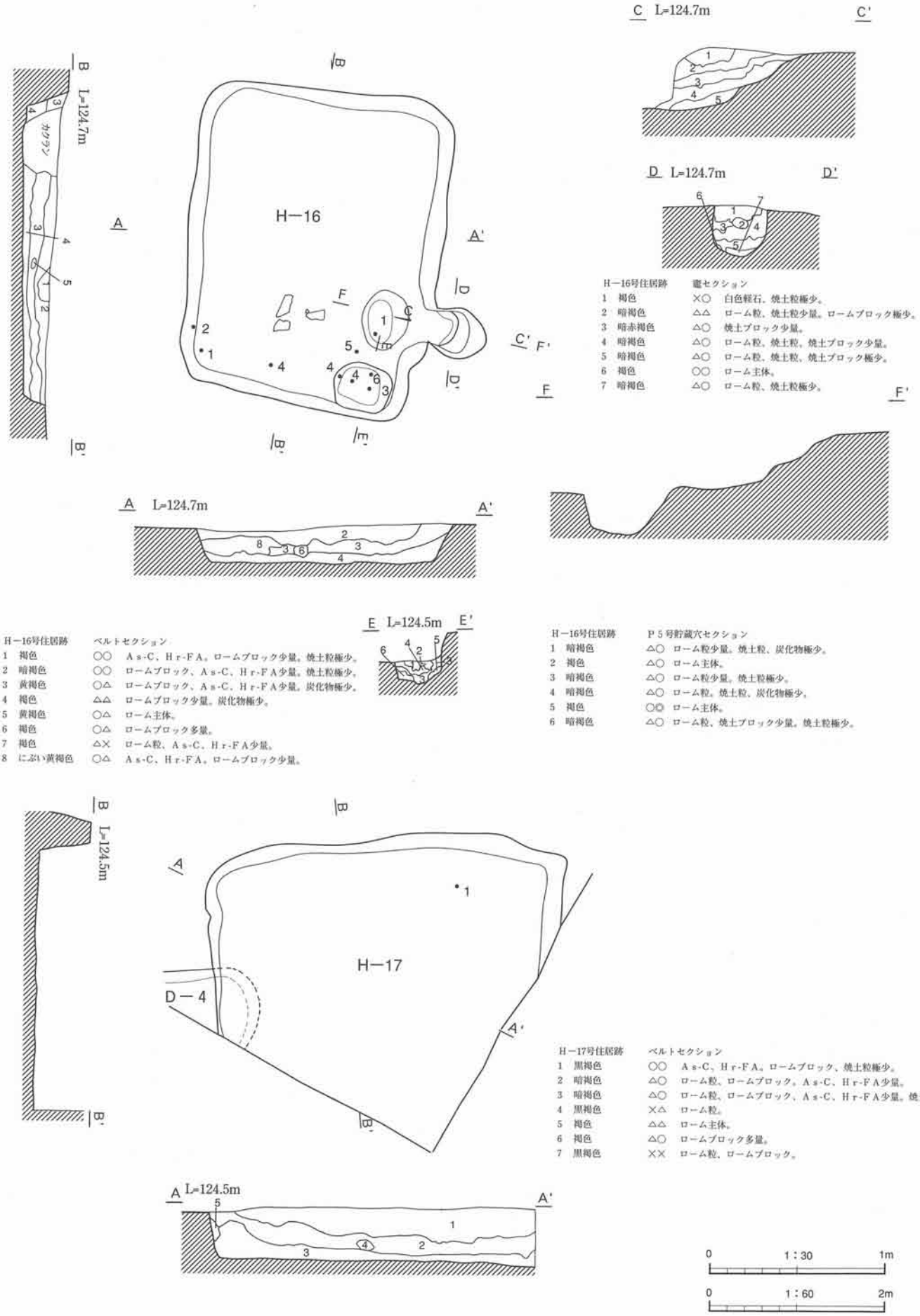
H−15号住居跡　竈セクション

1	暗褐色	××	Hr-FA少量。ローム粒極少。
2	暗褐色	△×	ローム粒、Hr-FA少量。焼土粒極少。
3	暗褐色	△×	ローム粒、Hr-FA。As-C少量。ロームブロック極少。
4	暗褐色	○△	ローム粒、ロームブロック、As-C、Hr-FA少量。焼土粒、焼土ブロック極少。
5	暗褐色	○○	焼土粒、焼土ブロック少量。ローム粒、Hr-FA極少。
6	暗褐色	○○	焼土ブロック。焼土粒少量。ローム粒極少。
7	暗褐色	○△	焼土ブロック少量。As-C、Hr-FA極少。
8	黒褐色	×△	ローム粒、焼土粒少量。
9	暗褐色	××	ローム粒、Hr-FA、焼土粒極少。

0　1：30　1m

0　1：60　2m

Fig. 12　H−15号住居跡



H−16号住居跡　竈セクション

1	褐色	×○	白色軽石、焼土粒極少。
2	暗褐色	△△	ローム粒、焼土粒少量。ロームブロック極少。
3	暗赤褐色	△○	焼土ブロック少量。
4	暗褐色	△○	ローム粒、焼土粒、焼土ブロック少量。
5	暗褐色	△○	ローム粒、焼土粒、焼土ブロック極少。
6	褐色	○○	ローム主体。
7	暗褐色	△○	ローム粒、焼土粒極少。

H−16号住居跡　ベルトセクション

1	褐色	○○	As-C、Hr-FA。ロームブロック少量。焼土粒極少。
2	暗褐色	○○	ロームブロック、As-C、Hr-FA少量。焼土粒極少。
3	黄褐色	○△	ロームブロック、As-C、Hr-FA少量。炭化物極少。
4	褐色	△△	ロームブロック少量。炭化物極少。
5	黄褐色	○△	ローム主体。
6	褐色	○△	ロームブロック多量。
7	褐色	△×	ローム粒、As-C、Hr-FA少量。
8	にぶい黄褐色	○△	As-C、Hr-FA。ロームブロック少量。

H−16号住居跡　P5号貯蔵穴セクション

1	暗褐色	△○	ローム粒少量。焼土粒、炭化物極少。
2	褐色	△○	ローム主体。
3	暗褐色	△○	ローム粒少量。焼土粒極少。
4	暗褐色	△○	ローム粒。焼土粒、炭化物極少。
5	褐色	○◎	ローム主体。
6	暗褐色	△○	ローム粒、焼土ブロック少量。焼土粒極少。

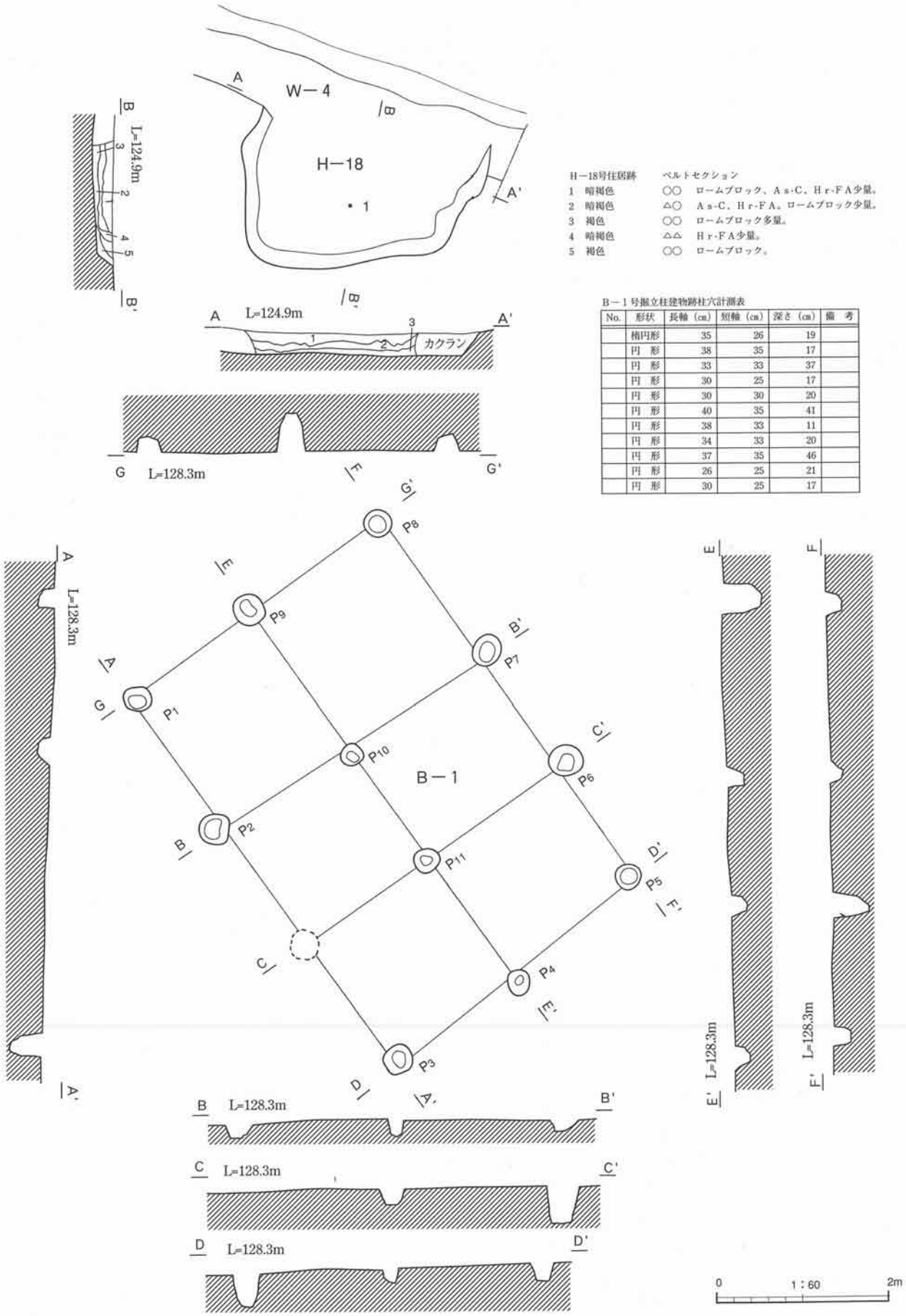
H−17号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色	○○	As-C、Hr-FA。ロームブロック、焼土粒極少。
2	暗褐色	△○	ローム粒、ロームブロック。As-C、Hr-FA少量。
3	暗褐色	△○	ローム粒、ロームブロック、As-C、Hr-FA少量。焼土粒極少。
4	黒褐色	×△	ローム粒。
5	褐色	△△	ローム主体。
6	褐色	△○	ロームブロック多量。
7	黒褐色	××	ローム粒、ロームブロック。

0　1：30　1m

0　1：60　2m

Fig. 13　H−16・17号 住居跡



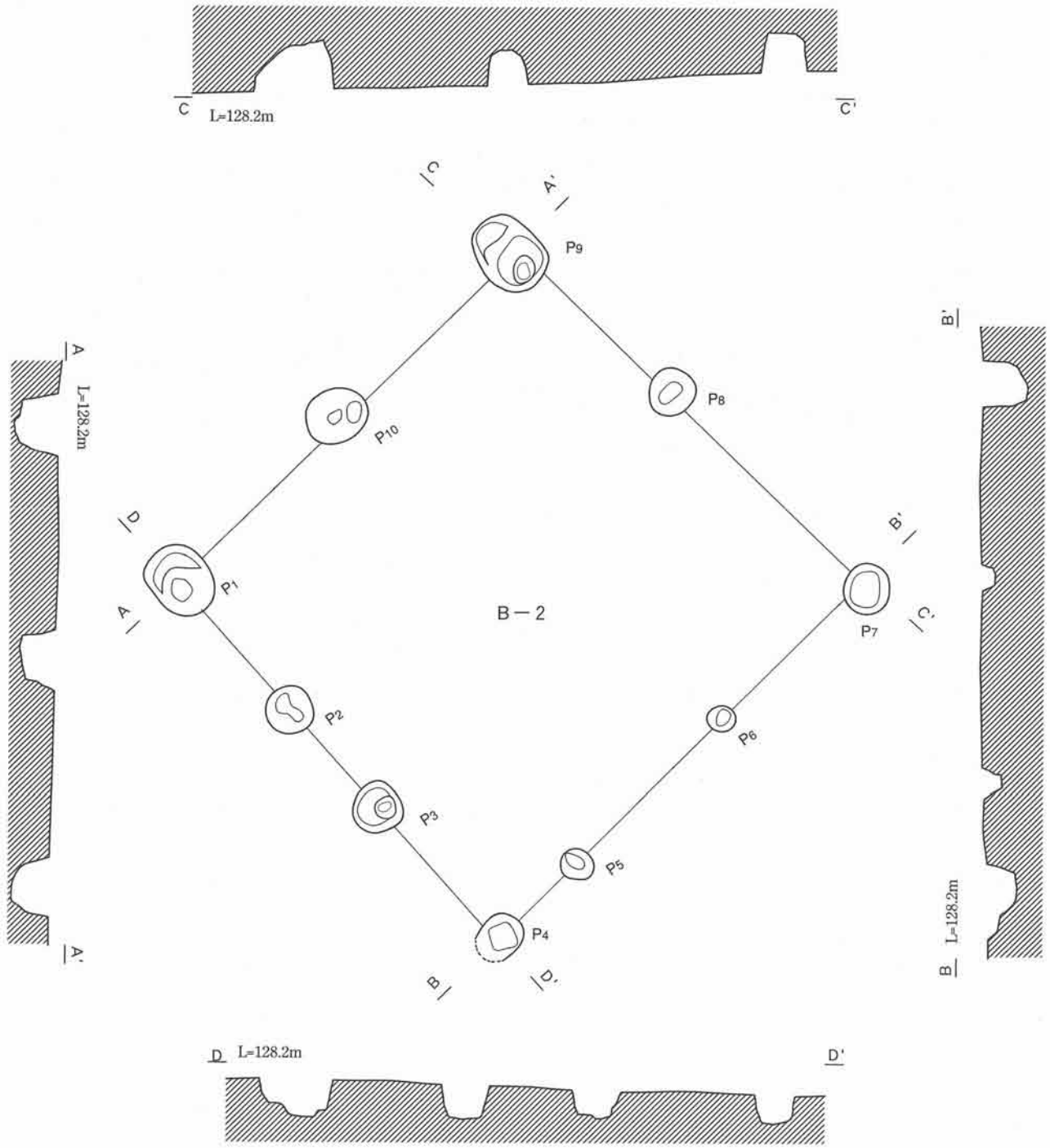
H－18号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色	○○　ロームブロック、As-C、Hr-FA少量。
2	暗褐色	△○　As-C、Hr-FA。ロームブロック少量。
3	褐色	○○　ロームブロック多量。
4	暗褐色	△△　Hr-FA少量。
5	褐色	○○　ロームブロック。

B－1号掘立柱建物跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
	楕円形	35	26	19	
	円　形	38	35	17	
	円　形	33	33	37	
	円　形	30	25	17	
	円　形	30	30	20	
	円　形	40	35	41	
	円　形	38	33	11	
	円　形	34	33	20	
	円　形	37	35	46	
	円　形	26	25	21	
	円　形	30	25	17	

Fig. 14　H－18号住居跡、B－1号掘立柱建物跡



B－2号掘立柱建物跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	楕円形	77	60	38	
P_2	円　形	50	47	35	
P_3	円　形	52	50	31	
P_4	楕円形	[52]	42	31	
P_5	円　形	35	30	24	
P_6	円　形	30	26	15	
P_7	楕円形	53	46	41	
P_8	円　形	50	47	36	
P_9	楕円形	83	65	48	
P_{10}	楕円形	64	54	37	

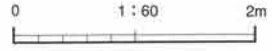
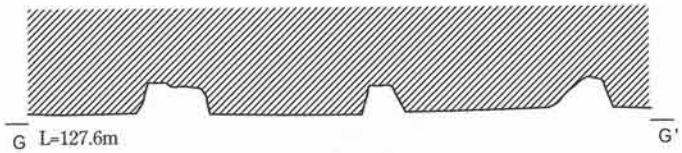
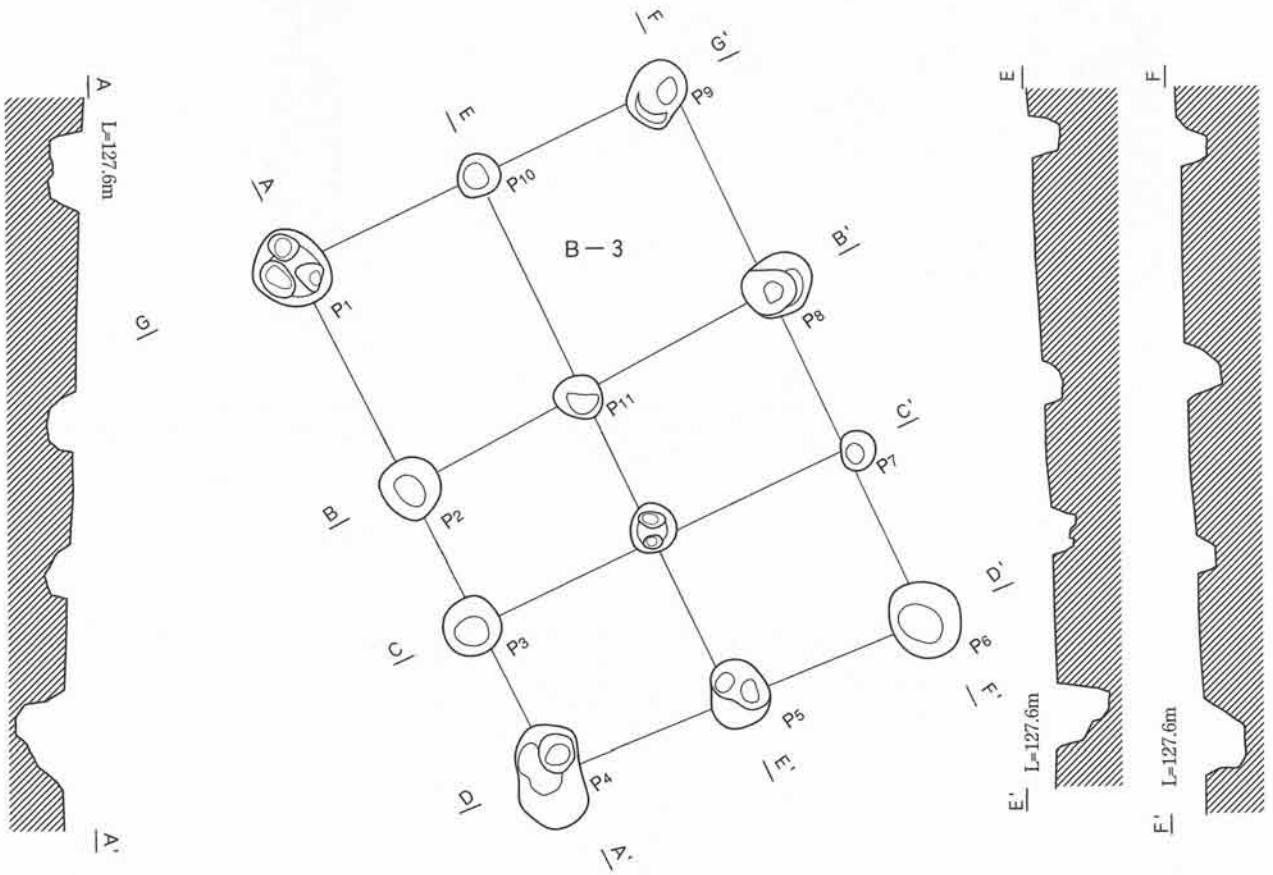
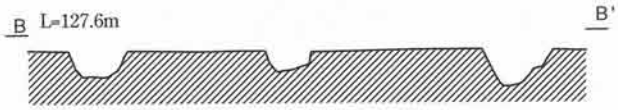
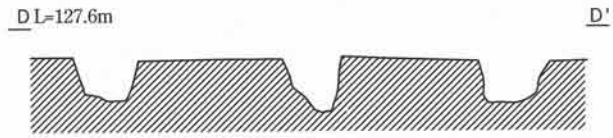


Fig.15　B－2号 掘立柱建物跡









B－3号掘立柱建物跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	楕円形	68	58	38	
P_2	楕円形	53	47	22	
P_3	円　形	48	47	20	
P_4	楕円形	88	52	41	
P_5	楕円形	58	45	44	
P_6	円　形	65	60	34	
P_7	円　形	33	29	17	
P_8	楕円形	60	50	30	
P_9	楕円形	56	43	26	
P_{10}	円　形	38	33	25	
P_{11}	円　形	40	35	18	
P_{12}	円　形	42	38	23	

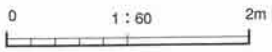
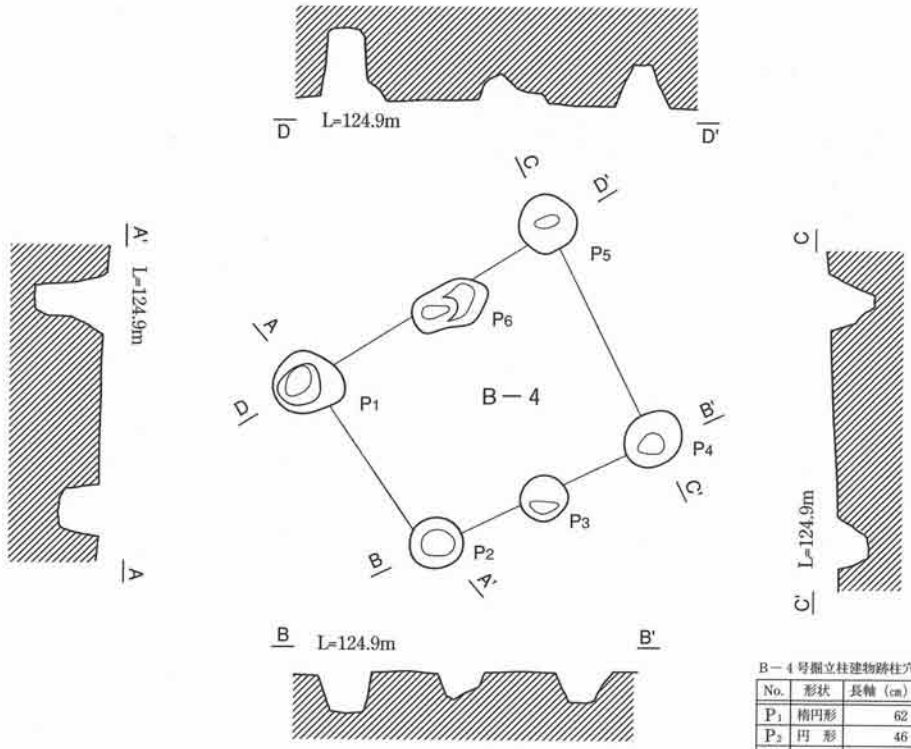
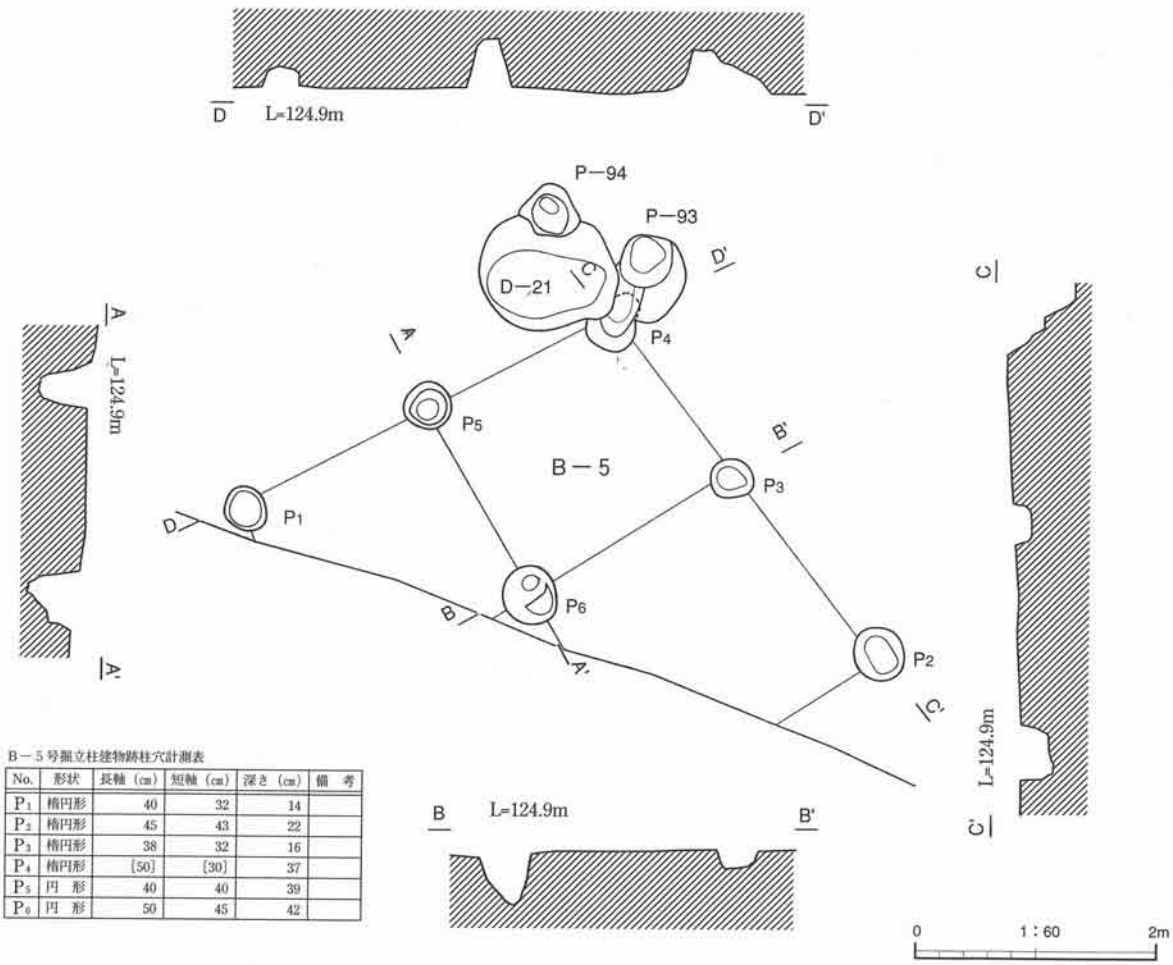


Fig.16　B－3号掘立柱建物跡



B－4号掘立柱建物跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	楕円形	62	50	57	
P2	円　形	46	42	34	
P3	円　形	40	40	24	
P4	楕円形	52	44	25	
P5	円　形	50	50	37	
P6	楕円形	68	32	23	



B－5号掘立柱建物跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	楕円形	40	32	14	
P2	楕円形	45	43	22	
P3	楕円形	38	32	16	
P4	楕円形	[50]	[30]	37	
P5	円　形	40	40	39	
P6	円　形	50	45	42	

Fig.17　B－4・5号掘立柱建物跡

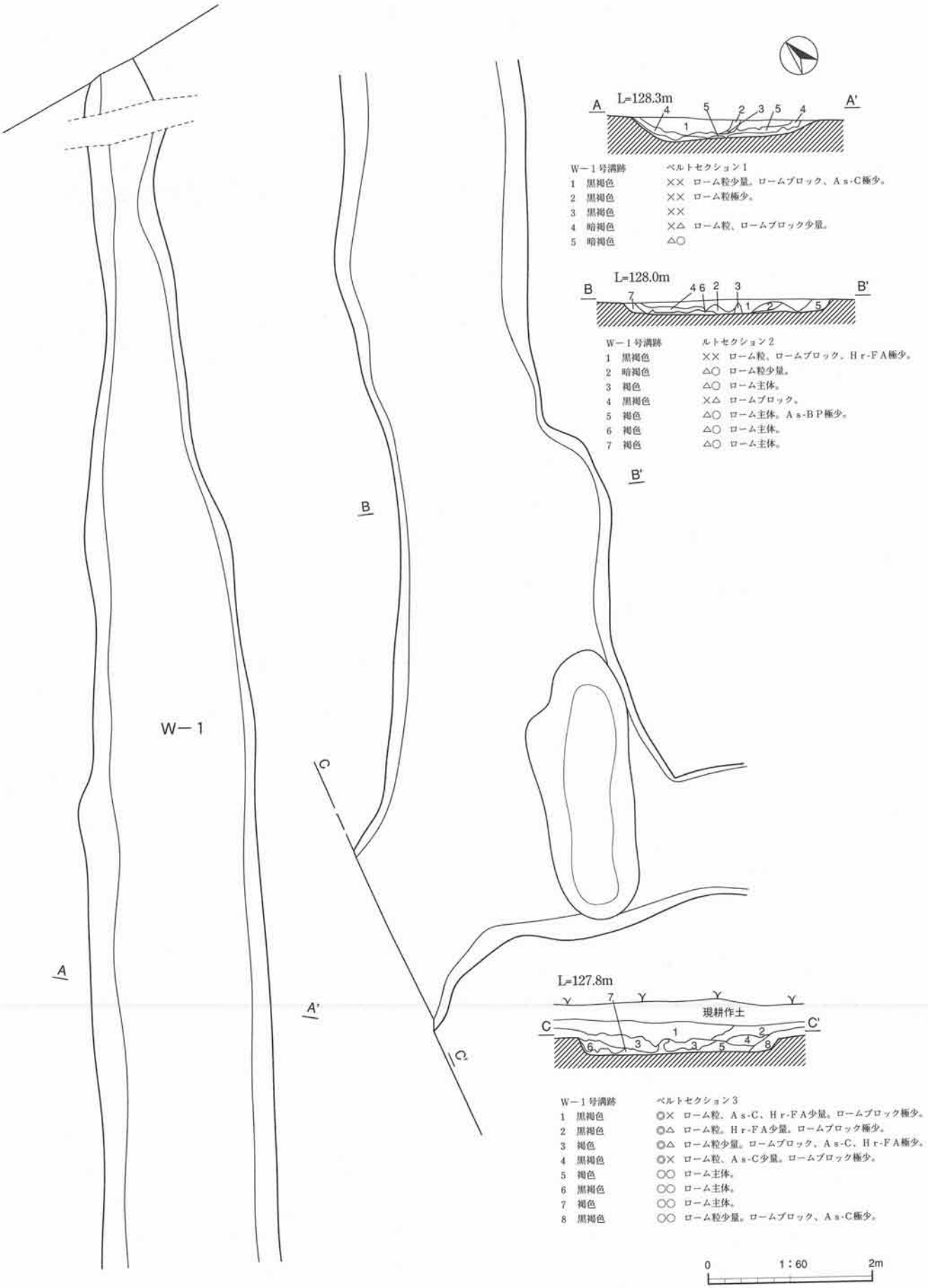

W－1
A
A'
B
B'
C
C'
A
L=128.3m
A'
4
5
2
3
5
4
1
W－1号溝跡
ベルトセクション1
1 黒褐色 ××ローム粒少量。ロームブロック、As-C極少。
2 黒褐色 ××ローム粒極少。
3 黒褐色 ××
4 暗褐色 ×△ローム粒、ロームブロック少量。
5 暗褐色 △○
B
L=128.0m
B'
7
4
6
2
3
1
2
5
W－1号溝跡
ルトセクション2
1 黒褐色 ××ローム粒、ロームブロック、Hr-FA極少。
2 暗褐色 △○ローム粒少量。
3 褐色 △○ローム主体。
4 黒褐色 ×△ロームブロック。
5 褐色 △○ローム主体。As-BP極少。
6 褐色 △○ローム主体。
7 褐色 △○ローム主体。
B'
L=127.8m
7
現耕作土
C
C'
1
2
4
6
3
3
5
8
W－1号溝跡
ベルトセクション3
1 黒褐色 ◎×ローム粒、As-C、Hr-FA少量。ロームブロック極少。
2 黒褐色 ◎△ローム粒。Hr-FA少量。ロームブロック極少。
3 褐色 ◎△ローム粒少量。ロームブロック、As-C、Hr-FA極少。
4 黒褐色 ◎×ローム粒、As-C少量。ロームブロック極少。
5 褐色 ○○ローム主体。
6 黒褐色 ○○ローム主体。
7 褐色 ○○ローム主体。
8 黒褐色 ○○ローム粒少量。ロームブロック、As-C極少。
0
1：60
2m

Fig.18　W－1号溝跡

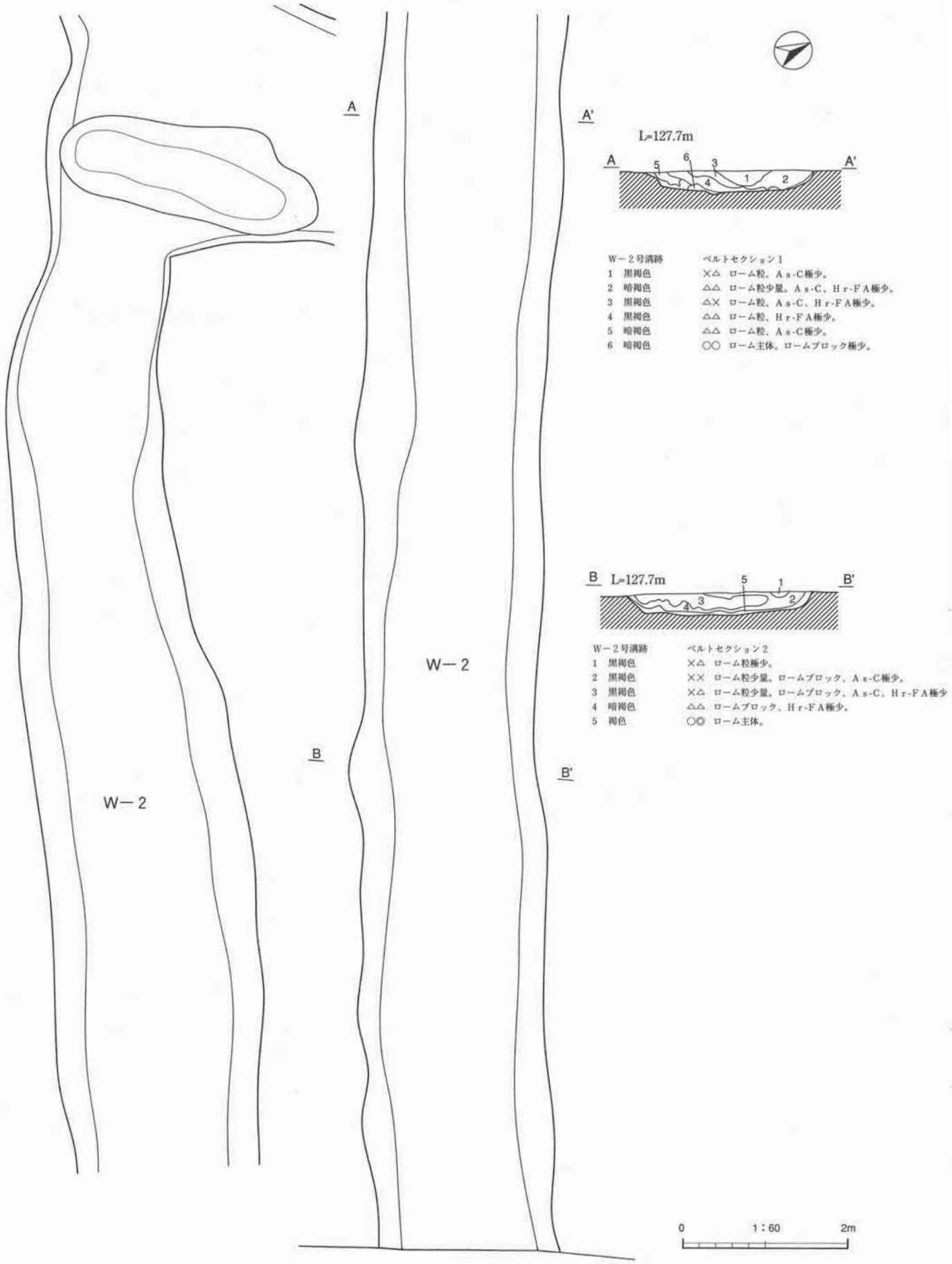
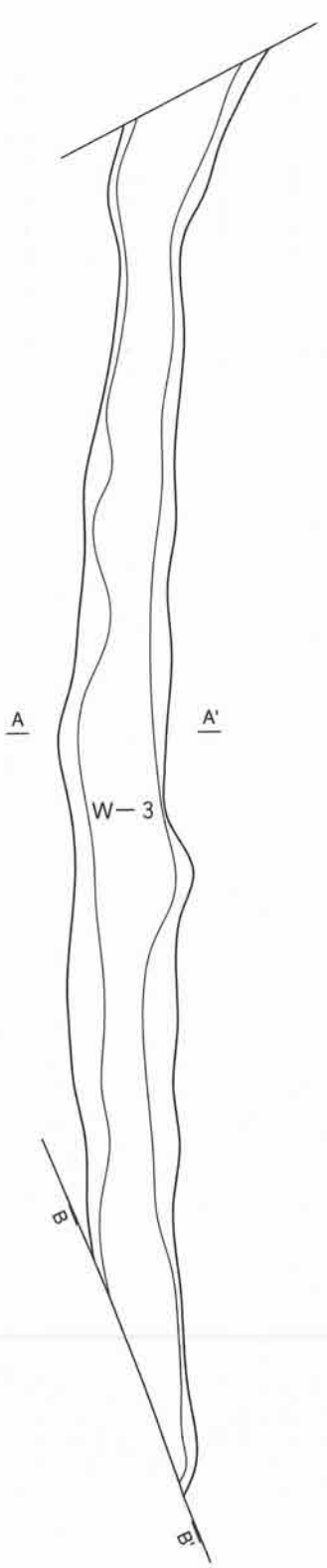
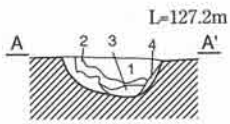
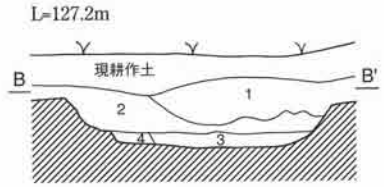

A
A'
L=127.7m
A
A'
5
6
3
1
2
4
W－２号溝跡　ベルトセクション１
1　黒褐色　×△　ローム粒、Ａｓ-Ｃ極少。
2　暗褐色　△△　ローム粒少量。Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ極少。
3　黒褐色　△×　ローム粒、Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ極少。
4　黒褐色　△△　ローム粒、Ｈｒ-ＦＡ極少。
5　暗褐色　△△　ローム粒、Ａｓ-Ｃ極少。
6　暗褐色　○○　ローム主体。ロームブロック極少。
B
L=127.7m
B'
5
1
2
3
4
W－２号溝跡　ベルトセクション２
1　黒褐色　×△　ローム粒極少。
2　黒褐色　××　ローム粒少量。ロームブロック、Ａｓ-Ｃ極少。
3　黒褐色　×△　ローム粒少量。ロームブロック、Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ極少
4　暗褐色　△△　ロームブロック、Ｈｒ-ＦＡ極少。
5　褐色　○○　ローム主体。
W－２
W－２
B
B'
0
1：60
2m

Fig.19　W－２号溝跡





W－3号溝跡	ベルトセクション1
1　黒褐色	△△　As-C、Hr-FA少量。ローム粒、ロームブロック極少。
2　黒褐色	△△　ローム粒、ロームブロック、As-C少量。Hr-FA極少。
3　黒褐色	××　ローム粒、ロームブロック、As-C少量。Hr-FA極少。
4　褐色	△△　ローム主体。



W-3号溝跡	ベルトセクション2
1　黒褐色	△×　As-C少量。ローム粒、Hr-FA極少。
2　黒褐色	△△　As-C。ローム粒、Hr-FA極少。
3　黒褐色	△△　ロームブロック、As-C。ローム粒少量。Hr-FA極少。
4　暗褐色	△○　ロームブロック。

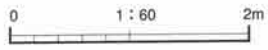


Fig.20　W－3号溝跡

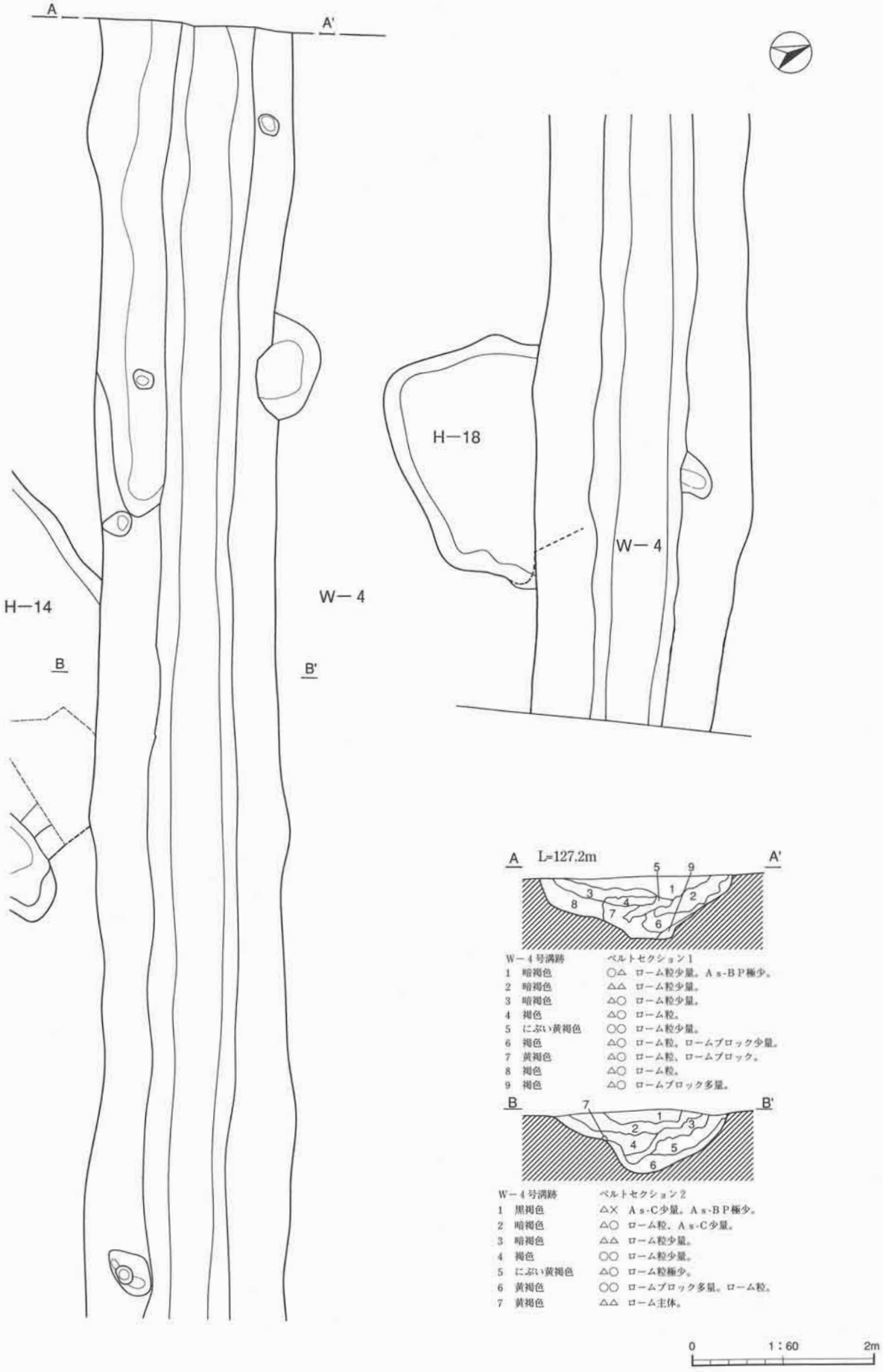
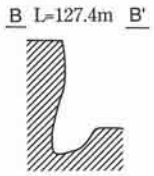
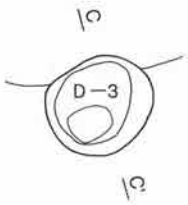
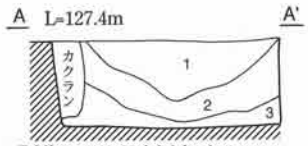


Fig.21 H−14・18号 住居跡、W−4号溝跡

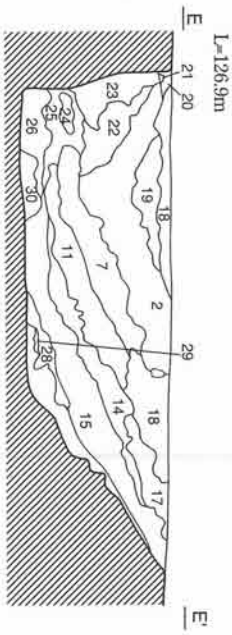


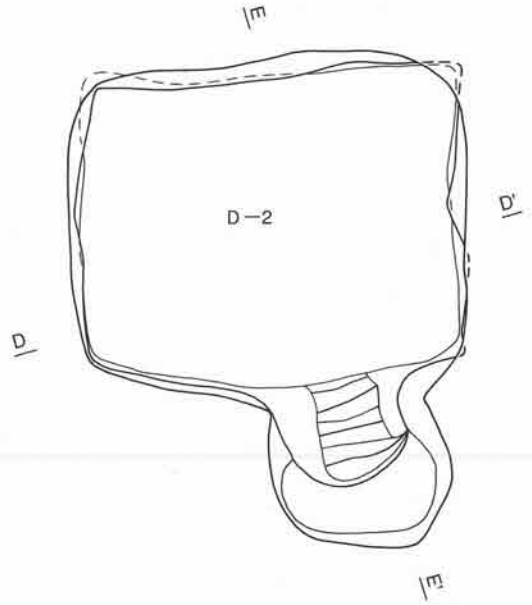


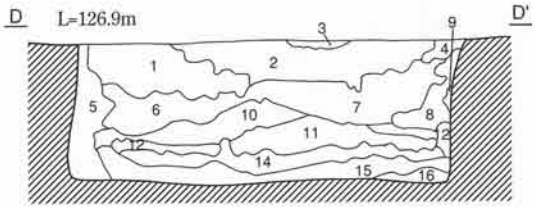
D－3号土坑　ベルトセクション
1　黒褐色　○○　ローム粒少量。ロームブロック、As-C極少。
2　暗褐色　○○　焼土粒少量。



D－1号土坑　ベルトセクション
1　黒褐色　○○　ローム粒。As-C、Hr-FA少量。
2　にぶい黄褐色　△○　ローム粒、ロームブロック少量。
3　褐色　△○　ロームブロック多量。







D－2号地下式坑　ベルトセクション
1　黒褐色　△×　As-B。As-C、Hr-FA少量。ロームブロック極少。
2　暗褐色　○△　As-C、Hr-FA少量。
3　暗褐色　△×　Hr-FA少量。
4　暗褐色　△×　As-C、As-B少量。
5　褐色　△△　黒色土を含む。
6　黒褐色　△×　As-B。As-C、Hr-FA少量。ローム粒極少。
7　黒褐色　△×　As-B。As-C、Hr-FA少量。ローム粒極少。
8　暗褐色　△△　ローム粒多量。As-C極少。
9　褐色　○○　ローム主体。
10　褐色　○○　ローム粒多量。As-C。
11　褐色　○○　ローム主体。As-C少量。
12　褐色　△○　ローム主体。
13　黄褐色　○○　ローム主体。As-C少量。
14　黄褐色　△△　ローム粒。
15　にぶい黄褐色　△×　ローム粒、ロームブロック多量。
16　褐色　○○　ローム主体。
17　褐色　○○　ローム主体。As-C、Hr-FA少量。
18　褐色　◎△　ローム粒、As-C、Hr-FA少量。
19　黒褐色　○×　As-C、Hr-FA少量。
20　暗褐色　△×　Hr-FA少量。
21　暗褐色　△×　Hr-FA少量。
22　黒褐色　××　As-B多量。ローム粒少量。
23　褐色　××　ローム主体。
24　暗褐色　△△　ローム粒極少。
25　黒褐色　○○　As-B、ローム粒少量。
26　褐色　△○　ローム主体。Af-C少量。
27　褐色　×○　ローム主体。
28　黒褐色　△△　Af-C少量。
29　黒褐色　×○　ローム主体。
30　褐色　○○　ローム主体。

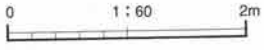
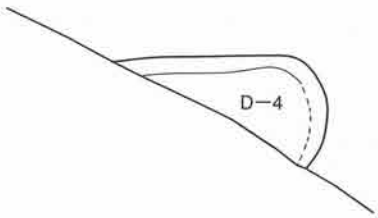
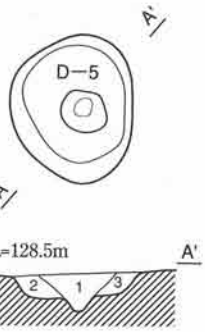
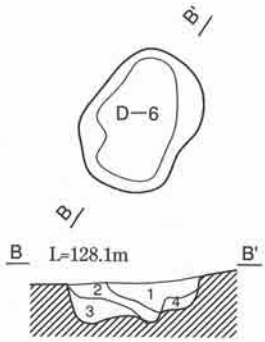


Fig.22　D－1～3号土坑

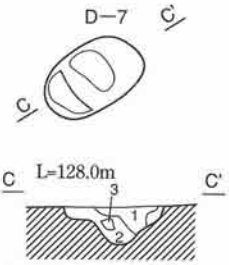




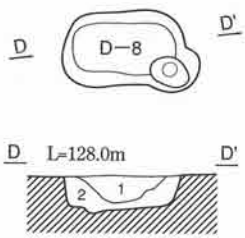
D−5号土坑　ベルトセクション
1　黒褐色　○○　As-C、Hr-FA。ロームブロック少量。
2　暗褐色　△○　ロームブロック多量。As-C、Hr-FA少量。



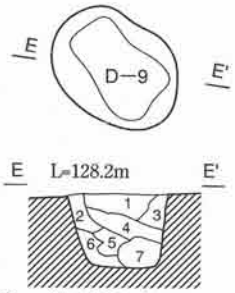
D−6号土坑　ベルトセクション
1　黒褐色　△○　ローム粒、As-C、Hr-FA極少。
2　暗褐色　△△　ローム粒少量。ロームブロック極少。
3　黒褐色　△○　ロームブロック。ローム粒少量。
4　黄褐色　○△　ローム主体。



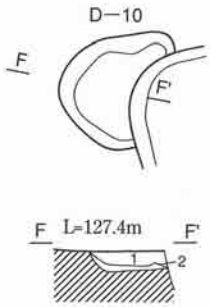
D−7号土坑　ベルトセクション
1　暗褐色　△△　As-C、Hr-FA極少。
2　暗褐色　△△　ローム粒。ロームブロック少量。
3　褐色　×○　粘土主体。



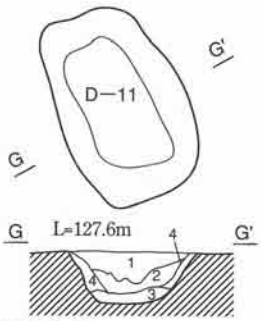
D−8号土坑　ベルトセクション
1　暗褐色　△○　ロームブロック、As-C、Hr-FA少量。ローム粒極少。
2　黒褐色　○○　ローム粒，ロームブロック少量。As-C、Hr-FA極少。



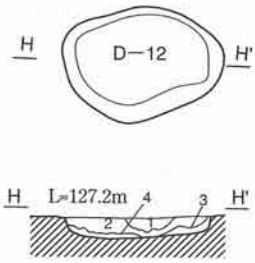
D−9号土坑　ベルトセクション
1　暗褐色　△△　ローム粒、As-C、Hr-FA少量。
2　暗褐色　○○　ローム粒少量。
3　暗褐色　○△　ロームブロック、As-C、Hr-FA少量。
4　黒褐色　△○　ローム粒、As-C、Hr-FA少量。
5　黒褐色　×△　As-C、Hr-FA少量。
6　黒褐色　○○　As-C、少量。
7　暗褐色　△○　ロームブロック。As-C少量。



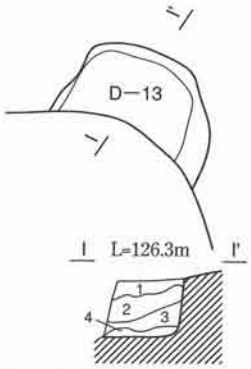
D−10号土坑　ベルトセクション
1　暗褐色　△×　ローム粒。As-C、Hr-FA極少。
2　褐色　△△　ロームブロック多量。



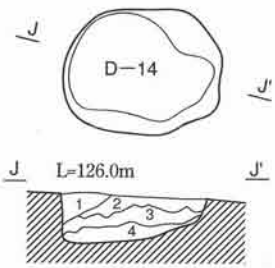
D−11号土坑　ベルトセクション
1　黒褐色　○○　ローム粒。As-C、Hr-FA。
2　暗褐色　△○　ローム粒。As-C、Hr-FA少量。
3　黒褐色　△○　ロームブロック。
4　暗褐色　○×　ロームブロック多量。



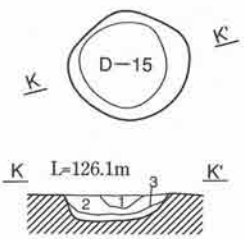
D−12号土坑　ベルトセクション
1　黒褐色　×△　ローム粒少量。Hr-FA極少。
2　黒褐色　△○　As-C、Hr-FA少量。ローム粒、ロームブロック、焼土粒極少。
3　黒褐色　△○　ローム粒極少。



D−13号土坑　ベルトセクション
1　黒褐色　△△　ローム粒、As-C極少。
2　暗褐色　△○　ローム粒少量。Hr-FA極少。
3　暗褐色　△○　ローム粒極少。
4　暗褐色　○○　ロームブロック少量。ローム粒極少。



D−14号土坑　ベルトセクション
1　暗褐色　△○　ローム粒少量。ロームブロック、Hr-FA極少。
2　暗褐色　△○　ローム粒、ロームブロック少量。Hr-FA極少。
3　褐色　△○　ローム粒少量。
4　暗褐色　△○　ローム粒。ロームブロック少量。



D−15号土坑　ベルトセクション
1　暗褐色　○×　As-C、Hr-FA。ロームブロック少量。
2　暗褐色　○×　ロームブロック、As-C、Hr-FA。
3　褐色　○○　ローム主体。

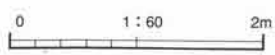
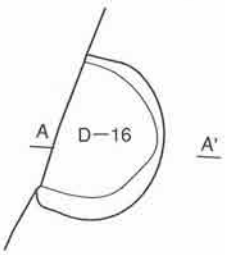
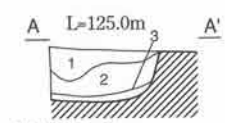
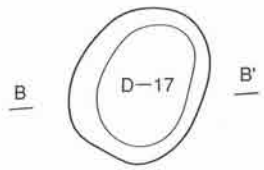


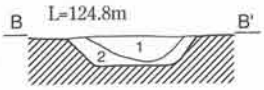
Fig.23　D－4～15号土坑



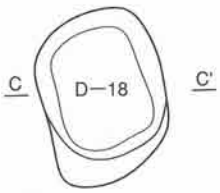


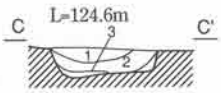
D−16号土坑　ベルトセクション
1　暗褐色　○×　ローム粒、As-C、Hr-FA少量。
2　暗褐色　○△　ローム粒。
3　褐色　○○　ロームブロック多量。



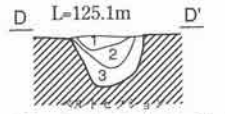


D−17号土坑　ベルトセクション
1　暗褐色　○×　ローム粒、As-C、Hr-FA少量。
2　暗褐色　○△　ローム粒、ロームブロック。

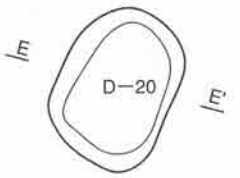


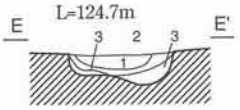


D−18号土坑　ベルトセクション
1　暗褐色　○×　ローム粒、As-C、Hr-FA少量。
2　暗褐色　○△　ローム粒。
3　褐色　○○　ロームブロック多量。

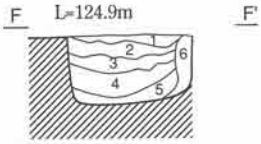


D−19号土坑　ベルトセクション
1　暗褐色　○×　ロームブロック、As-C、Hr-FA少量。
2　暗褐色　○×　ロームブロック、As-C、Hr-FA。
3　褐色　△△　ロームブロック多量。

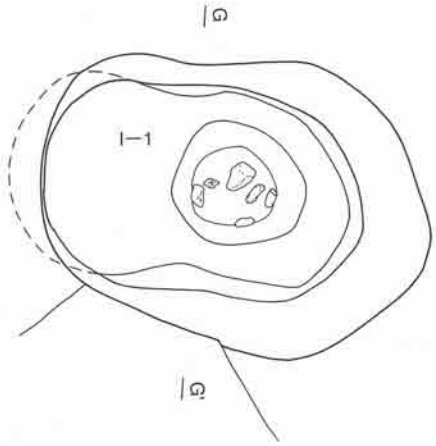


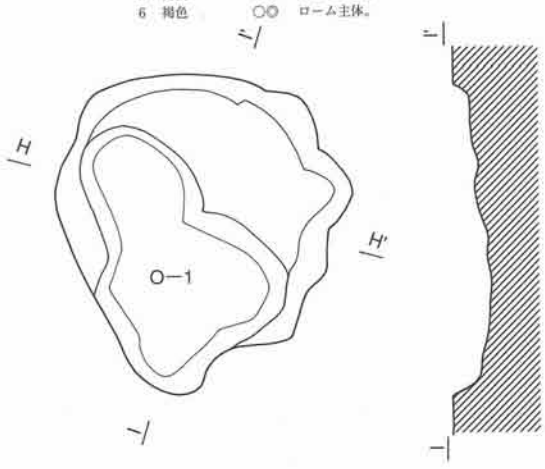


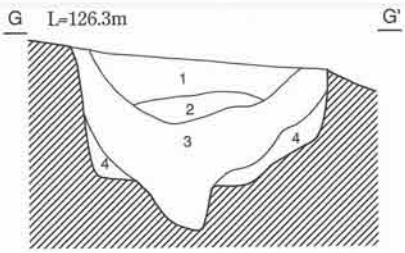
D−20号土坑　ベルトセクション
1　暗褐色　○×　ローム粒、As-C、Hr-FA少量。
2　暗褐色　○△　ローム粒。
3　褐色　○○　ロームブロック多量。



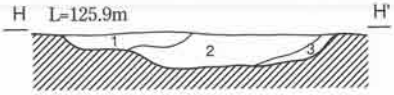
D−21号土坑　ベルトセクション
1　暗褐色　○△　As-C少量。ローム粒、Hr-FA極少。
2　暗褐色　○△　As-C。ローム粒、ロームブロック、Hr-FA極少。
3　黒褐色　○△　ローム粒、As-C少量。ロームブロック極少。
4　暗褐色　○○　ロームブロック、ローム粒少量。As-C極少。
5　褐色　○○　As-C極少。
6　褐色　○◎　ローム主体。







I−1号井戸跡　ベルトセクション
1　黒褐色　△○
2　にぶい黄褐色　×○　ローム粒。
3　黒褐色　△○　ロームブロック少量。
4　褐色　△○　ローム主体。



O−1号落ち込み跡　ベルトセクション
1　暗褐色　△△　ローム粒、Hr-FA少量。
2　褐色　△○　ロームブロック少量。
3　黄褐色　○○　ローム主体。

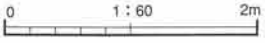


Fig.24　D−16~21号土坑、I−1号井戸跡、O−1号落ち込み跡

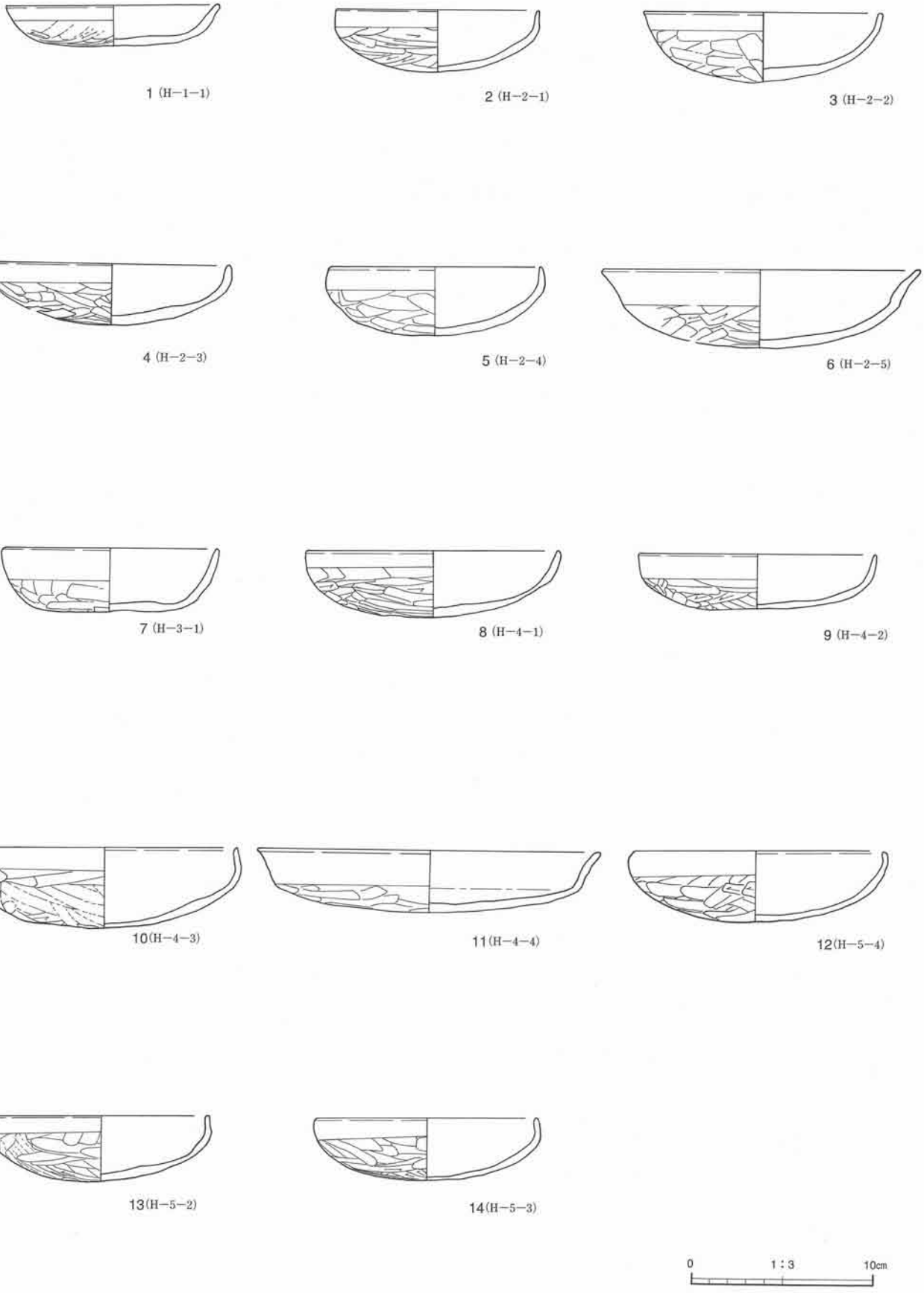
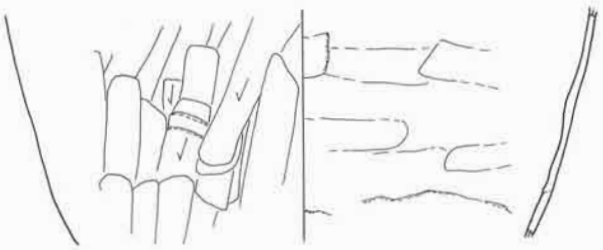
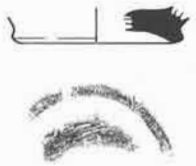


Fig.25　H−1～5号住居跡出土物



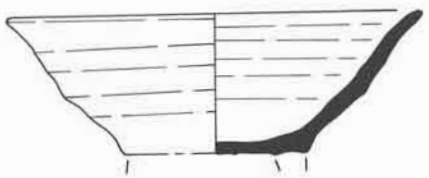
15(H−6−1)



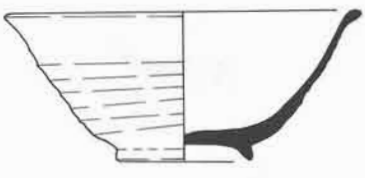
16(H−9−1)

17(H−10−1)

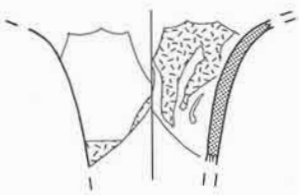
18(H−10−2)



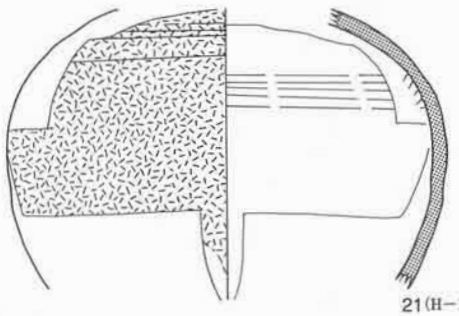
19(H−10−3)



20(H−10−4)



22(H−10−6)



21(H−10−5)

23(H−10−7)

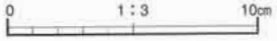
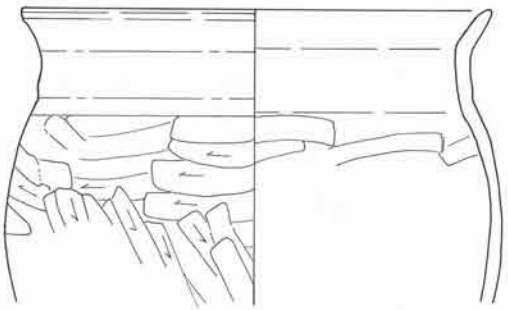
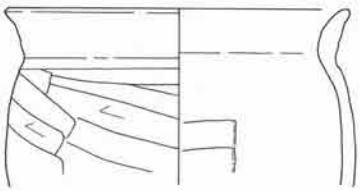


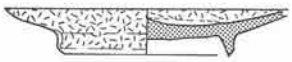
Fig.26　H－6・9・10号住居跡出土遺物



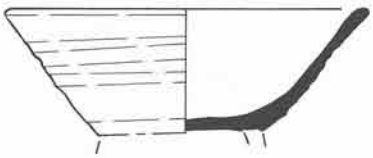
24(H−10−8)



25(H−10−9)



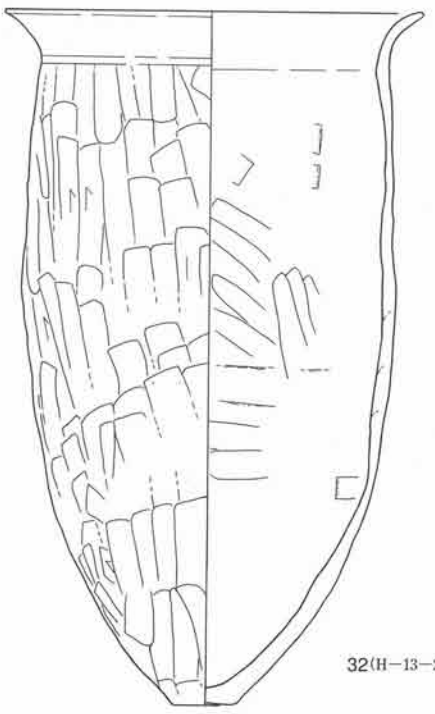
27(H−11−2)

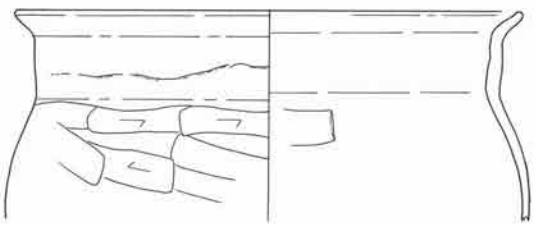


26(H−11−1)

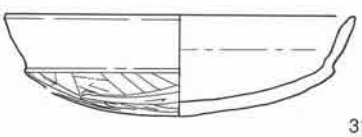
29(H−12−1)

28(H−11−3)





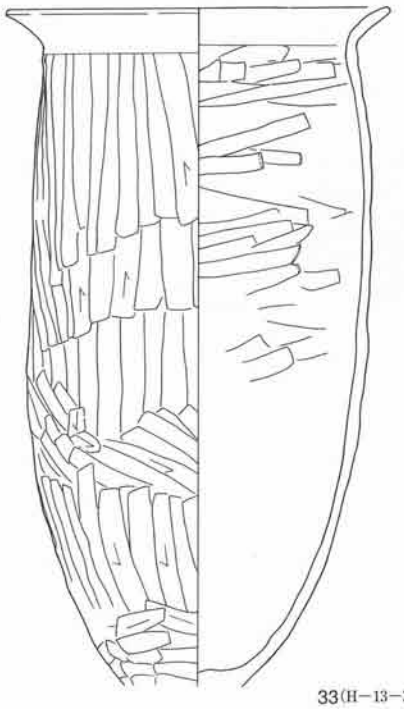
30(H−12−2)



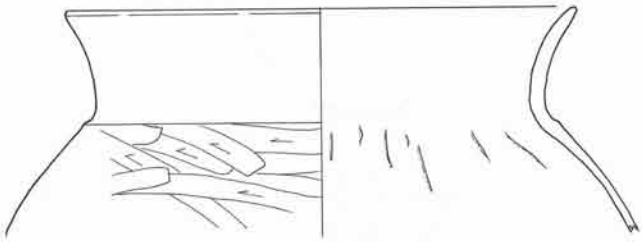
31(H−13−1)

32(H−13−2)

Fig.27　H−10〜13号住居跡出土遺物

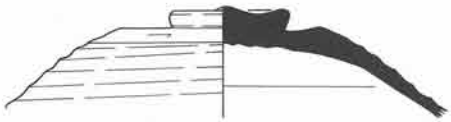


33(H−13−3)

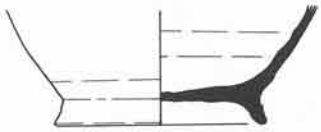


34(H−14−1)

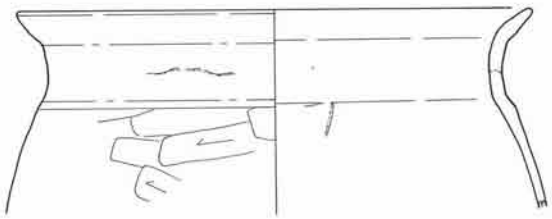
35(H−15−1)



36(H−15−2)



37(H−15−3)



38(H−15−4)

41(H−16−3)

39(H−16−1)

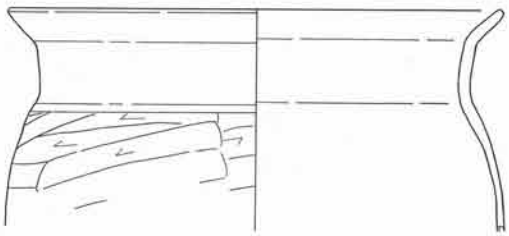
40(H−16−2)

0 1：4 10cm
(33)
0 1：3 10cm
(34～41)

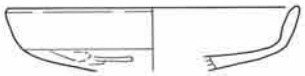
Fig.28　H－13～16号住居跡出土遺物

42(H－16－4)

43(H－16－5)



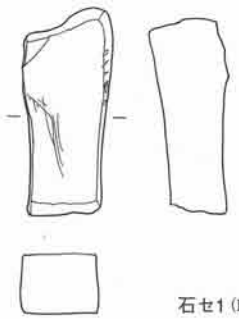
44(H－16－6)



45(H－17－1)

46(H－18－1)

47(D－2)



石セ1 (H－2)

0　1：3　10cm

Fig.29　H－2・16～18号住居跡、D－21号土坑出土遺物

1　遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡

Ｊ－１号住居跡（Fig.30、PL.15）

位置　X83・84、Y160・161グリッド　**主軸方向**　Ｎ－57°－Ｅ　形状等　円形。長径4.00m、短径3.54m、壁現高29cmを測る。**面積**　10.95㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**炉**　中央西寄りに地床炉。　**時期**　埋土や出土遺物から縄文時代中期と考えられる。　**出土遺物**　総数393点。そのうち浅鉢１点、石鏃１点、打製石斧２点を図示した。

Ｊ－２号住居跡（Fig.30、PL.15）

位置　X86・87、Y150グリッド　**主軸方向**　Ｎ－90°－Ｅ　**形状等**　円形。長径4.40m、短径4.18m、壁現高 18cmを測る。**面積**　14.16㎡　**床面**　平坦な床面。　**炉**　攪乱のため不明。　**時期**　埋土や出土遺物から縄文時代中期と考えられる。　**出土遺物**　総数94点。そのうち深鉢１点を図示した。

Ｊ－３号住居跡（Fig.31、PL.15）

位置　X85、Y151・152グリッド　**主軸方向**　Ｎ－32°－Ｅ　**形状等**　円形と推定される。長径3.90m、短径(3.12) m、壁現高20cmを測る。　面積　(13.88) ㎡　**床面**　平坦な床面。　**炉**　攪乱のため不明。　**時期**　埋土や出土遺物から縄文時代中期と考えられる。　**出土遺物**　総数99点。そのうち深鉢２点を図示した。

Ｈ－１号住居跡（Fig.31、PL.16）

位置　X86・87、Y151・152グリッド　**主軸方向**　Ｎ－85°－Ｅ　**形状等**　長方形と推定される。東西［3.35］m、南北［3.70］m、壁現高40cmを測る。面積［10.67］㎡　**床面**　非常に堅緻な床面。周溝有。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向Ｎ－90°－Ｅ。全長64cm、最大幅［94］cm、焚口部幅30cmを測る。上部攪乱のため床面近くのみ残存。　**時期**　埋土や出土遺物から９世紀第１四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数162点。そのうち坏１点、鉄鏃１点を図示した。

Ｈ－２号住居跡（Fig.32、PL.16）

位置　X92・93、Y149・150グリッド　**主軸方向**　Ｎ－92°－Ｅ　**形状等**　長方形と推定される。東西［2.90］m、南北［3.42］m、壁現高10cmを測る。　面積［8.84］㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向Ｎ－92°－Ｅ。全長124cm、最大幅［94］cm、焚口部幅46cmを測る。粘土を構築材として使用。　**時期**　埋土や出土遺物から９世紀第１四半世期と考えられる。　**出土遺物**　総数299点。そのうち、甕１点を図示した。

Ｈ－３号住居跡（Fig.32、PL.16）

位置　X100・101、Y153グリッド　**主軸方向**　Ｎ－95°－Ｅ　**形状等**　正方形と推定される。東西［2.38］m、南北（2.26）m、壁現高11cmを測る。　面積（4.13）㎡　**床面**　堅緻な床面。所々に焼土。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向Ｎ－96°－Ｅであり、全長92cm、最大幅74cm、焚口幅46cmを測る。粘土を構築材として使用。　**時期**　埋土や出土遺物から９世紀第３四半世期と考えられる。　**出土遺物**　総数52点。そのうち、椀１点を図示した。

H－4号住居跡（Fig.33、PL.16）

位置　X99・100、Y153・154グリッド　**主軸方向**　N－109°－E　**形状等**　方形と推定される。東西［2.40］m、南北［3.72］m、壁現高8cmを測る。　面積［7.36］㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　大部分が攪乱のため、検出されず。　**時期**　埋土や出土遺物から9世紀第3四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数120点。そのうち、椀1点を図示した。

H－5号住居跡（Fig.33、PL.16・17）

位置　X94・95、Y156・157グリッド　**主軸方向**　N－90°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西［3.72］m、南北4.70m、壁現高73cmを測る。　**面積**　［9.97］㎡　**床面**　堅緻な床面。中央に大きな攪乱。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N－89°－Eであり、全長94cm、最大幅100cm、焚口幅38cmを測る。石を片袖、粘土を構築材として使用。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀第1四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数399点。そのうち、坏1点、甕1点を図示した。

H－6号住居跡（Fig.34、PL.16・17）

位置　X93・94、Y156・157グリッド　主軸方向　N－94°－E　**形状等**　長方形。東西2.75m、南北3.80m、壁現高64cmを測る。　**面積**　9.57㎡　**床面**　堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N－95°－Eであり、全長84cm、最大幅98cm、焚口幅30cmを測る。凝灰岩を両袖石に使用。急勾配の煙道。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀第1四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数317点。そのうち、坏3点、椀1点、甕1点、紡錘車1点を図示した。

H－7号住居跡（Fig.35、PL.17）

位置　X95・96、Y156・157グリッド　**主軸方向**　N－74°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西［3.08］m、南北［3.94］m、壁現高35cmを測る。　**面積**　［11.13］㎡　**床面**　堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N－74°－Eであり、全長76cm、最大幅66cm、焚口幅44cmを測る。粘土を構築材として使用。　**重複**　H－21と重複しており、新旧関係は本遺構→H－21の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から9世紀第2四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数444点。そのうち、坏2点、台付皿1点を図示した。

H－8号住居跡（Fig.34、PL.17）

位置　X84・85、Y152グリッド　**主軸方向**　N－89°－E　**形状等**　方形と推定される。東西［2.00］m、南北［3.64］m、壁現高34cmを測る。　**面積**　（4.02）㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N－83°－Eであり、全長98cm、最大幅100cm、焚口幅38cmを測る。粘土を構築材として使用。　**重複**　H－9と重複しており、H－9との新旧関係はH－9→本遺構の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から8世紀第3四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数50点。そのうち、坏1点、甕1点を図示した。

H－9号住居跡（Fig.34、PL.17）

位置　X84・85、Y152・153グリッド　主軸方向　N－89°－E　**形状等**　方形と推定される。東西［2.1］m、南北［1.3］m、壁現高7cmを測る。　**面積**　（2.13）㎡　**床面**　堅緻な床面。　**竈**　検出されず。　**重複**　H－8と重複しており、新旧関係は本遺構→H－8の順である。　**時期**　埋土から8世紀と考えられる。　**出土遺物**　本遺構に関連する遺物の出土はなかった。

Ｈ－10号住居跡（Fig.36、PL.17）

位置　Ｘ83・84、Ｙ154グリッド　主軸方向　Ｎ－88°－Ｅ　**形状等**　方形と推定される。東西（2.74）ｍ、南北（2.68）ｍ、壁現高12㎝を測る。　**面積**　（4.88）㎡　**床面**　非常に堅緻な床面。　**竈**　検出されず。　**重複**　Ｈ－11と重複しており、新旧関係はＨ－11→本遺構である。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀第１四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数65点。そのうち、埦１点を図示した。

Ｈ－11号住居跡（Fig.36、PL.17）

位置　Ｘ84、Ｙ153・154グリッド　**主軸方向**　Ｎ－82°－Ｅ　**形状等**　長方形と推定される。東西（2.60）ｍ、南北（3.70）ｍ、壁現高53㎝を測る。　**面積**　（6.05）㎡　**床面**　平坦で非常に堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向Ｎ－82°－Ｅであり、全長132㎝、最大幅107㎝、焚口幅72㎝を測る。石を袖石として使用。明確な煙道。　**重複**　Ｈ－10、Ｈ－22と重複しており、それぞれ新旧関係は、本遺構→Ｈ－10、Ｈ－22→本遺構である。時期埋土や出土遺物から９世紀第２四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数60点。そのうち坏２点を図示した。

Ｈ－12号住居跡（Fig.36、PL.18）

位置　Ｘ89・90、Ｙ156～158グリッド　主軸方向　Ｎ－67°－Ｅ　**形状等**　長方形と推定される。東西［4.08］ｍ、南北4.48ｍ、壁現高57㎝を測る。　**面積**　［16.37］㎡　**床面**　平坦で非常に堅緻な床面。周溝有。焼土。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向Ｎ－61°－Ｅであり、全長118㎝、最大幅130㎝、焚口幅46㎝を測る。粘土を構築材として使用。　**時期**　埋土や出土遺物から８世紀第４四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数125点。そのうち、坏１点を図示した。

Ｈ－13号住居跡（Fig.38、PL.18）

位置　Ｘ91・92、Ｙ156・157グリッド　**主軸方向**　Ｎ－94°－Ｅ　**形状等**　長方形。東西4.20ｍ、南北4.94ｍ、壁現高62㎝を測る。　**面積**　19.41㎡　**床面**　平坦で非常に堅緻な床面。周溝有。焼土。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向Ｎ－100°－Ｅであり、全長150㎝、最大幅120㎝、焚口幅48㎝を測る。凝灰岩を両袖石に、粘土を構築材として使用。　**時期**　埋土や出土遺物から８世紀第４四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数611点。そのうち、坏１点、埦１点、蓋２点、甕３点、砥石２点を図示した。

Ｈ－14号住居跡（Fig.37、PL.19）

位置　Ｘ93、Ｙ158・159グリッド　**主軸方向**　Ｎ－81°－Ｅ　**形状等**　長方形と推定される。東西［3.64］ｍ、南北［4.50］ｍ、壁現高23㎝を測る。　面積［14.76］㎡　**床面**　一部非常に堅緻な床面。周溝有。　**竈**　東壁中央。主軸方向Ｎ－80°－Ｅであり、全長［54］㎝、最大幅［54］㎝、焚口幅［36］㎝を測る。　**重複**　Ｈ－15・Ｈ－19と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－19→Ｈ－15の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から９世紀中頃と考えられる。**出土遺物**　本遺構に関連する遺物の出土はなかった。

Ｈ－15号住居跡（Fig.37、PL.19）

位置　Ｘ93・94、Ｙ158・159グリッド　主軸方向　Ｎ－106°－Ｅ　**形状等**　長方形と推定される。東西［3.46］ｍ、南北［3.70］ｍ、壁現高31㎝を測る。　**面積**　［11.52］㎡　**床面**　一部非常に堅緻な床面。　**竈**　東壁中央北寄り。主軸方向Ｎ－106°－Ｅであり、全長100㎝、最大幅80㎝、焚口幅38㎝を測る。粘土を構築材として使用。**重複**　Ｈ－14・Ｈ－19と重複しており、新旧関係はＨ－14→Ｈ－19→本遺構の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀第３四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数281点。そのうち、埦１点、甕１点を図示した。

Ｈ－16号住居跡（Fig.38、PL.19）

位置　Ｘ87、Ｙ157・158グリッド　**主軸方向**　Ｎ－85°－Ｅ　**形状等**　長方形と推定される。東西［3.15］m、南北［4.30］m、壁現高14cmを測る。　**面積**　［12.37］㎡　**床面**　非常に堅緻な床面。周溝有。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向Ｎ－86°－Ｅであり、全長90cm、最大幅92cm、焚口幅36cmを測る。　**時期**　埋土や出土遺物から９世紀第１四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数32点。そのうち、埦１点、紡錘車１点を図示した。

Ｈ－17号住居跡（Fig.39、PL.19）

位置　Ｘ90・91、Ｙ159・160グリッド　**主軸方向**　Ｎ－114°－Ｅ　**形状等**　長方形と推定される。東西［3.48］m、南北［3.94］m、壁現高55cmを測る。　**面積**　［12.09］㎡　**床面**　堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向Ｎ－115°－Ｅであり、全長102cm、最大幅96cm、焚口幅42cmを測る。粘土を構築材として使用。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀第１四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数74点。そのうち、台付皿１点を図示した。

Ｈ－18号住居跡（Fig.39、PL.19・20）

位置　Ｘ89・90、Ｙ158・159グリッド　**主軸方向**　Ｎ－68°－Ｅ　**形状等**　長方形。東西4.04m、南北4.58m、壁現高53cmを測る。　**面積**　16.07㎡　**床面**　堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向Ｎ－66°－Ｅであり、全長104cm、最大幅126cm、焚口幅46cmを測る。凝灰岩を両袖石に、粘土を構築材として使用。　**時期**　埋土や出土遺物から８世紀第3四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数169点。そのうち、坏３点を図示した。

Ｈ－19号住居跡（Fig.37、PL.19）

位置　Ｘ93・94、Ｙ158・159グリッド　**主軸方向**　Ｎ－83°－Ｅ　**形状等**　長方形と推定される。東西［3.22］m、南北［3.60］m、壁現高15cmを測る。　**面積**　［10.69］㎡　**床面**　堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向Ｎ－70°－Ｅであり、全長60cm、最大幅70cm、焚口幅38cmを測る。粘土を構築材として使用。　**重複**　Ｈ－14・Ｈ－15と重複しており、新旧関係はＨ－14→本遺構→Ｈ－15の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀第１四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数34点。そのうち、坏１点を図示した。

Ｈ－20号住居跡（Fig.40、PL.20）

位置　Ｘ84・85、Ｙ160グリッド　**主軸方向**　Ｎ－100°－Ｅ　**形状等**　長方形と推定される。東西［3.20］m、南北3.76m、壁現高56cmを測る。　**面積**　［11.13］㎡　**床面**　非常に堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向Ｎ－96°－Ｅであり、全長78cm、最大幅50cm、焚口幅28cmを測る。石を両袖に使用。　**重複**　Ｈ－24と重複しており、新旧関係はＨ－24→本遺構の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から９世紀第１四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数210点。そのうち、甕１点を図示した。

Ｈ－21号住居跡（Fig.35、PL.20）

位置　Ｘ95・96、Ｙ156・157グリッド　**主軸方向**　Ｎ－90°－Ｅ　**形状等**　長方形。東西3.82m、南北4.70m、壁現高45cmを測る。　**面積**　16.52㎡　**床面**　平坦で非常に堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向Ｎ－97°－Ｅであり、全長110cm、最大幅60cm、焚口幅38cmを測る。石を両袖に使用。　**重複**　Ｈ－７と重複しており、新旧関係はＨ－７→本遺構の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から10世紀第２四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数232点。そのうち、坏２点、埦３点、甕３点、竈脚部１点を図示した。

H－22号住居跡（Fig.36、PL.17）

位置　X84、Y153・154グリッド　主軸方向　N－82°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（0.64）m、南北（2.66）m、壁現高53cmを測る。　面積　（1.31）㎡　**床面**　非常に堅緻な床面。　**竈**　検出されず。　重複H－11と重複しており、新旧関係は、本遺構→H－11である。　**時期**　埋土や平面形態から8世紀と考えられる。　**出土遺物**　本遺構に関連する遺物の出土はなかった。

H－23号住居跡（Fig.40、PL.21）

位置　X83・84、Y157～159グリッド　主軸方向　N－81°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西［3.20］m、南北［4.40］m、壁現高47cmを測る。　**面積**　［13.04］㎡　**床面**　非常に堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N－80°－Eであり、全長（118)cm、最大幅100cm、焚口幅（20）cmを測る。石を両袖に使用。　**時期**　埋土や出土遺物から8世紀第4四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数280点。そのうち、坏2点、甕2点を図示した。

H－24号住居跡（Fig.40、PL.20）

位置　X85・86、Y160・161グリッド　**主軸方向**　N－78°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西［2.94］m、南北［4.24］m、壁現高35cmを測る。　**面積**　［11.43］㎡　**床面**　一部非常に堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N－85°－Eであり、全長74cm、最大幅50cm、焚口幅28cmを測る。石を片袖に、粘土を構築材として使用。　**時期**　埋土や出土遺物から8世紀第3四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数259点。そのうち、甕2点を図示した。

H－25号住居跡（Fig.41、PL.21・22）

位置　X84・85、Y161・162グリッド　**主軸方向**　N－102°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西3.50m、南北（4.66）m、壁現高17cmを測る。　**面積**　（15.11）㎡　**床面**　平坦で一部非常に堅緻な床面。大量の炭化物と焼土。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N－107°－Eであり、全長88cm、最大幅80cm、焚口幅50cmを測る。粘土を構築材として使用。　**時期**　埋土や出土遺物から9世紀第1四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数173点。そのうち、坏2点、長頸壺1点、紡錘車3点、鎖状金具1点を図示した。

H－26号住居跡（Fig.41、PL.22）

位置　X87・88、Y160・161グリッド　**主軸方向**　N－70°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西［3.30］m、南北4.02m、壁現高30cmを測る。　**面積**　［12.60］㎡　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N－67°－Eであり、全長72cm、最大幅48cm、焚口幅20cmを測る。石を両袖に、粘土を構築材として使用。**時期**　埋土や出土遺物から9世紀第4四半期と考えられる。　**出土遺物**　総数295点。そのうち、埦3点、台付甕1点、甕1点を図示した。

H－27号住居跡（Fig.42、PL.22）

位置　X88、Y163グリッド　主軸方向　N－76°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（1.68）m、南北（1.20）m、壁現高47cmを測る。　**面積**　（1.05）㎡　**床面**　平坦で床面。　**竈**　調査区外のため検出されず。　**時期**　埋土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。　**出土遺物**　総数53点。

H－28号住居跡 (Fig.42、PL.22)

位置　X93・94、Y163・164グリッド　主軸方向　N－56°－E　**形状等**　正方形。東西3.72m、南北3.48m、壁現高28cmを測る。　面積 11.56㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　検出されず。　**時期**　埋土や出土遺物から９世紀と考えられる。　**出土遺物**　総数28点。

H－29号住居跡 (Fig.42、PL.23)

位置　X81・82、Y159グリッド　主軸方向　N－95°－E　**形状等**　正方形。東西 (3.30) m、南北 (3.30) m、壁現高19cmを測る。　**面積**　(8.23) ㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁中央南寄り。主軸方向N－97°－Eであり、全長80cm、最大幅120cm、焚口幅57cmを測る。　**時期**　埋土や出土遺物から９世紀前半と考えられる。　**出土遺物**　総数７点。

(2) 掘立柱建物跡

B－１号掘立柱建物跡 (Fig.43、PL.16)

位置　X93・94、Y155・156グリッド　形状　東西２間3.55m×南北２間3.31mの長方形で、長軸方向はN－96°－E、推定面積11.0㎡である。柱間寸法は東西６尺＋６尺、南北５尺＋６尺である。　**柱穴**　平面は円形を呈し、円筒形をしている。径は28～48cm、深さ19～29.5cmである。　**時期**　柱穴の平面形状や遺構の長軸方向などから９～10世紀と考えられる。　**遺物**　本遺構に関連する遺物の出土はなかった。

B－２号掘立柱建物跡 (Fig.43、PL.23)

位置　X96・97、Y158～160グリッド　形状　東西２間 (2.36) m×南北３間 (5.38) mの長方形で、長軸方向はN－20°－E、推定面積 (8.3) ㎡である。柱間寸法は東西７尺、南北６尺＋６尺＋６尺である。　**柱穴**　平面は円形を呈し、円筒形をしている。径は32～42cm、深さ21～26.5cmである。　**時期**　柱穴の平面形状や遺構の長軸方向などから９～10世紀と考えられる。　**遺物**　本遺構に関連する遺物の出土はなかった。

B－３号掘立柱建物跡 (Fig.44、PL.23)

位置　X89・90、Y162・163グリッド　形状　東西２間4.51m×南北２間3.53mの長方形で、長軸方向はN－105°－E、推定面積17.2㎡である。柱間寸法は東西７尺＋７尺、南北６尺＋６尺である。　**柱穴**　平面は円形を呈し、円筒形をしている。径は54～72cm、深さ24.5～39.5cmである。　**時期**　柱穴の平面形状や遺構の長軸方向などから９～10世紀と考えられる。　**遺物**　本遺構に関連する遺物の出土はなかった。

B－４号掘立柱建物跡 (Fig.45、PL.23)

位置　X89～91、Y163・164グリッド　形状　東西３間 (5.36) m×南北２間 (1.91) mの長方形で、長軸方向はN－127°－E、推定面積 (5.2) ㎡である。柱間寸法は東西６尺＋５尺＋７尺、南北５尺＋（２尺）である。　**柱穴**　平面は円形を呈し、円筒形をしている。径は32～56cm、深さ19.5～42cmである。　**時期**　柱穴の平面形状や遺構の長軸方向などから９～10世紀と考えられる。　**遺物**　本遺構に関連する遺物の出土はなかった。

B－５号掘立柱建物跡 (Fig.45、PL.23)

位置　X89・90、Y163・164グリッド　形状　東西２間 (3.56) m×南北１間 (1.18) mの長方形で、長軸方向はN－131°－E、推定面積 (2.1) ㎡である。柱間寸法は東西６尺＋６尺、南北４尺＋？である。　**柱穴**　平面は円

形を呈し、円筒形をしている。径は48～82cm、深さ24.5～39.5cmである。 **時期** 柱穴の平面形状や遺構の長軸方向などから９～10世紀と考えられる。 **遺物** 本遺構に関連する遺物の出土はなかった。

(3) 溝　跡

W－１号溝跡 (Fig.46、PL.23)

位置 X87～89、Y150～153グリッド 方位 N－28°－E **形状等** 断面は逆台形を呈し、上幅86～134cm、深さ52～113cm、長さ16.16mを測る。 **時期** 埋土や出土遺物から縄文時代の区画溝と考えられる。 **遺物** 総数139点。そのうち、深鉢２点、敲石２点を図示した。

W－２号溝跡 (Fig.47、PL.23)

位置 X85～87、Y153～156グリッド 方位 N－142°－Eの方向で南東へ7.0m進み、そこからN－15°－Eの方向で南へ5.4m進み、そこからN－151°－Eの方向で南東へ5.34m進む。 **形状等** 断面は逆台形を呈し、上幅74～118cm、深さ42～69cm、長さ17.74mを測る。 **時期** 埋土や出土遺物から縄文時代の区画溝と考えられる。 **遺物** 総数225点。そのうち、深鉢２点を図示した。

(4) 土坑・井戸跡・落ち込み跡・柱穴 (Fig.48～50、PL.23～25)

Tab.11土坑・井戸跡計測表、Tab.12落ち込み跡計測表、Tab.13柱穴計測表を参照のこと。なお、ＪＤ－１号土坑の深鉢１点、ＪＤ－３号土坑の深鉢２点・打製石斧１点、ＪＤ－４号土坑の深鉢１点、ＪＤ－５号土坑の浅鉢１点・深鉢１点、ＪＤ－６号土坑の深鉢１点・石錐１点・敲石１点、ＪＤ－９号土坑の石鏃１点、ＪＤ－10号土坑の深鉢２点、ＪＤ－11号土坑の深鉢６点、ＪＤ－12号土坑の深鉢１点・敲石１点、ＪＤ－14号土坑の深鉢２点、Ｏ－２号落ち込み跡の深鉢８点・石製耳飾り１点・打製石斧３点を図示した。

(5) グリッド等出土遺物

小破片を含め総数2,261点の遺物を出土した。そのうち、注口付深鉢１点、深鉢２点、石鏃３点、打製石斧１点を図示した。

Tab.9 五代深堀Ⅲ遺跡住居跡計測表

遺構名	規模（m）			面積（㎡）	主軸方向	炉・竈	周溝	出土遺物
	東西	南北	壁現高			位置・素材等		
J－1	4.00	3.54	0.29	10.95	N－57°－E	中央西寄り		浅鉢・深鉢・石鏃・打製石斧
J－2	4.40	4.18	0.18	14.16	N－90°－E	検出されず		深鉢
J－3	3.90	(3.12)	0.20	(13.88)	N－32°－E	検出されず		深鉢
H－1	[3.35]	[3.70]	0.40	[10.67]	N－85°－E	東壁中央南寄り	○	坏・塊・鉄鏃
H－2	[2.90]	[3.42]	0.10	[8.84]	N－92°－E	東壁中央南寄り・粘土	×	甕
H－3	[2.38]	(2.20)	0.11	(4.13)	N－95°－E	東壁中央南寄り・粘土	×	塊
H－4	[2.40]	[3.72]	0.08	[7.36]	N－109°－E	検出されず	×	塊・甕
H－5	[3.72]	4.70	0.73	[9.97]	N－90°－E	東壁中央南寄り・袖石・粘土	×	坏・塊・甕
H－6	2.75	3.80	0.64	9.57	N－94°－E	東壁中央南寄り・袖石(凝灰岩)	×	坏・塊・甕・紡錘車
H－7	[3.08]	[3.94]	0.35	[11.13]	N－74°－E	東壁中央南寄り・粘土	×	皿・坏・塊・甕
H－8	[2.00]	[3.64]	0.34	(4.02)	N－89°－E	東壁中央南寄り・粘土	×	坏・小甕
H－9	(2.10)	(1.30)	0.07	(2.13)	N－89°－E	検出されず	×	
H－10	(2.74)	(2.68)	0.12	(4.88)	N－88°－E	検出されず	×	坏・甕
H－11	(2.60)	(3.70)	0.53	(6.05)	N－82°－E	東壁中央南寄り・袖石	×	坏
H－12	[4.08]	4.48	0.57	[16.37]	N－67°－E	東壁中央南寄り・粘土	○	坏・甕
H－13	4.20	4.94	0.62	19.41	N－94°－E	東壁中央南寄り・袖石(凝灰岩)・粘土	○	坏・塊・蓋・甕
H－14	[3.64]	[4.50]	0.23	[14.76]	N－81°－E	東壁中央	○	甕
H－15	[3.46]	[3.70]	0.31	[11.52]	N－106°－E	東壁中央北寄り・粘土	×	坏・塊・蓋・甕
H－16	[3.15]	[4.30]	0.14	[12.37]	N－85°－E	東壁中央南寄り	○	塊・甕
H－17	[3.48]	[3.94]	0.55	[12.09]	N－114°－E	東壁中央南寄り・粘土	×	皿・坏・塊・甕
H－18	4.04	4.58	0.53	16.07	N－68°－E	東壁中央南寄り・袖石(凝灰岩)	×	坏・甕
H－19	[3.22]	[3.60]	0.15	[10.69]	N－83°－E	東壁中央南寄り・粘土	×	坏・甕
H－20	[3.20]	3.76	0.56	[11.13]	N－100°－E	東壁中央南寄り・袖石	×	坏・塊・蓋・甕
H－21	3.82	4.70	0.45	16.52	N－90°－E	東壁中央南寄り・袖石	×	坏・塊・甕・竈脚部
H－22	(0.64)	(2.66)	0.53	(1.31)	N－82°－E	検出されず	×	
H－23	[3.20]	[4.40]	0.47	[13.04]	N－81°－E	東壁中央南寄り・袖石	×	坏・塊・甕
H－24	[2.94]	[4.24]	0.35	[11.43]	N－78°－E	東壁中央南寄り・袖石・粘土	×	坏・甕
H－25	3.50	(4.66)	0.17	(15.11)	N－102°－E	東壁中央南寄り・粘土	×	坏・塊・長頸壷・甕・紡錘車・鎖状金具
H－26	[3.30]	4.02	0.30	[12.60]	N－70°－E	東壁中央南寄り・袖石・粘土	×	坏・塊・甕・台付甕
H－27	(1.68)	(1.20)	0.47	(1.05)	N－76°－E	検出されず	×	坏・甕
H－28	3.72	3.48	0.28	11.56	N－56°－E	検出されず	×	坏・甕
H－29	(3.30)	(3.30)	0.19	(8.23)	N－95°－E	東壁中央南寄り	×	塊・甕

五代木福Ⅳ遺跡北区全景（南から）

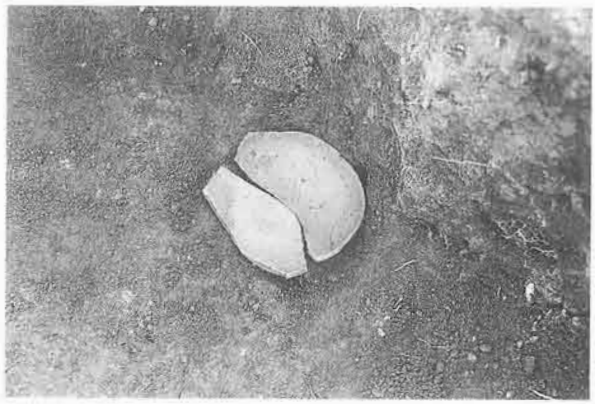
五代木福Ⅳ遺跡南区全景（西から）

PL.2

H－１号住居跡全景（東から）

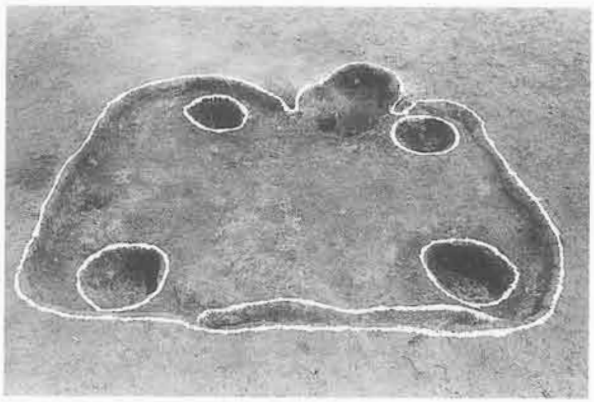
H－２号住居跡全景（西から）

H－２号住居跡竈全景（西から）



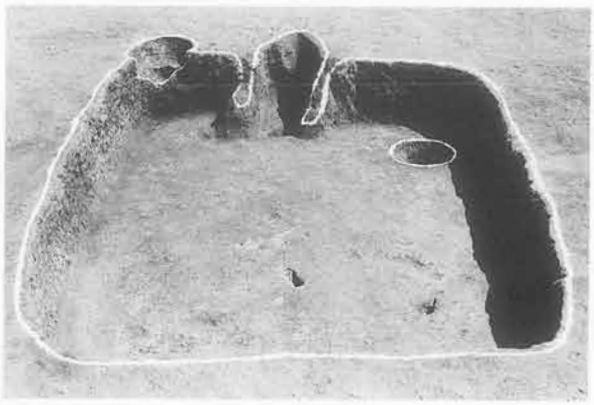
H－２号住居跡遺物出土状態（西から）

H－２号住居跡遺物出土状態（西から）



H－３号住居跡全景（西から）

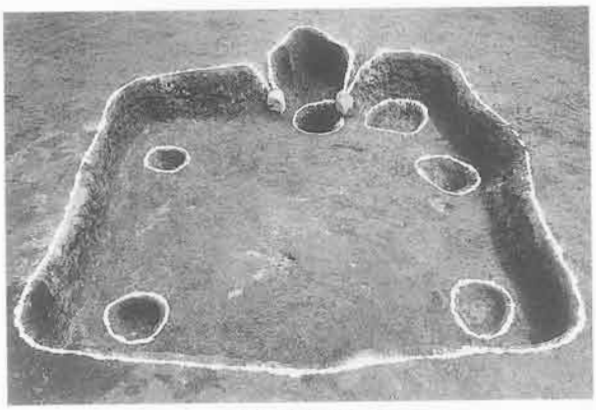
H－３号住居跡竈全景（西から）



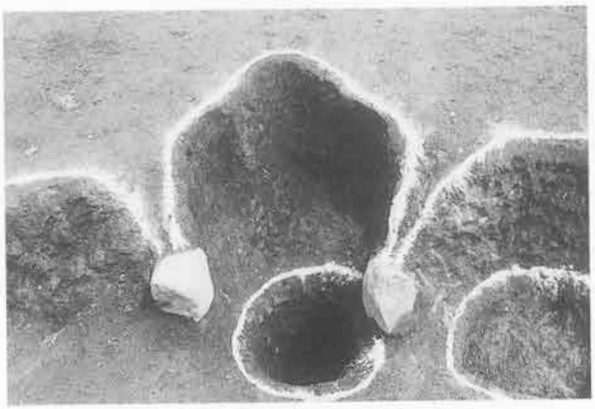
H－４号住居跡全景（西から）

H－４号住居跡竈全景（西から）

H－４号住居跡遺物出土状態（西から）

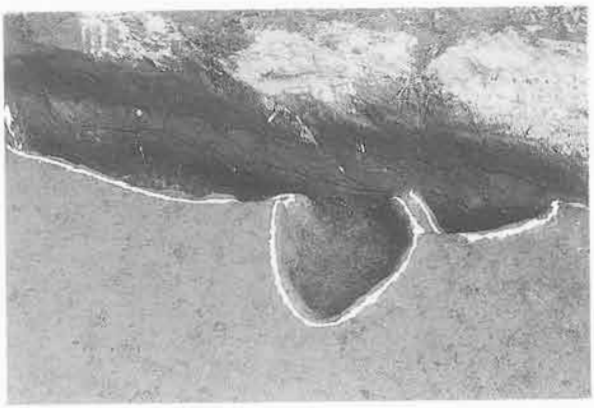


H－５号住居跡全景（西から）

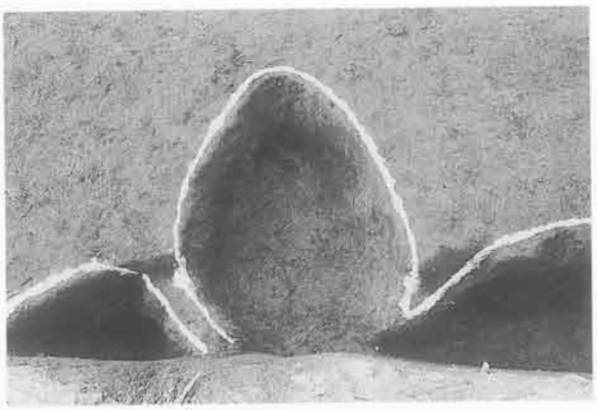


H－５号住居跡竈全景（西から）

H－５号住居跡遺物出土状態（東から）



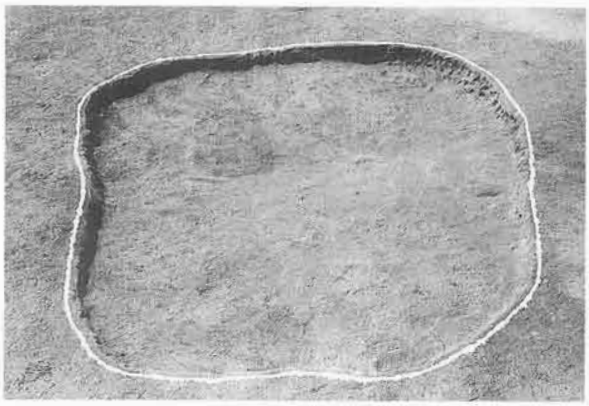
H－６号住居跡全景（西から）



H－６号住居跡竈全景（西から）

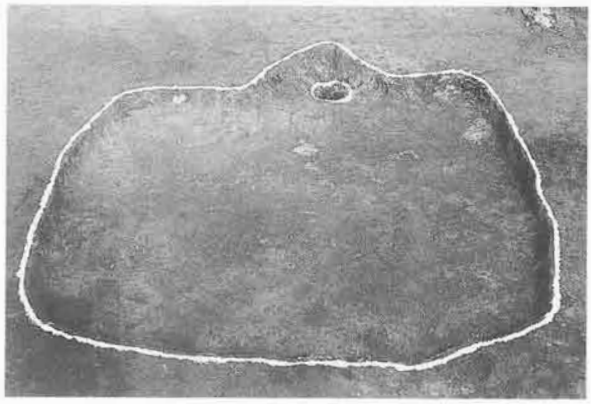
H－６号住居跡遺物出土状態（東から）

PL.4

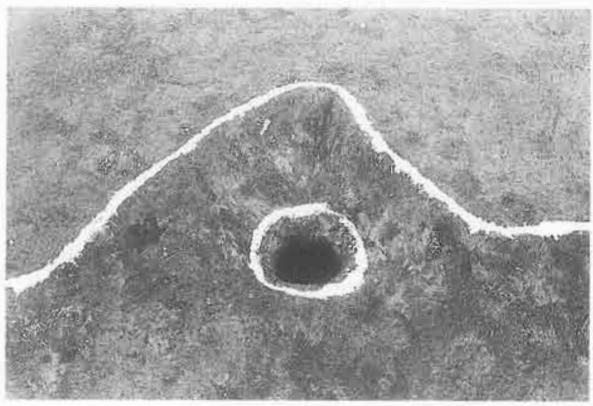


H－７号住居跡全景（西から）

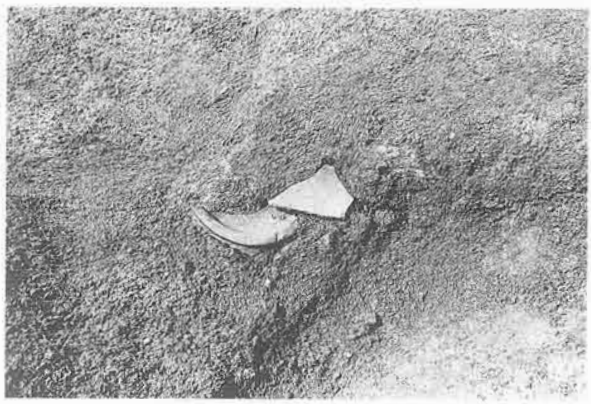
H－８号住居跡全景（南から）



H－９号住居跡全景（西から）

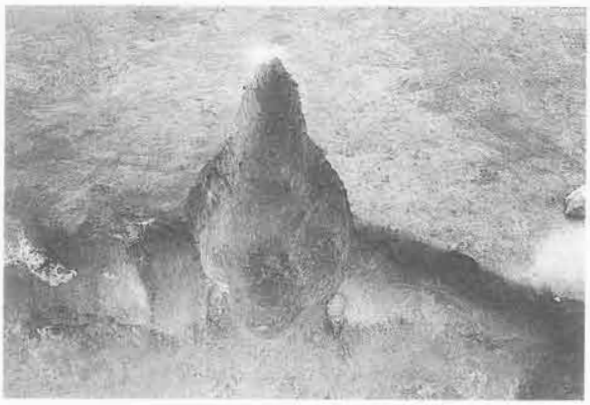


H－９号住居跡竈全景（西から）



H－９号住居跡遺物出土状態（東から）

H－10号住居跡全景（西から）



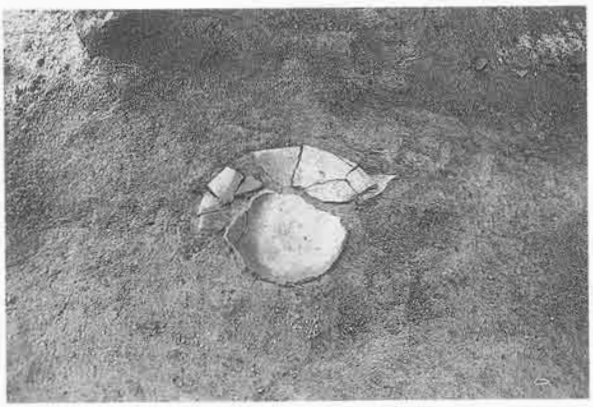
H－10号住居跡竈全景（西から）

H－10号住居跡遺物出土状態（北から）

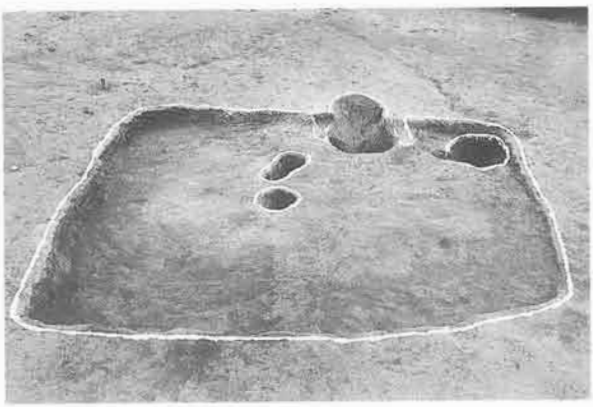
H－10号住居跡遺物出土状態（西から）

H－11号住居跡全景（南から）

H－11号住居跡竈全景（西から）

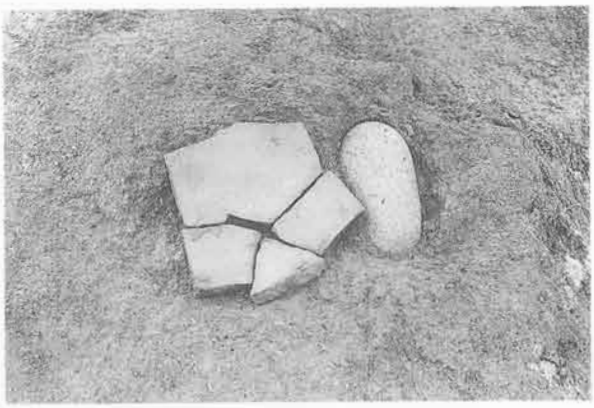


H－11号住居跡遺物出土状態（北から）



H－12号住居跡全景（西から）

H－12号住居跡竈全景（西から）

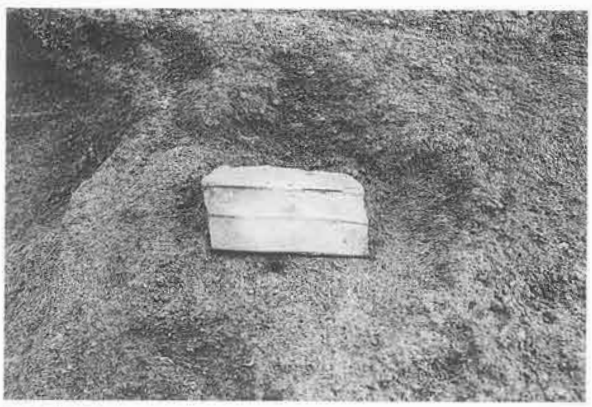


H－12号住居跡遺物出土状態（南から）

H－13号住居跡全景（西から）

PL.6

H－13号住居跡竈全景（西から）



H－13号住居跡遺物出土状態（西から）

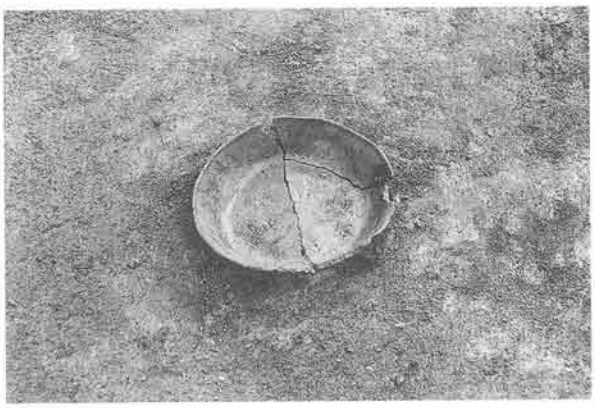
H－14号住居跡全景（西から）

H－14号住居跡竈全景（西から）

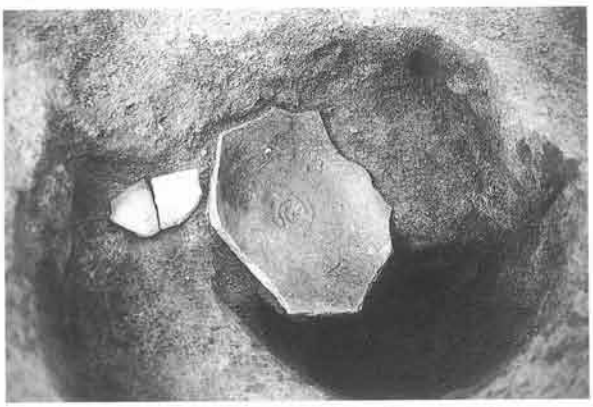
H－14号住居跡遺物出土状態（北から）

H－15号住居跡全景（西から）

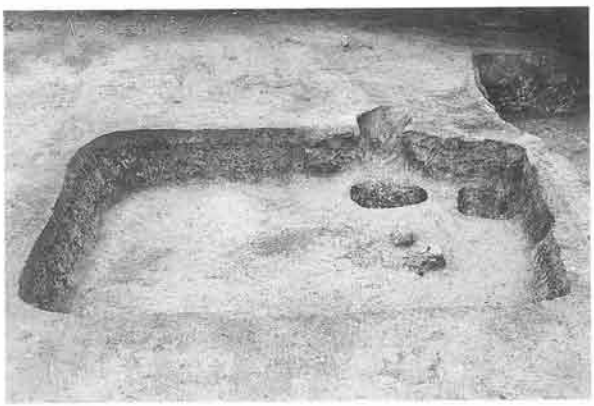
H－15号住居跡竈全景（西から）



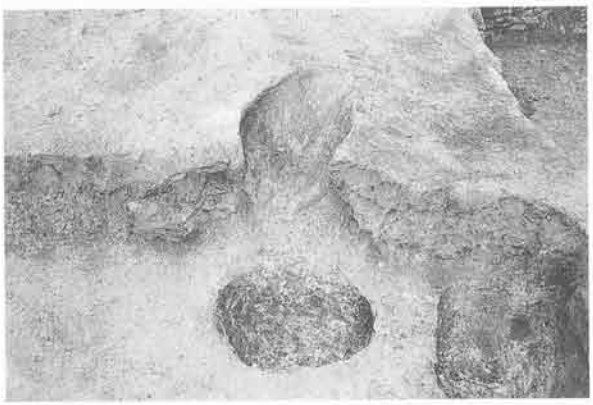
H－15号住居跡遺物出土状態（西から）



H－15号住居跡遺物出土状態（西から）



H－16号住居跡全景（西から）



H－16号住居跡竈全景（南から）

H－16号住居跡遺物出土状態（西から）

H－16号住居跡遺物出土状態（北から）

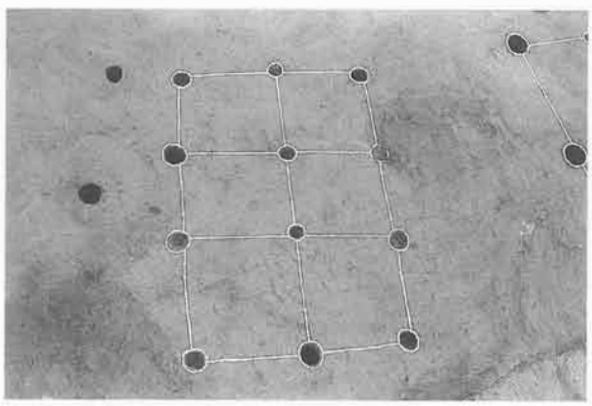
PL.8

H－17号住居跡全景（西から）

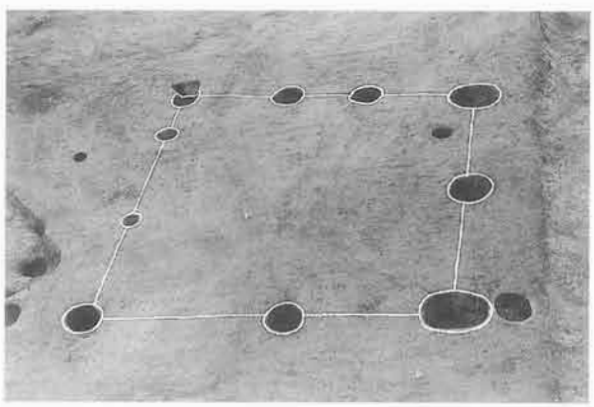
H－17号住居跡遺物出土状態（北から）

H－18号住居跡全景（西から）

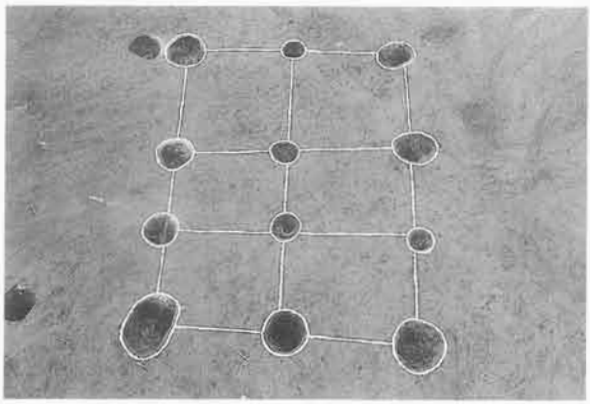
H－18号住居跡遺物出土状態（北から）



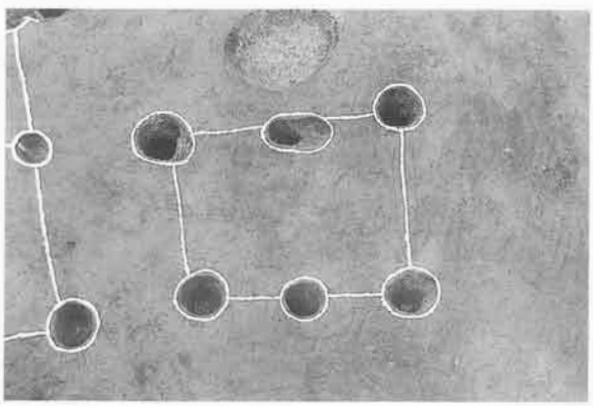
B－１号掘立柱建物跡全景（北から）



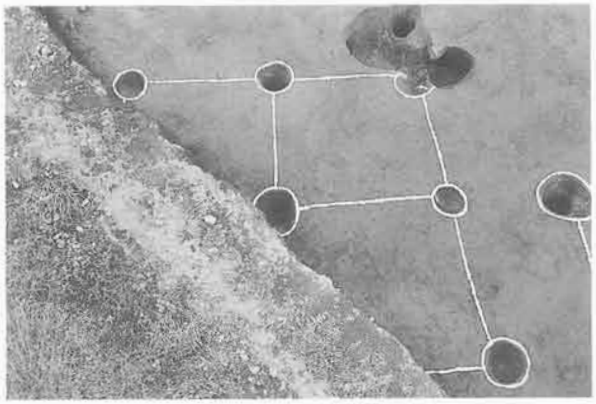
B－２号掘立柱建物跡全景（東から）



B－３号掘立柱建物跡全景（南から）



B－４号掘立柱建物跡全景（南から）

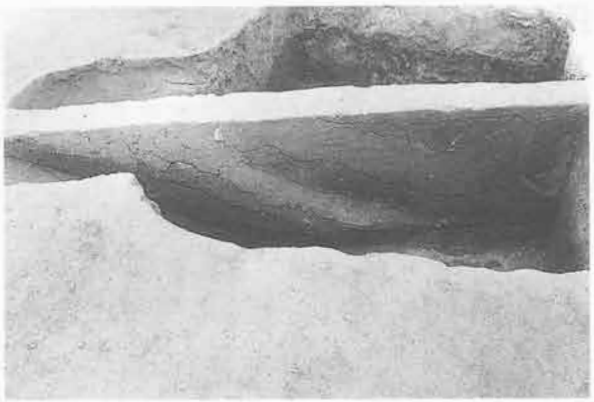


B－５号掘立柱建物跡全景（南から）

W－１・２号溝跡全景（南から）

W－３号溝跡全景（北から）

W－４号溝跡全景（西から）



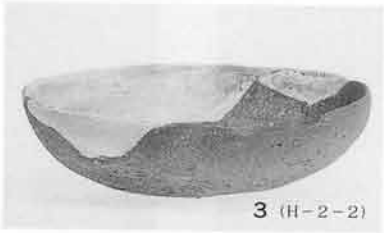
D－２号地下式坑ベルトセクション（東から）

D－２号地下式坑全景（北から）

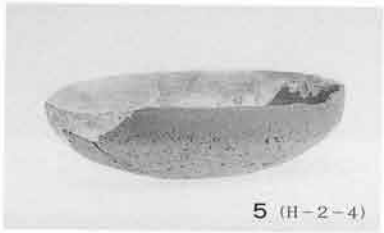
I－１号井戸跡全景（南から）

PL.10

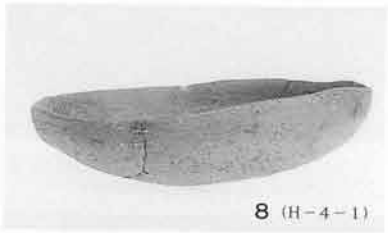
2 (H-2-1)


3 (H-2-2)

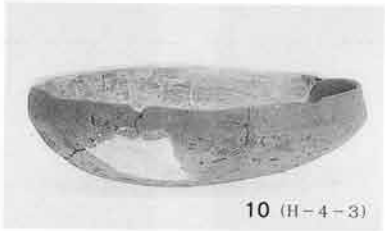
4 (H-2-3)

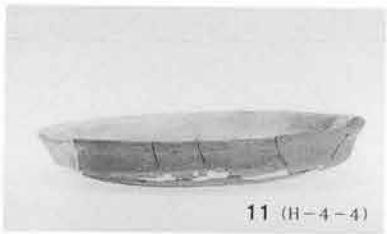

5 (H-2-4)

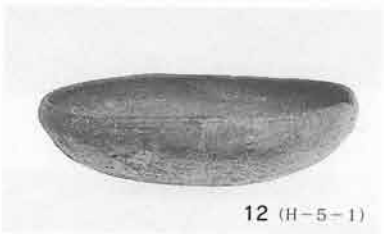
7 (H-3-1)

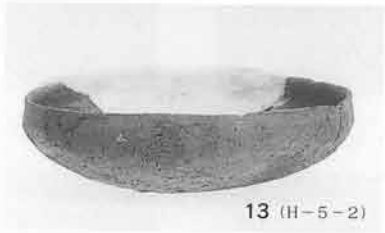

8 (H-4-1)

9 (H-4-2)


10 (H-4-3)


11 (H-4-4)

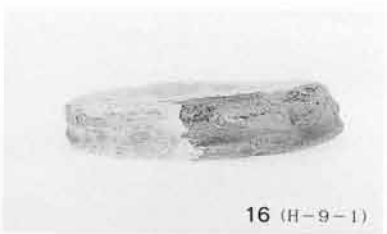

12 (H-5-1)


13 (H-5-2)

14 (H-5-3)

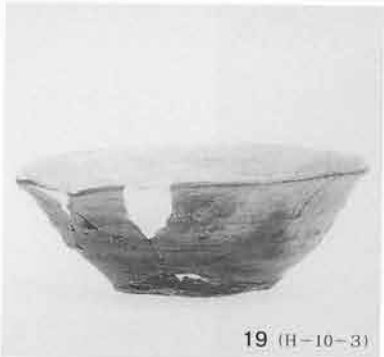
15 (H-6-1)

18 (H-10-2)


16 (H-9-1)

22 (H-10-6)

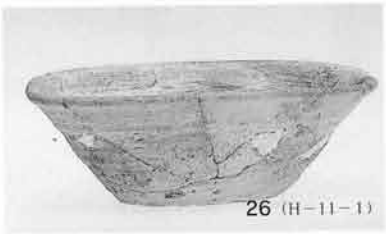
17 (H-10-1)


19 (H-10-3)

23 (H-10-7)

20 (H-10-4)

21 (H-10-5)



26 (H-11-1)

24 (H-10-8)

25 (H-10-9)

29 (H-12-1)

35 (H-15-1)

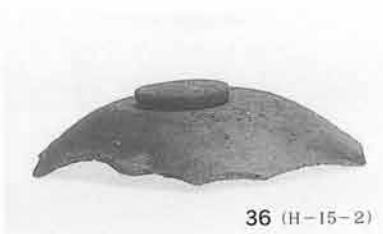
27 (H-11-2)

28 (H-11-3)

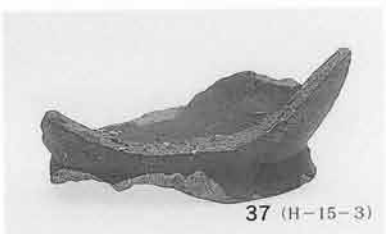
36 (H-15-2)

30 (H-12-2)

31 (H-13-1)



36 (H-15-2)



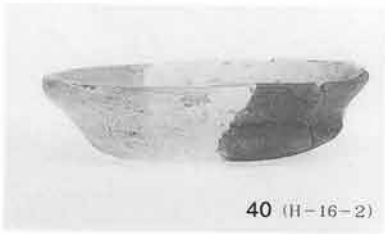
37 (H-15-3)

34 (H-14-1)

PL.12

32 (H-13-2)

39 (H-16-1)



40 (H-16-2)

41 (H-16-3)

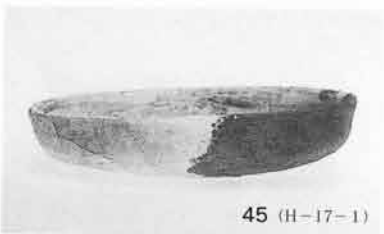
33 (H-13-3)

42 (H-16-4)

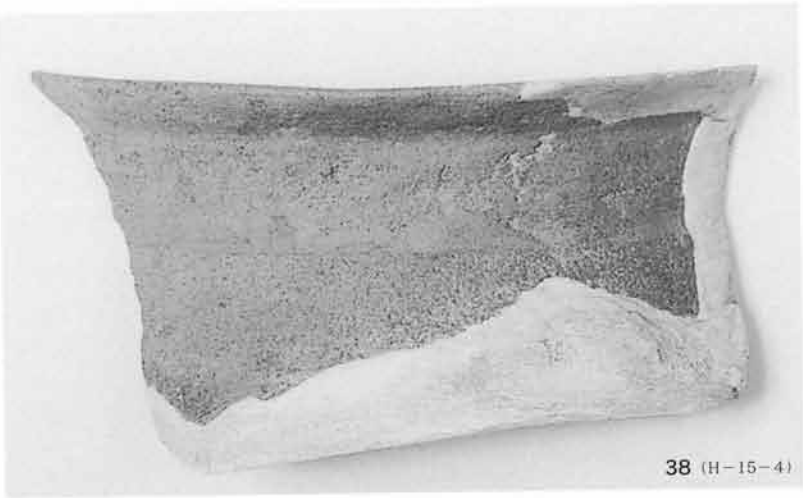
43 (H-16-5)

46 (H-18-1)

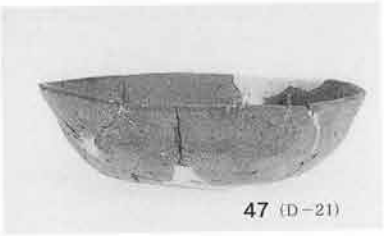
44 (H-16-6)



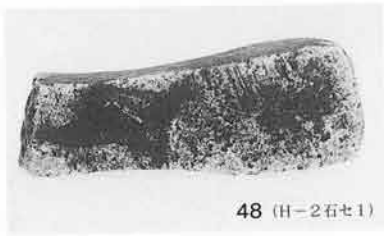
45 (H-17-1)



38 (H-15-4)



47 (D-21)



48 (H-2石七1)

五代深堀Ⅲ遺跡

Tab.10 五代深堀Ⅲ遺跡溝跡計測表

遺構名	位　置	長さ$ (m)	深さ$ (cm)	上幅 (cm)		方位	形状
				最大	最小		
W－1	X87～89　Y150～153	7.0	69	158	80	N－142°－E	楕円形
		5.4	84	134	118	N－15°－E	楕円形
		5.34	48	82	74	N－151°－E	楕円形
W－2	X85～87　Y153～156	16.16	113	134	86	N－28°－E	楕円形

Tab.11 五代深堀Ⅲ遺跡土坑・井戸跡計測表

遺構名	位　置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	出土遺物等
JD－1	X82　Y161	112	110	37	円　形	深鉢
JD－2	X82·83　Y157·158	122	110	12	楕円形	
JD－3	X84　Y156	112	104	48	楕円形	深鉢・打製石斧
JD－4	X84·85　Y156	100	100	78	円　形	深鉢
JD－5	X83　Y158·159	100	94	61	円　形	浅鉢・深鉢
JD－6	X83·84　Y159	102	90	27	楕円形	深鉢・石錐・敲石
JD－7	X84　Y157	96	78	27	楕円形	
JD－8	X84　Y158	140	130	53	楕円形	
JD－9	X85　Y154	92	90	39	円　形	石鏃
JD－10	X84·85　Y153	124	108	42	楕円形	深鉢
JD－11	X86　Y153·154	105	94	34	楕円形	深鉢
JD－12	X85　Y151	130	112	44	楕円形	深鉢・敲石
JD－13	X86　Y150	90	76	29	楕円形	
JD－14	X86　Y150	82	78	38	楕円形	深鉢
D－1	X94·95　Y153	222	170	89.5	楕円形	
D－2	X87　Y158	110	82	38	楕円形	
I－1	X95·96　Y157	176	170	126.5	円　形	
I－2	X92·93　Y153	175	150	(90.5)	楕円形	
I－3	X96　Y153	116	108	164	楕円形	

Tab.12 五代深堀Ⅲ遺跡落ち込み跡計測表

遺構名	位　置	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)	形状	出土遺物等
O－1	X86　Y157	2.7	1.1	38	楕円形	
O－2	X87·88　Y149～151	5.85	4.7	80	楕円形	深鉢・打製石斧・石製耳飾り

Tab.13 五代深堀Ⅲ遺跡柱穴計測一覧表

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状
P－1	X87　Y149	40	38	31.5	円　形	P－41	X91・92　Y157	50	44	20	楕円形
P－2	X92　Y149	34	32	42	円　形	P－42	X92　Y157	44	40	23.5	円　形
P－3	X93　Y153	50	40	23.5	円　形	P－43	X92　Y157	54	46	26	楕円形
P－4	X93　Y154	40	40	23.5	円　形	P－44	X92　Y157	40	38	15.5	円　形
P－5	X96　Y155	40	40	52.5	円　形	P－45	X92　Y156	40	38	37	円　形
P－6	X97　Y155	48	36	33	楕円形	P－46	X92　Y157	38	36	21	円　形
P－7	X98　Y155	50	40	38.5	楕円形	P－47	X93　Y157	30	30	36	円　形
P－8	X98　Y155	54	40	41.5	楕円形	P－48	X93　Y157	28	26	13.5	円　形
P－9	X98　Y156	50	45	34.5	円　形	P－49	X93　Y157	46	44	52	円　形
P－10	X97　Y156	146	56	75	楕円形	P－50	X93　Y157	30	30	16.5	円　形
P－11	X97　Y156	44	32	41	楕円形	P－51	X94　Y157・158	48	34	18.5	楕円形
P－12	X97・98　Y156	40	36	38	円　形	P－52	X94　Y158	40	35	26	円　形
P－13	X98　Y156	42	42	35	円　形	P－53	X94　Y158	50	46	25	円　形
P－14	X98　Y156	36	34	30	円　形	P－54	X95　Y157	40	30	20.5	楕円形
P－15	X98　Y156・157	48	40	24	不整形	P－55	X95　Y157	42	36	16.5	楕円形
P－16	X98　Y157	30	30	27.5	円　形	P－56	X95　Y157	30	36	11.5	楕円形
P－17	X98　Y157	42	30	23.5	楕円形	P－57	X95　Y157	44	38	23	楕円形
P－18	X97　Y157	40	30	22.5	楕円形	P－58	X95　Y157・158	46	44	25.5	円　形
P－19	X97　Y157	28	26	31.5	円　形	P－59	X95　Y158	58	43	26.5	楕円形
P－20	X98　Y157	26	26	34.5	円　形	P－60	X95・96　Y158	40	32	25	楕円形
P－21	X98　Y157	42	30	71.5	楕円形	P－61	X94　Y158	45	34	26.5	楕円形
P－22	X98　Y157	40	38	80	円　形	P－62	X94　Y159	80	52	37.5	楕円形
P－23	X97・98　Y157	50	42	48	楕円形	P－63	X95　Y159	80	70	32	楕円形
P－24	X98　Y157	40	22	45	楕円形	P－64	X90　Y157	40	32	28.5	楕円形
P－25	X98　Y157	40	40	26	円　形	P－65	X91　Y157	46	36	22	楕円形
P－26	X98　Y157	40	35	25.5	円　形	P－66	X91・92　Y157	42	30	21	楕円形
P－27	X98　Y157	54	45	39	楕円形	P－67	X92　Y157	48	32	26.5	楕円形
P－28	X97　Y157	28	25	20.5	円　形	P－68	X92　Y157	34	30	19.5	円　形
P－29	X98　Y157	36	30	30.5	楕円形	P－69	X92　Y158	76	64	34.5	楕円形
P－30	X98　Y158	36	24	27	楕円形	P－70	X92　Y158	48	30	24.5	楕円形
P－31	X98　Y158	34	24	29.5	楕円形	P－71	X92　Y158	34	30	16.5	円　形
P－32	X98　Y157・158	30	20	37.5	楕円形	P－72	X92　Y158	44	35	17	楕円形
P－33	X98　Y158	44	40	34.5	円　形	P－73	X92　Y159	52	46	42.5	楕円形
P－34	X84・85　Y153	38	30	31	楕円形	P－74	X91　Y159	32	30	22	円　形
P－35	X91　Y156	31	74	72	円　形	P－75	X91　Y159	40	32	29.5	楕円形
P－36	X91　Y156・157	50	35	12.5	楕円形	P－76	X91　Y159・160	54	40	19	楕円形
P－37	X91　Y157	68	66	20	円　形	P－77	X91　Y160	34	30	13.5	円　形
P－38	X91　Y157	44	38	26	楕円形	P－78	X91　Y160	74	58	20	楕円形
P－39	X91　Y157	28	26	37	円　形	P－79	X92　Y160	70	60	31.5	円　形
P－40	X91　Y157	28	28	36.5	円　形	P－80	X92　Y160	90	40	32	楕円形

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状
P－81	X91　Y160	54	50	30.5	円　形	P－103	X90　Y163	40	30	19	楕円形
P－82	X90　Y160	40	40	25	円　形	P－104	X90　Y163	40	40	36.5	円　形
P－83	X90　Y160	48	46	23	円　形	P－105	X89・90　Y163	60	40	33	楕円形
P－84	X90　Y161	34	22	12	楕円形	P－106	X89　Y163	40	30	15.5	楕円形
P－85	X91　Y160・161	66	50	17	楕円形	P－107	X90　Y163	70	60	21	楕円形
P－86	X91　Y161	44	44	15	円　形	P－108	X90　Y163	40	40	25	円　形
P－87	X90・91　Y161	48	44	16	円　形	P－109	X90　Y163	50	50	50	円　形
P－88	X91　Y161	42	34	16	楕円形	P－110	X90・91　Y162	66	32	50.5	楕円形
P－89	X91　Y161	56	26	19.5	楕円形	P－111	X91　Y162	60	50	49.5	楕円形
P－90	X86　Y160	52	50	19	円　形	P－112	X90　Y162・163	62	60	39.5	円　形
P－91	X87　Y161	60	50	32	楕円形	P－113	X90　Y162・163	60	60	38	円　形
P－92	X87　Y161	60	50	18	楕円形	P－114	X90　Y163	50	40	29.5	楕円形
P－93	X87　Y161	40	40	23	円　形	P－115	X90　Y163	50	40	17	楕円形
P－94	X86・87　Y162	32	32	18	円　形	P－116	X90　Y163	70	60	21	楕円形
P－95	X86・87　Y162	48	40	45	楕円形	P－117	X90　Y163	58	52	30	楕円形
P－96	X87　Y162	38	30	15.5	楕円形	P－118	X90　Y163	54	52	19.5	円　形
P－97	X88　Y162	94	65	26	楕円形	P－119	X91　Y163	34	32	35	円　形
P－98	X88　Y162	58	48	22	楕円形	P－120	X91　Y163	50	30	31	楕円形
P－99	X88　Y163	50	48	30	円　形	P－121	X91　Y163・164	56	46	60.5	楕円形
P－100	X90　Y162	40	34	18	楕円形	P－122	X91　Y164	40	32	28	楕円形
P－101	X89　Y162	80	58	18	楕円形	P－123	X91　Y164	50	40	49.5	楕円形
P－102	X89　Y163	68	62	26	円　形	P－124	X96　Y159	16	14	31	円　形

Tab.14 五代深堀Ⅲ遺跡縄文土器観察表

番号	出土位置	器形	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存 ⑤大きさ	文様・成型方法	備考
1	J－1－1	浅鉢	①細・中粒 ②良好 ③橙色 ④ほぼ完形 ⑤口径15.5、高さ10.0	無文。体部：外傾、上半部に器最大径。 口縁部：平口縁、内湾、口唇部に稜。内面煤付着。	勝坂
2	J－2－1	深鉢	①細粒 ②良好 ③褐色 ④口縁部～体部	口縁部：M字状隆帯で孔のあいたS字状突起、その下に把手。体部：M字状張付隆帯で区分、指圧文、LR斜縄文。	大木
3	J－3－1	深鉢	①細粒 ②良好 ③明赤褐色 ④口縁部飾り	ひょうたん形の隆帯、隆帯以外は無文。	大木
4	J－3－2	深鉢	①細粒 ②良好 ③褐色 ④体部	2本の隆帯が垂下、隆帯の外側に平行して沈線文、2～3″の幅でRL斜縄文。	
5	JD－1－1	深鉢	①細粒 ②良好 ③灰褐色 ④体部	体部：半裁竹管での隆起線文、雲母片。	焼町
6	JD－3－1	深鉢	①細粒 ②良好 ③褐色 ④体部1/3～底部一部	体部：LR斜縄文、波状の隆帯で口縁部と区分。底部：一部残存	勝坂
7	JD－4－1	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙色 ④口縁部	口縁部：爪形文、RL斜縄文、沈線文による隆起帯。	
8	JD－5－1	浅鉢	①細粒 ②良好 ③赤褐色 ④1/3 ⑤口径[22.6]高さ11.9	体部：外傾、上半部で大きく内湾、隆帯による波状の区画、卵形の突起は穿孔せず。口縁部：平口縁。底部：平底。内外面に磨き。	阿玉台
9	JD－5－2	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐色 ④口縁部	口縁部：隆線による円形区画内に3つの孔あき円環文。	大木
10	JD－6－1	深鉢	①細粒 ②良好 ③赤褐色 ④体部～底部	体部：RL斜縄文、筒形。内面煤付着。	
11	JD－10－1	深鉢	①細粒 ②良好 ③赤褐色 ④ほぼ完形 ⑤口径20.0高さ32.0	体部：円筒で、体部上部からラッパ状に開く。円筒部は4分割され、穿孔していない眼鏡状突起物からそれぞれ2本の隆帯で区画。うち3区画は隆帯上はRL斜縄文、隆帯で囲まれた部分はRL斜縄文施文後沈線、半裁竹管による刺突文。残り1区画は隆帯上は沈線文、隆帯で囲まれた部分は刺突文、半裁竹管による爪形文、沈線。円筒部上部の眼鏡状突起物を張付けの波状隆帯文でつなぐ。口縁部：平口縁、3分割され、分割された箇所は3つの山形の両脇に穿孔した突起物、3箇所のみ沈線のある隆帯文、交互刺突文、爪形文。他は磨き。	勝坂
12	JD－10－2	深鉢	①中粒 ②良好 ③赤褐色 ④3/4 ⑤口径18.7高さ29.3	体部：RL斜縄文、縦4分割に張付け浮線が体部中部より垂下。口縁部：隆帯による区画。口縁部：平口縁。	勝坂
13	JD－11－1	深鉢	①細・中粒 ②やや不良 ③暗灰黄色	半裁竹管での隆起線文。	焼町
14	JD－11－2	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい褐色 ④体部	体部：LR縦縄文、半裁竹管での2条の平行沈線文で区画。	
15	JD－11－3	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい褐色 ④口縁部～体部一部	口縁部：刻みのある隆帯による区画、隆帯渦巻文、把手。	大木
16	JD－11－4	深鉢	①細粒 ②良好 ③黄褐色 ④口縁部～体部	口縁部：半裁竹管文のある隆帯で体部と区画、刺突文。体部：RL斜縄文。	
17	JD－11－5	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙色 ④体部	体部：波状の隆帯、RL斜縄文、半裁竹管での隆起線文・刺突文。	
18	JD－11－6	深鉢	①細粒 ②良好 ③赤褐色 ④口縁部一部	口縁部：波状口縁か？眼鏡状の隆帯で穿孔あり。隆帯の周囲と隆帯上にへらなどによる刺突文、押引文。	
19	JD－12－1	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐色 ④体部一部	体部：RL斜縄文施文後、半裁竹管での隆帯文、張付けた隆帯文で渦巻文。眼鏡状突起で穿孔あり。	
20	JD－14－1	深鉢	①細粒 ②良好 ③明赤褐色 ④体部	体部：隆帯による区画、半裁竹管での刺突文で波状その間に細い沈線文。雲母片含。	勝坂
21	JD－14－2	深鉢	①細粒 ②良好 ③明赤褐色 ④口縁部	口縁部：張付けの隆帯に指圧文。	
22	O－2－1	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐色 ④口縁部～体部一部	体部：LR斜縄文、隆線文、波状の沈線。口縁部：平口縁。	
23	O－2－2	深鉢	①中粒 ②良好 ③赤褐色 ④口縁部飾り	口縁部：内側二重に眼鏡状隆帯、穿孔あり。外側欠損。	焼町
24	O－2－3	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐色 ④体部？	体部：斜状の隆帯重なる。	焼町
25	O－2－4	深鉢	①細粒 ②良好 ③明赤褐色 ④体部	体部：LR斜縄文、沈線文、浮線文。	阿玉台
26	O－2－5	深鉢	①細粒 ②良好 ③明赤褐色 ④頸部～体部	頸部：大きく外反、RL斜縄文、隆帯による体部との区画、隆帯の上下に半裁竹管での刺突文。体部：RL斜縄文、沈線文による区画。	勝坂
27	O－2－6	深鉢	①細粒 ②良好 ③明赤褐色 ④口縁部？	口縁部：刺突文、S字形。	
28	O－2－7	深鉢	①細粒 ②良好 ③赤褐色 ④体部	体部：LR縦・斜縄文、隆帯で頸部と区画、隆帯の周りは無文、隅丸方形の沈線文。	
29	O－2－8	深鉢	①細粒 ②良好 ③明赤褐色 ④体部	体部：隆帯と平行した等間隔の沈線文、結果隆起線文に刺突文。	焼町
30	W－1－1	深鉢	①細粒 ②良好 ③赤褐色 ④口縁部～体部	口縁部：平口縁、隆帯付把手、半裁竹管での刺突文。	
31	W－1－2	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい褐色 ④口縁部	口縁部：縁に刻み、二重の沈線に刺突文。	
32	W－2－1	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐色 ④口縁部	口縁部：櫛での細かな刺突文二重。	阿玉台
33	W－2－2	深鉢	①細粒 ②良好 ③明赤褐色 ④体部	体部：二重の円、内側は櫛での放射線状の押引文、外側は半裁竹管での刺突文。内側・外側ともに途中で文様の向きが変	勝坂
34	X85Y153	注口付き深鉢	①細粒 ②良好 ③明赤褐色 ④ほぼ完形 ⑤口径19.5大受口内径11.0小受口内径5.0高さ19.0	口縁部：平縁で内湾。大小2個の受口部より成る。小受口口縁部は、沈線文のある隆帯と無文帯で区画している。大受口口縁部は、LR斜縄文。体部：小受口側は自然に外傾。大受口側は、しまった頸部から底部に向かって膨らむ。沈線文のある隆帯で縦横に区画。無文帯、コンパス文、削り取り、爪形文、半裁竹管での刺突文といった様々な文様を施してい	
35	表採 1	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐色 ④体部	体部：半裁竹管での刺突文、沈線文。雲母片。	勝坂
36	表採 2	深鉢	①細粒 ②良好 ③明赤褐色 ④	体部：半裁竹管での刺突文、沈線文。雲母片。	勝坂

注) ①口径、器高の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（ ）、復元値を［ ］で示した。
②胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
③焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
④色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

Tab.15 五代深堀Ⅲ遺跡　石器観察表

番号	出土位置	器　種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備　　考
1	J－1	石鏃	2.3	5.1	0.3	1.1	チャート	平基無茎鏃　先端部一部欠損
2	J－1	打製石斧	11.0	4.5	1.6	106.0	黒色頁岩	刃部一部欠損
3	J－1	打製石斧	15.0	5.3	2.2	227.0	頁岩	基部一部欠損
4	JD－3	打製石斧	(5.9)	(1.3)	(0.4)	3.6	頁岩	基部一部欠損　短冊形
5	JD－6	石錐	10.5	8.1	4.1	450.0	黒色頁岩	先端部一部欠損
6	JD－6	敲石	2.2	1.6	0.4	1.0	輝石安山岩	楕円形　両面に敲打痕有
7	JD－9	石鏃	2.2	1.6	0.4	1.0	チャート	基無茎鏃　基部一部欠損
8	JD－12	敲石	10.5	8.1	4.1	615.0	輝石安山岩	楕円形　両先端部に使用痕有
9	O－2	石製耳飾り	(3.3)	1.0	1.7	5.5	蛇紋岩	1/6残存　研磨痕有
10	O－2	打製石斧	10.9	5.5	1.7	129.0	頁岩	基部一部欠損　撥形
11	O－2	打製石斧	9.3	4.7	1.6	98.0	頁岩	基部一部欠損　撥形
12	O－2	打製石斧	(10.2)	5.2	2.0	125.0	頁岩	基部・先端部一部欠損　短冊形
13	W－1	敲石	11.5	7.6	5.1	571.0	花崗岩	楕円形　両面及び側面に敲打痕有
14	W－1	敲石	13.3	5.0	3.8	407.0	安山岩	両先端部に使用痕有
15	X185Y159	石鏃	2.7	1.3	0.3	1.2	頁岩	平基無茎鏃　基部一部欠損
16	表採	石鏃	2.3	1.6	0.5	1.7	チャート	基無茎鏃
17	表採	石鏃	4.0	2.1	0.6	3.4	黒色頁岩	基無茎鏃　基部一部欠損
18	表採	打製石斧	13.7	7.7	1.9	205.0	頁岩	分銅形　先端部一部欠損

注）長さ・幅・厚さの単位はcmであり、重さの単位はｇである。現存値を（　）で示した。

Tab.16 五代深堀Ⅲ遺跡奈良・平安時代出土遺物観察表

番号	遺構番号／層位	器種	①口径 ②器高	①胎土 ②焼成③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
1	H－1－1 床直	坏 土師器	①[15.6] ② (3.5)	①細粒②良好 ③橙色④1/8	体部：外傾、篦削り。口縁部：外反、横撫で。底部：浅い丸底。内面撫で。	
2	H－2－1 床直	甕 土師器	①[21.0] ② 27.1	①細粒②良好 ③橙色④1/3	体部：上半部は横位、下半部は斜位・縦位の篦削り。口縁部：外反、横撫で。底部：平底か、一部残存。内面撫で。	内外面に煤付着
3	H－3－1 床直	碗 須恵器	①[14.8] ② (4.5)	①細粒②良好③灰白色 ④口縁部～体部1/8	轆轤整形。体部：緩やかに外傾、顕著な轆轤痕。口縁部：わずかに外反、轆轤撫で。底部欠損。	
4	H－4－1 埋土	碗 須恵器	①[14.0] ② (3.7)	①細粒②良好③にぶい黄橙色④口縁部～体部1/8	轆轤整形。体部：内湾気味、轆轤痕。口縁部：わずかに外反、轆轤撫で。底部欠損。	
5	H－5－1 床直	碗 須恵器	①[13.4] ② 4.5	①細粒②良好 ③浅黄色④1/2	轆轤整形。外傾、轆轤痕。口縁部：わずかに外反、轆轤撫で。底部：回転糸切り痕右回り。	内外面に煤付着
6	H－5－2 床直	甕 土師器	①[17.8] ② (7.8)	①細粒②良好③黒褐色 ④口縁部～頸部1/8	体部：上半部は横位、下半部は斜位・縦位の篦削り。口縁部：コの字くずれ、横撫で、指押さえ痕。底部欠損。内面撫で。	
7	H－6－1 床直	坏 土師器	① 12.8 ② 3.5	①細粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形	体部：外傾、篦削り、指押さえ痕。口縁部：わずかに外反、横撫で。底部：平底気味、篦削り。内面撫で、指押さえ痕。	内外面に煤付着
8	H－6－2 床直	坏 土師器	①[12.4] ② 3.1	①細粒②良好 ③橙色④1/3	体部：内湾、横撫で、指押さえ痕。口縁部：外反、横撫で。底部：平底気味、篦削り。内面撫で。	内外面に煤付着
9	H－6－3 床直	坏 須恵器	① 12.6 ② 3.4	①細粒②良好 ③暗青灰色④ほぼ完形	轆轤整形。体部：外傾、轆轤痕。口縁部：轆轤撫で。底部：回転糸切り痕右回り、粗雑。	
10	H－6－4 床直	碗 須恵器	① 15.4 ② 5.7	①細粒②良好 ③褐灰色④3/4	轆轤整形。体部：外傾、轆轤痕。口縁部：外反、轆轤撫で。底部：回転糸切り痕右回り、後篦撫で付高台。	底面にわずかな煤付着
11	H－6－5 床直	甕 土師器	① 19.5 ②(18.4)	①細粒②良好③赤色④ 口縁部～胴部 1／2	体部：上半部は横位、下半部は縦位・斜位の篦削り。口縁部：くの字、横撫で。内面撫で。	
12	H－7－1 床直	坏 土師器	①[12.4] ② 3.2	①細粒②良好 ③橙色④2/3	体部：膨らみながら内湾、篦削り後撫で、指押さえ痕。口縁部：外反、横撫で、交換点に弱い稜。底部：平底、篦削り。内面撫で。	内外面に煤付着
13	H－7－2 床直	坏 土師器	①[12.6] ② 3.5	①細粒②良好 ③にぶい赤褐色④1/3	体部：外傾、篦削り後撫で。口縁部：横撫で。底部：平底、篦削り後撫で、粗雑。内面撫で。	
14	H－7－3 床直	台付皿 須恵器	① 13.0 ② 3.0	①細粒②良好 ③褐灰色④3/4	轆轤整形。体部：外傾、顕著な轆轤痕、墨書「　」の文字。口縁部：轆轤撫で。底部：回転糸切り痕右回り、付高台。	
15	H－7－4 床直	碗 須恵器	① － ② (4.1)	①細粒②良好③橙色 ④底部1/2～体部	轆轤整形。体部：外傾、顕著な轆轤痕。底部：回転糸切り痕右回り、付高台。口縁部欠損。	
16	H－7－5 床直	甕 土師器	①[20.0] ② (9.1)	①細粒②良好③明赤褐色④口縁部～頸部1/4	体部：上半部は横位の篦削り。口縁部：コの字くずれ、横撫で、指押さえ痕。底部欠損。内面撫で。	
17	H－8－1 床直	坏 土師器	① 13.2 ② 3.2	①細粒②良好 ③明赤褐色④完形	体部：膨らみながら内湾、篦削り後横撫で、指押さえ痕。口縁部：端部短く直立、器肉薄、横撫で、交換点に稜。底部：浅い丸底、篦削り後横撫で、指押さえ痕。内面撫で。	内外面に一部煤付着
18	H－8－2 埋土	甕 土師器	①[11.6] ② 5.2	①細粒②良好③にぶい黄褐色④口縁部～体部1/3	体部：横位の篦削り。口縁部：外反、端部つまみ出し、横撫で。内面撫で。	
19	H－10－1 床直	碗 須恵器	① － ② (2.7)	①細粒②良好 ③淡黄色④底部	轆轤整形。体部、口縁部欠損。底部：墨書「明」、回転糸切り痕右回り、後付高台。	胎土に雲母片
20	H－11－1 床直	坏 土師器	① 11.9 ② 3.4	①細粒②良好③褐色 ④口縁部一部欠損	体部：内湾、篦削り。口縁部：外反、横撫で。底部：ほぼ平底、篦削り。内面撫で、指押さえ痕。	内外面に煤付着
21	H－11－2 床直	坏 須恵器	① － ② (2.5)	①細粒②良好 ③橙色④底部1/4	轆轤整形。体部：外傾、轆轤痕。底部：回転糸切り痕右回り。口縁部欠損。	
22	H－12－1 埋土	坏 土師器	①[13.4] ② 3.3	①細粒②良好 ③橙色④1/4	体部：内湾気味、篦削り、上半部後撫で。口縁部：内湾、横撫で。底部：ほぼ平底、篦削り。内面撫で、指押さえ痕。	
23	H－12－2 埋土	坏 須恵器	①[14.8] ② 3.4	①細粒②良好 ③灰白色④1/2	轆轤整形。体部：外傾、轆轤痕。口縁部：わずかに外反、轆轤撫で。底部：回転篦切り痕右回り。	
24	H－12－3 埋土	甕 土師器	①[14.4] ② (4.4)	①細粒②良好③明赤褐色④口縁部～頸部1/4	体部：縦位の篦削り、一部後撫で。口縁部：外反、端部つまみ出し、横撫で。内面撫で。	
25	H－13－1 床直	碗 須恵器	① － ② (2.9)	①細粒②良好 ③灰色④底部	轆轤整形。体部、口縁部欠損。回転糸切り痕右回り、後付高台。	
26	H－13－2 床直	蓋 須恵器	①[15.7] ② 3.3	①細粒②良好 ③灰白色④5/6	轆轤整形。天井部：膨らみを持ちながら傾斜、回転篦調整、轆轤痕。口縁部：垂直に折れる。扁平宝珠状つまみ、つまみ周辺部轆轤整形後横撫で。	
27	H－13－3 床直	蓋 須恵器	①[15.0] ② 3.3	①細粒②良好 ③灰色④2/3	轆轤整形。天井部：しぼみながら傾斜、回転篦削り、轆轤痕。口縁部：垂直に折れる。ボタン状つまみ、つまみ周辺部轆轤整形後横撫で。	
28	H－13－4 床直	甕 土師器	① 17.3 ②(18.2)	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/2	体部：上半部に器最大径、上部に横位、中央部に斜位、下部に縦位の篦削り。口縁部：外反、横撫で。底部欠損。内面撫で。	
29	H－13－5 床直	甕 土師器	①[21.8] ②(16.3)	①細粒②良好③明赤褐色④口縁部～体部1/3	体部：上半部は横位、下半部は斜位・縦位の篦削り。口縁部：くの字、横撫で。内面撫で。	
30	H－13－6 床直	甕 土師器	① 21.6 ②(15.4)	①細粒②良好 ③明赤褐色	体部：上部に横位、中央部に斜位の篦削り。口縁部：外反、横撫で。底部欠損。内面撫で。	
31	H－13－7 埋土	坏 土師器	① － ② －	①細粒②良好③明赤褐色④底部破片？	底部：ほぼ平底か、篦削り後撫で、墨書「　」の文字。体部、口縁部欠損。	
32	H－15－1 床直	碗 須恵器	① － ② (2.1)	①細粒②良好③灰白色 ④底部のみ	轆轤整形。底部：回転糸切り痕右回り、成形後付高台。口縁部、体部欠損。	胎土に雲母片
33	H－15－2 床直	甕 土師器	①[18.6] ② (6.4)	①細粒②良好③橙色 ④口縁部～頸部1/4	体部：横位の篦削り。口縁部：コの字、横撫で、一部篦撫で。内面撫で。	
34	H－16－1 床直	碗 須恵器	① － ② (2.1)	①細粒②良好 ③灰白色④底部のみ	轆轤整形。底部：回転糸切り痕右回り、付高台。口縁部、体部欠損。	
35	H－17－1 埋土	台付皿 須恵器	①[13.8] ② 3.0	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④2/3	轆轤整形。体部：外傾、墨書「　」の文字。口縁部：外反、轆轤撫で。底部：回転糸切り痕右回り、付高台。	
36	H－18－1 床直	坏 土師器	①[14.6] ② (3.2)	①細粒②良好 ③赤褐色④1/4	体部：緩やかに外傾、篦削り。口縁部：端部でわずかに外反、横撫で。底部：浅い丸底、篦削り後撫で。内面撫で。	
37	H－18－2 床直	坏 須恵器	①[13.8] ② 3.9	①細粒②良好 ③灰白色④1/2	轆轤整形。体部：内湾気味、轆轤痕。口縁部：轆轤撫で。底部：回転篦調整痕右回り。	

38	H－18－3 埋土	坏 須恵器	①[13.4] ② 3.3	①細粒②良好 ③灰色④1/2	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：わずかに外反、轆轤撫で。底部：回転篦調整痕右回り。	
39	H－19－1 床直	坏 須恵器	① 13.0 ② 3.4	①細粒②良好 ③橙色④3/4	轆轤整形。体部：内湾気味。口縁部：外反、轆轤撫で。底部：回転糸切り痕右回り。	白色石粒
40	H－20－1 床直	甕 土師器	① 19.6 ② 26.1	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/3	体部：上半部に器最大径、上部に斜位、中央部に縦位、下部に斜位の篦削り。口縁部：外反、横撫で、篦押さえ痕。底部：平底。内面撫で。体部1/2欠損。	外面に煤、粘土付着
41	H－21－1 床直	坏 土師器	① 11.4 ② 3.5	①細粒②良好 ③橙色④7／8	体部：内湾、篦削り。口縁部：外反、横撫で。底部：平底、篦削り後撫で。内面撫で。	
42	H－21－2 床直	坏 須恵器	①[13.1] ② 3.6	①細粒②良好 ③灰色④3/4	轆轤整形。体部：外傾、轆轤痕。口縁部：外反、轆轤撫で。底部：回転糸切り痕右回り。	
43	H－21－3 床直	塊 須恵器	① 14.1 ② 4.7	①細粒②良好 ③黄灰色④4/5	轆轤整形。体部：外傾、顕著な轆轤痕。口縁部：外反、轆轤撫で。底部：回転糸切り痕右回り、付高台。	口縁部に歪み
44	H－21－4 床直	塊 須恵器	① 14.1 ② 4.9	①細粒②良好 ③灰色④2/3	轆轤整形。体部：内湾気味、轆轤痕。口縁部：かえり、轆轤撫で。底部：回転糸切り右回り、付高台。	
45	H－21－5 床直	塊 須恵器	①[14.0] ② 6.1	①細粒②良好 ③黄灰色④1/2	轆轤整形。体部：内湾、顕著な轆轤痕。口縁部：わずかに外反、轆轤撫で。底部：回転糸切り痕右回り、付凹凸のある高台。	
46	H－21－6 床直	甕 土師器	①[19.4] ②(13.7)	①細粒②良好 ③明赤褐色④口縁部1/2	体部：上半部は横位、中央部は斜位・縦位の篦削り。口縁部：コの字ぎみ、横撫で。体部下半部、底部欠損。内面撫で。	
47	H－21－7 床直	甕 土師器	①[20.6] ②(15.2)	①細粒②良好③橙色 ④口縁部～体部1/4	体部：上半部は横位、下半部は斜位・縦位の篦削り。口縁部：コの字、横撫で、指押さえ痕。底部欠損。内面撫で。	
48	H－21－8 床直	甕 土師器	①[20.0] ② (6.5)	①細粒②良好③明赤褐色④口縁部～体部上半1/8	体部：横位の篦削り。口縁部：コの字、横撫で、指押さえ痕。底部欠損。内面撫で、指押さえ痕。	
49	H－23－1 床直	坏 土師器	① 13.2 ② 3.4	①細粒②良好 ③橙色④2/3	体部：内湾気味、篦削り。口縁部：端部短く直立、横撫で。底部：浅い丸底、篦削り。内面撫で。	
50	H－23－2 埋土	坏 須恵器	①[15.2] ② 3.5	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/2	轆轤整形。体部：内湾気味、顕著な轆轤痕。口縁部：交換点にわずかな稜。底部：回転篦削り痕右回り。	
51	H－23－3 床直	甕4土師器	①[22.2] ②(24.6)	①細粒②良好③橙色 ④口縁部～胴部2/3	体部：上半部は横位、中央部は斜位・縦位の篦削り。中央部上部に器最大径。口縁部：外反、横撫で。底部欠損。内面撫で。	内外面に煤付着
52	H－23－4 床直	甕 土師器	①[22.0] ② (6.0)	①細粒②良好③にぶい赤褐色④口縁部～頸部1/4	体部：横位の篦削り。口縁部：わずかに外反、横撫で。底部欠損。内面撫で。	
53	H－24－1 床直	甕 土師器	① 22.6 ② 29.4	①細粒②良好 ③明赤褐色④3/5	体部：上半部・下半部は横位、中央部は斜位・縦位の篦削り。中央部上部に器最大径。口縁部：外反、横撫で。底部：平底。一部残存。内面撫で。	外面に煤付着
54	H－24－2 床直	甕 土師器	①[22.0] ②(24.0)	①細粒②良好③にぶい赤褐色④口縁部～胴部1/5	体部：上半部は横位、中央部は斜位の篦削り。中央部に器最大径。口縁部：外反、横撫で。体部下半部、底部欠損。内面撫で。	内外面に煤付着
55	H－25－1 床直	坏 土師器	① 14.1 ② 4.2	①細粒②良好 ③橙色④完形	体部：内湾気味、篦削り。口縁部：端部短く直立、横撫で。底部：ほぼ平底、篦削り。内面撫で。	
56	H－25－2 床直	坏 土師器	①[12.7] ② 3.1	①細粒②良好 ③橙色④6/7	体部：外傾、篦削り。口縁部：端部内湾、横撫で。底部：ほぼ平底、篦削り。内面撫で。	内外面に煤付着
57	H－25－3 埋土	長頸壷 須恵器	① [6.0] ② (5.2)	①細粒②良好③オリーブ黒色④口縁部～頸部1/3	轆轤整形。口縁部：大きく外反。口頸部：短い	内外面に自然釉
58	H－26－1 床直	塊 須恵器	① 16.7 ② 6.5	①中粒②良好③灰黄色 ④口縁部1部欠損	轆轤整形。体部：内湾気味、顕著な轆轤痕。口縁部：わずかに外反、轆轤撫で。底部：回転糸切り痕右回り、周辺部篦調整。	内面に煤付着
59	H－26－2 床直	塊 須恵器	①[17.2] ② 6.9	①細粒②良好 ③灰白色④1/2	轆轤整形。体部：直線的、顕著な轆轤痕。口縁部：轆轤撫で。底部：回転糸切り痕右回り後回転篦削り、付高台。	
60	H－26－3 床直	塊 須恵器	① － ② (1.7)	①細粒②良好 ③灰白色④底部のみ	轆轤整形。底部：回転篦削り、付高台。体部、口縁部欠損。	内側に灰釉
61	H－26－4 床直	台付甕 土師器	① － ② (3.3)	①細粒②良好③にぶい赤褐色④台部1/2	轆轤整形。台部：低く大きなハの字状、台端部撫で。	外面に煤一部付着
62	H－26－5 床直	甕 土師器	①[24.2] ②(22.7)	①細粒で中粒含む ②良好③にぶい褐色 ④口縁部～胴部1/4	体部：上半部は横位、中央部は斜位・縦位の篦削り。中央部上部に器最大径。口縁部：コの字、横撫で。体部下半部、底部欠損。内面撫で。	内外面に煤付着

注）①層位は、床面より10cm以内の層位からの検出を「床直」とし、10cmを超える層位からの検出を「埋土」とした。
②口径、器高の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（ ）、復元値を［ ］で示した。
③胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

Tab.17 五代深堀Ⅲ遺跡　石製品観察表

番号	出土位置	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備　考
1	H－6	紡錘車	3.3	2.8	2.3	35.4	凝灰岩	一部欠損
2	H－13	砥石	(4.6)	(4.3)	(3.5)	110.3	凝灰岩	一部欠損
3	H－13	砥石	(6.5)	(3.8)	(3.3)	99.5	凝灰岩	一部欠損
4	H－25	紡錘車	4.4	3.2	1.1	33.0	蛇紋岩	一部欠損　研磨痕有
5	H－25	紡錘車	4.8	3.1	1.3	50.5	蛇紋岩	一部欠損　全面研磨痕有

注）長さ・幅・厚さの単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（　　）で示した。

Tab.18 五代深堀Ⅲ遺跡　土製品観察表

番号	出土位置	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	備　考
1	H－16	紡錘車	5.3	4.1	1.6	48.4	一部欠損
2	H－16	竈脚部	10.6	2.9	2.0	131.0	一部欠損

注）長さ・幅・厚さの単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（　　）で示した。

Tab.19 五代深堀Ⅲ遺跡鉄製品観察表

番号	出土位置	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	備　考
1	H－1	鉄鏃	(5.9)	2.2	0.3	10.4	
2	H－25	鎖状金具		2.6	0.6	10.6	
3	H－25	紡錘車		(4.5)	0.3	25.6	

注）長さ・幅・厚さの単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（　　）で示した。

2 ま と め

今回の調査の結果、五代深堀Ⅲ遺跡では、縄文時代の竪穴住居跡３軒、奈良時代～平安時代の住居跡29軒、掘立柱建物５軒、溝跡２条、縄文土坑14基、土坑２基、落ち込み２基、井戸跡３基、柱穴124基を検出した。大きく縄文時代中期と、奈良・平安時代の２つに分けてまとめをしていく。

(1) 縄文時代中期

本遺跡では、縄文時代の竪穴住居跡３軒、縄文の土坑14基、溝２条、落ち込み跡２基が検出された。これらは調査区の西側である。出土した遺物はほとんどが縄文時代中期中葉の勝坂式、阿玉台式、大木式、焼町式などである。

３軒の住居跡は、調査区西側に偏在している。この中で大量に遺物が出土したのは、Ｊ－１住居跡である。地床炉が検出され、床面からはほぼ完形の勝坂式の浅鉢、石鏃、打製石斧が出土した。また、他の２つの住居跡からも、東北地方の大木式等の影響を受けた土器を主体に遺物が出土した。本遺跡の北西側に位置する五代伊勢宮Ⅳ遺跡および西側に位置する五代伊勢宮Ⅵ遺跡の竪穴住居からの出土物に含まれるものであり、南北約100ｍ、東西約80ｍの環状集落が縄文時代中期に形成されていたと見ることができる。

土坑14基のうち、ＪＤ－10では、勝坂式の深鉢がほぼ完形で2点出土した。また、ＪＤ－９は集石土坑であり、ＪＤ－11は集石と土器を伴った土坑であった。これらは土坑墓である可能性が高い。過去調査の五代伊勢宮Ⅳ・Ⅵ遺跡の土坑群も含めて、環状を呈する集落（住居跡）の内側に土坑のほとんどが位置している。また、これら遺構の北東隅に径約５ｍの大きな落ち込み跡Ｏ－２が検出され、阿玉台式、勝坂式、焼町といった多種多量の土器片や打製石斧、石製耳飾り等が出土した。これは巨大な大木がこの時代に存在し、周りで祭祀などが行われていた証なのかもしれない。さらに縄文時代の遺構の東側には南北に溝が検出された。遺物や埋土から縄文時代の集落区分としての溝の可能性がある。

特筆すべき遺物は、グリッドＸ85Ｙ153から出土した注口付き深鉢形土器である。包含層から押しつぶされた形で埋まっていた。一般の注口土器よりも注口部が肥大しており、勝坂式である。コンパス文、削り取り、爪形文、半裁竹管での刺突文等、実に様々な文様が施された土器である。類例として、長野県棚畑遺跡、山梨県甲ッ原遺跡などがあるが、残念ながら本遺物と同様な形を探すことができなかった。

本遺跡出土の縄文土器の特徴としては、勝坂式を中心として、阿玉台式、大木式、焼町などが流入したことが挙げられる。これは、関東西部、東北南部、信越といった地域との交流や移動があったことを示すものといえる。

(2) 奈良・平安時代

奈良時代以降の遺構では、８世紀後半のものと考えられる竪穴住居が６軒、９世紀前半が10軒、９世紀後半が３軒、10世紀前半が６軒、10世紀後半が１軒検出された。他に時期を限定するまでには至らなかったが、８世紀代と考えられる住居跡が２軒、同様に９世紀代１軒で、奈良平安時代の住居跡は合計29軒となった。竈を伴う住居は22軒であり、竈位置はＨ－14の東壁中央を除いては、すべて東壁中央南寄りであった。竈の主軸方向はＮ－61°－Ｅ～Ｎ－114°－Ｅであった。

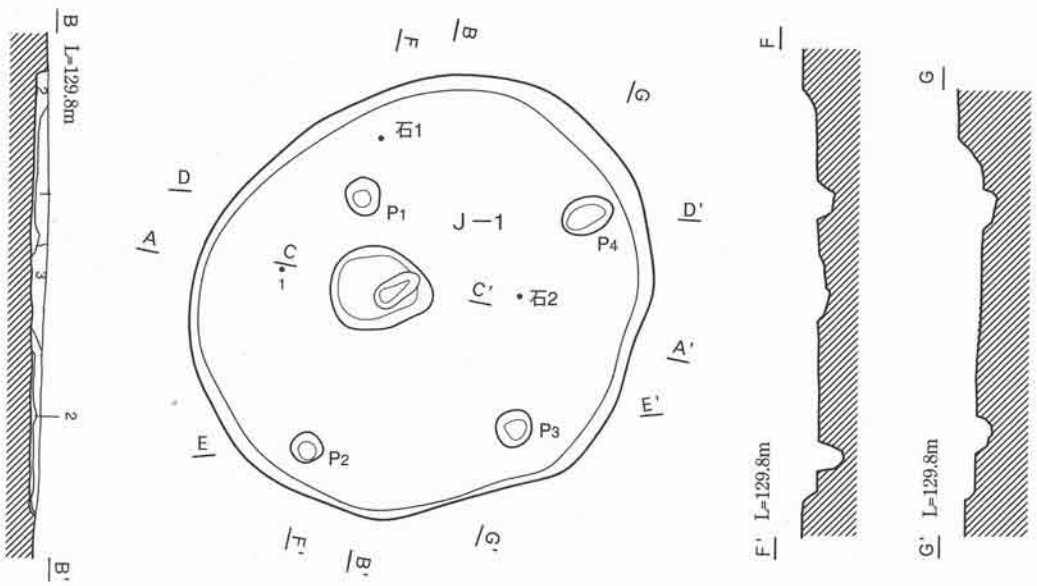
８世紀後半の住居は調査区のほぼ中央に東西方向に２列に並んでいる。住居面積も平均値は15.26㎡と比較的大きめである。Ｈ－18やＨ－13号竪穴住居跡では、底面が10㎝四方、長さ30㎝ほどの凝灰岩を使って、袖を構築している。特にＨ－13号竪穴住居跡では、両袖石と袖石に渡す石が３個（うち１個は２個に割れていた）検出され、凝灰岩を使って、精密なつくりを持った竈が構築されていたことが分かる。またこの住居からは、底部外面に、

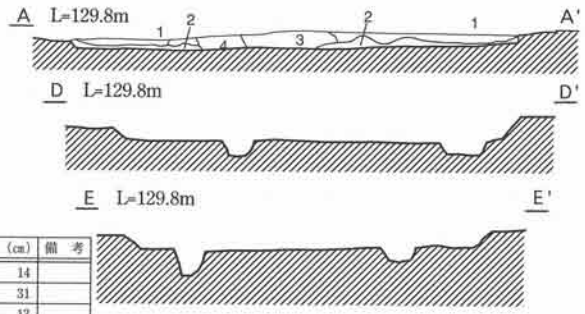
墨書「缶」と書かれた坏が出土した。五代江戸屋敷遺跡や芳賀東部団地遺跡IIの出土例からは、律令国家の完成後がこの８世紀後半であり、すでに文字を必要とする社会に入っていたことが窺える。Ｈ－23号竪穴住居跡では、竈の周辺からまとまって甕が２個体検出された。Ｂ－１号掘立柱建物跡は、この時期のＨ－13号竪穴住居跡の４ｍ程東にあり、他の住居跡との間隔あるいは主軸の方向からいっても、この時期に建てられたものと考えられる。

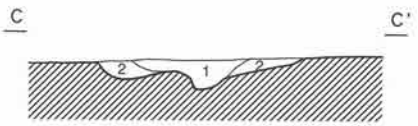
９世紀に入ると、調査区の周辺部に竪穴住居跡が点在するようになる。９世紀第１・２四半期の平均住居面積は11.48㎡と８世紀後半時期と比べ、若干小さくなってくる。Ｈ－25号竪穴住居からは、大量の炭化物と焼土が検出されており、この住居は焼失住居と考えられる。その理由は次の２点である。１点目は、炭化物が木材片の形で検出されており、木材片の向きを精査したところ、おおよそ住居の中央へ向かっている状態であり、つまりは木材片は垂木が焼失したものではないかということである。２点目は、炭化物の残っているところに、焼土が広がっており、住居（推定範囲）のおよそ４分の１に達していることである。さらに、この住居跡からは、鉄製紡錘車、鉄製鎖状金具が出土した。さらにほぼ同時期のＨ－１から鉄鏃、Ｈ－20・27から鉄滓がそれぞれ出土している。具体的な鍛冶工房跡は本調査区からは検出されなかったが、西隣の五代伊勢宮Ⅵ遺跡から鍛冶工房跡が検出されていることから、同じ集落内で鉄製品の使用が９世紀前半には広まってきたことが分かる。また、Ｈ－７号竪穴住居跡からは、墨書文字「西」が書かれた台付皿が出土しており、文字使用が広まっていったことが窺える。

９世紀第３・４四半期の平均住居面積は、9.98㎡と９世紀前半に比べてほんの少し小さくなる。Ｈ－26号竪穴住居跡からは、竈内北側に石の支柱が検出された。Ｂ－３・４・５号掘立柱建物跡は、９世紀代のＨ－26・27・28号竪穴住居跡に囲まれるように位置している。掘立柱建物跡同士の間隔が狭いので、３軒同時とは想定できないが、９世紀代の可能性が高いといえる。

10世紀前半の住居は８世紀後半の住居跡とほぼ同じところ、つまり調査区のほぼ中央に位置する。平均住居面積は11.77㎡と若干大きくなる。Ｈ－６号竪穴住居跡からは、焚口付近の床が窪んだ煙道が急勾配の竈が検出されている。袖には凝灰岩を使っている。隣接するＨ－５号竪穴住居跡と共通していえることだが、床面までの深さは60cm以上であった。また、Ｈ－21号竪穴住居跡では、ひょうたん形の竈で、大きい石を使って袖を構築していた。この住居で特筆すべき点は、可動式の竈の脚部が出土したことである。これは向かって左側の脚部であり、欠損しているが上面は釜を掛ける穴があったと想定される。脚部は楕円形あるいは円形に側面の一部を切り取って焚口とし、その縁に炎よけの庇を貼り付けている。制作時の様子が貼り付け痕から垣間見ることができる。またこの時期にも、墨書土器が出土している。Ｈ－10号竪穴住居跡からは底部外面に「明」の文字が書かれた須恵器塊、Ｈ－17号竪穴住居跡からは体部に「西」の文字が書かれた台付皿が出土した。文字の使用が続いていたことになる。Ｂ－２号掘立柱建物跡は、10世紀代のＨ－５・15・21号住居跡に囲まれるように位置している。これら竪穴住居跡との間隔や主軸の傾きなどから10世紀代可能性が高いといえる。そして、10世紀第３四半期と考えられるＨ－15号竪穴住居跡であり、それ以降の遺構は検出されていない。







J－1号住居跡　炉セクション

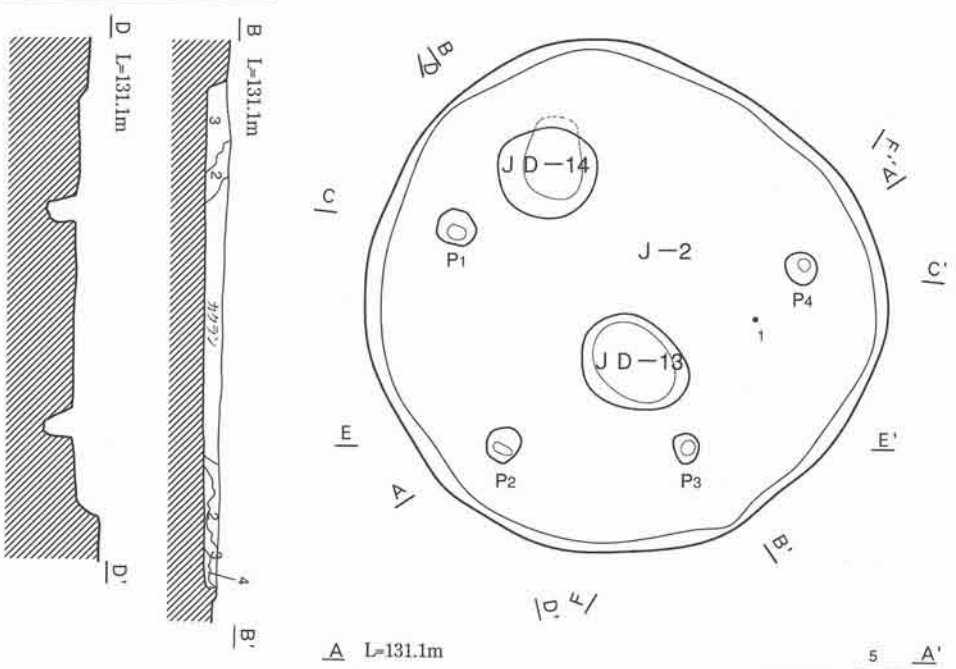
1	暗褐色	◎△　As-C、Hr-FA少量。焼土粒極少。
2	褐色	○○　ローム主体。焼土粒極少。

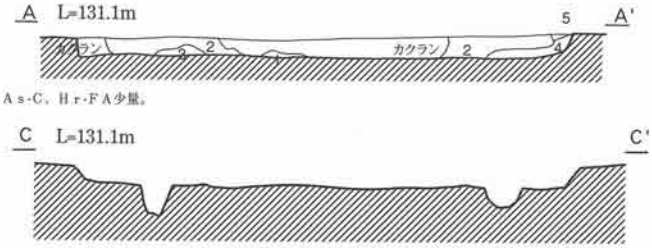
J－1号住居跡　ベルトセクション

1	にぶい黄褐色	◎×　ローム粒、白色軽石少量。炭化物極少。
2	褐色	◎○　ローム粒、白色軽石少量。
3	暗褐色	○×　As-C、白色軽石。
4	暗褐色	○×　As-C、白色軽石少量。炭化物極少。

J－1号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	円　形	30	28	14	
P2	円　形	28	25	31	
P3	円　形	32	30	13	
P4	楕円形	30	30	13	





J－2号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色	○×　As-C、Hr-FA少量。
2	褐色	○×　ローム粒、ロームブロック、As-C、Hr-FA少量。
3	褐色	○○　ロームブロック少量。
4	黄褐色	◎△　ローム主体。
5	にぶい黄褐色	○×　ローム主体。

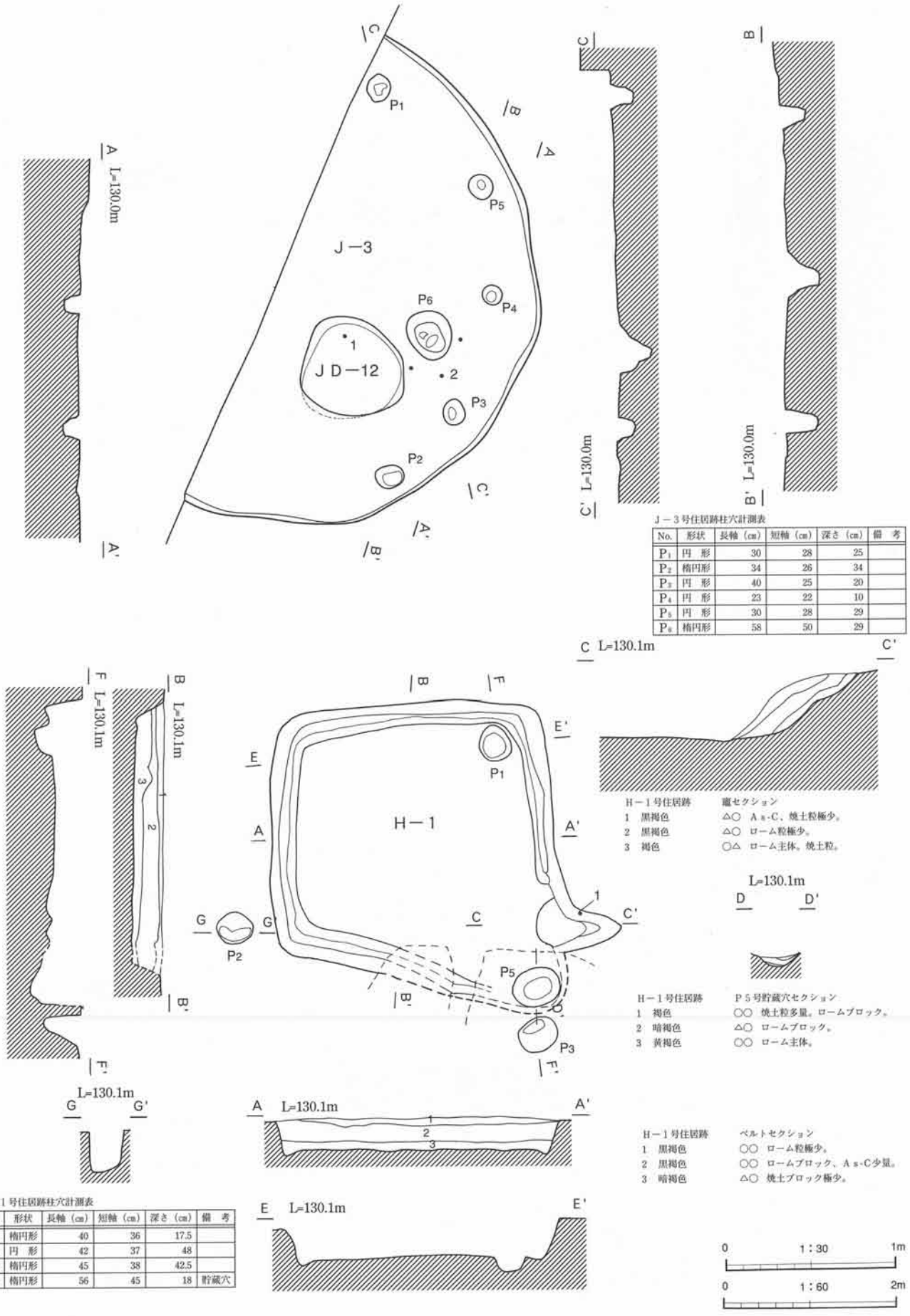
J－2号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	円　形	32	28	16	
P2	円　形	30	26	13	
P3	円　形	24	20	22	
P4	円　形	28	24	26	

0　1：30　1m

0　1：60　2m

Fig.30　J－1・2号住居跡



J－3号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	円　形	30	28	25	
P_2	楕円形	34	26	34	
P_3	円　形	40	25	20	
P_4	円　形	23	22	10	
P_5	円　形	30	28	29	
P_6	楕円形	58	50	29	

H－1号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	楕円形	40	36	17.5	
P_2	円　形	42	37	48	
P_3	楕円形	45	38	42.5	
P_5	楕円形	56	45	18	貯蔵穴

Fig.31　J－3・H－1号住居跡、JD－12号土坑

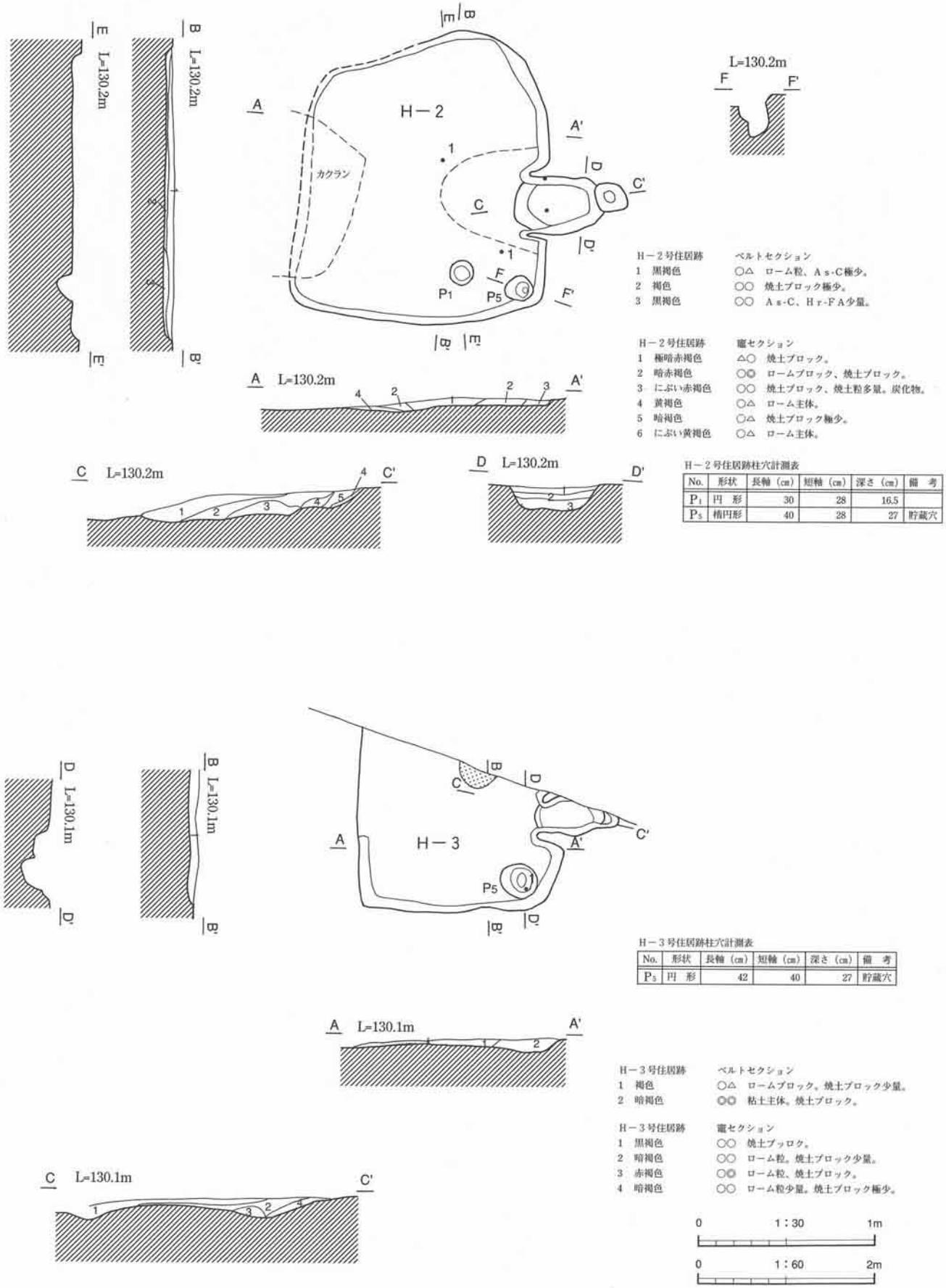
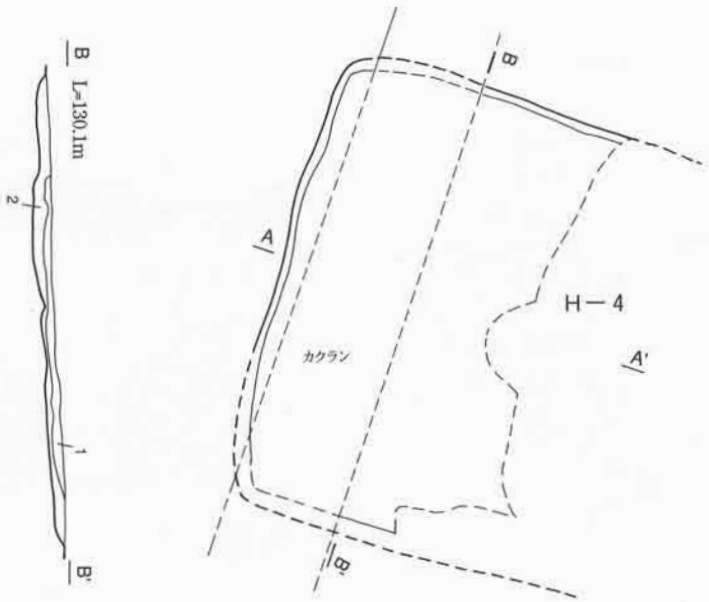
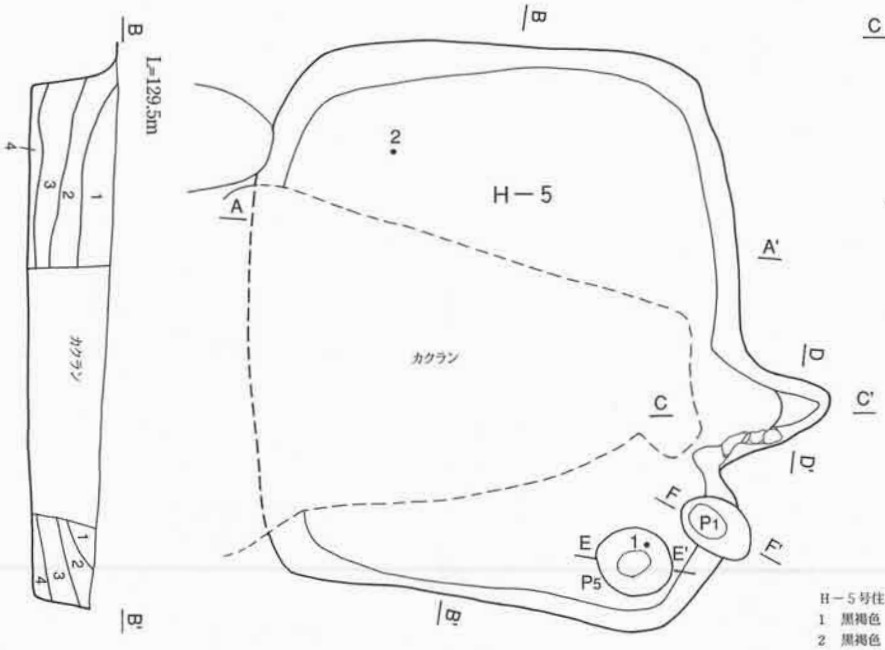
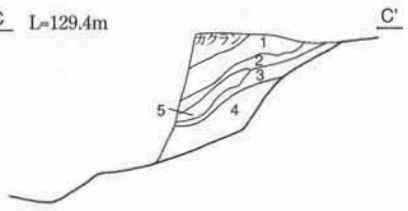


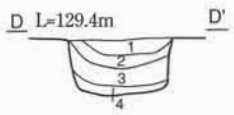
Fig.32　H－2・3号住居跡

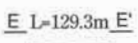


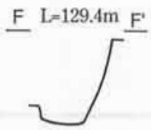
H－4号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐色　○○　As-C、Hr-FA極少。
2　暗褐色　○○



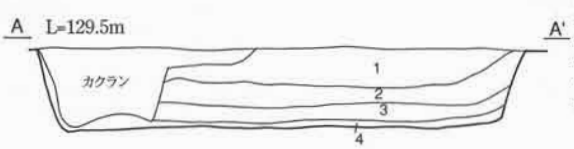








H－5号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐色　○○　As-C、Hr-FA。ローム粒少量。
2　黒褐色　○○　As-C、Hr-FA。ローム粒少量。焼土粒極少。
3　暗褐色　△○　As-C、Hr-FA。ローム粒。ロームブロック少量。
4　暗褐色　○○　ロームブロック。焼土粒、炭化物少量。



H－5号住居跡　遺セクション
1　暗赤褐色　××　焼土ブロック多量。Hr-FA。
2　褐色　△△　ロームブロック。Hr-FA、焼土ブロック少量。
3　暗赤褐色　○○　ロームブロック、As-C、Hr-FA、焼土ブロック、粘土。
4　暗赤褐色　△△　ロームブロック、焼土ブロック。
5　暗赤褐色　○○　ロームブロック、As-C、Hr-FA、焼土ブロック少量。

H－5号住居跡　P5号貯蔵穴セクション
1　黒褐色　○○　ローム粒、As-C、Hr-FA、粘土ブロック少量。
2　黒褐色　△○　ロームブロック、焼土ブロック少量。As-C、Hr-FA極少。
3　暗褐色　△◎　ローム粒、ロームブロック、焼土ブロック。

H－5号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	楕円形	62	42	71	
P_5	楕円形	62	54	28.5	貯蔵穴

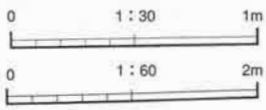
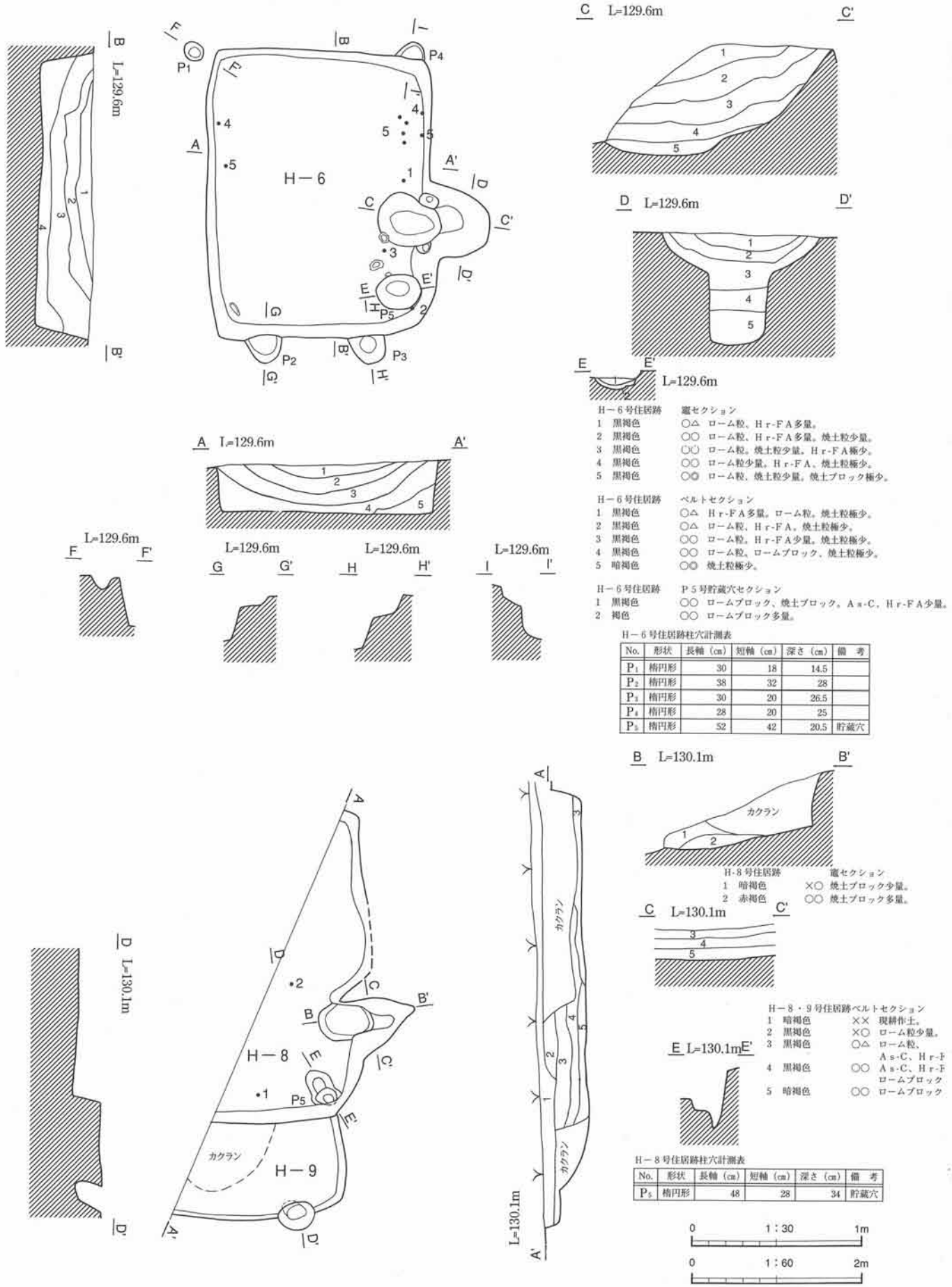


Fig.33　H－4・5号住居跡



H－6号住居跡　竈セクション
1　黒褐色　○△　ローム粒、Hr-FA多量。
2　黒褐色　○○　ローム粒、Hr-FA多量。焼土粒少量。
3　黒褐色　○○　ローム粒。焼土粒少量。Hr-FA極少。
4　黒褐色　○○　ローム粒少量。Hr-FA、焼土粒極少。
5　黒褐色　○◎　ローム粒、焼土粒少量。焼土ブロック極少。

H－6号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐色　○△　Hr-FA多量。ローム粒。焼土粒極少。
2　黒褐色　○△　ローム粒、Hr-FA、焼土粒極少。
3　黒褐色　○○　ローム粒。Hr-FA少量。焼土粒極少。
4　黒褐色　○○　ローム粒。ロームブロック、焼土粒極少。
5　暗褐色　○◎　焼土粒極少。

H－6号住居跡　P5号貯蔵穴セクション
1　黒褐色　○○　ロームブロック、焼土ブロック。As-C、Hr-FA少量。
2　褐色　○○　ロームブロック多量。

H－6号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	楕円形	30	18	14.5	
P2	楕円形	38	32	28	
P3	楕円形	30	20	26.5	
P4	楕円形	28	20	25	
P5	楕円形	52	42	20.5	貯蔵穴

H-8号住居跡　竈セクション
1　暗褐色　×○　焼土ブロック少量。
2　赤褐色　○○　焼土ブロック多量。

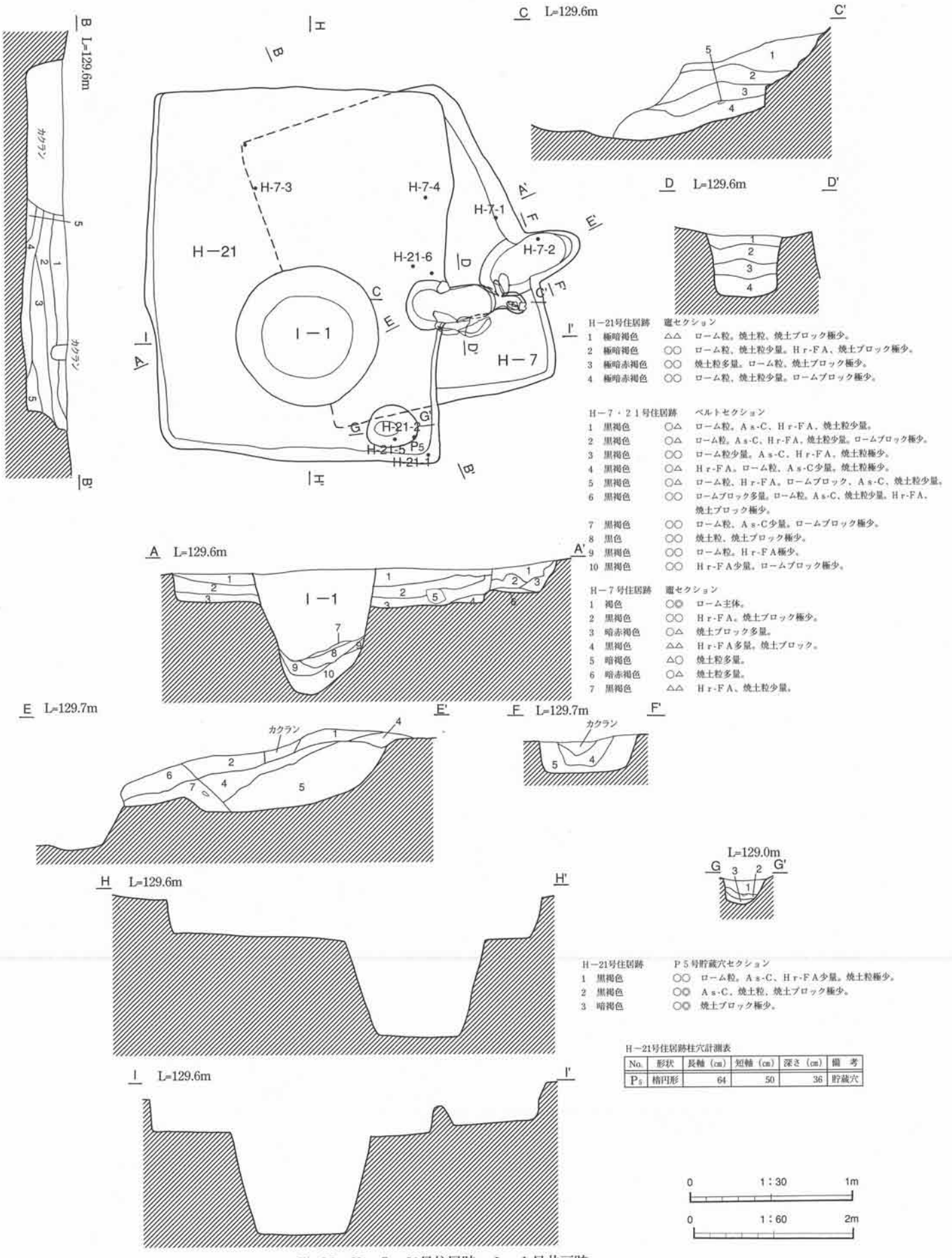
H－8・9号住居跡ベルトセクション
1　暗褐色　××　現耕作土。
2　黒褐色　×○　ローム粒少量。
3　黒褐色　○△　ローム粒、As-C、Hr-F
4　黒褐色　○○　As-C、Hr-F ロームブロック
5　暗褐色　○○　ロームブロック

H－8号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P5	楕円形	48	28	34	貯蔵穴

0　1：30　1m
0　1：60　2m

Fig.34　H－6・8・9号住居跡



H－21号住居跡　竈セクション

1	極暗褐色	△△	ローム粒。焼土粒、焼土ブロック極少。
2	極暗褐色	○○	ローム粒、焼土粒少量。Ｈｒ-ＦＡ、焼土ブロック極少。
3	極暗赤褐色	○○	焼土粒多量。ローム粒、焼土ブロック極少。
4	極暗赤褐色	○○	ローム粒、焼土粒少量。ロームブロック極少。

Ｈ－７・２１号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色	○△	ローム粒。Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ、焼土粒少量。
2	黒褐色	○△	ローム粒。Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ、焼土粒少量。ロームブロック極少。
3	黒褐色	○○	ローム粒少量。Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ、焼土粒極少。
4	黒褐色	○△	Ｈｒ-ＦＡ。ローム粒、Ａｓ-Ｃ少量。焼土粒極少。
5	黒褐色	○△	ローム粒、Ｈｒ-ＦＡ。ロームブロック、Ａｓ-Ｃ、焼土粒少量。
6	黒褐色	○○	ロームブロック多量。ローム粒。Ａｓ-Ｃ、焼土粒少量。Ｈｒ-ＦＡ、焼土ブロック極少。
7	黒褐色	○○	ローム粒、Ａｓ-Ｃ少量。ロームブロック極少。
8	黒色	○○	焼土粒、焼土ブロック極少。
9	黒褐色	○○	ローム粒。Ｈｒ-ＦＡ極少。
10	黒褐色	○○	Ｈｒ-ＦＡ少量。ロームブロック極少。

Ｈ－７号住居跡　竈セクション

1	褐色	○◎	ローム主体。
2	黒褐色	○○	Ｈｒ-ＦＡ。焼土ブロック極少。
3	暗赤褐色	○△	焼土ブロック多量。
4	黒褐色	△△	Ｈｒ-ＦＡ多量。焼土ブロック。
5	暗褐色	△○	焼土粒多量。
6	暗赤褐色	○△	焼土粒多量。
7	黒褐色	△△	Ｈｒ-ＦＡ、焼土粒少量。

Ｈ－21号住居跡　Ｐ５号貯蔵穴セクション

1	黒褐色	○○	ローム粒。Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ少量。焼土粒極少。
2	黒褐色	○◎	Ａｓ-Ｃ、焼土粒、焼土ブロック極少。
3	暗褐色	○◎	焼土ブロック極少。

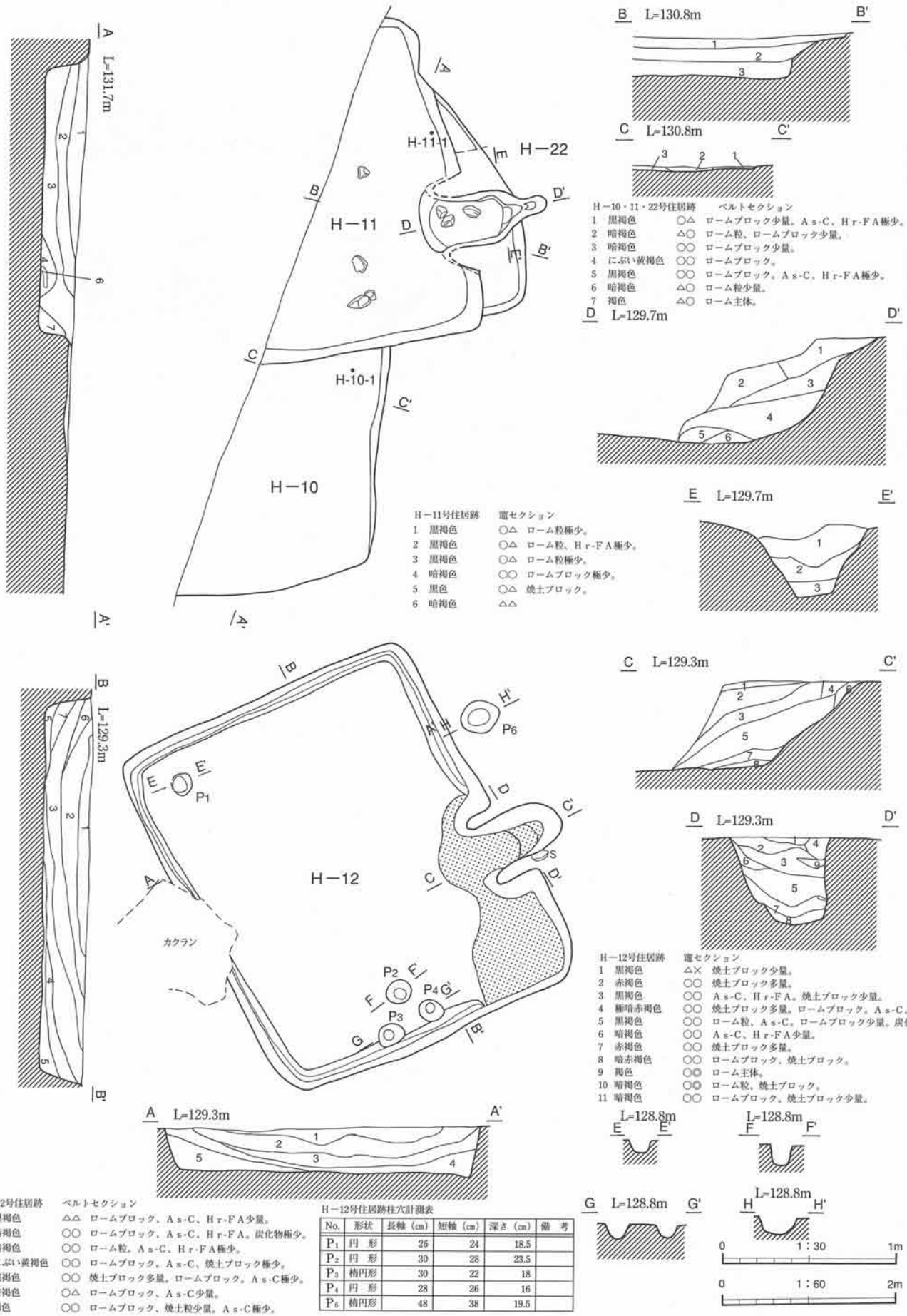
Ｈ－21号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P5	楕円形	64	50	36	貯蔵穴

0　1：30　1m

0　1：60　2m

Fig.35　Ｈ－７・21号住居跡、Ｉ－１号井戸跡



H－11号住居跡　竈セクション

1	黒褐色	○△	ローム粒極少。
2	黒褐色	○△	ローム粒、Ｈｒ-ＦＡ極少。
3	黒褐色	○△	ローム粒極少。
4	暗褐色	○○	ロームブロック極少。
5	黒色	○△	焼土ブロック。
6	暗褐色	△△	

H－10・11・22号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色	○△	ロームブロック少量。Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ極少。
2	暗褐色	△○	ローム粒、ロームブロック少量。
3	暗褐色	○○	ロームブロック少量。
4	にぶい黄褐色	○○	ロームブロック。
5	黒褐色	○○	ロームブロック。Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ極少。
6	暗褐色	△○	ローム粒少量。
7	褐色	△○	ローム主体。

H－12号住居跡　竈セクション

1	黒褐色	△×	焼土ブロック少量。
2	赤褐色	○○	焼土ブロック多量。
3	黒褐色	○○	Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ。焼土ブロック少量。
4	極暗赤褐色	○○	焼土ブロック多量。ロームブロック。Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ少量。
5	黒褐色	○○	ローム粒、Ａｓ-Ｃ。ロームブロック少量。炭化物極少。
6	暗褐色	○○	Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ少量。
7	赤褐色	○○	焼土ブロック多量。
8	暗赤褐色	○○	ロームブロック、焼土ブロック。
9	褐色	○◎	ローム主体。
10	暗褐色	○◎	ローム粒、焼土ブロック。
11	暗褐色	○○	ロームブロック。焼土ブロック少量。

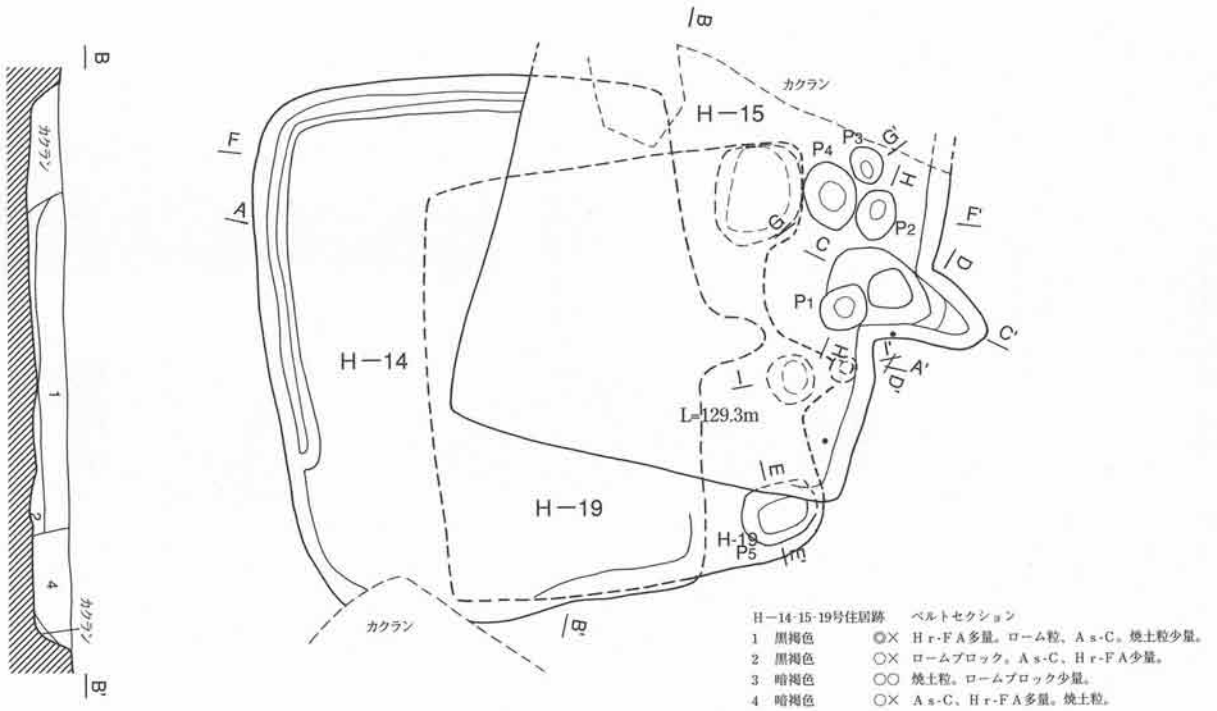
H－12号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色	△△	ロームブロック、Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ少量。
2	暗褐色	○○	ロームブロック、Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ。炭化物極少。
3	暗褐色	○○	ローム粒。Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ極少。
4	にぶい黄褐色	○○	ロームブロック。Ａｓ-Ｃ、焼土ブロック極少。
5	黒褐色	○○	焼土ブロック多量。ロームブロック。Ａｓ-Ｃ極少。
6	暗褐色	○△	ロームブロック、Ａｓ-Ｃ少量。
7	褐色	○○	ロームブロック、焼土粒少量。Ａｓ-Ｃ極少。

H－12号住居跡柱穴計測表

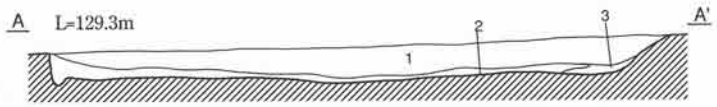
No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	円　形	26	24	18.5	
P2	円　形	30	28	23.5	
P3	楕円形	30	22	18	
P4	円　形	28	26	16	
P6	楕円形	48	38	19.5	

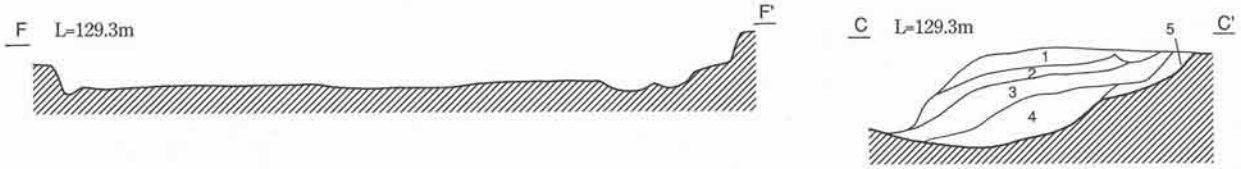
Fig.36　H10～12号住居跡

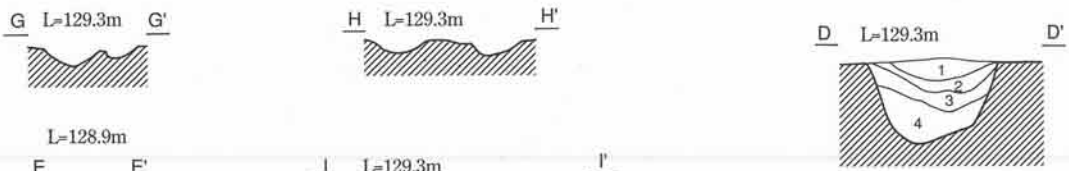


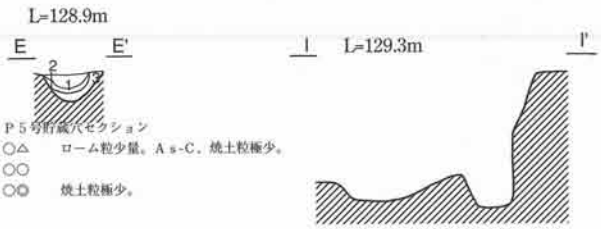
H−14-15-19号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色	◎×	Hr-FA多量。ローム粒、As-C。焼土粒少量。
2	黒褐色	○×	ロームブロック。As-C、Hr-FA少量。
3	暗褐色	○○	焼土粒。ロームブロック少量。
4	暗褐色	○×	As-C、Hr-FA多量。焼土粒。









H−19号住居跡　P5号貯蔵穴セクション

1	黒褐色	○△	ローム粒少量。As-C、焼土粒極少。
2	褐色	○○	
3	暗褐色	○◎	焼土粒極少。

H−15号住居跡　竈セクション

1	暗褐色	◎×	As-C、Hr-FA、焼土ブロック少量。
2	暗赤褐色	○○	焼土ブロック。As-C、Hr-FA少量。
3	赤褐色	○○	焼土ブロック主体。ロームブロック。
4	にぶい赤褐色	△×	焼土ブロック多量。
5	暗褐色	◎×	As-C、Hr-FA極少。

H−19号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P5	楕円形	62	48	35	貯蔵穴

H−15号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	楕円形	48	38	13.5	
P2	楕円形	42	32	12	
P3	円　形	33	30	10.5	
P4	楕円形	56	40	15.5	

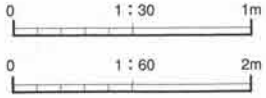
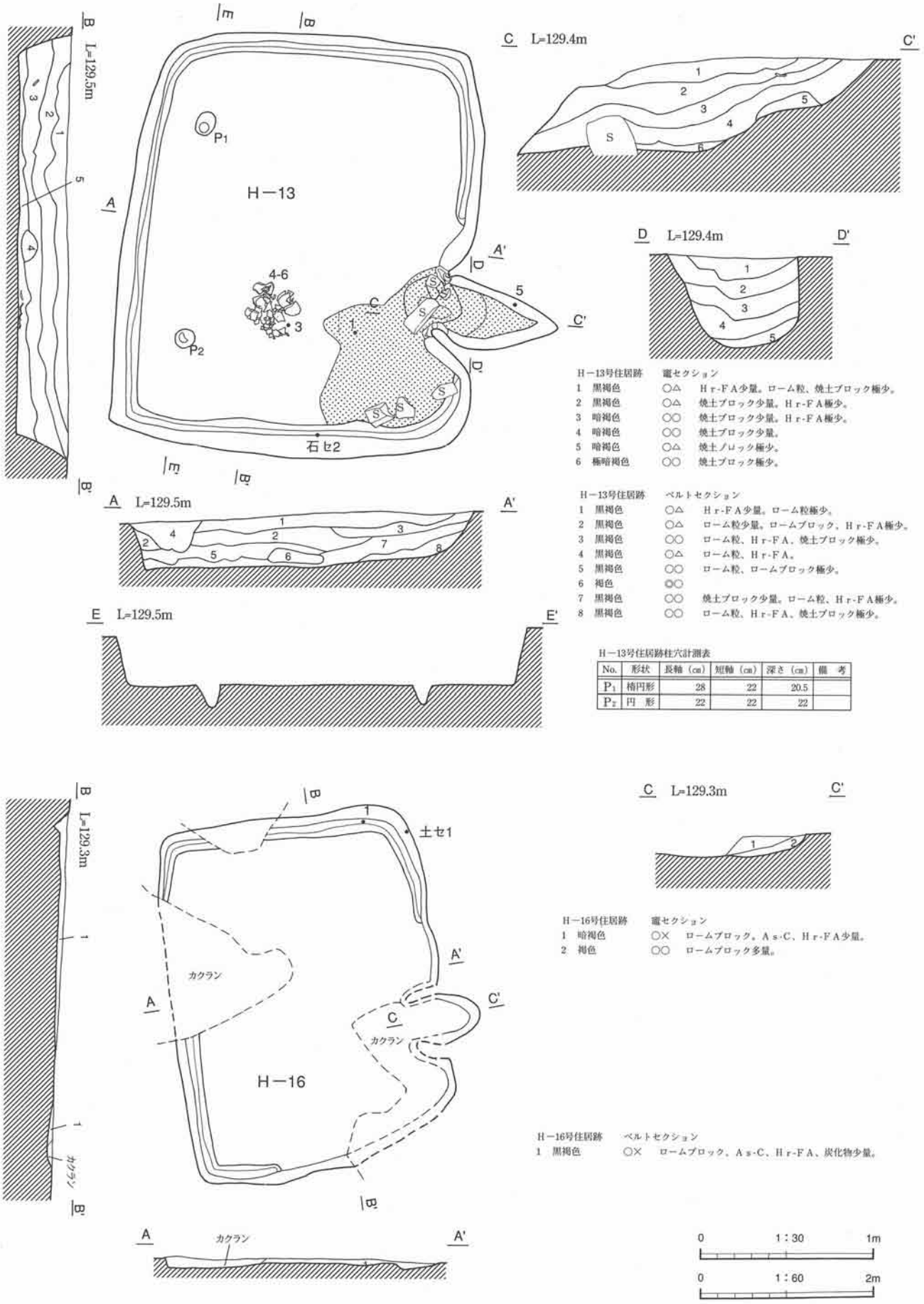


Fig.37　H−14・15・19号住居跡



H－13号住居跡　竈セクション

1	黒褐色	○△	Ｈｒ-ＦＡ少量。ローム粒、焼土ブロック極少。
2	黒褐色	○△	焼土ブロック少量。Ｈｒ-ＦＡ極少。
3	暗褐色	○○	焼土ブロック少量。Ｈｒ-ＦＡ極少。
4	暗褐色	○○	焼土ブロック少量。
5	暗褐色	○△	焼土ブロック極少。
6	極暗褐色	○○	焼土ブロック極少。

H－13号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色	○△	Ｈｒ-ＦＡ少量。ローム粒極少。
2	黒褐色	○△	ローム粒少量。ロームブロック、Ｈｒ-ＦＡ極少。
3	黒褐色	○○	ローム粒、Ｈｒ-ＦＡ、焼土ブロック極少。
4	黒褐色	○△	ローム粒、Ｈｒ-ＦＡ。
5	黒褐色	○○	ローム粒、ロームブロック極少。
6	褐色	◎○	
7	黒褐色	○○	焼土ブロック少量。ローム粒、Ｈｒ-ＦＡ極少。
8	黒褐色	○○	ローム粒、Ｈｒ-ＦＡ、焼土ブロック極少。

H－13号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	楕円形	28	22	20.5	
P2	円　形	22	22	22	

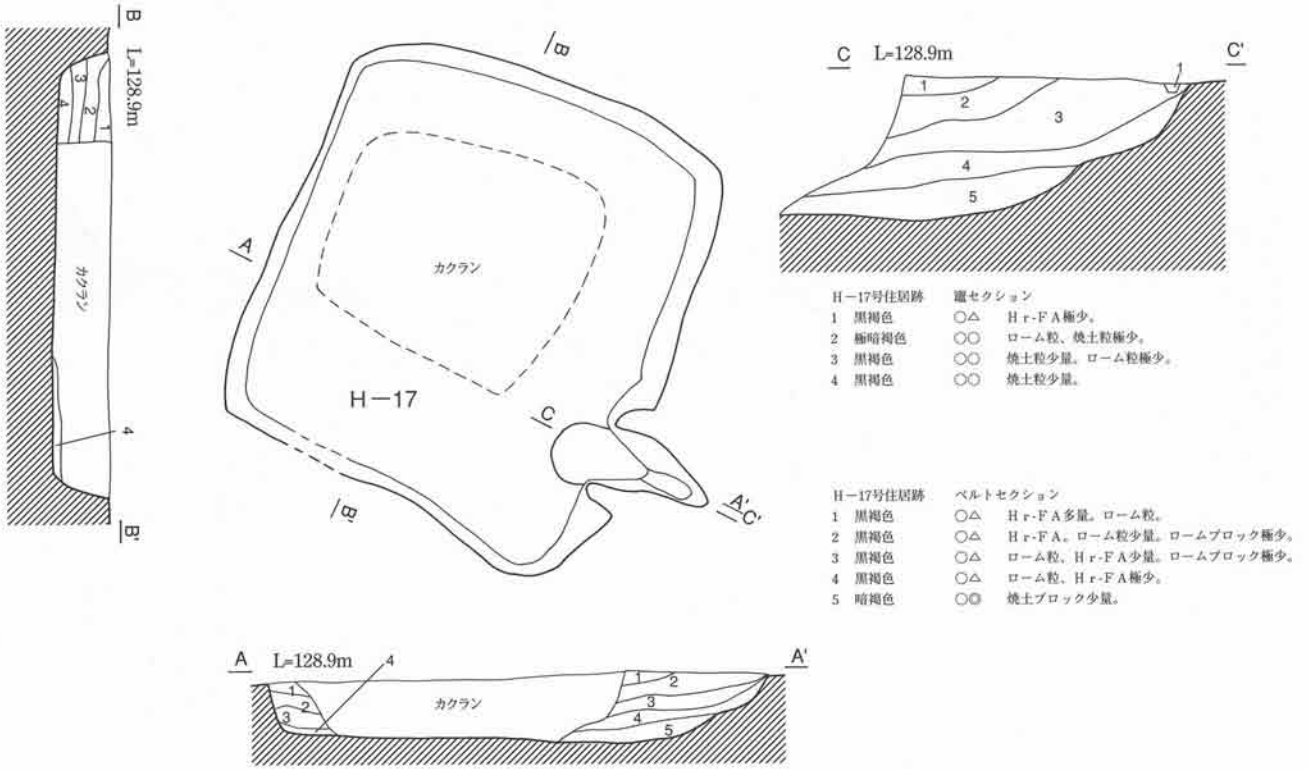
H－16号住居跡　竈セクション

1	暗褐色	○×	ロームブロック。Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ少量。
2	褐色	○○	ロームブロック多量。

H－16号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色	○×	ロームブロック、Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ、炭化物少量。

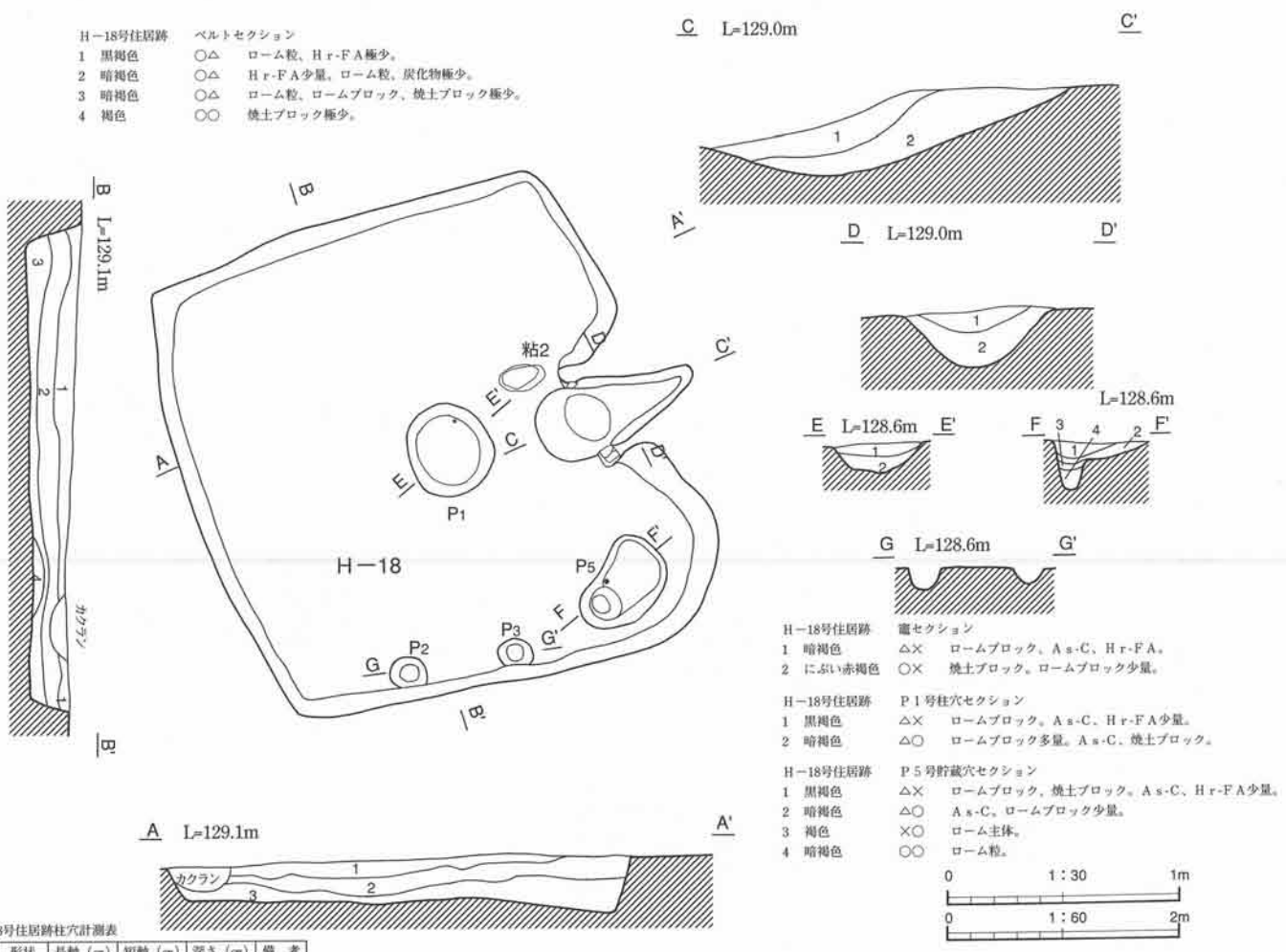
Fig.38　Ｈ－13・16号住居跡



H−17号住居跡　竈セクション
1　黒褐色　○△　Hr-FA極少。
2　極暗褐色　○○　ローム粒、焼土粒極少。
3　黒褐色　○○　焼土粒少量。ローム粒極少。
4　黒褐色　○○　焼土粒少量。

H−17号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐色　○△　Hr-FA多量。ローム粒。
2　黒褐色　○△　Hr-FA。ローム粒少量。ロームブロック極少。
3　黒褐色　○△　ローム粒、Hr-FA少量。ロームブロック極少。
4　黒褐色　○△　ローム粒、Hr-FA極少。
5　暗褐色　○◎　焼土ブロック少量。

H−18号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐色　○△　ローム粒、Hr-FA極少。
2　暗褐色　○△　Hr-FA少量、ローム粒。炭化物極少。
3　暗褐色　○△　ローム粒、ロームブロック、焼土ブロック極少。
4　褐色　○○　焼土ブロック極少。



H−18号住居跡　竈セクション
1　暗褐色　△×　ロームブロック、As-C、Hr-FA。
2　にぶい赤褐色　○×　焼土ブロック。ロームブロック少量。

H−18号住居跡　P1号柱穴セクション
1　黒褐色　△×　ロームブロック。As-C、Hr-FA少量。
2　暗褐色　△○　ロームブロック多量。As-C、焼土ブロック。

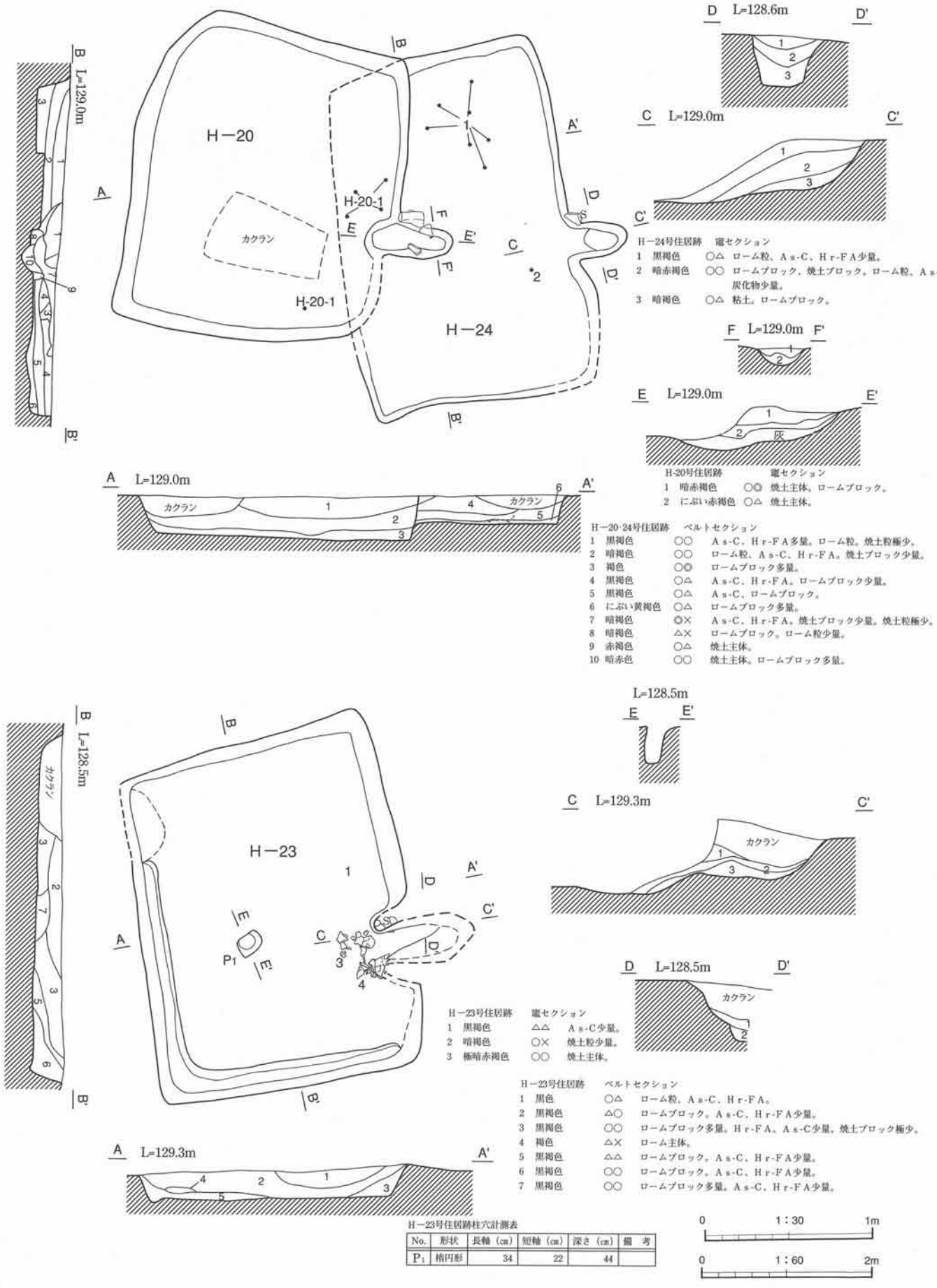
H−18号住居跡　P5号貯蔵穴セクション
1　黒褐色　△×　ロームブロック、焼土ブロック。As-C、Hr-FA少量。
2　暗褐色　△○　As-C。ロームブロック少量。
3　褐色　×○　ローム主体。
4　暗褐色　○○　ローム粒。

0　1：30　1m
0　1：60　2m

H−18号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	楕円形	80	70	26	
P2	楕円形	32	24	19	
P3	楕円形	28	22	14	
P5	楕円形	88	50	52	貯蔵穴

Fig.39　H−17・18号住居跡



H－24号住居跡　竈セクション

1	黒褐色	○△	ローム粒、As-C、Hr-FA少量。
2	暗赤褐色	○○	ロームブロック、焼土ブロック。ローム粒、As-C、H炭化物少量。
3	暗褐色	○△	粘土。ロームブロック。

H-20号住居跡　竈セクション

1	暗赤褐色	○◎	焼土主体。ロームブロック。
2	にぶい赤褐色	○△	焼土主体。

H－20･24号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色	○○	As-C、Hr-FA多量。ローム粒。焼土粒極少。
2	暗褐色	○○	ローム粒、As-C、Hr-FA。焼土ブロック少量。
3	褐色	○◎	ロームブロック多量。
4	黒褐色	○△	As-C、Hr-FA。ロームブロック少量。
5	黒褐色	○△	As-C、ロームブロック。
6	にぶい黄褐色	○△	ロームブロック多量。
7	暗褐色	◎×	As-C、Hr-FA。焼土ブロック少量。焼土粒極少。
8	暗褐色	△×	ロームブロック。ローム粒少量。
9	赤褐色	○△	焼土主体。
10	暗赤色	○○	焼土主体。ロームブロック多量。

H－23号住居跡　竈セクション

1	黒褐色	△△	As-C少量。
2	暗褐色	○×	焼土粒少量。
3	極暗赤褐色	○○	焼土主体。

H－23号住居跡　ベルトセクション

1	黒色	○△	ローム粒、As-C、Hr-FA。
2	黒褐色	△○	ロームブロック。As-C、Hr-FA少量。
3	黒褐色	○○	ロームブロック多量。Hr-FA、As-C少量。焼土ブロック極少。
4	褐色	△×	ローム主体。
5	黒褐色	△△	ロームブロック。As-C、Hr-FA少量。
6	黒褐色	○○	ロームブロック。As-C、Hr-FA少量。
7	黒褐色	○○	ロームブロック多量。As-C、Hr-FA少量。

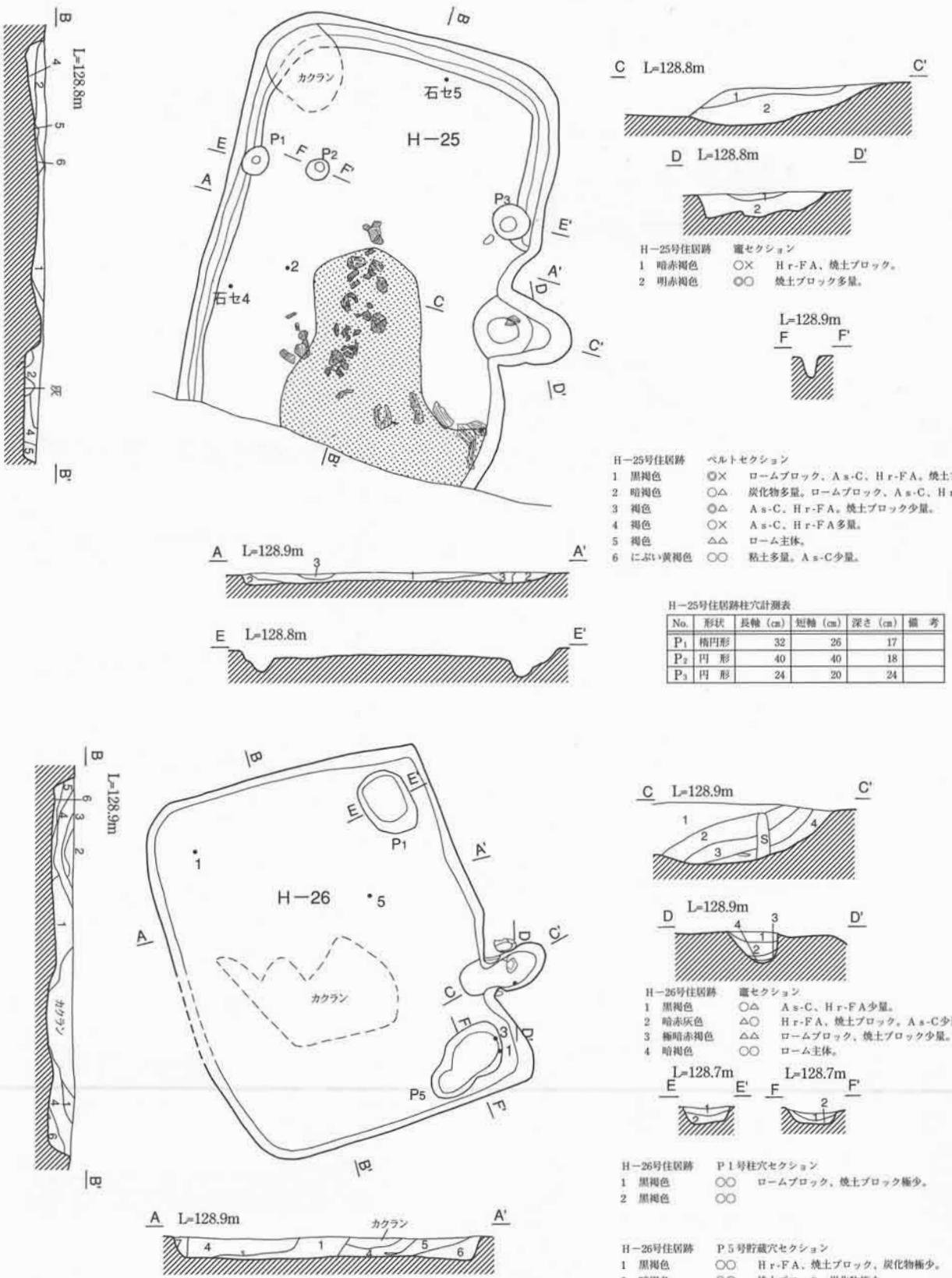
H－23号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	楕円形	34	22	44	

0　1：30　1m

0　1：60　2m

Fig.40　H－20・23・24号住居跡



H－25号住居跡　竈セクション

1	暗赤褐色	○×	Ｈr-ＦＡ、焼土ブロック。
2	明赤褐色	◎○	焼土ブロック多量。

H－25号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色	◎×	ロームブロック、Ａs-C、Ｈr-ＦＡ。焼土ブロック少量。
2	暗褐色	○△	炭化物多量。ロームブロック、Ａs-C、Ｈr-ＦＡ。
3	褐色	◎△	Ａs-C、Ｈr-ＦＡ。焼土ブロック少量。
4	褐色	○×	Ａs-C、Ｈr-ＦＡ多量。
5	褐色	△△	ローム主体。
6	にぶい黄褐色	○○	粘土多量。Ａs-C少量。

H－25号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	楕円形	32	26	17	
P2	円　形	40	40	18	
P3	円　形	24	20	24	

H－26号住居跡　竈セクション

1	黒褐色	○△	Ａs-C、Ｈr-ＦＡ少量。
2	暗赤灰色	△○	Ｈr-ＦＡ、焼土ブロック。Ａs-C少量。
3	極暗赤褐色	△△	ロームブロック、焼土ブロック少量。
4	暗褐色	○○	ローム主体。

H－26号住居跡　Ｐ１号柱穴セクション

1	黒褐色	○○	ロームブロック、焼土ブロック極少。
2	黒褐色	○○	

H－26号住居跡　Ｐ５号貯蔵穴セクション

1	黒褐色	○○	Ｈr-ＦＡ、焼土ブロック、炭化物極少。
2	暗褐色	○○	焼土ブロック、炭化物極少。

H－26号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色	△○	Ａs-C、Ｈr-ＦＡ少量。焼土ブロック極少。
2	暗褐色	××	ロームブロック少量。
3	黒褐色	△○	ロームブロック少量。Ａs-C、Ｈr-ＦＡ極少。
4	黒褐色	○○	Ａs-C、Ｈr-ＦＡ少量。
5	黒褐色	○△	Ａs-C、Ｈr-ＦＡ少量。焼土ブロック極少。
6	暗褐色	○○	ロームブロック、焼土ブロック。
7	にぶい黄褐色	△○	ローム主体。

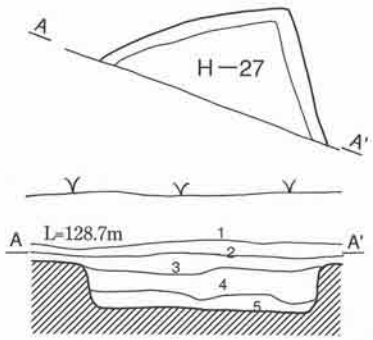
H－26号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	楕円形	70	50	20.5	
P5	楕円形	98	42	21.5	貯蔵穴

0　1：30　1m

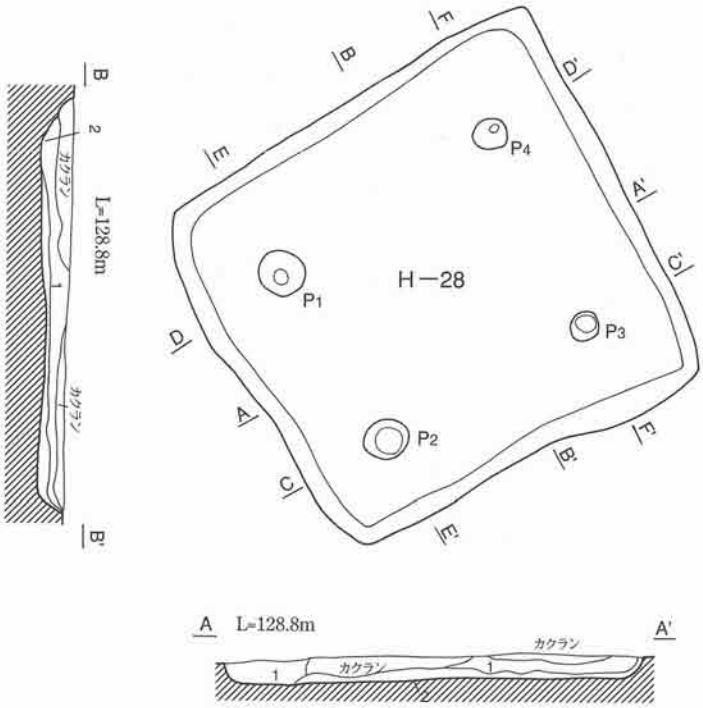
0　1：60　2m

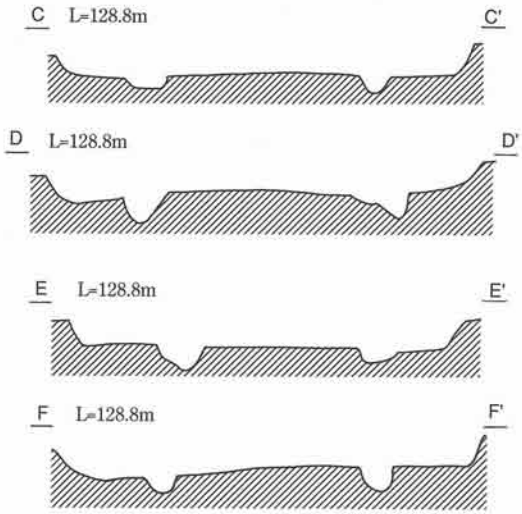
Fig.41　H25・26号住居跡



H－27号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色	◎×	ローム ブロック、Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ。焼土ブロック少量。
2	暗褐色	○△	炭化物多量。ロームブロック、Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ。
3	褐色	◎△	Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ。焼土ブロック少量。
4	褐色	○×	Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ多量。
5	褐色	△△	ローム主体。



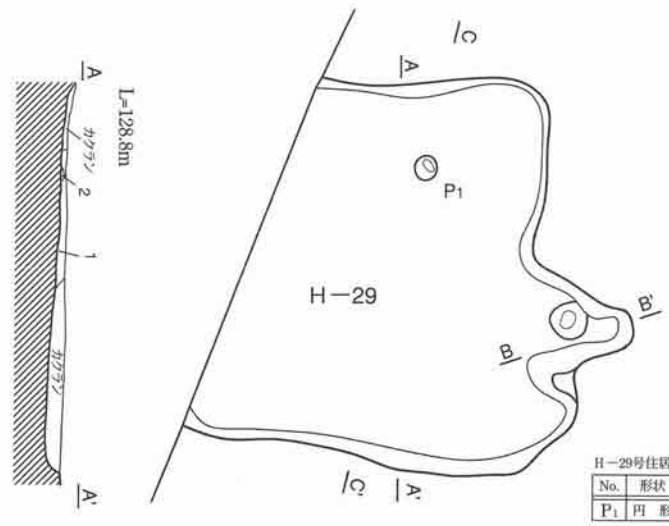


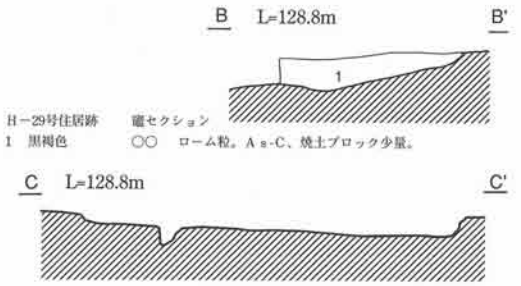
H－28号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色	○○	Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ。ロームブロック少量。
2	褐色	○△	ローム主体。

H－28号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	楕円形	40	38	22	
P2	円　形	38	34	11	
P3	円　形	26	25	20	
P4	円　形	30	25	21	





H－29号住居跡　竈セクション

1	黒褐色	○○	ローム粒。Ａｓ-Ｃ、焼土ブロック少量。

H－29号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色	△◎	ローム粒、Ａｓ-Ｃ、Ｈｒ-ＦＡ少量。
2	黄褐色	○○	ローム主体。

H－29号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P1	円　形	20	20	15	

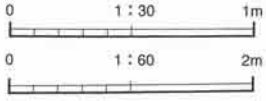
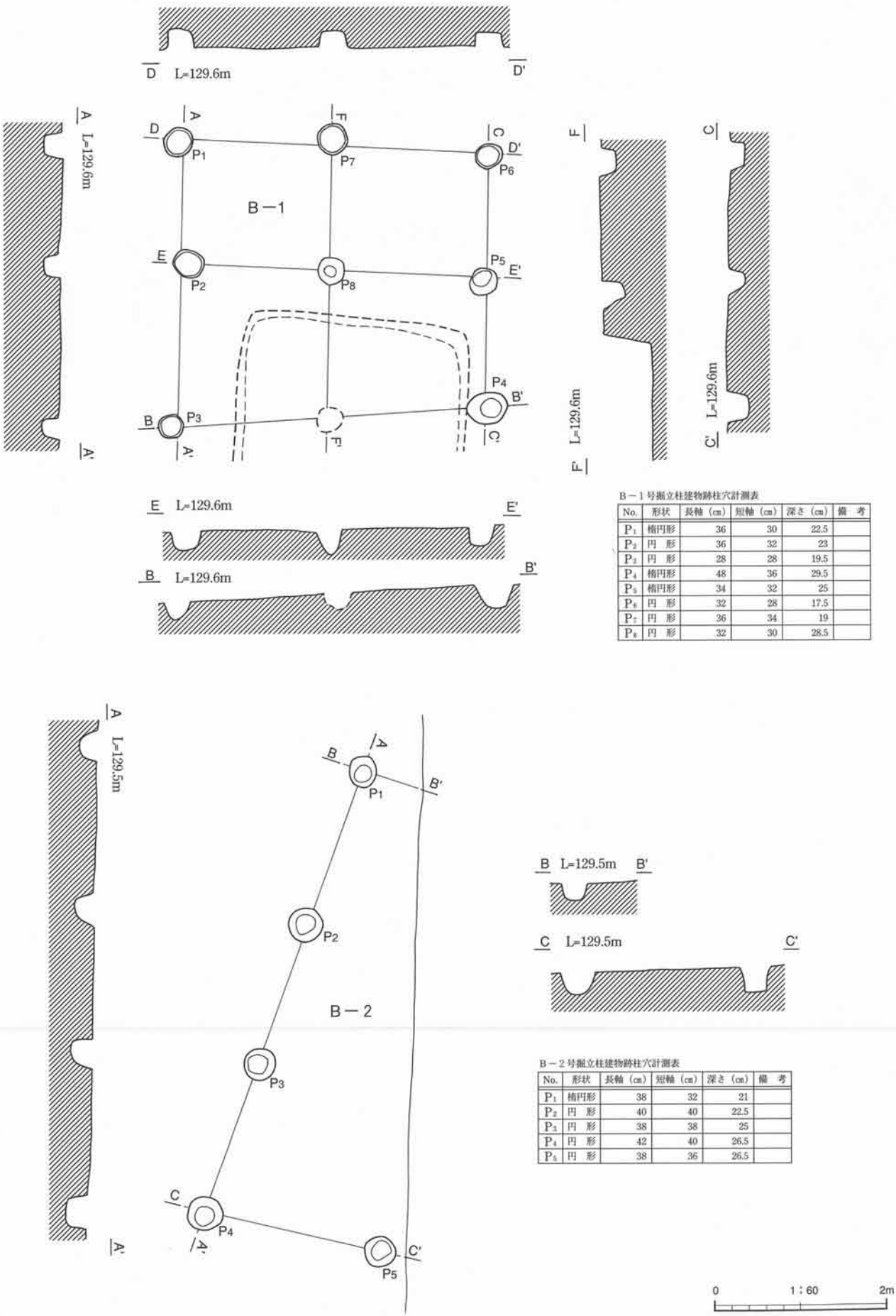


Fig.42　Ｈ－27～29号住居跡



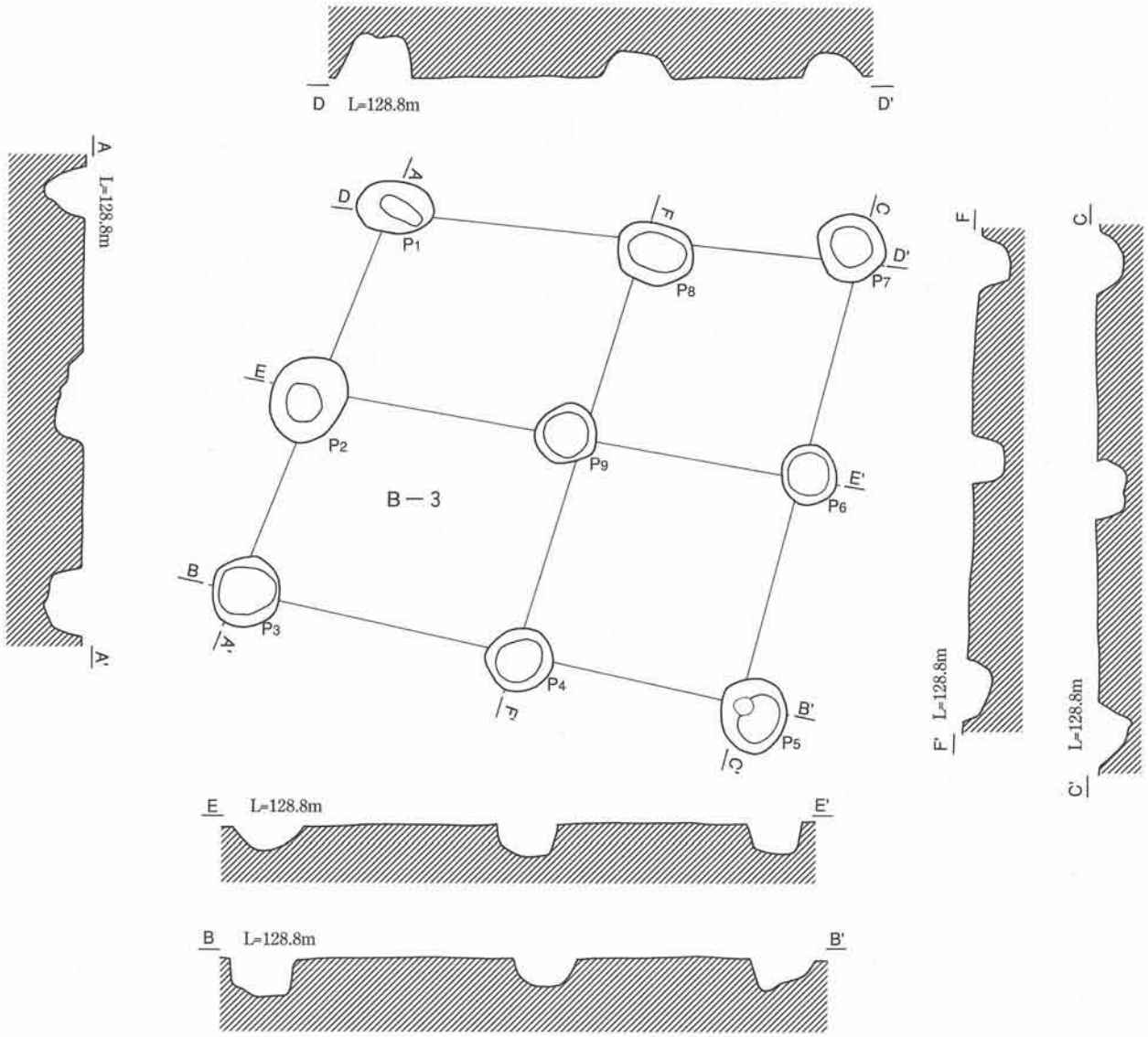
B－1号掘立柱建物跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	楕円形	36	30	22.5	
P_2	円　形	36	32	23	
P_3	円　形	28	28	19.5	
P_4	楕円形	48	36	29.5	
P_5	楕円形	34	32	25	
P_6	円　形	32	28	17.5	
P_7	円　形	36	34	19	
P_8	円　形	32	30	28.5	

B－2号掘立柱建物跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	楕円形	38	32	21	
P_2	円　形	40	40	22.5	
P_3	円　形	38	38	25	
P_4	円　形	42	40	26.5	
P_5	円　形	38	36	26.5	

Fig.43　B－1・2号掘立柱建物跡



B－3号掘立柱建物跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	楕円形	70	48	38.5	
P_2	楕円形	82	64	26.5	
P_3	円　形	68	62	39.5	
P_4	円　形	60	54	24.5	
P_5	楕円形	68	58	29	
P_6	円　形	54	50	31	
P_7	円　形	60	60	26	
P_8	楕円形	72	54	34.5	
P_9	円　形	58	54	29	

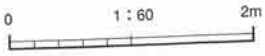
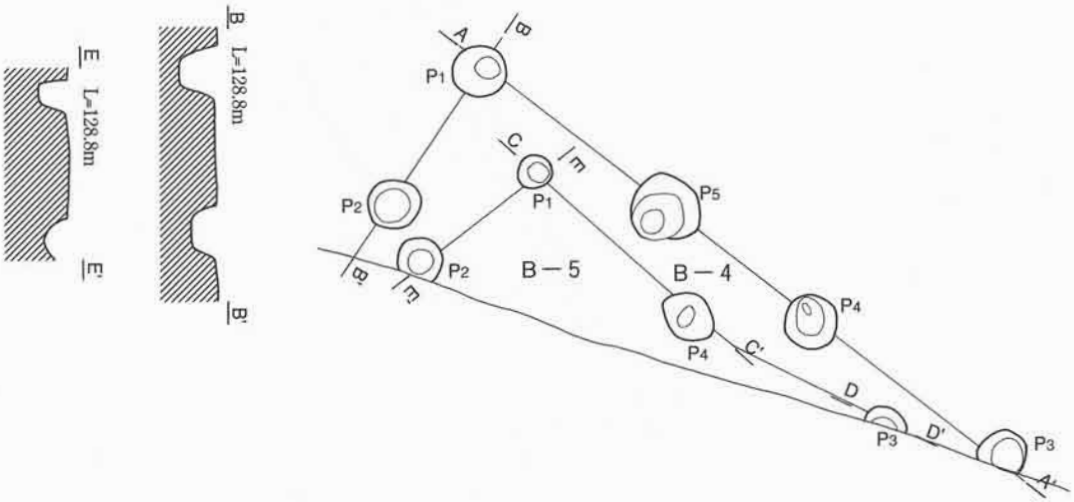
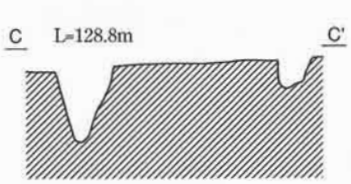
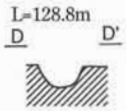


Fig.44　B－3号掘立柱建物跡







B－4号掘立柱建物跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	円　形	44	42	30.5	
P_2	円　形	48	42	19.5	
P_3	楕円形	40	(32)	18.5	
P_4	円　形	46	44	26.5	
P_5	楕円形	56	52	42	

B－5号掘立柱建物跡柱穴計測表

No.	形状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P_1	円　形	30	26	22	
P_2	円　形	38	(34)	19.5	
P_3	円　形	34	(16)	14.5	
P_4	楕円形	48	38	50	

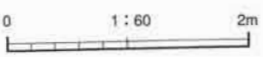


Fig.45　B－4・5号掘立柱建物跡

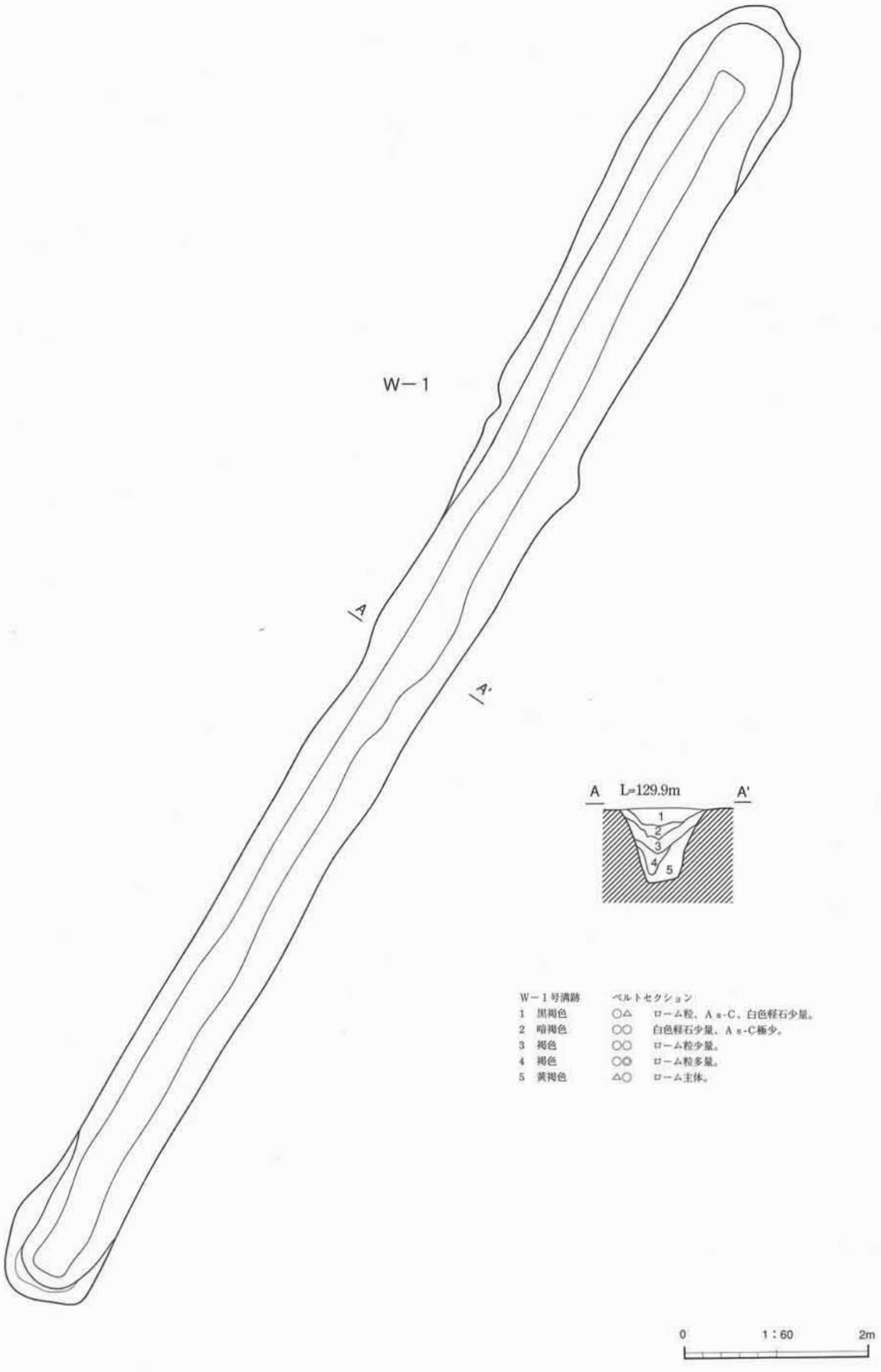
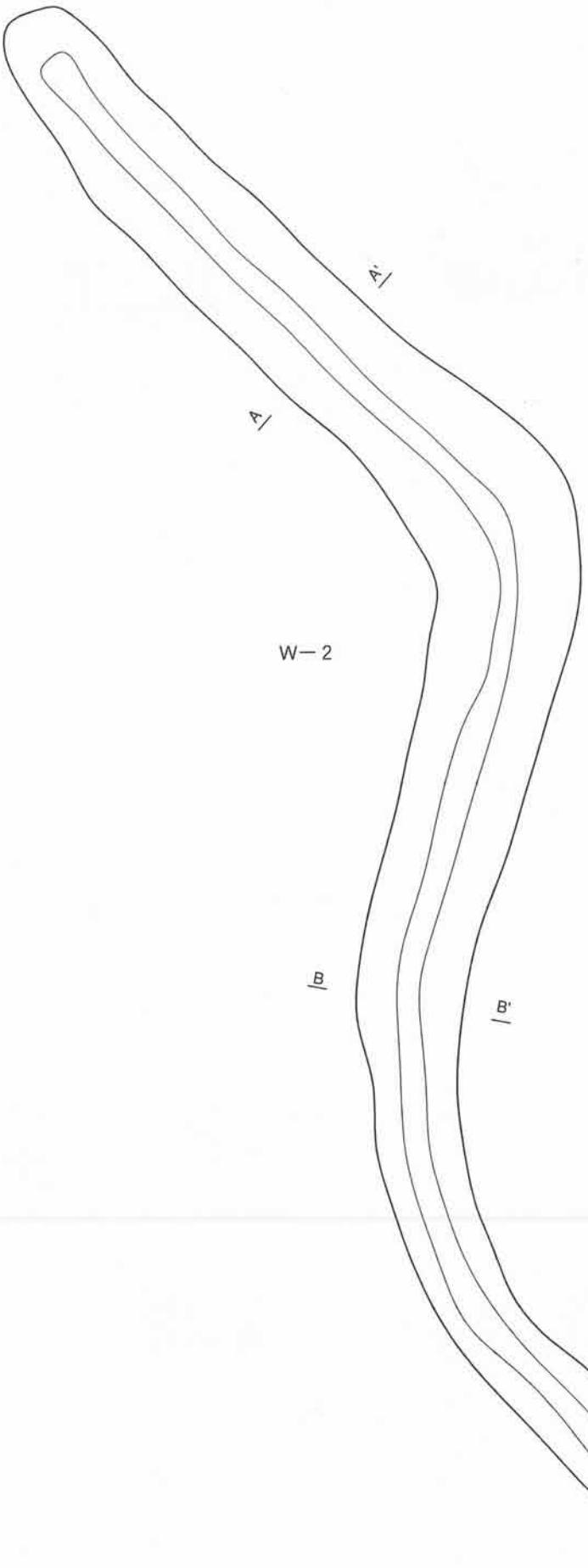
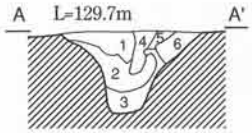
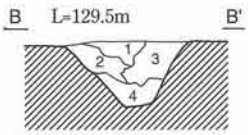

W－1
A
A'
A
L=129.9m
A'
1
2
3
4
5
W－1号溝跡　ベルトセクション
1　黒褐色　○△　ローム粒、As-C、白色軽石少量。
2　暗褐色　○○　白色軽石少量、As-C極少。
3　褐色　○○　ローム粒少量。
4　褐色　○◎　ローム粒多量。
5　黄褐色　△○　ローム主体。
0　1：60　2m

Fig.46　W－1号溝跡





W－2号溝跡	ベルトセクション1	
1	黒褐色	△○　ローム粒，As-C少量。白色軽石極少。
2	暗褐色	△○　ローム粒少量。ロームブロック，As-C、白色軽石極少。
3	褐色	×△　ローム粒，ロームブロック少量。
4	暗褐色	×△　ローム粒，As-C極少。
5	黒褐色	×　△　ローム粒、ロームブロック、As-C極少。
6	暗褐色	△○　As-C少量。ローム粒極少。



W－2号溝跡	ベルトセクション2	
1	黒褐色	△○　ローム粒、As-C少量。白色軽石極少。
2	黒褐色	×△　ローム粒。As-C、白色軽石極少。
3	褐色	×△　ローム粒。ロームブロック少量。
4	黒褐色	××　ローム粒、As-C、白色軽石極少。

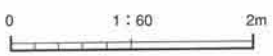
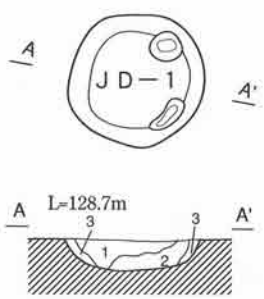
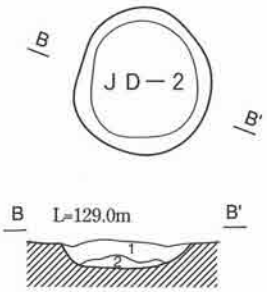


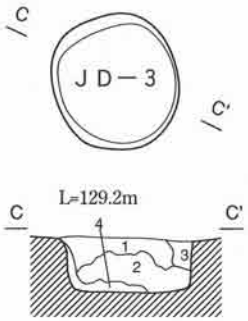
Fig.47　W－2号溝跡



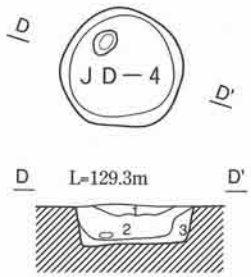
JD－1号土坑　ベルトセクション
1　暗褐色　○×　ローム粒、As-C、白色軽石少量。
2　褐色　○○　ローム主体。
3　黄褐色　○△　ローム主体。



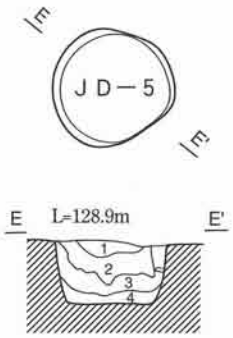
JD－2号土坑　ベルトセクション
1　褐色　△×　ローム粒、白色軽石極少。
2　褐色　○○　ローム主体。



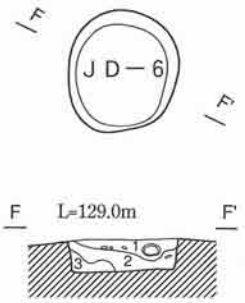
JD－3号土坑　ベルトセクション
1　褐色　○△　ローム粒。白色軽石少量。ロームブロック極少。
2　褐色　△○　ローム粒少量。白色軽石極少。
3　褐色　○○　ローム粒。白色軽石、炭化物少量。ロームブロック極少。
4　褐色　○◎　ロームブロック少量。



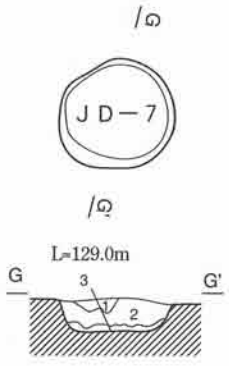
JD－4号土坑　ベルトセクション
1　褐色　○○　ローム粒、As-C、白色軽石少量。
2　褐色　○×　ローム粒、As-C、白色軽石少量。
3　褐色　○○　ローム主体。



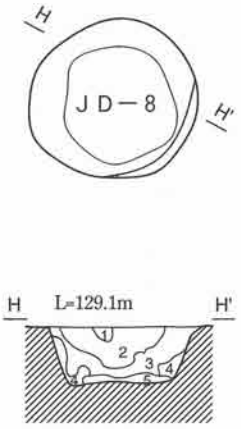
JD－5号土坑　ベルトセクション
1　暗褐色　○×　白色軽石少量。ローム粒少量。炭化物極少。
2　黒褐色　○△　ローム粒、白色軽石。炭化物少量。ロームブロック極少。
3　暗褐色　○○　ローム粒、ロームブロック少量。
4　暗褐色　○◎　ロームブロック極少。



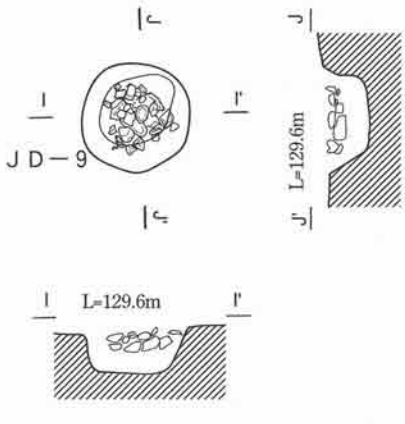
JD－6号土坑　ベルトセクション
1　暗褐色　○×　As-C、白色軽石少量。
2　褐色　○○　As-C、白色軽石少量。
3　褐色　○○　ローム主体。



JD－7号土坑　ベルトセクション
1　暗褐色　×△　白色軽石極少。
2　褐色　△○　白色軽石少量。
3　褐色　○◎　ローム主体。

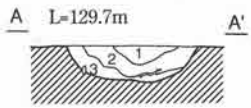


JD－8号土坑　ベルトセクション
1　黒褐色　○○　ローム粒、白色軽石少量。ロームブロック、炭化物極少。
2　暗褐色　○○　ローム粒、ロームブロック、白色軽石極少。
3　褐色　◎◎　ローム主体。
4　暗褐色　○◎　ローム粒、白色軽石極少。
5　褐色　◎◎　ローム主体。

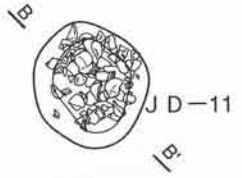


0　1：60　2m

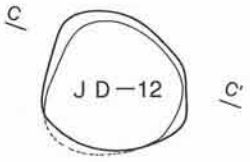
Fig.48　JD－1～9号土坑

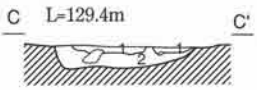


J D－10号土坑	ベルトセクション	
1	褐色	○× Ａs-C、白色軽石少量。
2	暗褐色	○× Ａs-C、白色軽石極少。
3	褐色	○× Ａs-C極少。

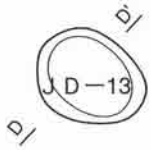


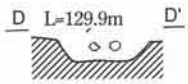
J D－11号土坑	ベルトセクション	
1	黒褐色	△△ Ａs-C、白色軽石。
2	暗褐色	○○ Ａs-C、白色軽石少量。
3	褐色	△○ ローム主体。

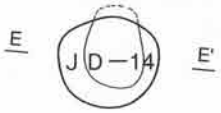


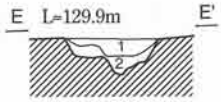


J D－12号土坑	ベルトセクション	
1	暗褐色	◎× ローム粒、Ａs-C、白色軽石。
2	暗褐色	◎× ローム粒、Ａs-C少量。炭化物極少。

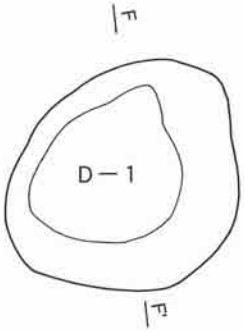


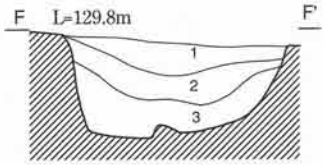




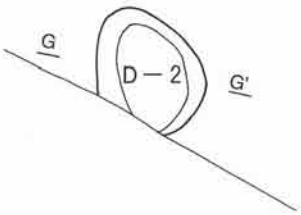


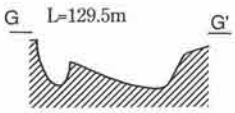
J D－14号土坑	ベルトセクション	
1	暗褐色	○○ Ａs-C、白色軽石少量。
2	褐色	○○ Ａs-C、白色軽石少量。

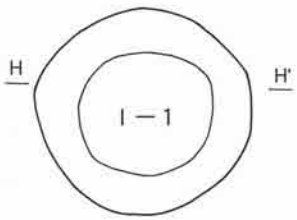


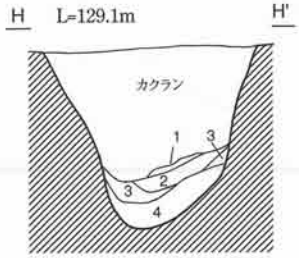


D－1号土坑	ベルトセクション	
1	暗褐色	○× ローム粒、Ａs-C、Ｈr-ＦＡ。
2	黒褐色	○○ ロームブロック、Ａs-C少量。
3	黒褐色	○○ ローム粒、ロームブロック多量。

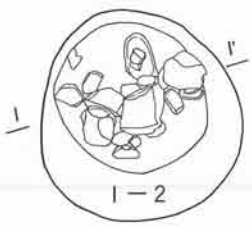


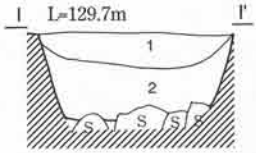




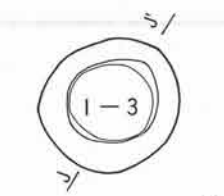


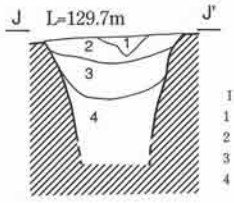
Ｉ－1号井戸跡	ベルトセクション	
1	黒褐色	×◎ ロームブロック。
2	にぶい黄褐色	△◎ 粘土主体。
3	暗褐色	×◎ ローム粒少量。
4	褐色	×◎ 粘土主体。





Ｉ－2号跡	ベルトセクション	
1	黒褐色	○× ローム粒、Ａs-C少量。白色軽石極少。
2	暗褐色	○○ ローム粒。Ａs-C、白色軽石極少。





Ｉ－3号跡	ベルトセクション	
1	黒褐色	◎× Ａs-C、白色軽石少量。
2	黒褐色	◎× ローム粒、白色軽石。ロームブロック少量。
3	黒褐色	○△ ローム粒、ロームブロック。白色軽石少量。
4	にぶい黄褐色	△○ ロームブロック多量。

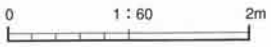
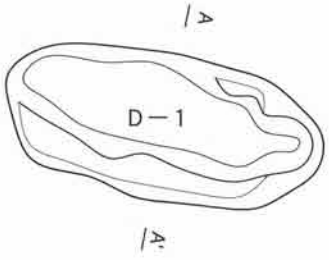
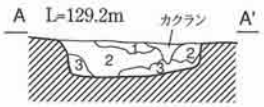


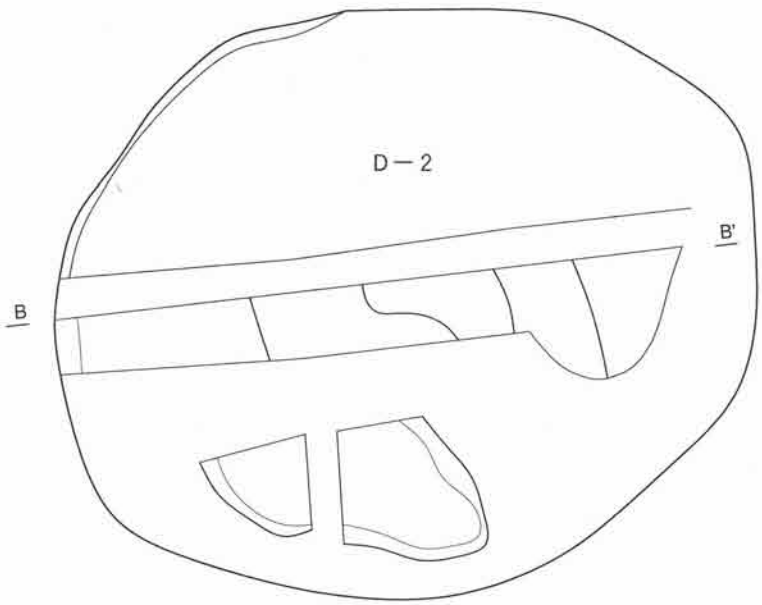
Fig.49　Ｊ Ｄ－10～14号、Ｄ－１・２号土坑、Ｉ－１～３号井戸跡





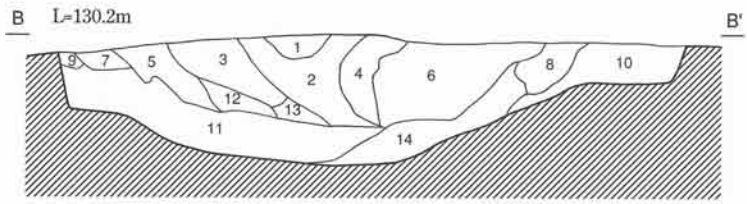
O－1号落ち込み跡　ベルトセクション

1	黒褐色	△○	白色軽石少量、ローム粒極少。
2	黒褐色	○○	白色軽石少量。ローム粒少量。
3	暗褐色	○◎	白色軽石極少。



O－2号落ち込み跡　ベルトセクション

1	暗褐色	△×	As-C、白色軽石少量。
2	褐色	○○	白色軽石。As-C、炭化物少量。焼土粒極少。
3	暗褐色	○○	ローム粒、As-C、白色軽石少量。炭化物、焼土粒極少。
4	褐色	○○	ローム主体。白色軽石少量。
5	褐色	○×	白色軽石。As-C、炭化物極少。
6	黄褐色	◎△	ローム主体。
7	黄褐色	◎×	ローム主体。白色軽石少量。
8	暗褐色	○×	As-C、白色軽石、炭化物少量。
9	黄褐色	◎×	ローム主体。白色軽石少量。
10	褐色	○×	白色軽石。As-C、炭化物極少。
11	明黄褐色	◎○	ローム主体。
12	暗褐色	○○	ローム粒、白色軽石少量。As-C極少。
13	褐色	○◎	ローム主体。粘土。
14	暗褐色	△○	ローム粒少量。As-C、白色軽石極少。



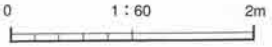


Fig.50　O－1・2号落ち込み跡

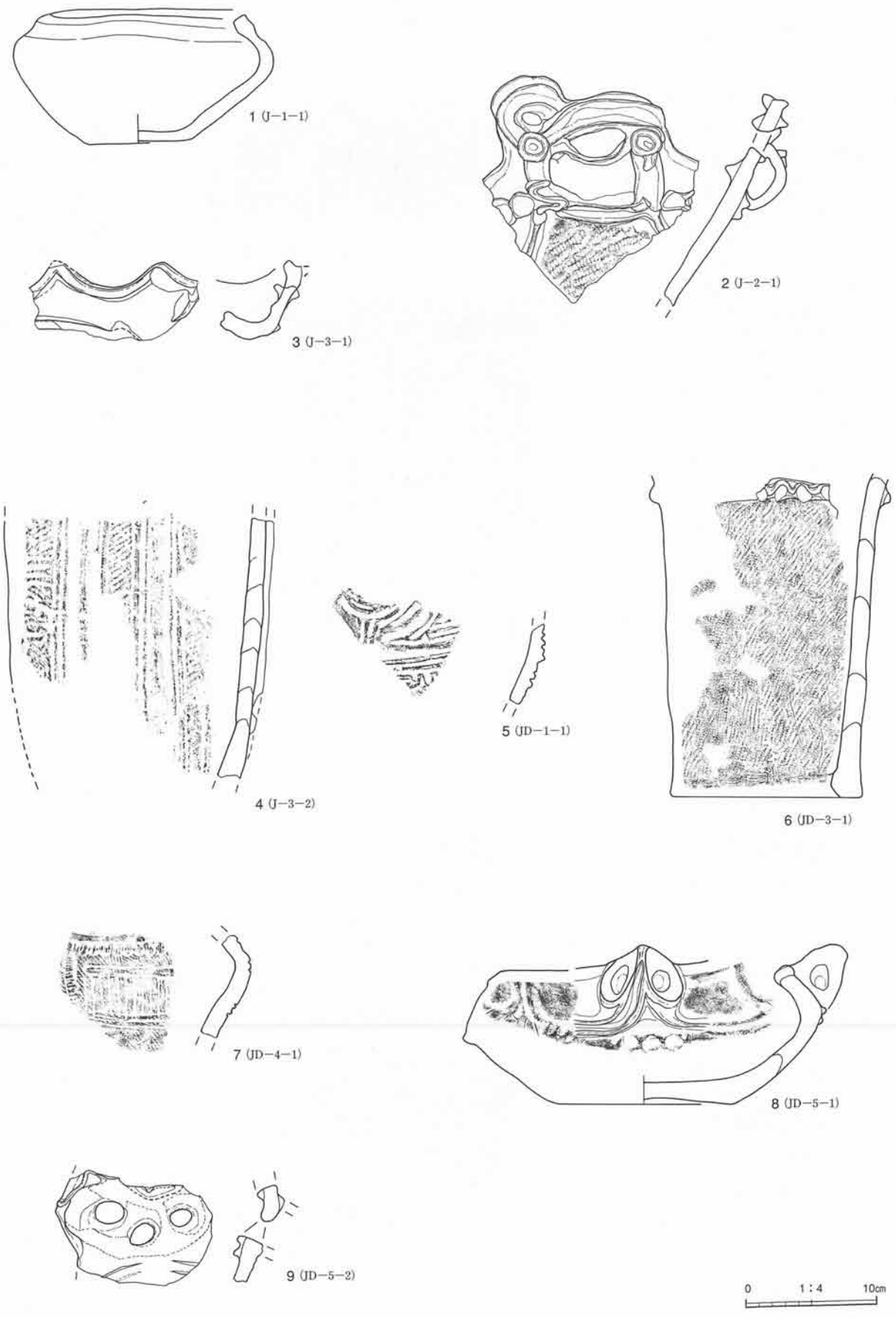


Fig.51　J－1～3号住居跡、JD－1・3・4・5号土坑出土遺物

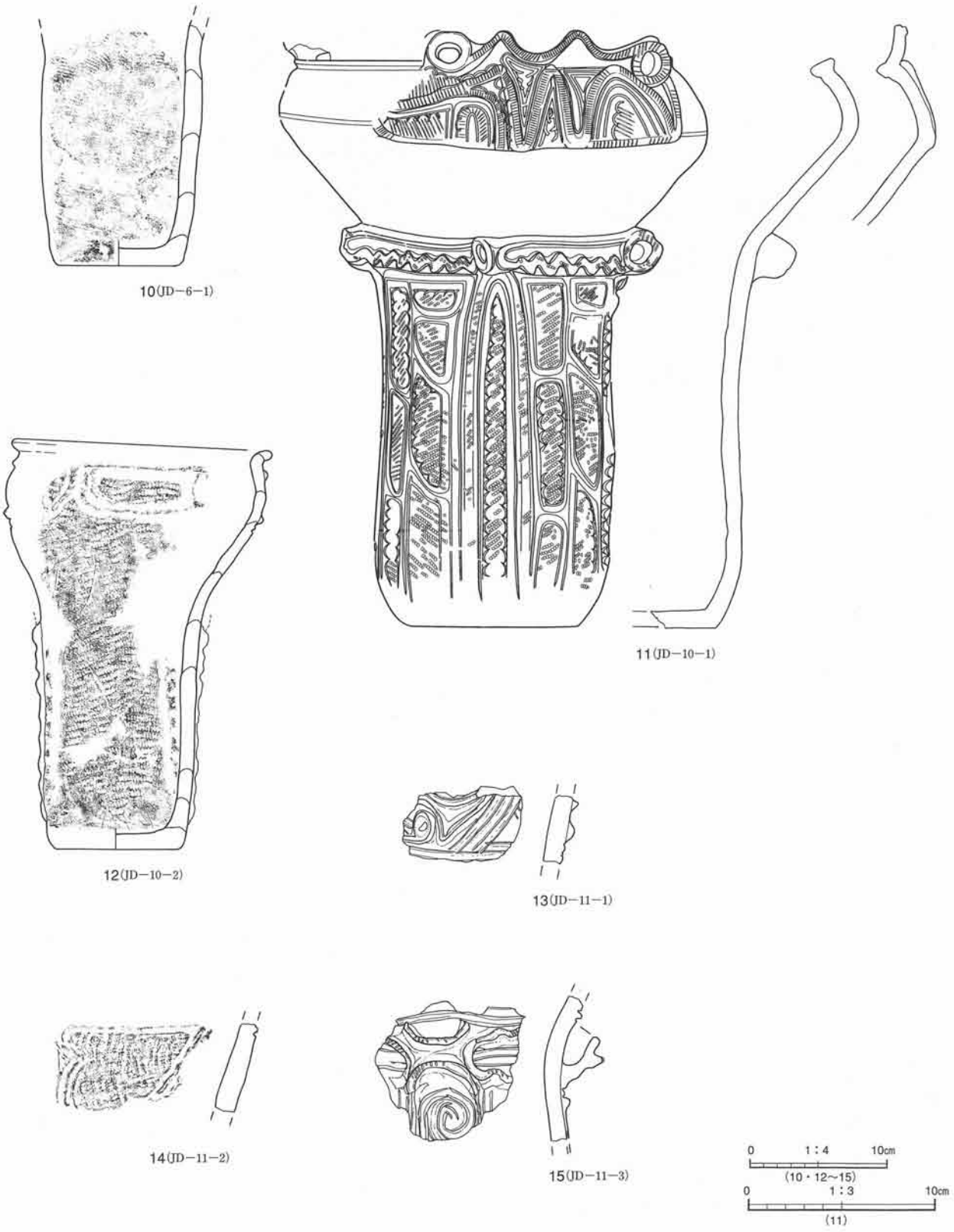
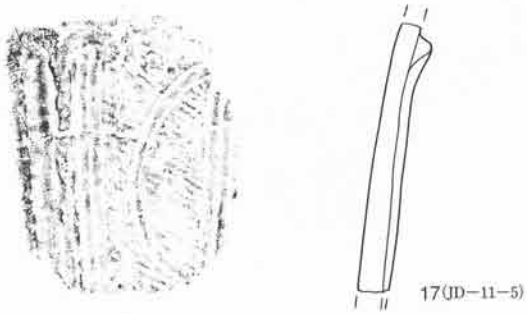
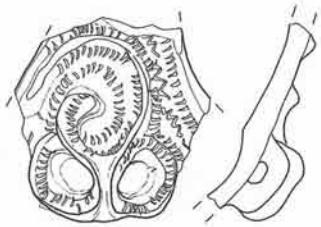


Fig.52　ＪＤ－６・10・11号土坑出土遺物

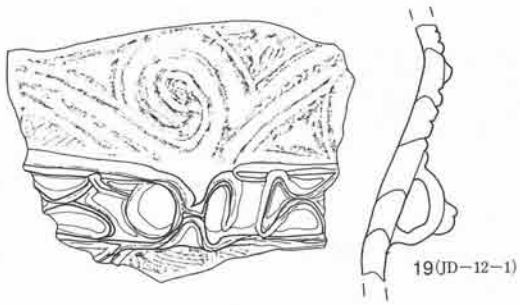
16(JD−11−4)



17(JD−11−5)

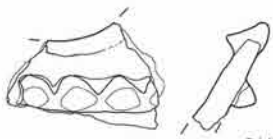


18(JD−11−6)

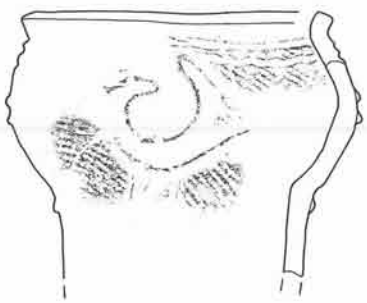


19(JD−12−1)

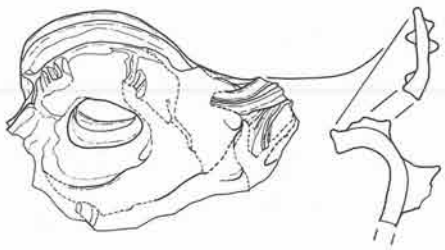
20(JD−14−1)



21(JD−14−2)



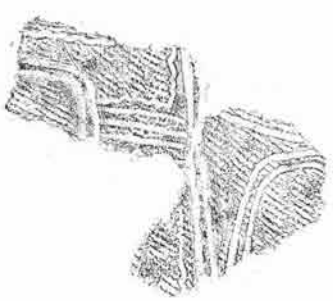
22(O−2−1)



23(O−2−2)

24(O−2−3)

Fig.53　ＪＤ−11・12・14号土坑、Ｏ−２号落ち込み跡出土遺物



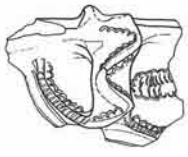
25(O−2−4)

26(O−2−5)

27(O−2−6)

28(O−2−7)

29(O−2−8)



30(W−1−1)

31(W−1−2)

32(W−2−1)

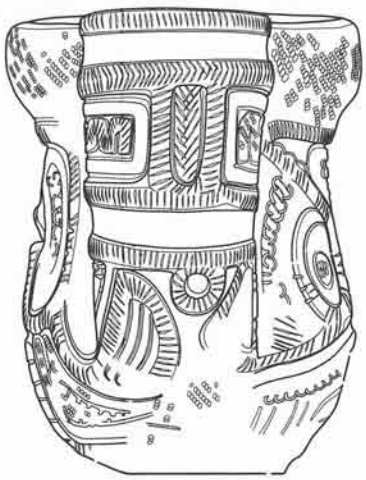
33(W−2−2)

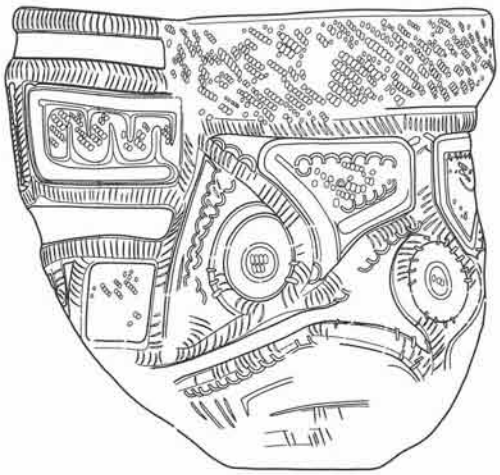
35(表採1)

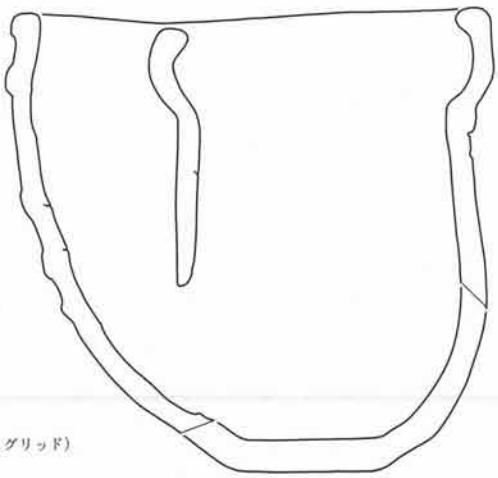
36(表採2)

0 1:4 10cm

Fig.54　O－2号落ち込み跡、W－1・2号溝跡、表採出土遺物







34(X85・Y153 グリッド)

0 1：3 10cm

Fig.55 グリッド出土遺物

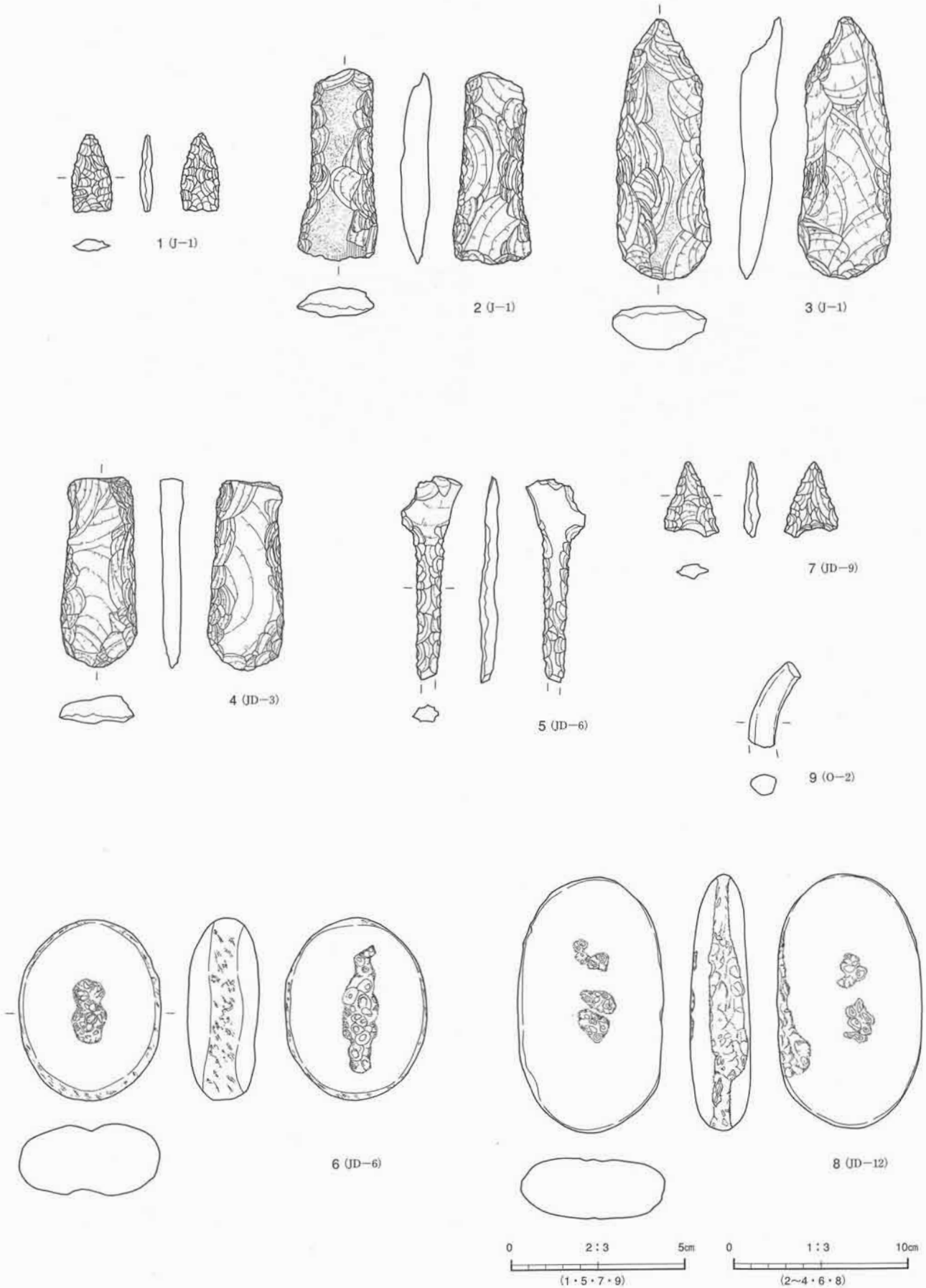


Fig.56　J－1号住居跡、JD－3・6・9・12号土坑、O－2号落ち込み跡出土遺物

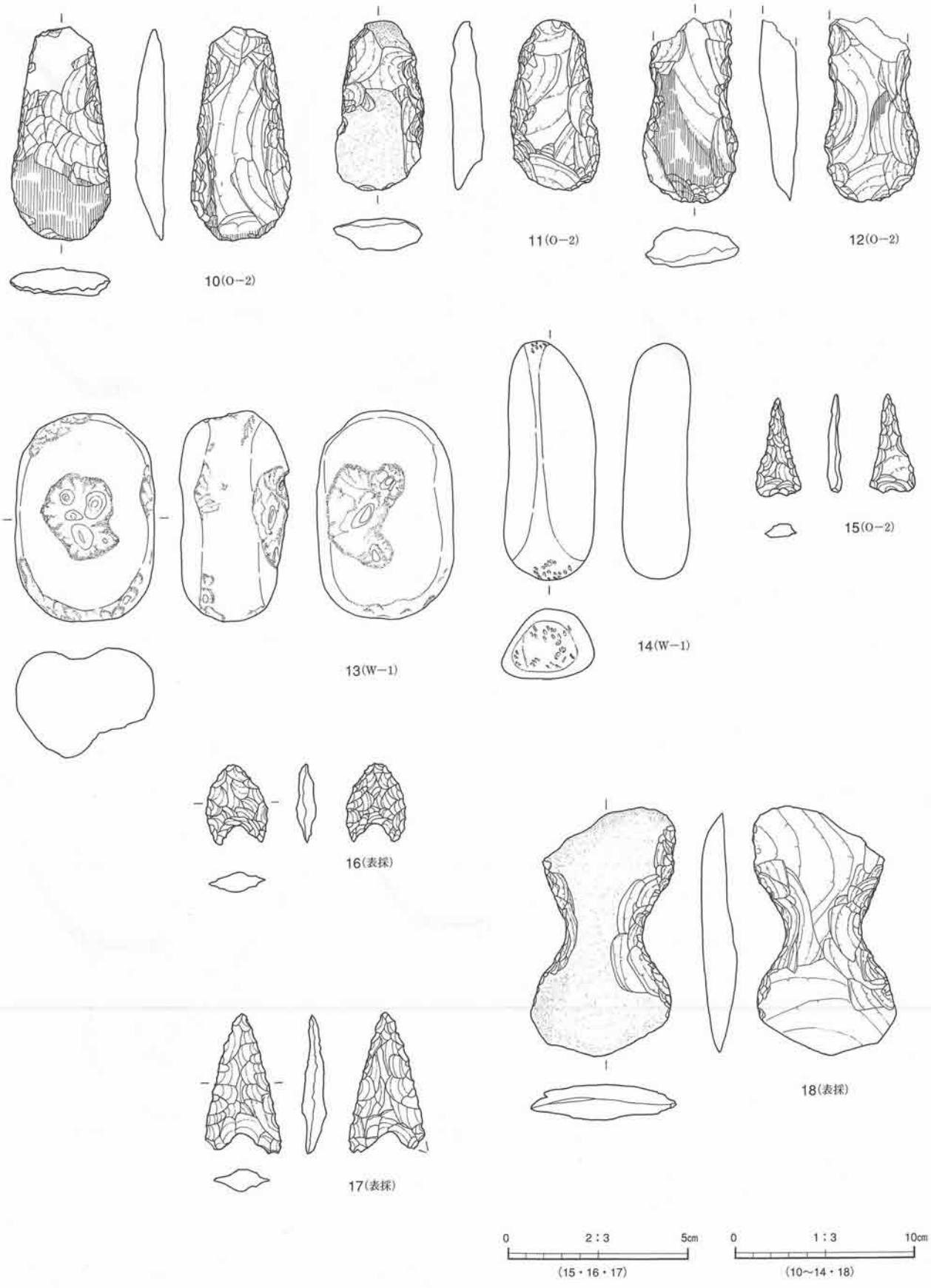


Fig.57　O－2号落ち込み跡、W－1号溝跡、グリッド等出土遺物

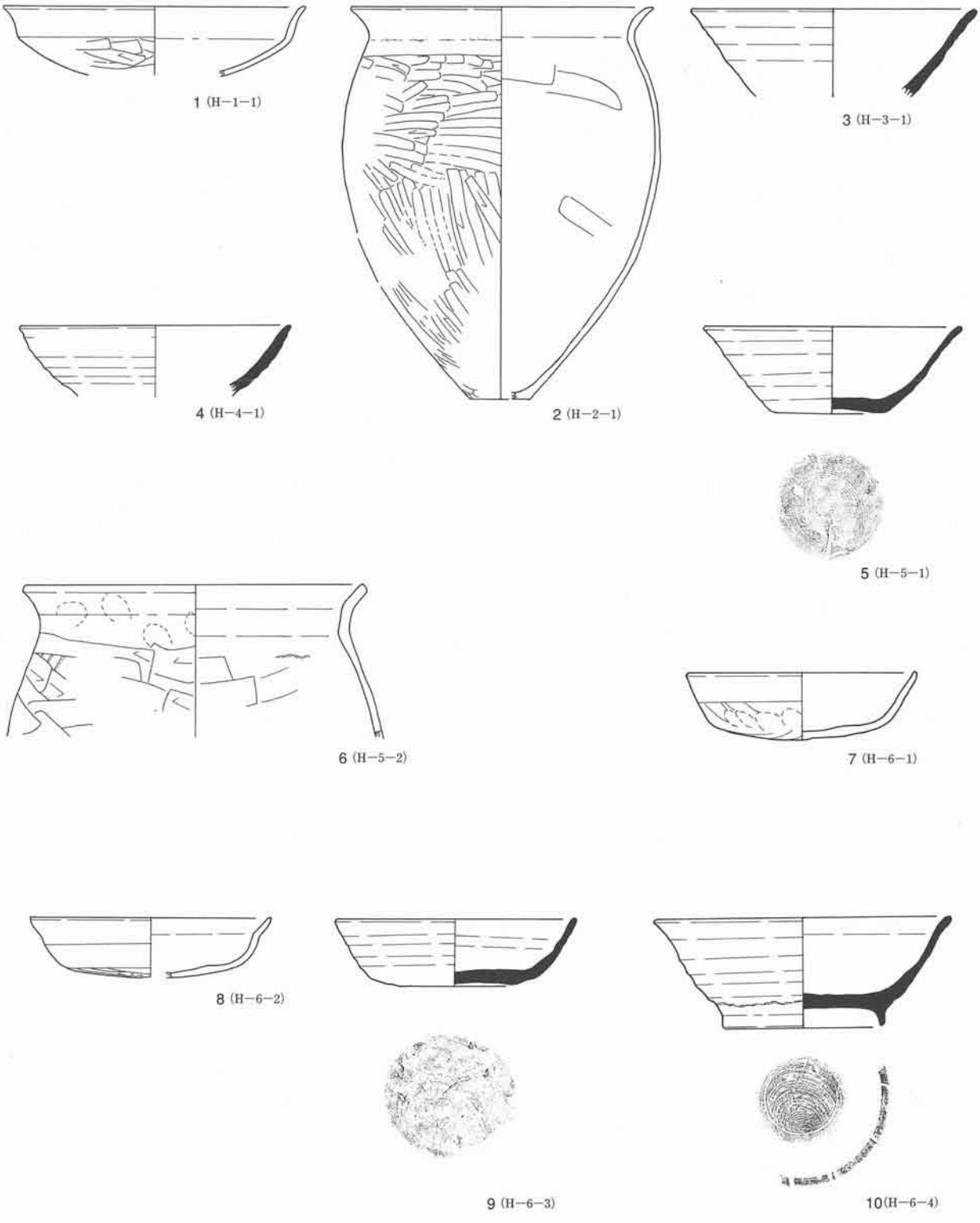
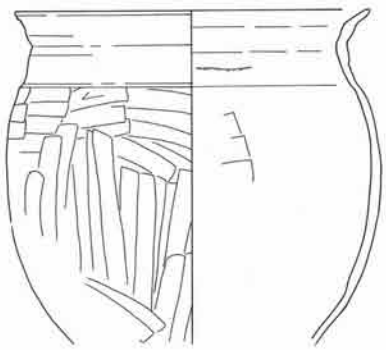
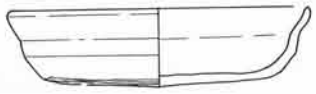


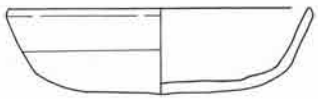
Fig.58　H－1～6号住居跡出土遺物



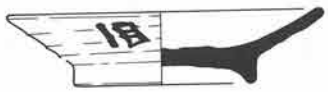
11(H−6−5)



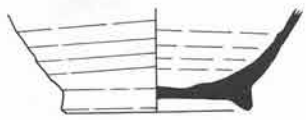
12(H−7−1)



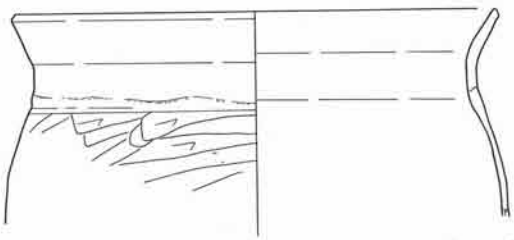
13(H−7−2)



14(H−7−3)

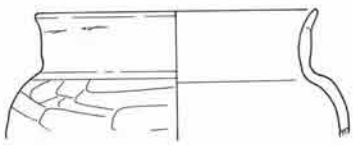


15(H−7−4)

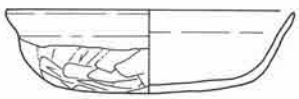


16(H−7−5)

17(H−8−1)



18(H−8−2)



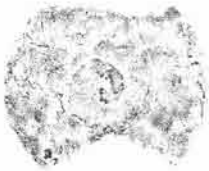
20(H−11−1)

21(H−11−2)

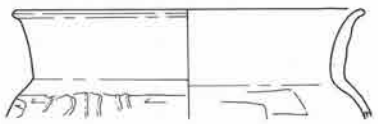
19(H−10−1)

Fig.59　H－6～8・10・11号住居跡出土遺物

22(H−12−1)

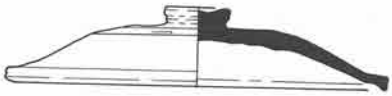


23(H−12−2)

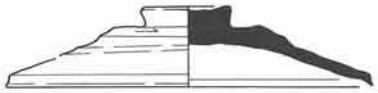


24(H−12−3)

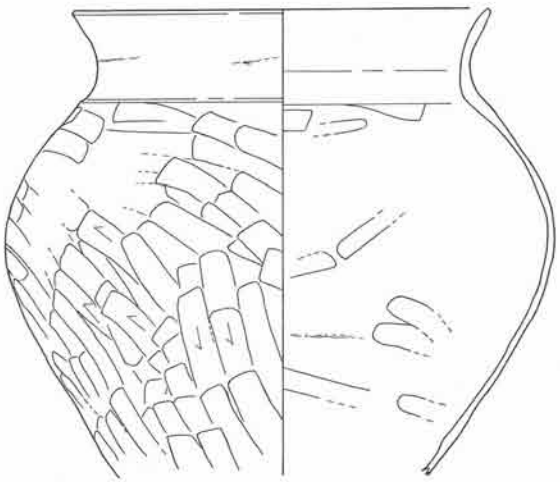
25(H−13−1)



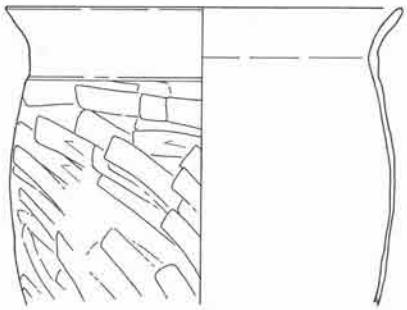
26(H−13−2)



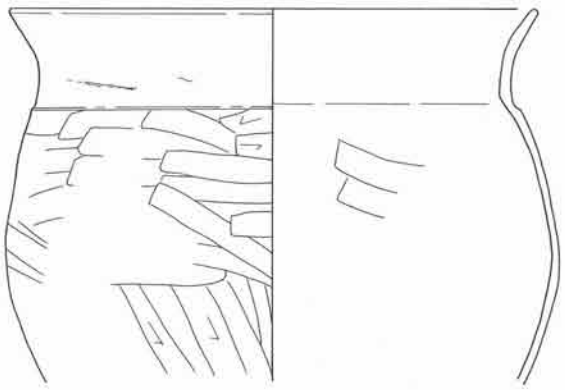
27(H−13−3)



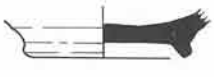
28(H−13−4)



29(H−13−5)

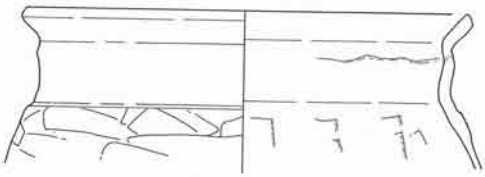


30(H−13−6)



32(H−15−1)

31(H−13−7)



33(H−15−2)

0 1：4 10cm

(29)

0 1：3 10cm

(22〜28・30〜33)

Fig.60　H−12・13・15号住居跡出土遺物

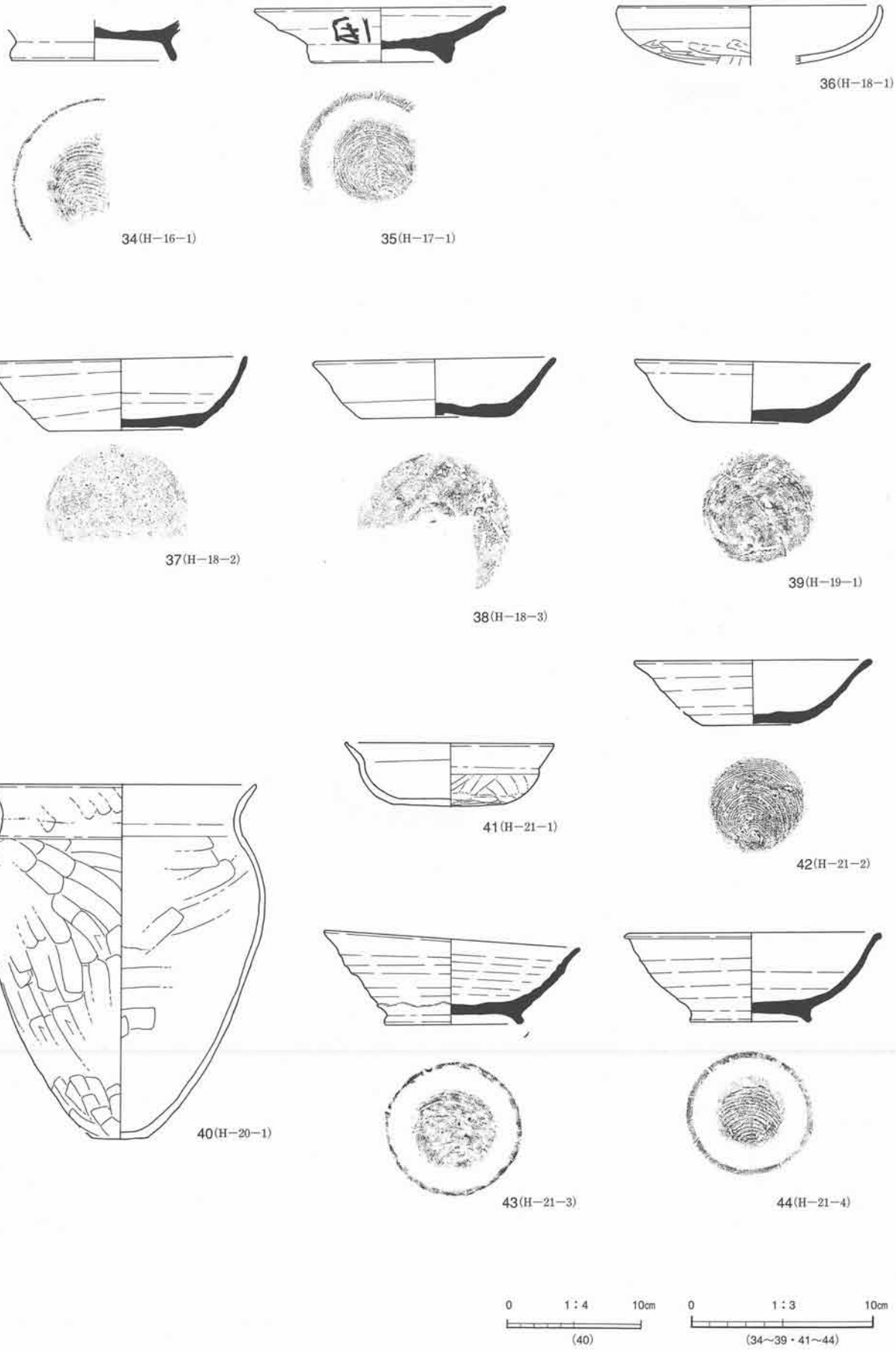
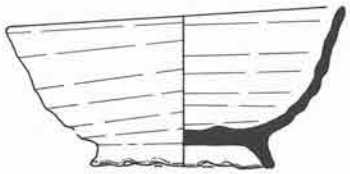
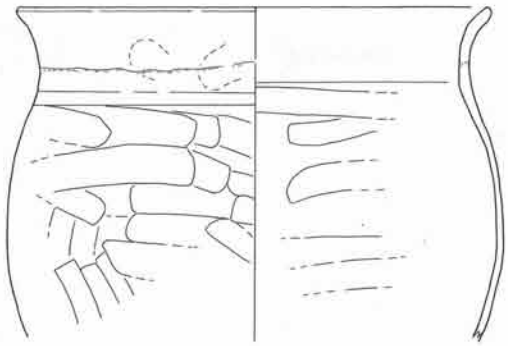


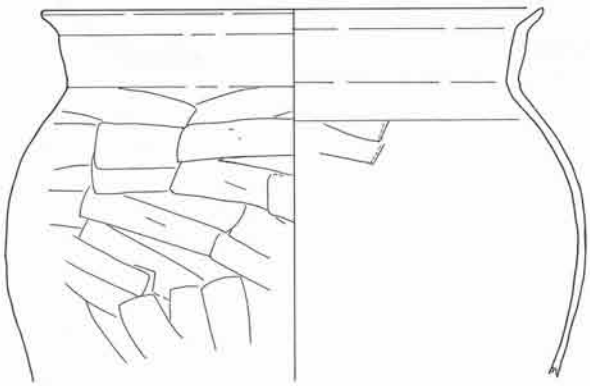
Fig.61　H−16〜21号住居跡出土遺物



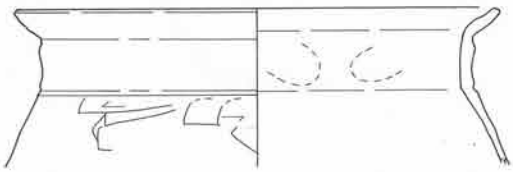
45(H−21−5)



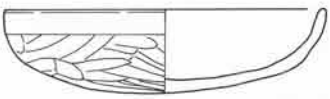
46(H−21−6)



47(H−21−7)

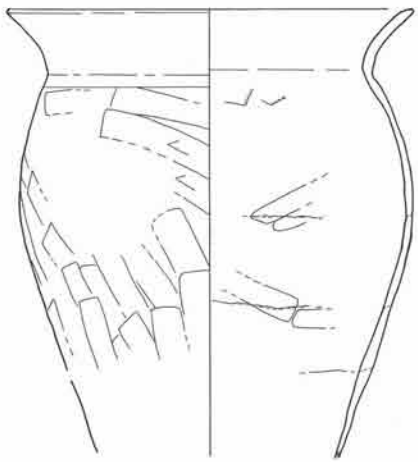


48(H−21−8)

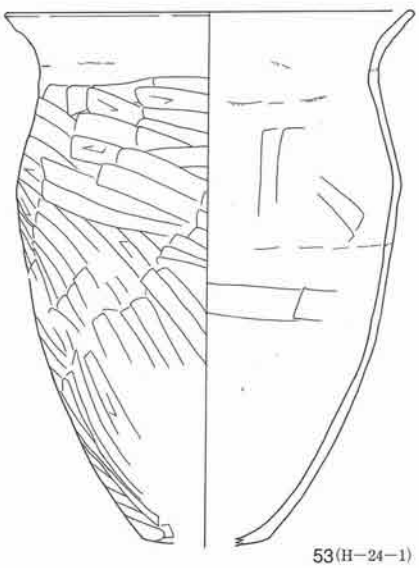


49(H−23−1)

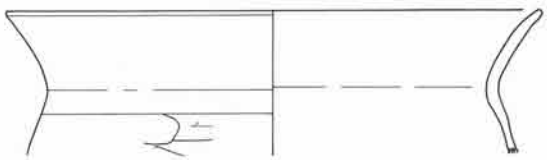
50(H−23−2)



51(H−23−3)



53(H−24−1)



52(H−21−4)

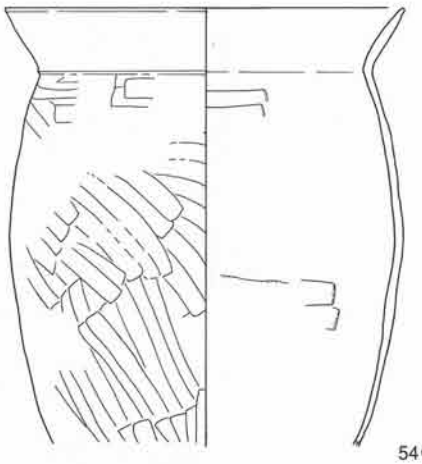
0 1:4 10cm

(51・53)

0 1:3 10cm

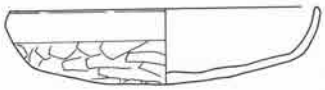
(45〜50・52)

Fig.62　H−21・23・24号住居跡出土遺物

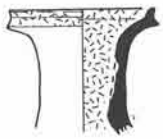


54(H−24−2)

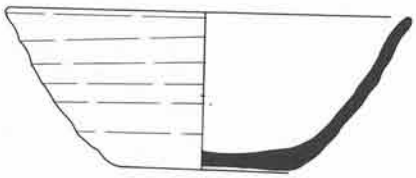
55(H−25−1)



56(H−25−2)

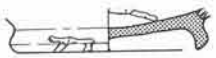


57(H−25−3)

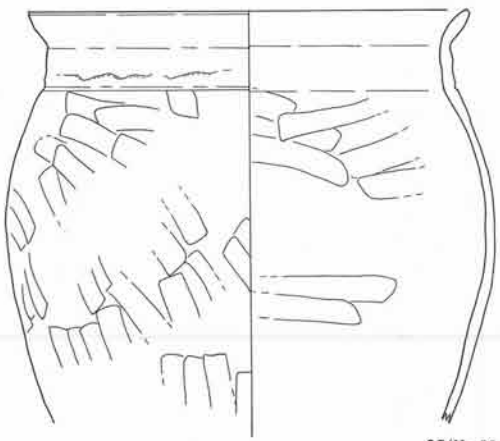


58(H−26−1)

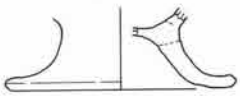
59(H−26−2)



60(H−26−3)



62(H−26−5)



61(H−26−4)

0 1：4 10cm

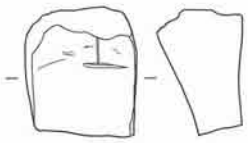
(54・62)

0 1：3 10cm

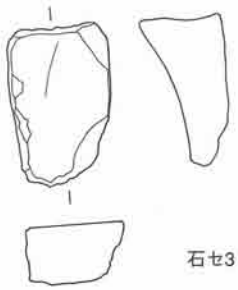
(55〜61)

Fig.63 H−24〜26号住居跡出土遺物

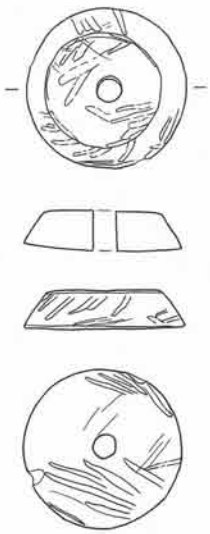
石セ1 (H−6)



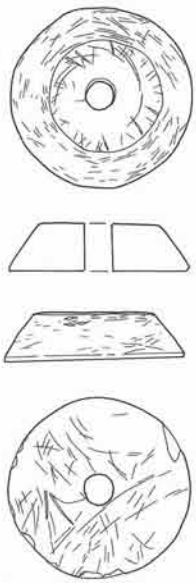
石セ2 (H−13)



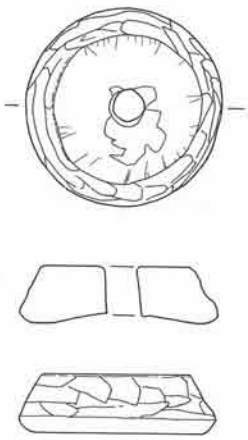
石セ3 (H−13)



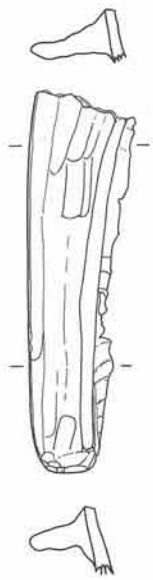
石セ4 (H−25)



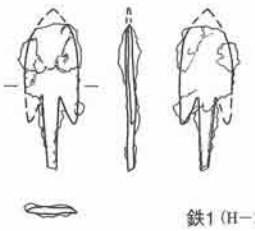
石セ5 (H−25)



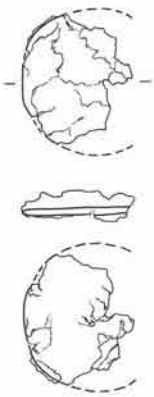
土セ1 (H−16)



土セ2 (H−21)



鉄1 (H−1)



鉄3 (H−25)

鉄2 (H−25)

0 1：4 10cm (土セ2)

0 1：2 5cm (石セ1・石セ4・石セ5・土セ1)

0 1：3 10cm (石セ2・石セ3・鉄1〜3)

Fig.64　H−1・6・13・16・21・25号住居跡出土遺物

五代深堀Ⅲ遺跡土師面全景（西から）

五代深堀Ⅲ遺跡縄文面全景（北から）

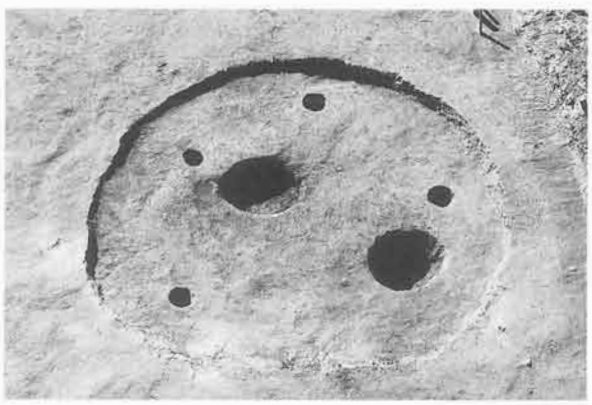
PL.15

Ｊ－１号住居跡全景（西から）

Ｊ－１号住居跡炉全景（西から）

Ｊ－１号住居跡遺物出土状況（南から）

Ｊ－１号住居跡遺物出土状況（南から）

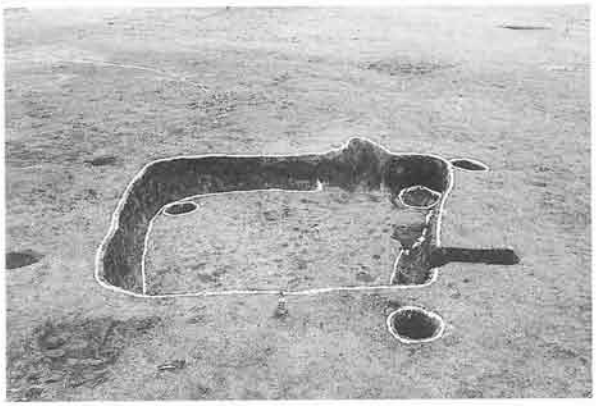


Ｊ－２号住居跡、JD－13・14号土坑全景（北から）

Ｊ－２号住居跡遺物出土状況（北から）

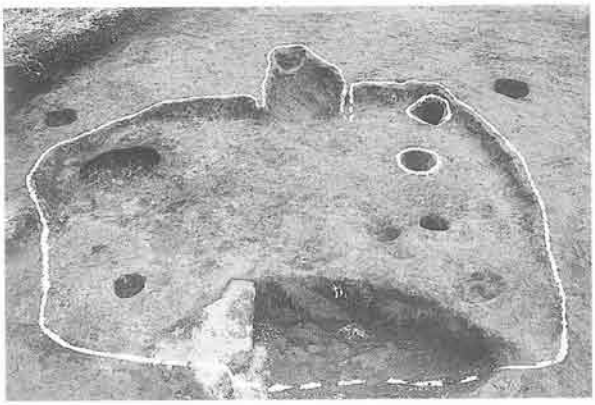
Ｊ－３号住居跡、ＪＤ－12号土坑全景（北から）

Ｊ－３号住居跡遺物出土状況（南から）



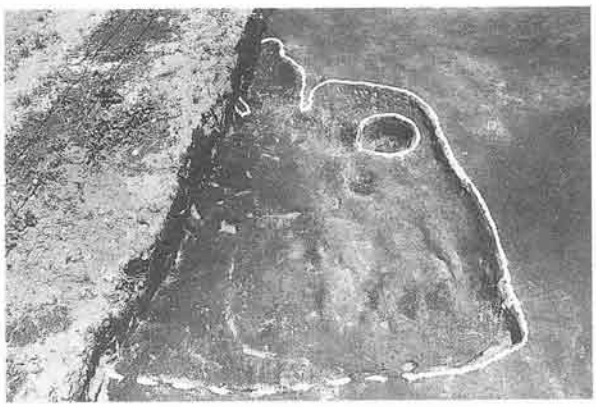
H－１号住居跡全景（西から）

H－１号住居跡竈（西から）



H－２号住居跡全景（西から）

H－２号住居跡遺物出土状況（南から）



H－３号住居跡全景（西から）

H－４号住居跡全景（南から）

H－５・６号住居跡Ｂ－１号掘立柱建物跡全景（西から）

H－５号住居跡竈全景（西から）

PL.17

H－５号住居跡遺物出土状況（西から）

H－６号住居跡竈全景（西から）

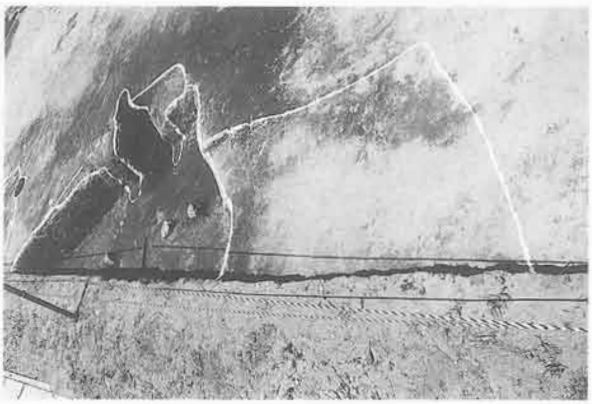
H－６号住居跡遺物出土状況（西から）

H－７・21号住居跡全景（南から）

H－７号住居跡竈全景（西から）

H－８・９号住居跡全景（西から）

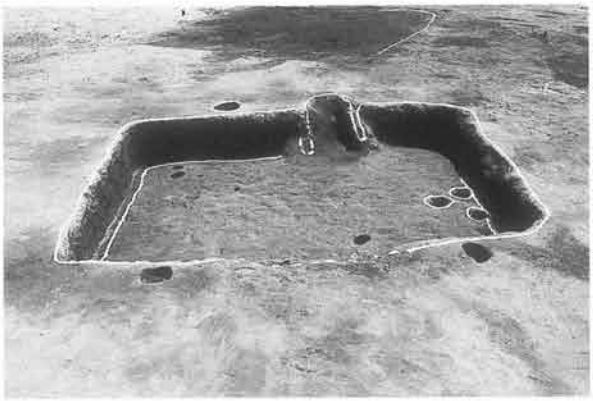
H－８号住居跡竈全景（西から）



H－10・11・22号住居跡全景（西から）

H－11号住居跡竈全景（西から）

H－11号住居跡遺物出土状況（南から）



H－12号住居跡全景（西から）

H－12号住居跡竈全景（西から）

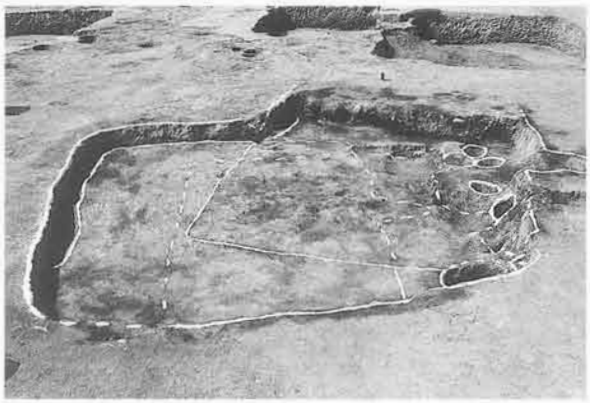
H－13号住居跡全景（西から）

H－13号住居跡竈全景（西から）

H－13号住居跡遺物出土状況（南から）

H－13号住居跡遺物出土状況（西から）

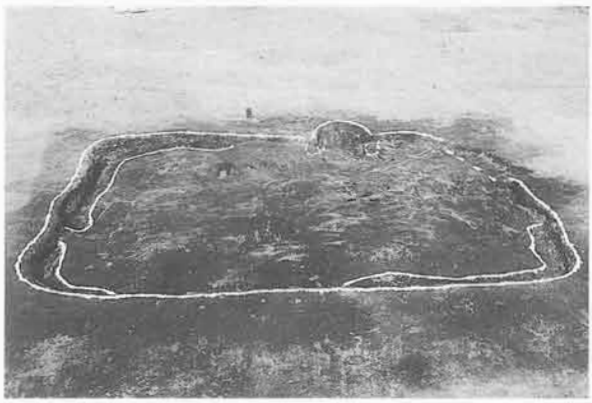
PL.19



H－14・15・19号住居跡全景（南から）

H－15号住居跡竈全景（西から）

H－15号住居跡遺物出土状態（西から）



H－16号住居跡全景（西から）

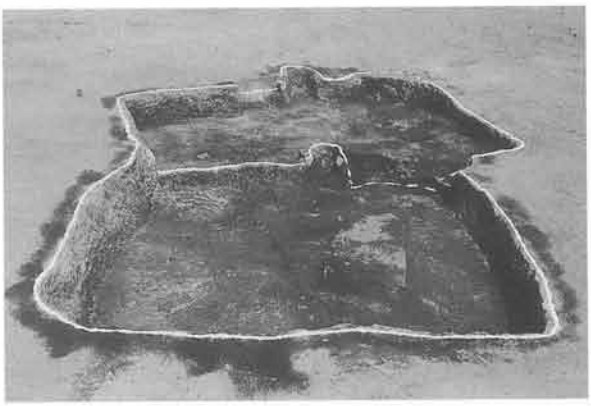
H－16号住居跡竈全景（西から）

H－17号住居跡全景（西から）

H－17号住居跡竈全景（西から）

H－18号住居跡全景（西から）

H－18号住居跡竈全景（西から）

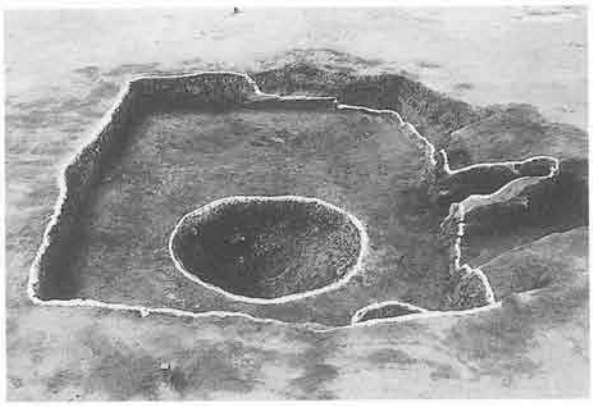


H－20・24号住居跡全景（西から）

H－20号住居跡竈全景（西から）

H－24号住居跡竈全景（西から）

H－24号住居跡遺物出土状態（西から）

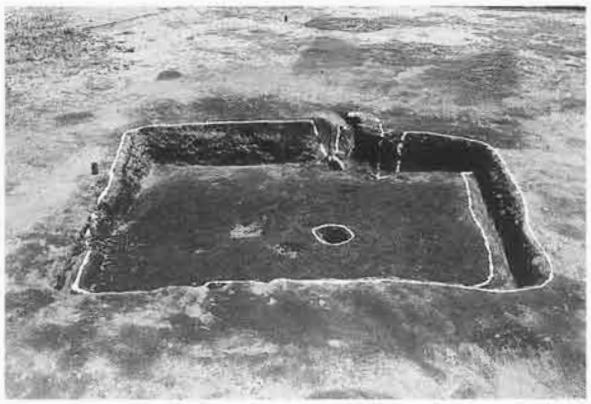


H－21号住居跡、Ⅰ－1号井戸跡全景（南から）

H－21号住居跡竈全景（西から）

H－21号住居跡遺物出土状態（北から）

PL.21

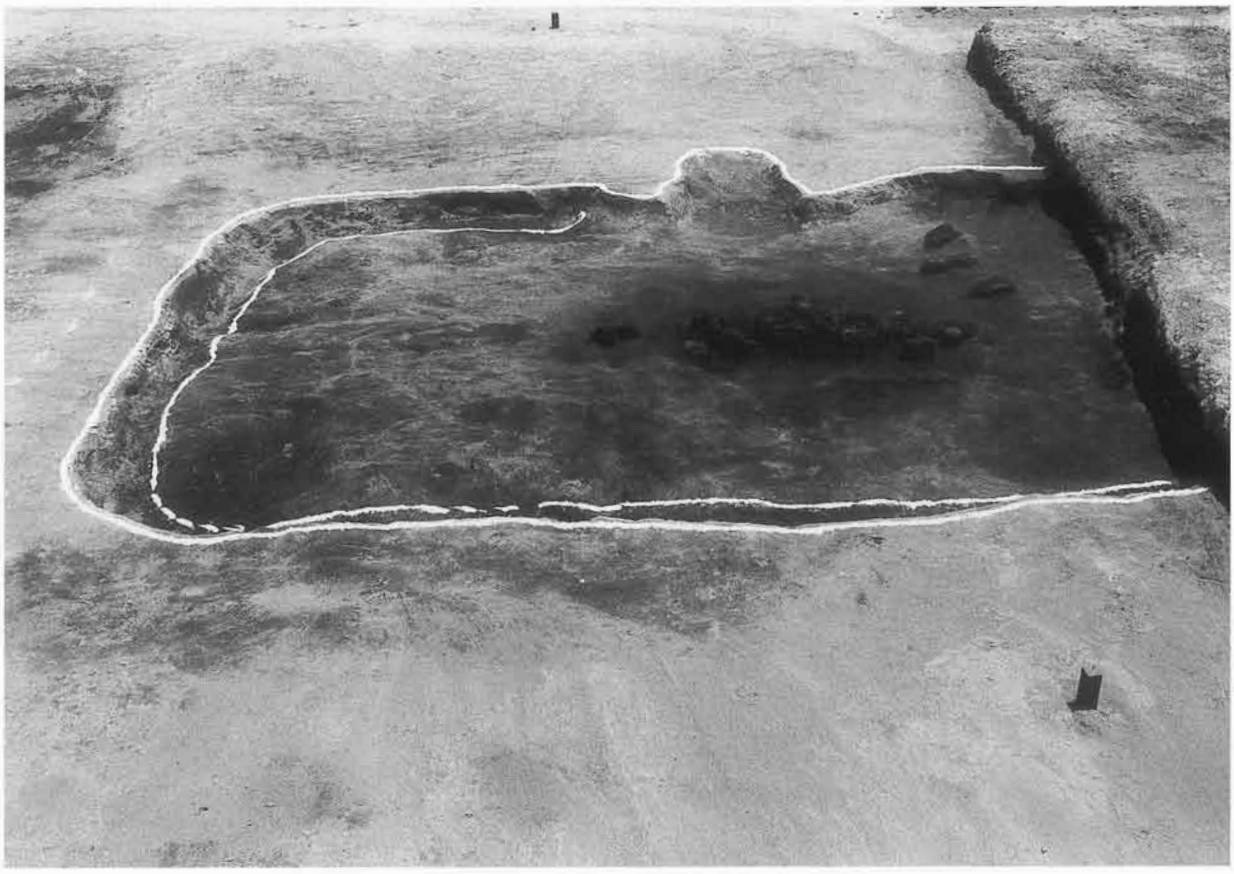


H－23号住居跡全景（西から）

H－23号住居跡竈全景（西から）

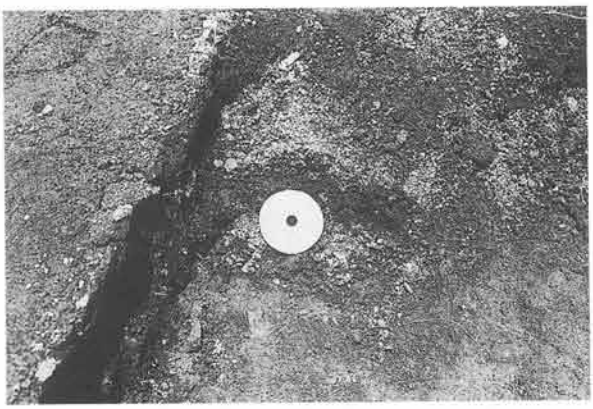
H－23号住居跡遺物出土状態（西から）

H－25号住居跡全景（西から）



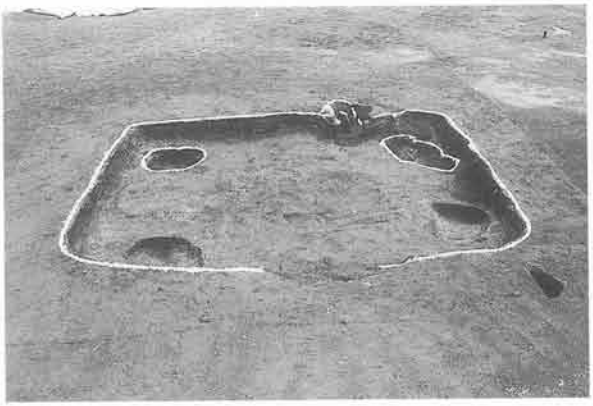
H－25号住居跡（炭化物）全景

H－25号住居跡竈全景（西から）



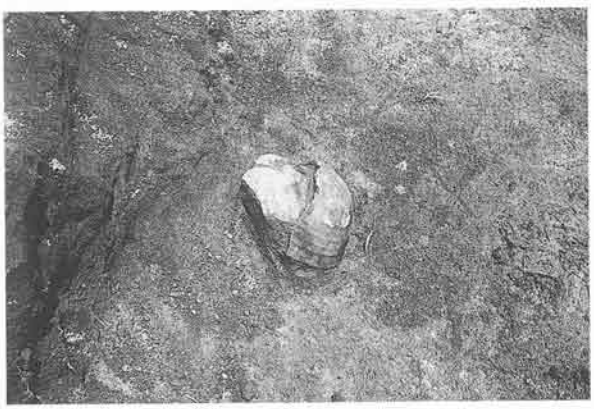
H－25号住居跡遺物出土状態（南から）

H－25号住居跡遺物出土状態（東から）

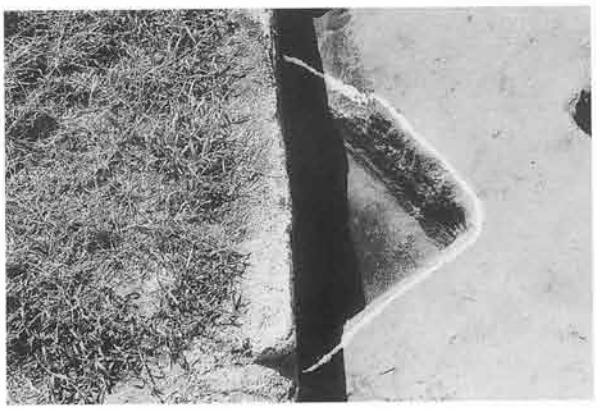


H－26号住居跡全景（西から）

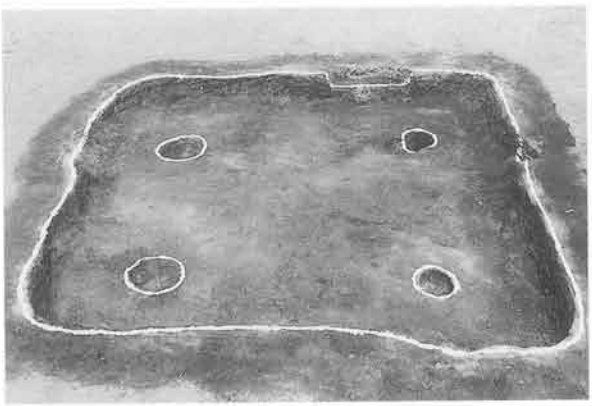
H－26号住居跡竈全景（西から）



H－26号住居跡遺物出土状態（西から）



H－27号住居跡全景（東から）

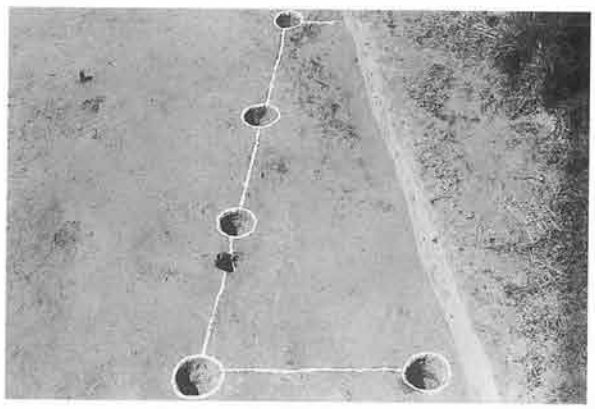


H－28号住居跡全景（南から）

PL.23

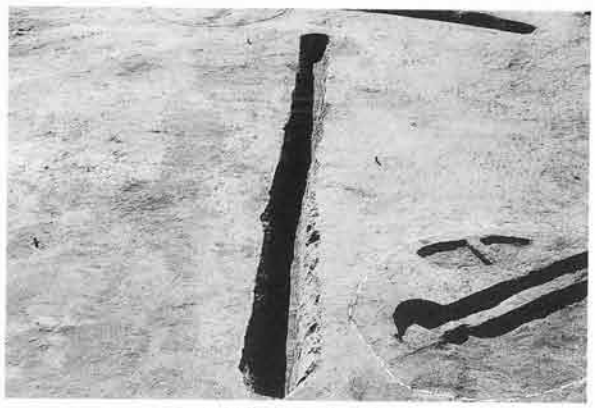
H－29号住居跡全景（西から）

H－29号住居跡竈全景（西から）



B－２号掘立柱建物跡全景（南から）

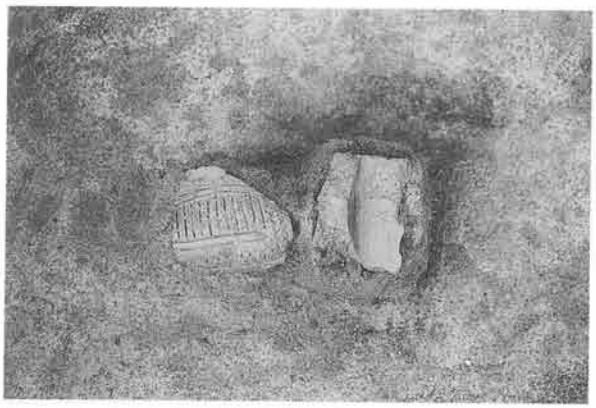
B－３～５号掘立柱建物跡全景（東から）



W－１号溝跡全景（北から）

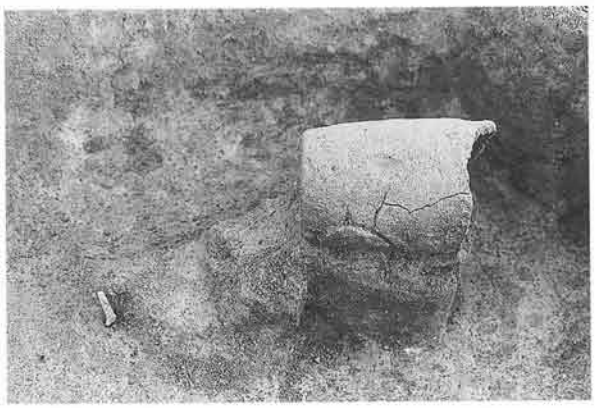
W－２号溝跡全景（北から）

ＪＤ－３号土坑遺物出土状況（南から）



ＪＤ－４号土坑遺物出土状況（西から）

ＪＤ－５号土坑遺物出土状況（西から）



ＪＤ－６号土坑遺物出土状況（南から）

ＪＤ－９号土坑全景（南から）

ＪＤ－10号土坑遺物出土状況

ＪＤ－10号住土坑遺物出土状況（南から）

ＪＤ－11号土坑全景（南から）

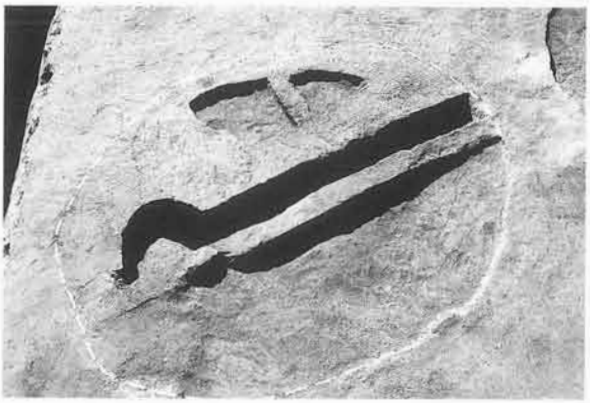
ＪＤ－12号土坑遺物出土状況（西から）

ＪＤ－14号土坑遺物出土状況（南から）

PL.25

Ⅰ－２号井戸跡全景（南から）

Ⅰ－３号井戸跡全景（東から）



Ｏ－２号落ち込み跡全景（北から）

Ｏ－２号落ち込み跡遺物出土状況（西から）

X85・Y153グリッド遺物出土状態（南から）

X85Y153グリッド遺物出土状況（南から）

桂萱中学校２年生職場体験

発掘を終えて

1 (J-1-1)

2 (J-2-1)

3 (J-3-1)

4 (J-3-2)

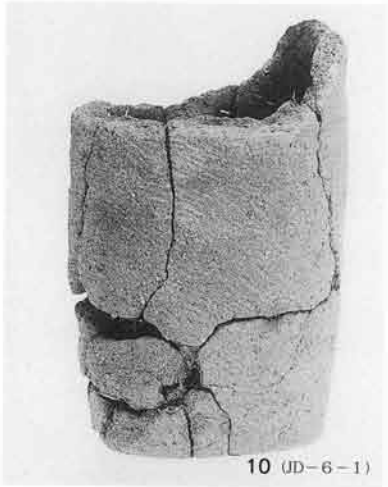
6 (D-3-1)

11 (JD-10-1)

12 (JD-10-2)

PL.27

8 (JD-5-1)



10 (JD-6-1)

15 (JD-11-3)

16 (JD-11-4)

17 (JD-11-5)

18 (JD-11-6)

19 (JD-12-1)

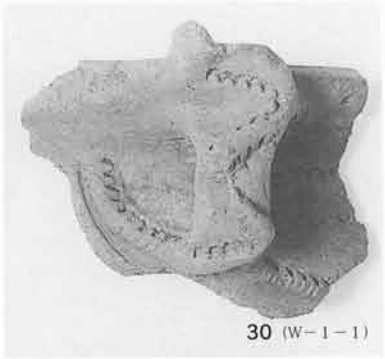
23 (O-2-2)

22 (O-2-1)

25 (O-2-4)

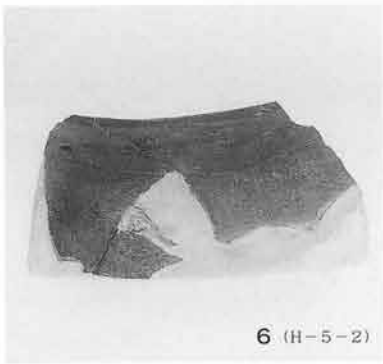
28 (O-2-7)

34 (X85Y153グリッド)



30 (W-1-1)

5 (H-5-1)



6 (H-5-2)

34 (X85Y153グリッド)

7 (H-6-1)

8 (H-6-2)

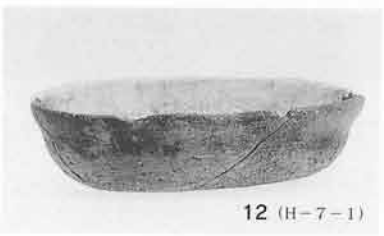
9 (H-6-3)

PL.29

2 (H-2-1)

10 (H-6-4)

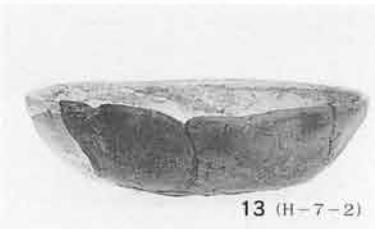
11 (H-6-5)



12 (H-7-1)

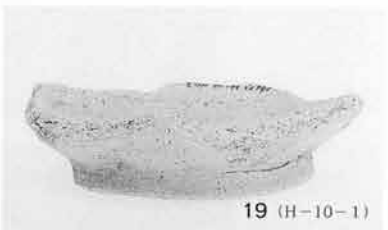
14 (H-7-3)

15 (H-7-4)

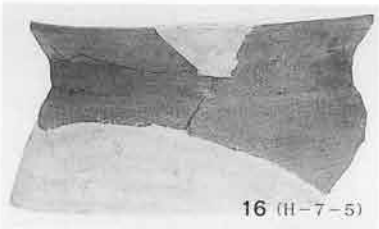


13 (H-7-2)

14 (H-7-3)

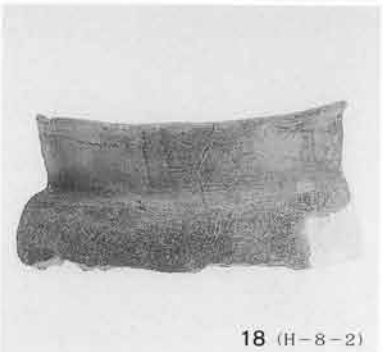


19 (H-10-1)



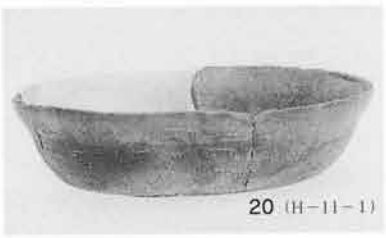
16 (H-7-5)

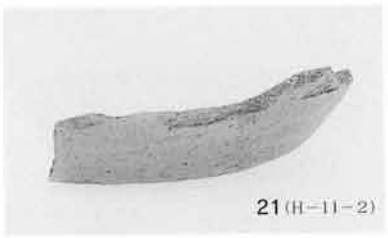
17 (H-8-1)

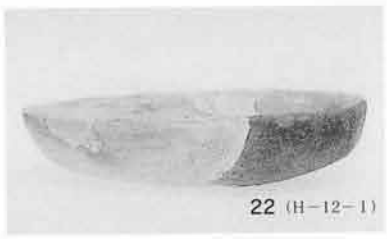


18 (H-8-2)

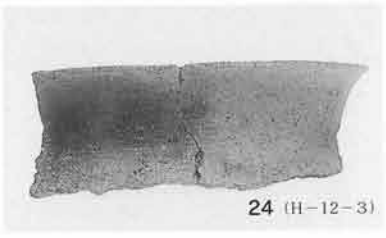
19 (H-10-1)

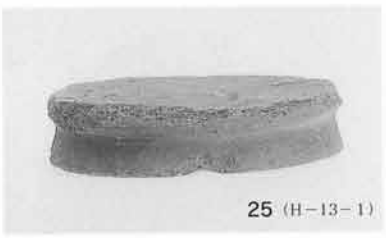

20 (H-11-1)


21 (H-11-2)


22 (H-12-1)

23 (H-12-2)


24 (H-12-3)

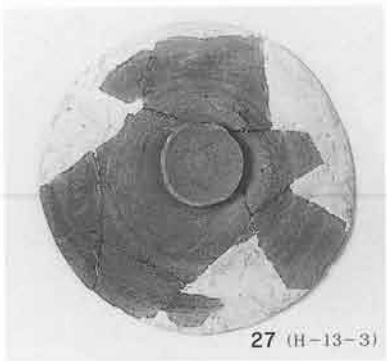

25 (H-13-1)

26 (H-13-2)

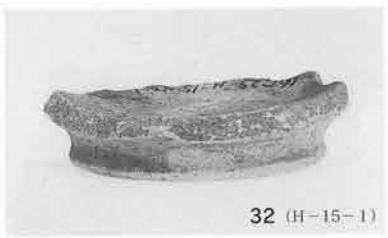
28 (H-13-14)

29 (H-13-5)

26 (H-13-2)

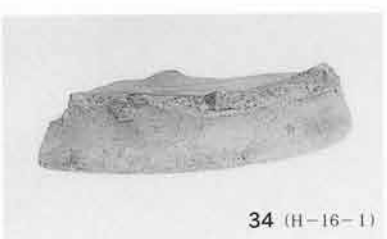

27 (H-13-3)

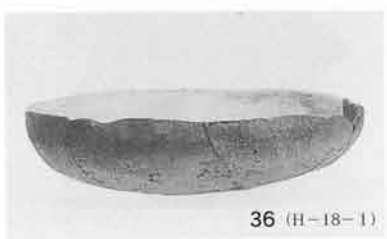
30 (H-13-6)


32 (H-15-1)

33 (H-15-2)

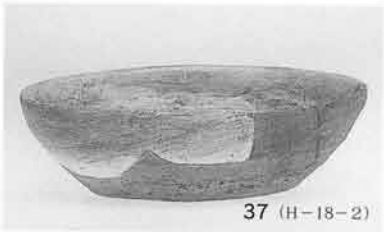
27 (H-13-3)


34 (H-16-1)


36 (H-18-1)

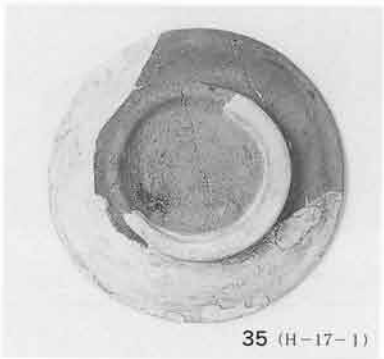
PL.31

35 (H-17-1)

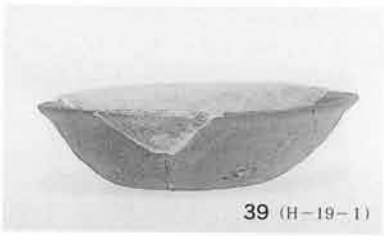


37 (H-18-2)

38 (H-18-3)

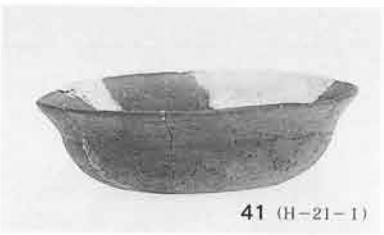


35 (H-17-1)



39 (H-19-1)

43 (H-21-3)

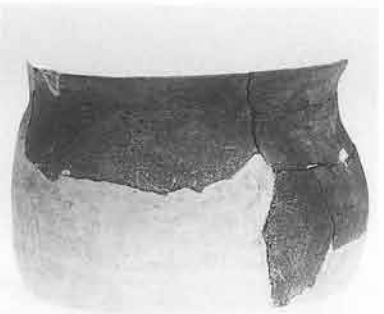


41 (H-21-1)

44 (H-21-4)

42 (H-21-2)

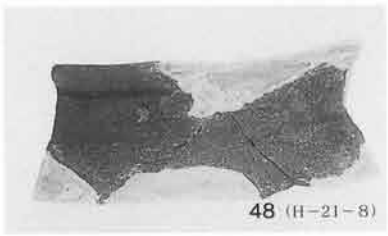
45 (H-21-5)



46 (H-21-6)

47 (H-21-7)

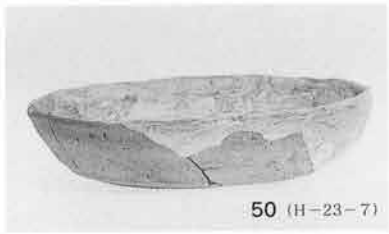
40 (H-20-1)



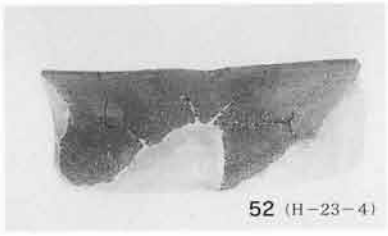
48 (H-21-8)

49 (H-23-1)

51 (H-23-3)



50 (H-23-7)



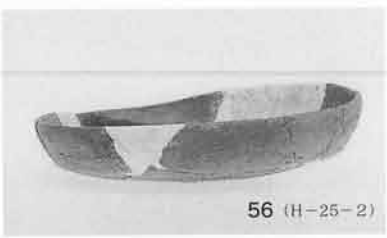
52 (H-23-4)

53 (H-24-1)

54 (H-24-2)

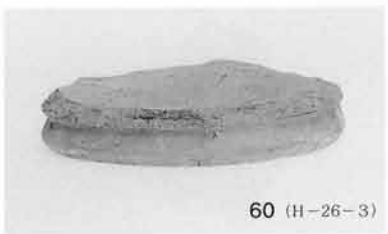
57 (H-25-3)

55 (H-25-1)

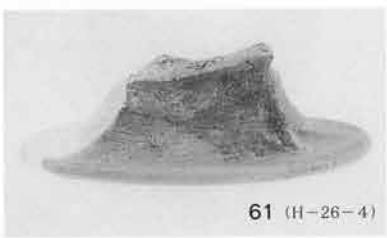


56 (H-25-2)

58 (H-26-1)

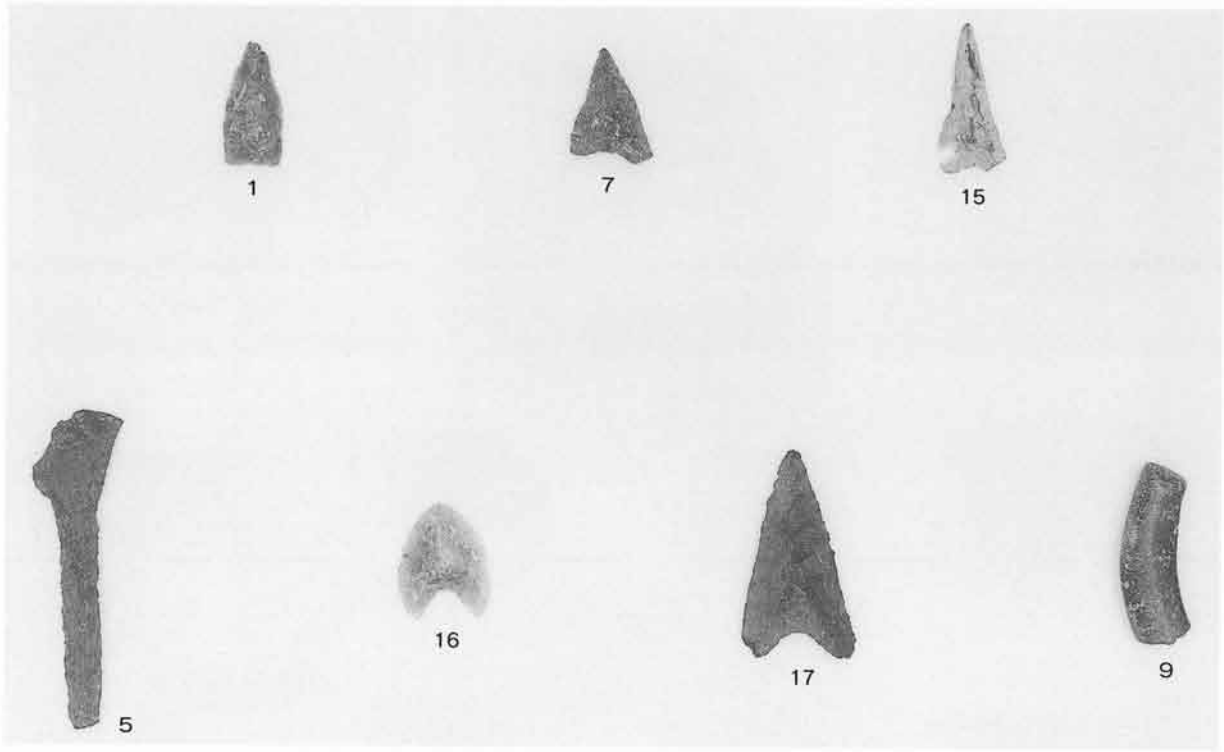


60 (H-26-3)

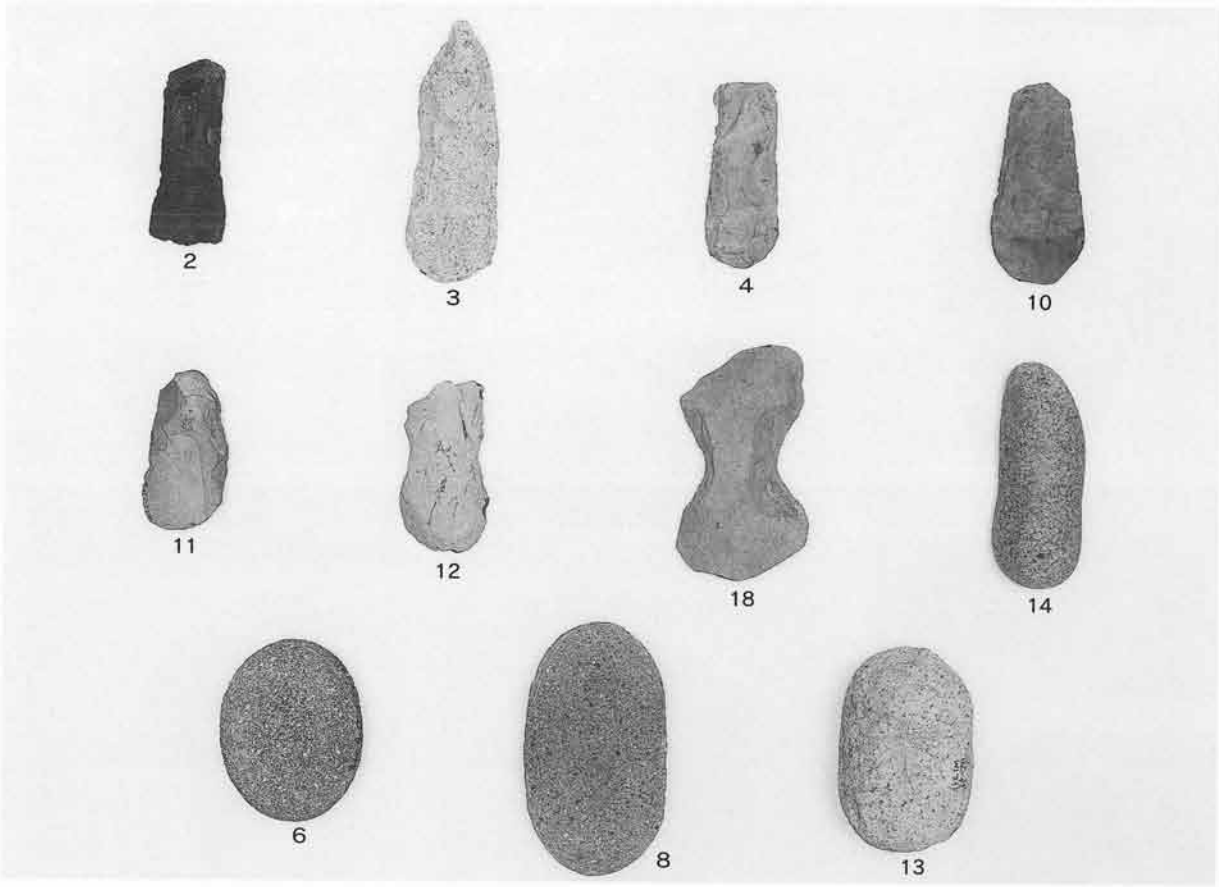


61 (H-26-4)

PL.35



石鏃・石錐・耳環



打斧・敲石

Ⅶ　五代南部工業団地遺跡群のまとめ

平成12年度から平成16年度まで５年間にわたり、五代南部工業団地遺跡群発掘調査が計21調査区で行われた。本遺跡群は、標高約115～142ｍの３つの舌状台地上に存在している。この３つの舌状台地を、西側から順に、西台地・中央台地・東台地とする。各遺跡を台地ごとにみると、西台地は中原Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの３遺跡、中央台地は山街道Ⅰ・Ⅱ、深堀Ⅰ（Ａ・Ｂ・Ｃ区）・Ⅲ、伊勢宮Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ、竹花、竹花Ⅱ、木福Ⅰ、江戸屋敷の14遺跡、東台地は深堀Ⅰ（Ｄ区）・Ⅱ、木福Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの５遺跡である。検出された遺構は、縄文時代前期から中近世にまで至る。各時代ごとに台地別に住居跡を中心に全体を総括していく。なお、付図３を参照にしていただきたい。

(1) 縄文時代前期

竪穴住居16軒。標高120～142ｍの範囲で分布。西台地と中央台地で検出。

○西台地（中原Ⅰ・Ⅱ）

竪穴住居７軒。諸磯ｃ式土器が中原Ⅰで、黒浜式・諸磯式土器が中原Ⅱで出土した。本台地の多くの住居跡は谷地へつながる台地東西両側の傾斜地で検出された。

○中央台地（伊勢宮Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ、木福Ⅰ、山街道Ⅰ、江戸屋敷）

竪穴住居９軒。関山式、茅山上層式、稲荷原式といった早期に近い時期のものから、黒浜式、諸磯ａ・ｂ・ｃ、花積下層式といったものまで、様々な土器片が山街道Ⅰから出土した。石組炉は、山街道Ⅰ・伊勢宮Ⅴで検出され、いずれも諸磯ｂが出土した。江戸屋敷と木福Ⅰではまとまった集落跡は検出されなかったので、当時の人々は伊勢宮Ⅴ以北、つまり南北約570ｍ、標高約125ｍ～142ｍの範囲が生活の中心であったことがわかる。ここでも、本台地の多くの住居跡は谷地へつながる台地西側の傾斜地で検出された。

(2) 縄文時代中期

①中期中葉

竪穴住居28軒。標高125ｍ～135ｍの範囲で分布。中央台地のみで検出。

○中央台地（山街道Ⅱ、伊勢宮Ⅳ・Ⅵ、深堀Ⅰ・Ⅲ、竹花Ⅱ）

遺跡の範囲は南北約250ｍに及ぶ。標高約125～135ｍの中にまとまった集落が形成されている。伊勢宮Ⅳ・Ⅵ、深堀Ⅲの３遺跡にまたがって、南北約100ｍ、東西約80ｍの環状集落が台地の傾斜地でない平坦部で形成されており、環状集落の内側に縄文土坑群が存在する。環状集落の住居跡からは、勝坂式、三原田式、阿玉台式、大木式、焼町式等の縄文土器が出土している。このことは南関東、信越、南東北、在地の文化が混在しており、様々な地域から人々が流入してきたことや様々な地域との文化の交流があったことを意味している。また、環状集落内の土坑群では、集石土坑や集石と遺物の混同した土坑もみられ、完形に近い形で多数の遺物が出土した。深堀Ⅲのグリッドからは、勝坂式特有の様々な文様を施したきらびやかな注口付深鉢が出土したが、あまり類例を見ない貴重な遺物である。伊勢宮Ⅵの土坑群からは、土器だけでなく、大珠、土製円盤、耳栓、胡桃や栗の炭化物といった当時の生活を知る貴重な遺物が出土した。

②中期後葉

竪穴住居23軒。標高120ｍ～142ｍの範囲で分布。中央台地と東台地で検出。

○中央台地（山街道Ⅰ、伊勢宮Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ、竹花）

竪穴住居21軒。遺跡の範囲は南北約600ｍに及び、中期中葉以降人々の生活の範囲が広がったことがわかる。集

落は大きく２つに分けられる。１つは標高約140ｍの山街道Ⅰ、もう１つは標高約120ｍ～125ｍの伊勢宮Ⅱ・Ⅴ、竹花である。つまり、中期中葉の環状集落より、本台地の北部と南部に集落が移っていったことが明らかである。北集落の山街道Ⅰからは、加曽利Ｅ４式の土器が多く出土し、石組炉を伴った住居や敷石住居が検出された。南集落の伊勢宮Ⅱからは加曽利Ｅ２式土器、伊勢宮Ⅴからは、加曽利Ｅ２式、曽利式土器、竹花からは加曽利Ｅ３式土器が出土した。北部及び南部集落とも、集落の多くは中央台地の西側傾斜地にみられる。これは縄文時代前期の西台地と同様である。

○東台地（深堀Ⅰ・Ⅱ、木福Ⅱ）

竪穴住居２軒。南北約200ｍ、標高約128～138ｍの範囲で分布。加曽利Ｅ３・４式土器が出土した。木福Ⅱでは、配石遺構が検出された。遺構、遺物とも少ないが、縄文時代中期中葉以前の遺構、遺物が本台地で検出されていないことから、中期後葉になり、集落が東へと広がっていったことが明らかである。

(3) 縄文時代まとめ

竪穴住居でみると、前期は西台地、中期中葉は中央台地中央部、中期後葉は中央台地北部・南部及び東台地中央部へと、人々は生活範囲を広げながら綿々と生活していたことがうかがえる。しかしながら、縄文時代後期及び晩期、並びに弥生時代の遺構、遺物は検出されなかった。

2　古墳時代

(1) 古墳前期（4世紀）

竪穴住居66軒。標高約120～142ｍの範囲で分布。西台地と中央台地で検出。

○西台地（中原Ⅱ・Ⅲ）

竪穴住居65軒。南北約120ｍ、標高約137～142ｍの範囲で分布。中原Ⅱ・Ⅲは、同じ西台地に北から中原Ⅲ、中原Ⅱと連続しており、１つの遺跡ととらえられることができる。住居分布は４世紀中頃（18軒）には北側に集中し、中頃から後半（18軒）にかけて南へと広がり、後半（18軒）になると全体に広がる。さらに4世紀末から５世紀初頭（11軒）にかけては住居数が減り、南寄りに分布していく。このことは、両遺跡で唯一竈を伴う住居が中原Ⅱの最南端で検出していることからも明らかである。４世紀中頃では、中原Ⅱでベッド状遺構を伴った住居が検出された。４世紀中頃から後半では、中原Ⅲの竪穴住居Ｈ－１からほぼ完形の多種の土器が出土した。器種は、小型土器、小型器台、有段高坏、鉢、甑、壷、甕、台付甕である。４世紀後半には住居の主軸方向がまとまり、４世紀末から５世紀初頭にかけては間仕切りやベッド状遺構がなくなり、唯一竈を伴う住居が中原Ⅱの最南端で検出している。出土土器全体の傾向として、在地の樽式系を主体としながら、赤井戸式・吉ヶ谷式系といった外来系の土器を受容していく様相を見てとることができる。焼失住居は4世紀中頃から後半にかけて集中しており、意図的に廃棄された可能性もあり、厳しい社会情勢や自然環境の中で変化を遂げる様子がうかがえる。中原Ⅲの北隣の芳賀東部団地遺跡の住居跡の分布も含めて、５世紀中頃以降、本地域の集落が終焉してしまう。東側の谷の開析の進度が速く居住域との高低差が拡大する中で、より高低差の少ない南部の地点へ集落を移していったものと考える。

○中央台地（江戸屋敷）

竪穴住居1軒。標高約119～120ｍの範囲で分布。方形周溝墓2基の周溝より石田川式台付甕が出土したことから４世紀中頃の遺構と考えられる。

(2) 古墳中期（5世紀）

竪穴住居14軒。標高約123～142ｍの範囲で分布。西台地と中央台地で検出。

○西台地（中原Ⅰ・Ⅱ）

竪穴住居13軒。標高約137～142ｍの範囲で分布。中原Ⅰでは南西側に住居が集中し、中原Ⅱで環状に集落を形成している。

○中央台地（伊勢宮Ⅱ）

竪穴住居1軒。標高約123ｍ。住居面積約40㎡と比較的大きい。

(3) 古墳後期（6世紀）

竪穴住居199軒。標高約115～142ｍの範囲で分布。西台地、中央台地、東台地で検出。

○西台地（中原Ⅰ）

竪穴住居2軒。標高約137ｍ。南西の傾斜地に竈を伴った住居が検出された。

○中央台地（山街道Ⅰ、伊勢宮Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ、竹花、竹花Ⅱ、木福Ⅰ、江戸屋敷）

竪穴住居118軒。標高約115～142ｍの範囲で分布。山街道Ⅰは1軒なので、主たる分布は標高約115～137ｍととらえられよう。６世紀前半から中頃までは大型住居を中心としながらも、住居の規模に格差がみられた。伊勢宮Ⅴでは大型住居を中心に、竈内の長胴甕２点をはじめ、多くの完形遺物の出土のあった住居も検出された。伊勢宮Ⅱでは焼失住居、拡張住居、竈を造り替えた住居がみられた。標高約125ｍ付近までの伊勢宮Ⅰ・Ⅱ、木福Ⅰでは、コモ編石が多数出土した。６世紀後半から７世紀にかけては、住居の規模の格差がなくなる。竹花では多くの遺物を伴った焼失住居が検出された。

○西台地（木福Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）

竪穴住居79軒。標高約120～130ｍの範囲で分布。木福Ⅱでは64軒もの住居が検出されており、標高約130ｍの北側台地に集中し、「十」の線刻土器、長胴甕、臼玉等の出土がみられた。木福Ⅲでは大型住居を中心とした集落が台地の高い部分や谷地の周辺部で検出された。竪穴住居と掘立柱建物がセットとなって有力階層の屋敷が構成されていた。木福Ⅱ・Ⅲが主たる住居の分布であるが、木福Ⅳでは竈焚口付近に長胴甕２点を伴う大型の住居が検出された。

(4) 古墳後期～終末期（7世紀）

竪穴住居15軒。標高約120～135ｍの範囲で分布。中央台地と東台地で検出。

○中央台地（伊勢宮Ⅱ・Ⅴ、江戸屋敷）

竪穴住居12軒。標高約120～125ｍの範囲で分布。６世紀末から続いて、伊勢宮Ⅱや江戸屋敷では竪穴住居の規模が小型化・均一化されてくる。

○東台地（深堀Ⅱ）

竪穴住居3軒。標高135ｍ。長胴甕が出土した。

(5) 古墳時代　まとめ

４世紀は標高の高い西台地を中心に集落が形成された。５世紀には住居数は激減するも南側でも検出された。６世紀になると本遺跡群最大の住居数となり、全体に集落は広がる。７世紀には集落は一旦の終焉をみる。住居の規模では４・５世紀に大型住居が造られ、６・７世紀には小型化・均一化の傾向が出てくる。

3　奈良～平安時代

(1) 奈良時代～平安時代初期（8世紀）

竪穴住居102軒。標高約120～135ｍの範囲で分布。中央台地と東台地で検出。

○中央台地（伊勢宮Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ、竹花、竹花Ⅱ、江戸屋敷、木福Ⅰ）

竪穴住居48軒。標高約115～132ｍの範囲で分布。7世紀に比べさらに竪穴住居の規模が小型化・均一化されてくる。木福Ⅰ、深堀Ⅲ、江戸屋敷からは墨書土器、伊勢宮Ⅴからは線刻土器が出土し、8世紀前半から文字を必要とする社会になっていることがうかがえる。また伊勢宮Ⅵでは、鍛冶工房跡が検出され、赤城南麓の鉄文化発達において貴重な資料となった。

○東台地（深堀Ⅱ、木福Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）

竪穴住居54軒。標高約121～135ｍの範囲で分布。中央台地と同様に竪穴住居の規模はここでも小型化・均一化されてくる。木福Ⅱ・Ⅲを中心に南北約300ｍの大きな集落が形成されていた。やはり、墨書土器が木福Ⅱより出土しており、文字の使用を認めることができる。

(2) 平安時代前期（9世紀）

竪穴住居190軒。標高約121～142ｍの範囲で分布。西台地、中央台地、東台地で検出。○西台地（中原Ⅰ）

竪穴住居18軒。標高約136～139ｍの範囲で分布。竪穴住居は環状に位置し、数軒単位でまとまっており、掘立柱建物を小グループで協同使用している。住居の形態は南北方向がやや長く、東竈である。

○中央台地（伊勢宮Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ、深堀Ⅰ・Ⅲ、竹花、竹花Ⅱ）

竪穴住居76軒。標高約115～142ｍの範囲で分布。9世紀前半は深堀Ⅲ、伊勢宮Ⅴ、竹花Ⅱを中心に集落が構成されていた。9世紀後半になると、集落の中心は南方の木福Ⅰへと移っていく。住居の規模は8世紀のそれよりもより小型化・均一化が進んだ。伊勢宮Ⅴでは集落は調査区東側に半円状に広がっており、その中央部に掘立柱建物が検出された。深堀Ⅲでは焼失住居から鉄製紡錘車、鉄製鎖状金具が出土し、8世紀後半から始まった鉄の使用が急速に広まったことを意味している。竹花Ⅱでは銅製鈴や和同開珎等の皇朝十二銭が出土し、貨幣の使用が認められた。伊勢宮Ⅴ、竹花、深堀Ⅲ、木福Ⅰでは線刻文字や墨書土器が出土し、8世紀代から続いて文字の使用が広まっていいたことがうかがえる。

○東台地（深堀Ⅱ、木福Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）

竪穴住居96軒。標高約121～135m、南北約400ｍの範囲で分布。木福Ⅲでは鍛冶工房跡が検出され、木福Ⅱや木福Ⅳでも鉄滓が出土していることから、鉄製品の需要が増大したことがうかがえる。木福Ⅱでは、紡錘車、和同開珎、銅製帯金具等が出土した。ここでも墨書土器が多数出土し、文字の使用の広まりを確認できる。

(3) 平安時代中期（10世紀）

竪穴住居17軒。標高約115～130ｍの範囲で分布。中央台地と東台地で検出。

○中央台地（伊勢宮Ⅴ、深堀Ⅲ、木福Ⅰ、江戸屋敷）

竪穴住居11軒。標高約115～130ｍで分布。9世紀と比べ、住居数は激減し、住居規模は若干小型化する。

○東台地（木福Ⅳ）

竪穴住居6軒。標高約123～126ｍで分布。10世紀後半になるにつれ、住居の規模はより小型化する。

(4) 奈良～平安時代　まとめ

8世紀には、中央台地、東台地で集落が形成され、住居の規模は小型化・均一化の傾向がより強まる。9世紀になると西台地も含め、全体に集落が広がり、10世紀には住居数は激減し点在する。時代を経るごとに小型化・均一化はますます強まった。また、文字の使使用は8世紀前半、鉄製品の使用は8世紀後半からはじまり、急速に普及した。

4　中世以降

(1) 中世（西台地、中央台地、東台地で検出。）

○西台地（中原Ⅰ）

平安時代以降の溝。

○中央台地（伊勢宮Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、竹花、木福Ⅰ、江戸屋敷）

伊勢宮Ⅲ・Ⅴ、江戸屋敷、木福Ⅰで地下式坑が検出された。渡来銭や人骨も出土した。

○東台地（木福Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）

木福Ⅱ・Ⅳで地下式坑が検出された。木福Ⅱ・Ⅲ・Ⅳにまたがる溝が3条検出された。

(2) 近世（中央台地で検出。）

○中央台地（伊勢宮Ⅰ・Ⅱ、江戸屋敷）

伊勢宮Ⅰ・Ⅱ、江戸屋敷にまたがる溝が検出された。近世の館を取り囲む堀かとも思われたが、残念ながら堀の中からは大型建物跡の遺構が検出されなかった。

5　最後に

五代南部工業団地遺跡群の延べ発掘調査面積は合計128,325㎡、検出された住居は、縄文・土師合わせて670軒になった。この赤城南麓の五代の地に縄文時代から近世に至るまで、綿々と人々が生活し続けていたことがわかった。終わりに、本遺跡群発掘調査に携わったすべての方々に感謝の意を込めて、本遺跡群のまとめとする。

【五代木福Ⅳ遺跡・五代深堀Ⅲ遺跡　引用参考文献】

佐原真「特論－縄文施文法入門」『縄文土器大成』3　講談社　1981年
中澤充裕・唐澤保之編『芳賀団地遺跡群』第1巻　前橋市教育委員会　1984年3月
桐原義司編『東筑摩郡・松本市・塩尻市誌』第2巻上　東筑摩郡・松本市・塩尻市郷土資料編纂会
林喜久夫・前原照子・井野誠一編『芳賀団地遺跡群』第2巻　前橋市教育委員会　1988年3月
外山政子『群馬県地域の土師器甑について』「研究紀要－6－」群馬県埋蔵文化財発掘調査団　1989年3月
井野誠一編『芳賀団地遺跡群』第3巻　前橋市教育委員会　1990年3月
群馬県史編さん委員会編『群馬県史』通史編1　群馬県　1990年3月
棚畑遺跡発掘調査団編『棚畑』「八ヶ岳西山麓における縄文時代中期の集落遺跡」　茅野市教育委員会　1990年12月
群馬県史編さん委員会編『群馬県史』通史編2　群馬県　1991年5月
井野誠一編『芳賀団地遺跡群』第4巻　前橋市教育委員会　1991年3月
前原豊・伊藤良編『内堀遺跡群Ⅳ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1991年3月
赤山容造・佐藤明人・小宮俊久編『三原田遺跡』第3巻　1992年3月
井野誠一編『芳賀団地遺跡群』第5巻　前橋市教育委員会　1994年3月
山本茂樹・今福利恵・五味信吾編『甲ッ原遺跡Ⅱ』山梨県埋蔵文化財センター　1996年3月
坂口好孝・眞塩明雄編『鳥取福蔵寺遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1998年3月
飯田祐二・佐藤則和編『芳賀東部団地遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1998年3月
飯田祐二・佐藤則和編『山王若宮遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1998年3月
林信也・福田貫之編『鳥取福蔵寺遺跡』Ⅱ　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1999年3月
長谷川福次編『箱田遺跡群（上原・三角遺跡）・真壁諏訪遺跡』　北橘村教育委員会　1999年3月
小林達雄編『縄文土器の編年と社会』普及版季刊考古学　雄山閣出版　1999年6月
林信也・平野岳志編『内堀遺跡群』ⅩⅡ　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000年3月
齋木一敏・山口宗男・吉沢貴編『前田Ⅴ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000年3月
齋木一敏・須藤友子編『五代江戸屋敷遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001年3月
山武考古学研究所編『五代竹花遺跡・五代木福Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅰ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001年3月
スナガ環境測設株式会社編『五代木福Ⅱ遺跡・五代深堀Ⅰ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001年3月
戸沢充則編『縄文時代研究事典』4版　東京堂出版　2001年9月
長谷川福次編『道訓前遺跡』　北橘村教育委員会　2001年2月
高橋一彦・倉品敦子編『五代伊勢宮Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年3月
スナガ環境測設株式会社編『五代伊勢宮Ⅲ遺跡・五代深堀Ⅱ遺跡・五代中原Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅳ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年3月
近藤雅順編『五代伊勢宮Ⅴ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003年3月
スナガ環境測設株式会社編『五代伊勢宮Ⅵ遺跡・五代中原Ⅱ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003年3月
関口巧一編『中屋敷Ⅰ遺跡・明神山遺跡・伊勢山遺跡・中島遺跡・西裏遺跡』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　2003年3月
倉品敦子・髙橋亨編『五代中原Ⅲ遺跡・五代山街道Ⅰ遺跡・五代山街道Ⅱ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2004年3月
スナガ環境測設株式会社編『五代竹花Ⅱ遺跡・五代木福Ⅲ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2004年3月
北橘村教育委員会・同歴史民俗資料館編『第28回企画展示会図録　縄文土器は変身する』北橘村歴史民俗資料館　2004年10月
小林修編『図録　縄文ワールドinあかぎ』「瀧沢石器時代遺跡と縄文の造形」　赤城村教育委員会　2005年1月

フリガナ	ゴダイキフクヨンイセキ・ゴダイフカボリサンイセキ
書名	五代木福Ⅳ遺跡・五代深堀Ⅲ遺跡
副書名	五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	髙橋　亨・小嶋　尚
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371－0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10－2
発行年月日	西暦2005年３月18日

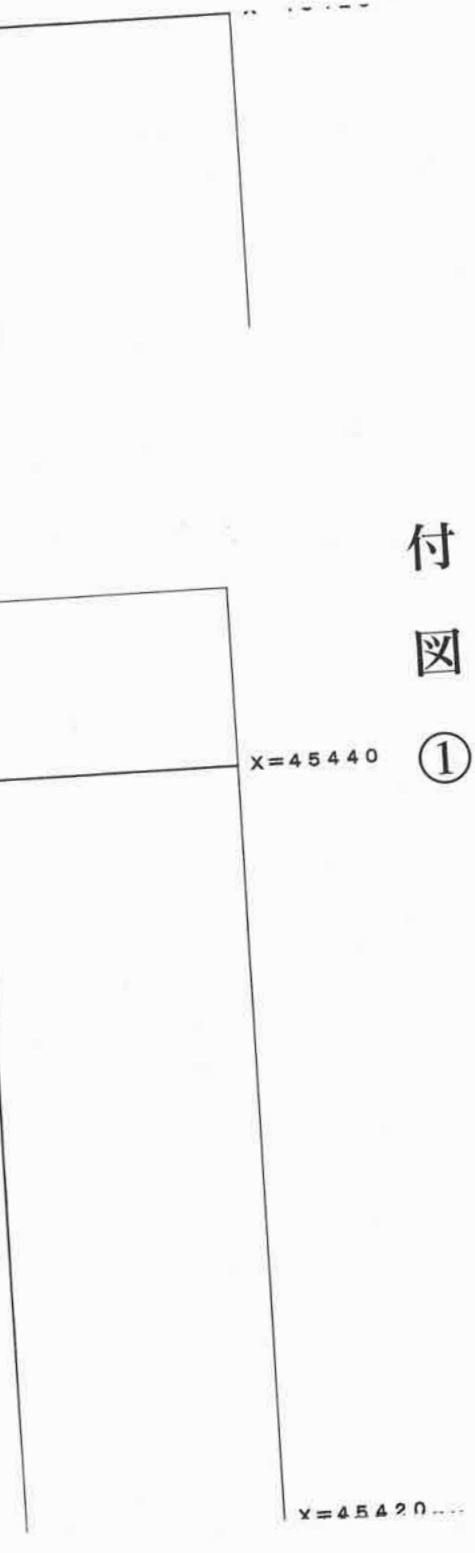
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ゴダイキフクヨンイセキ 五代木福Ⅳ遺跡	マエバシシゴダイマチ 前橋市五代町 1172ほか	10201	16C23	36°24′25″	139°07′02″	20040518 20041217	3,024.17㎡	五代南部工業団地造成事業
ゴダイフカボリサンイセキ 五代深堀Ⅲ遺跡	マエバシシゴダイマチ 前橋市五代町 1087-2ほか	10201	16C25	36°24′31″	139°06′57″		3,524	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
五代木福Ⅳ遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡１軒	土師器	なし
		奈良・平安時代	竪穴住居跡17軒、掘立柱建物跡５棟、土坑21基	土師器・須恵器・石製品	
		中世以降	溝跡４条		
五代深堀Ⅲ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡３軒、土坑14基、溝２条、落ち込み跡２基	縄文土器、石器	なし
		奈良・平安時代	竪穴住居跡29軒、掘立柱建物跡５棟、土坑２基、井戸跡３基	土師器・須恵器・土製品・石製品・鉄製品	

五代木福Ⅳ遺跡
五代深堀Ⅲ遺跡

平成17年３月18日　印刷
平成17年３月24日　発行
発　行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10-2
印刷所　上越印刷工業株式会社

付図①



X125
X130
H-1
H-2
H-3
H-4
H-5
H-6
H-7
H-8
H-9
H-10
H-11
H-12
B-1
B-2
B-3
W-1
W-2
D-1
D-2
D-3
D-5
D-6
D-7
D-8
D-9
D-10
D-11
D-12
127.0m
127.5m
128.0m
128.5m
126.5m

Y 1 9 0

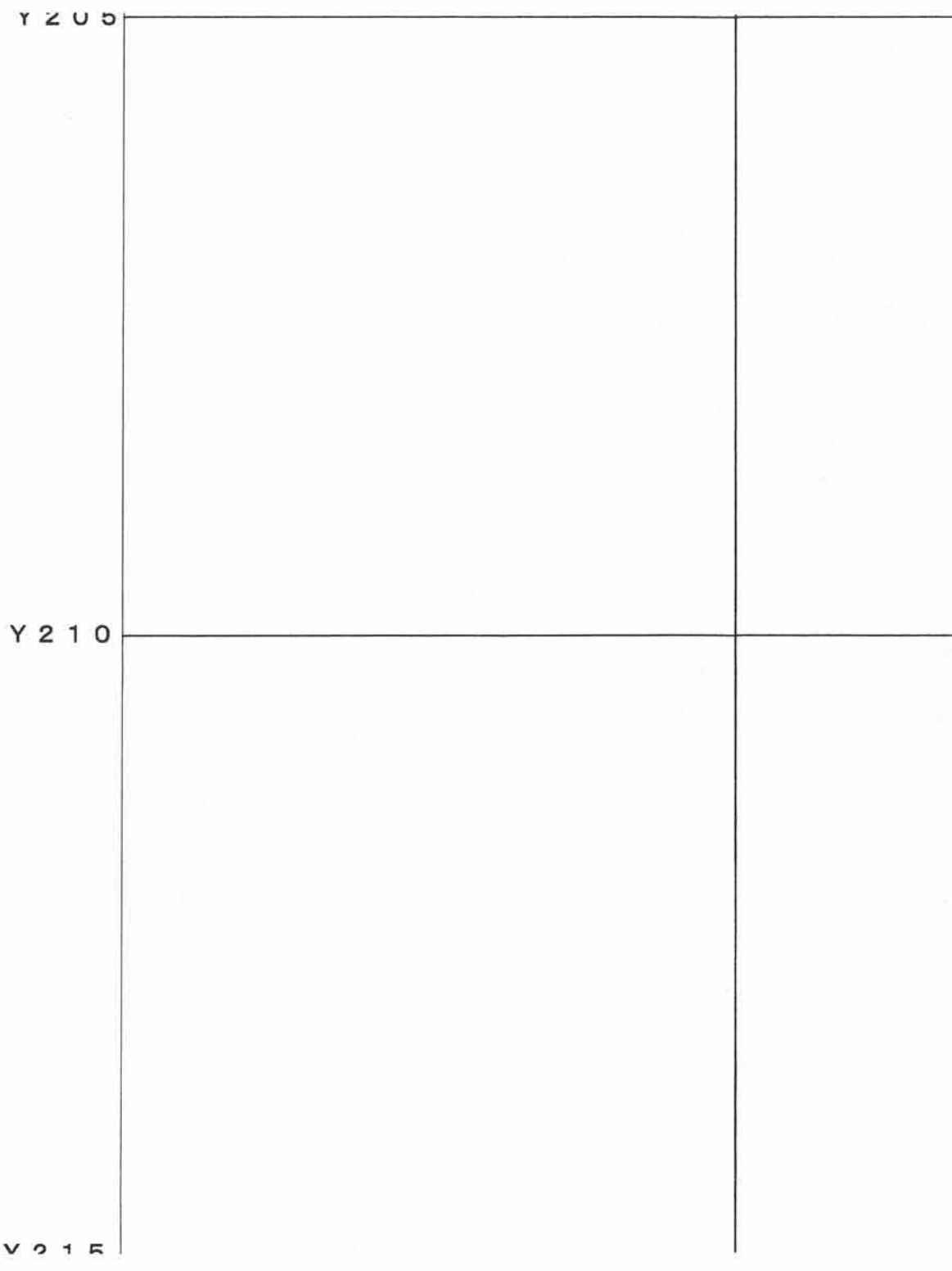
Y 1 9 5

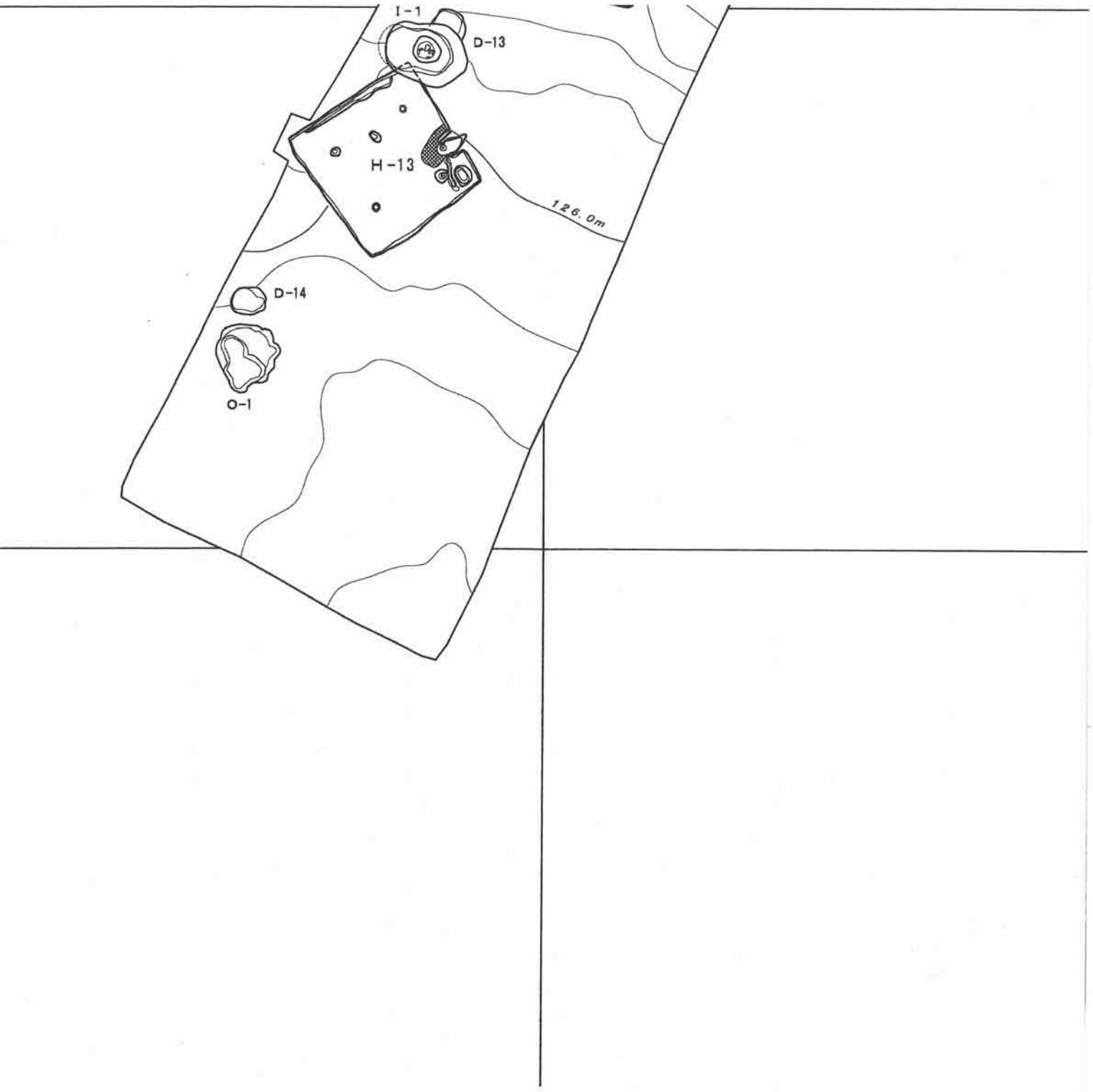
Y 2 0 0

X 1 1 5

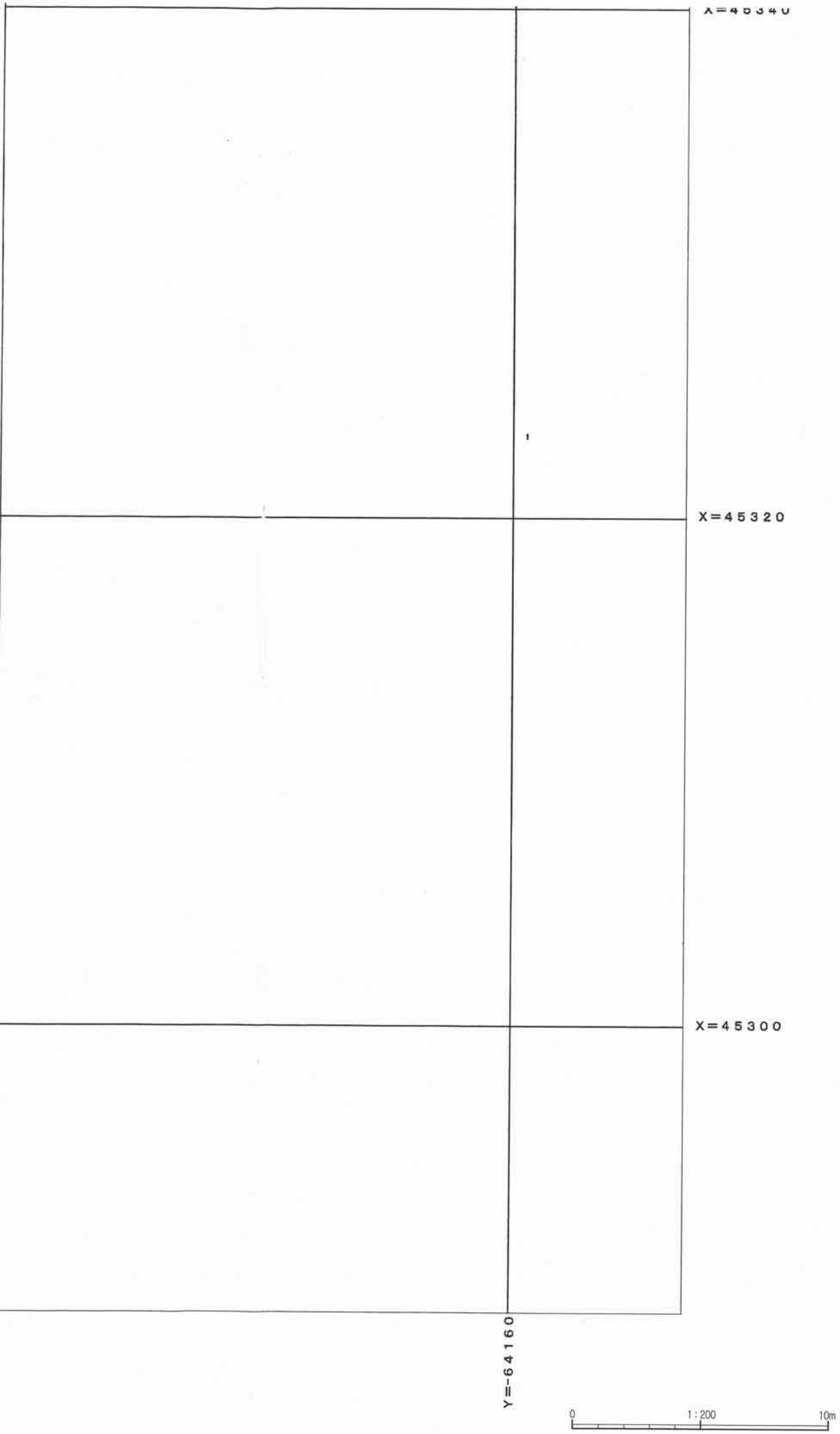
X 1 2 0

W-3


Y205
Y210
Y215


I-1
D-13
H-13
126.0m
D-14
O-1

X=45360

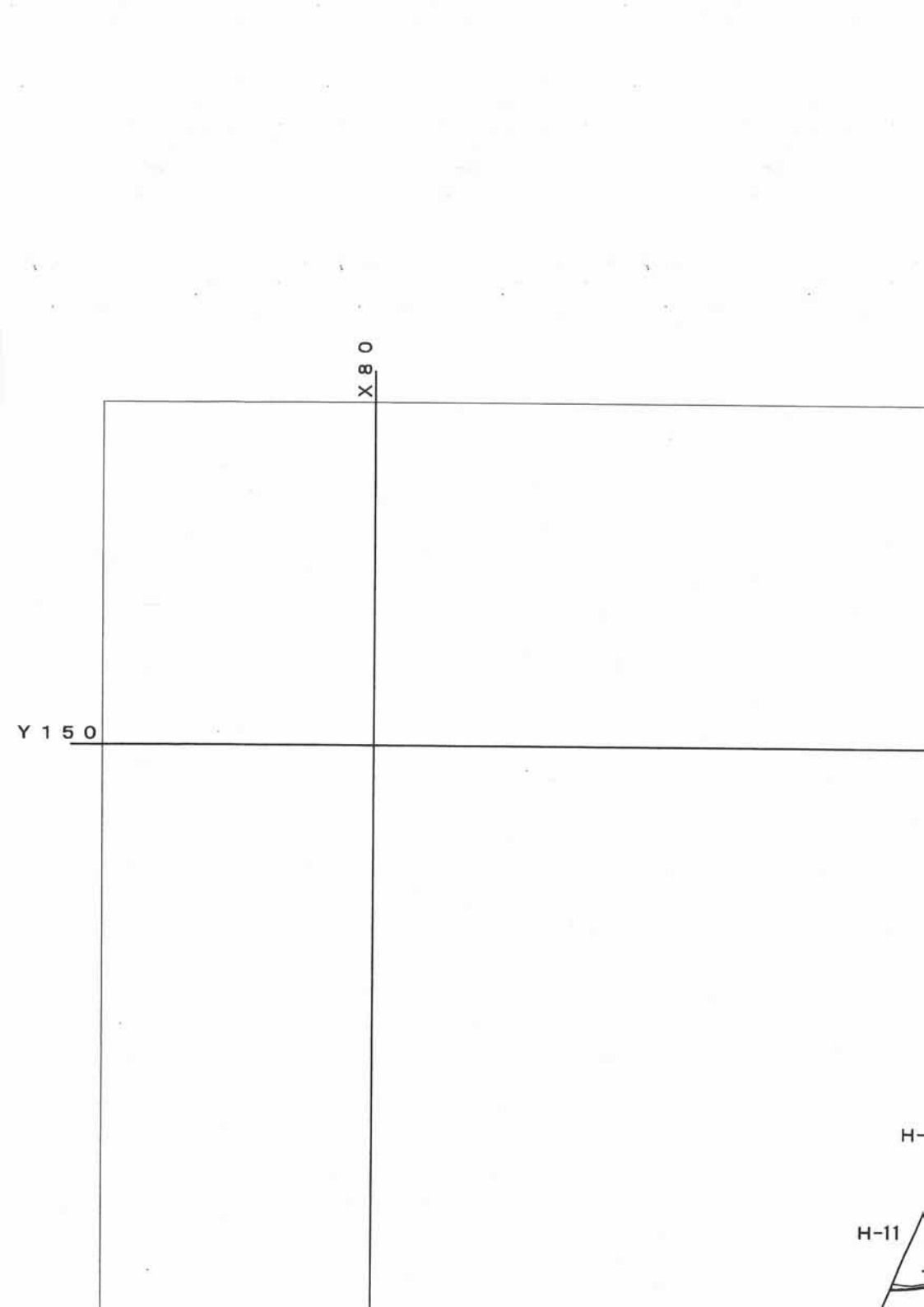

X=45340
X=45320
X=45300
Y=-64160
0
1:200
10m

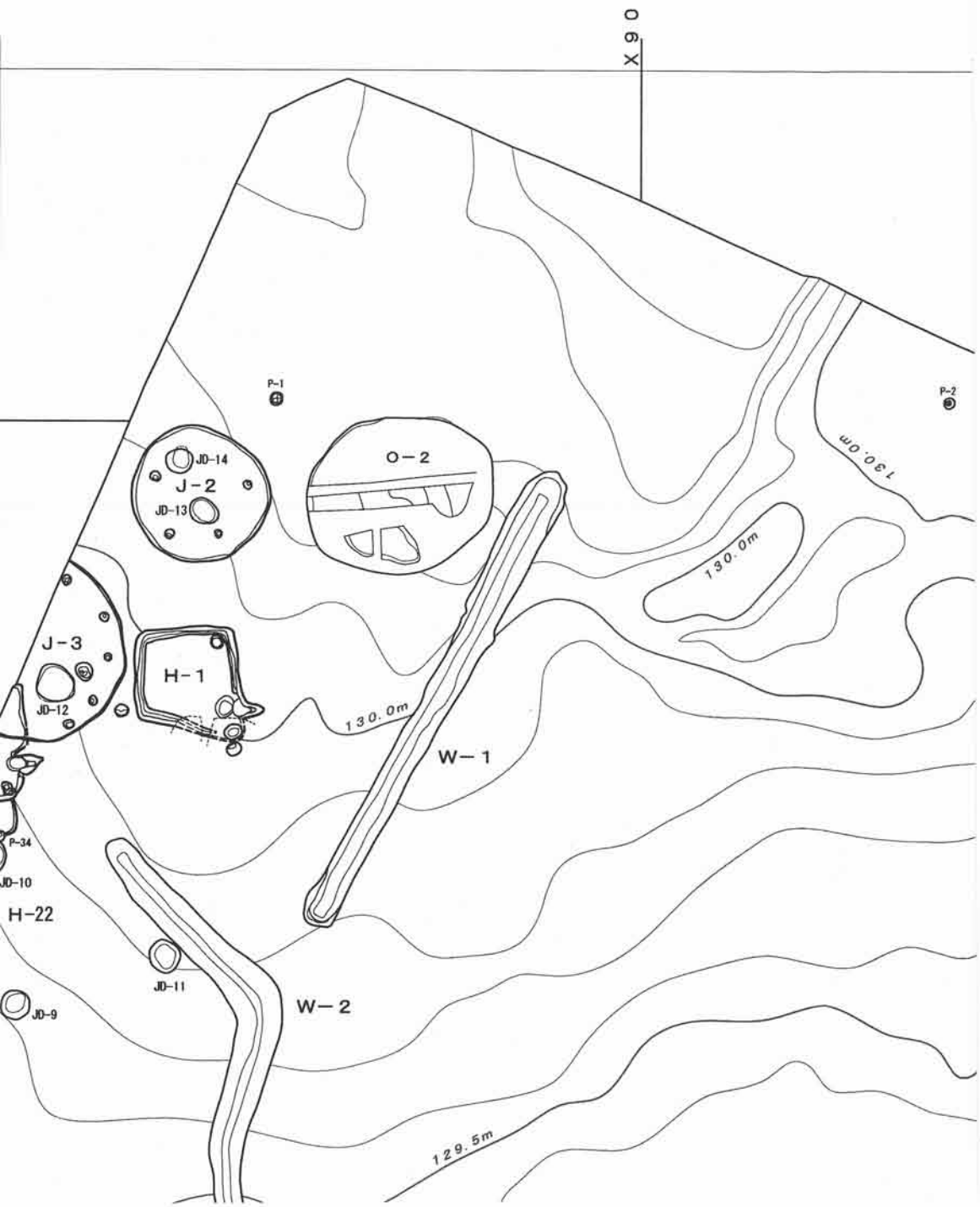
Y=-64200
125.0m
124.5m
B-5
B-4
H-14
H-15
H-16
H-17
H-18
W-4
D-15
D-16
D-17
D-18
D-19
D-20
D-21
D-4
P-67
P-68
P-69
P-70
P-71
P-72
P-73
P-74
P-75
P-76
P-77
P-78
P-79
P-80
P-81
P-82
P-83
P-84
P-85
P-86
P-87
P-88
P-89
P-90
P-91
P-92
P-93
P-94

Y220

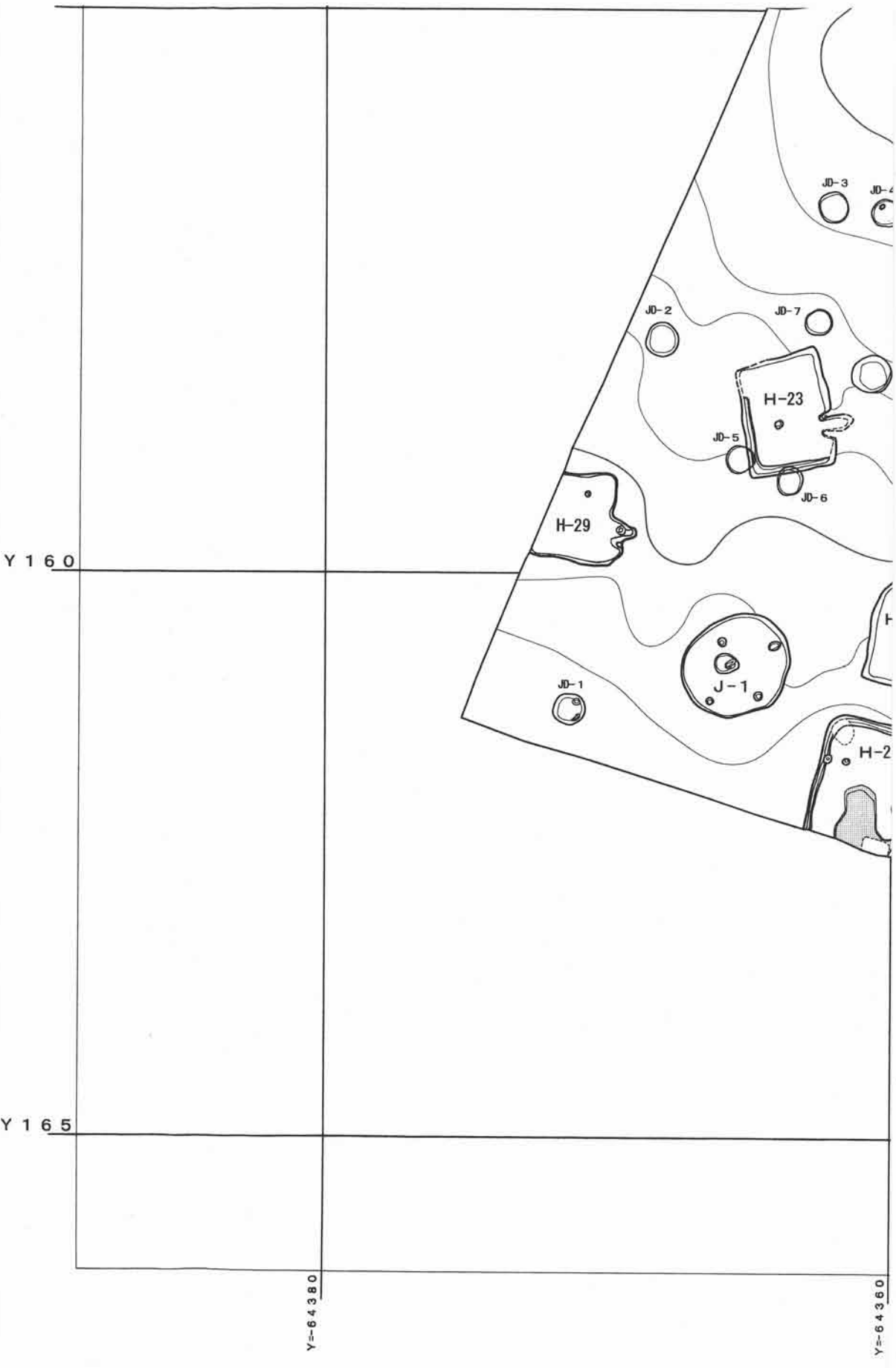
Y225

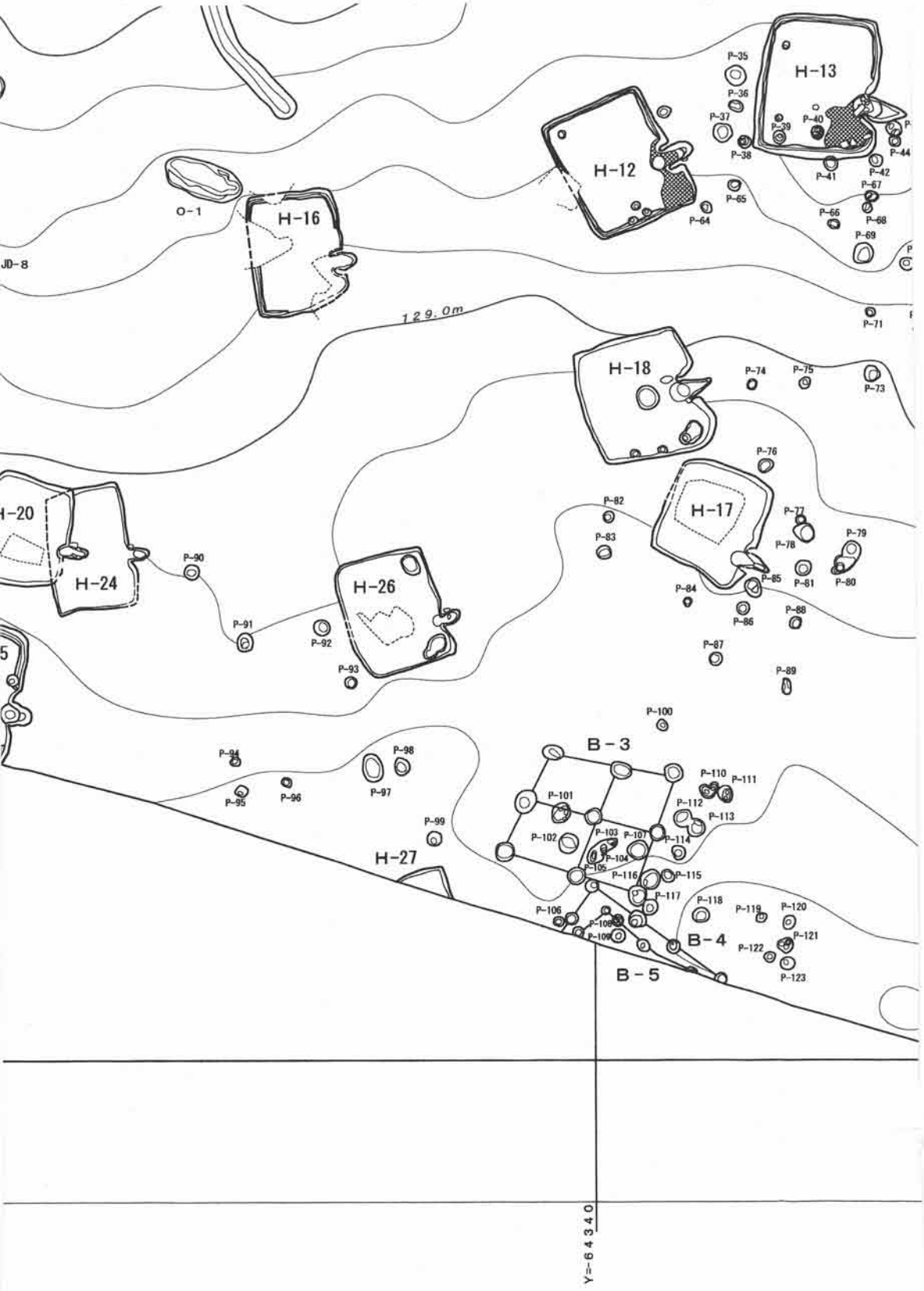
Y=-64240


X80
Y150
H-
H-11


X90
P-1
P-2
JD-14
J-2
JD-13
O-2
130.0m
J-3
H-1
JD-12
130.0m
W-1
P-34
JD-10
H-22
JD-11
W-2
JD-9
129.5m

付図②


JD-3
JD-2
JD-7
H-23
JD-5
JD-6
H-29
J-1
JD-1
H-2
Y 1 6 0
Y 1 6 5
Y=-64380
Y=-64360


H-13
H-12
H-16
H-18
H-17
H-20
H-24
H-26
H-27
O-1
JD-8
129.0m
B-3
B-4
B-5
P-35
P-36
P-37
P-38
P-39
P-40
P-41
P-42
P-44
P-64
P-65
P-66
P-67
P-68
P-69
P-71
P-73
P-74
P-75
P-76
P-77
P-78
P-79
P-80
P-81
P-82
P-83
P-84
P-85
P-86
P-87
P-88
P-89
P-90
P-91
P-92
P-93
P-94
P-95
P-96
P-97
P-98
P-99
P-100
P-101
P-102
P-103
P-104
P-105
P-106
P-107
P-108
P-109
P-110
P-111
P-112
P-113
P-114
P-115
P-116
P-117
P-118
P-119
P-120
P-121
P-122
P-123
Y=-64340

130.0m
129.5m
B-1
B-2
H-5
H-6
H-7
H-14
H-15
H-19
H-21
H-28
I-1
D-2
P-6
P-7
P-8
P-9
P-10
P-11
P-12
P-13
P-14
P-15
P-16
P-17
P-18
P-19
P-20
P-21
P-22
P-23
P-24
P-25
P-26
P-27
P-28
P-29
P-30
P-31
P-32
P-33
P-46
P-47
P-48
P-49
P-50
P-51
P-52
P-53
P-54
P-55
P-56
P-57
P-58
P-59
P-60
P-61
P-62
P-63
P-124
Y=-64320
Y=-64300
0
1:20

五代南部工業団

平成十七年三月調整

X25
X50
X75
Y50
Y75

五代中原Ⅰ遺跡
五代中原Ⅱ遺跡
五代中原Ⅲ遺跡

135.7
135.7
139.1
136.7
130.7
130
130.1
133

付図③

地遺跡群全体図

五代南部工業団地遺跡群　発掘調査一覧

年度	遺跡名	遺跡略称	面積(㎡)	報告書名
H12	江戸屋敷	12C21	12,000	五代江戸屋敷遺跡
H12	竹花	12C22	4,880	五代竹花遺跡・五代木福Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅰ遺跡　合冊
H12	木福Ⅰ	12C23	11,785	
H12	伊勢宮Ⅰ	12C26	3,800	
H12	木福Ⅱ	12C24	26,400	五代木福Ⅱ遺跡・五代深堀Ⅰ遺跡　合冊
H12	深堀Ⅰ	12C25	1,000	
H13	伊勢宮Ⅱ	13C27	6,800	五代伊勢宮Ⅱ遺跡
H13	伊勢宮Ⅲ	13C28	1,260	五代伊勢宮Ⅲ遺跡・五代深堀Ⅱ遺跡・五代中原Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅳ遺跡　合冊
H13	深堀Ⅱ	13C29	356	
H13	中原Ⅰ	13C30	8,140	
H13	伊勢宮Ⅳ	13C31	2,406	
H14	伊勢宮Ⅴ	14C32	7,844	五代伊勢宮Ⅴ遺跡
H14	伊勢宮Ⅵ	14C33	9,000	五代伊勢宮Ⅵ遺跡・五代中原Ⅱ遺跡　合冊
H14	中原Ⅱ	14C30	6,000	
H15	中原Ⅲ	15C30	2,462	五代中原Ⅲ遺跡・五代山街道Ⅰ遺跡・五代山街道Ⅱ遺跡　合冊
H15	山街道Ⅰ	15C34	5,196	
H15	山街道Ⅱ	15C35	1,000	
H15	竹花Ⅱ	15C22	6,411	五代竹花Ⅱ・五代木福Ⅲ遺跡　合冊
H15	木福Ⅲ	15C23	6,036	
H16	木福Ⅳ	16C23	3,025	五代木福Ⅳ遺跡・五代深堀Ⅲ遺跡　合冊
H16	深堀Ⅲ	16C25	3,524	
総面積			129,325	

Y100
Y125
Y150
W
W
132.1
127.6
127.5
128.8
130
130.3
五代山
五代伊勢宮Ⅳ遺跡
五代伊勢宮Ⅵ遺跡
124.3
125.1
122.9
128.5
124.4
五代伊勢宮Ⅵ遺跡
124
123.2
金
丸
川
131.1
五

街道Ⅱ遺跡

五代深堀Ⅰ遺跡A区

五代深堀Ⅰ遺跡B・C区

代深堀Ⅲ遺跡

五代深堀Ⅱ遺跡A・B区

五代深堀Ⅱ遺跡C区

五代深堀Ⅰ遺跡D区

141.1

139.5

140

132

139.2

138.2

136

134.9

135.2

135.4

130.1

X=45.8

X=45.7

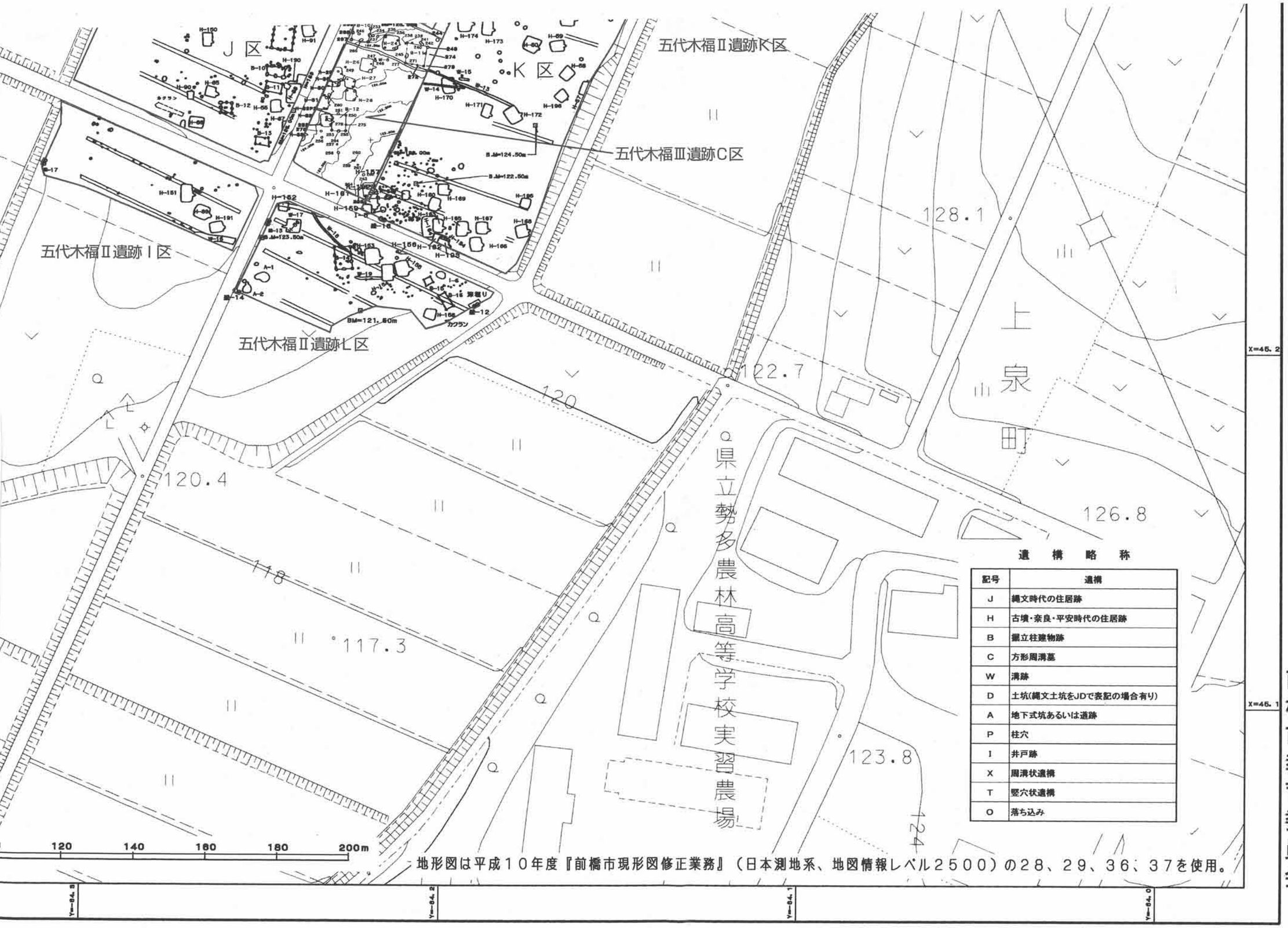
X=45.6

五代伊勢宮Ⅴ遺跡
五代伊勢宮Ⅱ遺跡
五代伊勢宮Ⅰ遺跡
五代竹花遺跡
五代竹花Ⅱ遺跡C地区
五代伊勢宮Ⅲ遺跡
五代江戸屋敷遺跡
五代木福
Y175
Y200
Y225
118.9
120
122
124.1
120.8
121.9

五代竹花Ⅱ遺跡A区
五代竹花Ⅱ遺跡B区
五代木福Ⅱ遺跡D区
D 区
E 区
五代木福Ⅱ遺跡E区
五代木福Ⅲ遺跡D区
五代木福Ⅳ遺跡北区
五代木福Ⅱ遺跡F区
五代木福Ⅲ遺跡A区
五代木福Ⅳ遺跡南区
五代木福Ⅲ遺跡B区
Ⅱ遺跡J区
126.7°
125.8
124.7°
132.1
BM=131.00m
BM=129.00m
BM=126.50m
BM=131.50m
X=45.6
X=45.4
X=45.8

五代木福Ⅰ遺跡A区
五代木福Ⅰ遺跡B区
五代木福Ⅰ遺跡C区
五代木福Ⅰ遺跡D区
118.4
118
119.2
117.1
116
116.7
116.8
115.1
114.9
Y250
Y275
0
20
40
60
80
10

関東測量株式会社調整



遺　構　略　称

記号	遺構
J	縄文時代の住居跡
H	古墳・奈良・平安時代の住居跡
B	掘立柱建物跡
C	方形周溝墓
W	溝跡
D	土坑(縄文土坑をJDで表記の場合有り)
A	地下式坑あるいは道跡
P	柱穴
I	井戸跡
X	周溝状遺構
T	竪穴状遺構
O	落ち込み

地形図は平成１０年度『前橋市現形図修正業務』（日本測地系、地図情報レベル２５００）の２８、２９、３６、３７を使用。

前橋市教育委員会